

|          |         |      |     |       |      |          |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 情報処理学   |      |     |       |      |          |    |
| 担当者      | 木村 幸世   |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

Microsoft Windows および Microsoft Office アプリケーションを使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要な PC 操作スキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。

## ■ 到達目標

- ・講義支援システム「Moodle」へのアクセス方法と課題提出方法を理解し利用できる。
- ・PC から利用する Web メールシステムを使用し、学校発行のメールアドレスでの送受信ができる。
- ・PC 上での文章入力、Windows 上のインターネットブラウザ利用の速やかな操作ができる。
- ・PC (Windows) 上におけるファイル管理およびクラウド上の保存域の概念を理解し操作できる。
- ・文書作成ソフト (Microsoft Word) を使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。
- ・表計算ソフトを (Microsoft Excel) 使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。
- ・プレゼンテーション資料作成ソフト (Microsoft PowerPoint) を使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。
- ・セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応／対策を理解し各自の ID、メールアドレスおよびそれぞれのパスワードの管理ができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 授業概要。教室 PC サインイン初期設定。ブラウザの利用①。学校メール (G-mail) 利用開始 (アドレス／パスワード設定)。e メール送受信。講義支援システム Moodle の利用開始 (ID ／パスワード設定、ログイン／ログアウト)。  
PC キーボードのタイピング練習方法。
- 第2回 Windows10画面構成と基本操作確認。  
ファイル管理。(フォルダ及びファイル作成と Moodle からのファイル取得と Moodle への提出の練習)。  
ブラウザの利用②。G-mail における添付ファイルの扱い。Google ドライブ (クラウド) へのファイル保存操作。  
情報倫理 (ネット・電子メール利用の基礎知識とマナー)。  
遠隔受講に備えた Moodle 上の教材確認と課題作成 (操作) 等の確認・案内。
- 第3回 文書作成①  
Word 上での日本語入力 (ローマ字入力と各種変換操作)。  
Word 画面構成と基本操作。新規文書作成と既存文書更新。ファイル保存と管理。
- 第4回 文書作成②  
Word 文書における書式の単位 (ページ全体、段落、文字) とそれぞれの設定。  
表の作成と編集 (入力と加工)。
- 第5回 文書作成③  
Word 文書におけるオブジェクト (図形、イラスト、画像) の挿入と編集 (加工)。文字列との位置関係 (確認と変更)
- 第6回 文書作成課題 (Word 課題小テスト)  
作成・提出

- 第7回 Word 課題（小テスト）レビュー  
表計算①  
Excel2019画面確認。操作単位（ブック＞シート＞セル）の把握とデータ入力。  
計算式の用途とデータ表示の状態。
- 第8回 表計算②（関数基本）  
Excel 集計表における基本計算式（合計・平均など）の設定。  
数式内セル参照（相対参照・絶対参照）  
表の体裁と書式設定（罫線、セルの色、セル内文字配置等）
- 第9回 表計算③（関数実用）  
実用関数の紹介と利用。
- 第10回 表計算④  
データベース機能（一定量データの整理・集計・分析機能）の基本操作  
グラフ機能（表データを元にグラフを描画・加工）の基本操作
- 第11回 表計算課題（Excel 課題小テスト）  
作成・提出
- 第12回 Excel 課題（小テスト）レビュー  
プレゼンテーション①  
PowerPoint 画面紹介、操作単位（ファイル＞スライド＞プレースホルダ・オブジェクト）紹介  
プレースホルダへのテキスト入力と段落書式
- 第13回 プレゼンテーション②  
スライドへのオブジェクトの挿入と加工  
プレゼンテーションの効果付加機能（スライド切替・アニメーション設定・スライドショー）
- 第14回 プレゼンテーション③  
Office 連携（Excel グラフや表を PowerPoint スライドで利用する操作と形式）  
総合演習準備（総復習）
- 第15回 総合演習課題（修了課題）  
作成・提出

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                         |    |   |                                                                             |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                       | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                                                                         |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                                       | 40 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 科目試験は「実技による課題提出」とする。（筆記試験ではない）<br>小テストも同じく実技による課題提出で、期間内に2回（Word、Excel 各1回）実施する。<br>さらに、講義後の（操作済み）ファイル提出を8～10回実施し提出状況や内容を最終評価に加えるものとする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1. PC キーボードのタイピング練習を時間外の学習として必須とする。  
期初に紹介する「オンライン上の練習サイト」上での「目標レベル」に到達するよう継続して練習すること。
2. 講義内で使用したファイルの保存先は、学校発行の Google アカウント（e-mail アドレスに付随）で利用できるクラウド上を原則とするが、外部メディア（USB メモリ等）に保存したい場合は自身で用意して持参すること。（各自が使用しやすいもので構わない。他科目との共用も可。各自で使用・管理できるものを持参）

## ■ 教 科 書

書 名：Office2019で学ぶコンピュータリテラシー（ISBN：978-4-407-34889-7）

著者名：小野目如快

出版社：実教出版

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 医療情報学   |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 周藤 俊治   |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 選択   |      |    |

## ■ 内 容

現代の保健・医療・福祉の分野において欠かせない ICT の活用に必要な基礎知識として

- ① デジタルデータがどのように発生しネットワーク上を流れているのか
- ② 医療機関にどのようなシステムが導入・運用されているのか
- ③ 情報の収集や分析 に関して講義を行なう。

## ■ 到達目標

- ① 情報に関する計算ができる（情報量（A/D 変換）、転送速度）。
- ② 保健医療情報システムの概要や、関連法規について説明できる。
- ③ データのとりまとめ（代表値、散布度）や統計資料について説明できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 情報学（Ⅰ） 情報とは
- 第2回 情報学（Ⅱ）－情報量の計算について
- 第3回 情報学（Ⅲ）－ネットワーク技術について
- 第4回 情報学（Ⅳ）－情報セキュリティ
- 第5回 保健医療情報システム（Ⅰ）－医用画像について
- 第6回 保健医療情報システム（Ⅱ）－電子カルテについて
- 第7回 保健医療情報システム（Ⅲ）－施設内の情報システムについて
- 第8回 保健医療情報システム（Ⅳ）－施設を超えた情報システムについて
- 第9回 統計基礎（Ⅰ）－尺度・度数分布について
- 第10回 統計基礎（Ⅱ）－代表値について
- 第11回 統計基礎（Ⅲ）－散布度について
- 第12回 医療統計（Ⅰ）－病院の統計資料
- 第13回 医療統計（Ⅱ）－比と率と割合
- 第14回 医療統計（Ⅲ）－相対危険度
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<https://medbb.net>）および、講義中に配付した資料を基に予習・復習すること。

## ■ 教科書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業に必要な資料は適宜サイトに提示もしくは配布します。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

医療情報分野を理解するには情報技術の話だけではなく、保健医療分野を幅広く理解することが必要となります。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 医療情報学   |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 芦田 信之   |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 選択   |      |    |

## ■ 内 容

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、その将来像を見据えて活動できる医療人となることを目的とし、情報の利活用のスキルを身につける。そのための方法として、コンピュータの歴史から今後 AI が導入されることをみこしたコンピュータサイエンスを学ぶ。また、データ処理技術や情報倫理を身につけることを目指す。

## ■ 到達目標

医療におけるコンピュータの利活用のスキルを身につける。  
情報倫理や情報検索などネットワーク社会への適応ができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 講義を始める前に、医療情報学 医療情報とは 医療統計学、保健疫学との関係
- 第2回 医療情報 過去・現在・近未来 演習 Excel の活用
- 第3回 医療情報のキーワード 演習 住所録サンプルの利用
- 第4回 医療情報 臨床データの活用 医療統計
- 第5回 医療情報 診断技術 正常と異常の判別
- 第6回 医療情報 病院職員の健康診断データの活用
- 第7回 遠隔医療・医用工学・福祉工学
- 第8回 遠隔医療・医用工学
- 第9回 医療倫理と医療情報、情報倫理
- 第10回 ニセ健康情報を見破る方法
- 第11回 代替医療・統合医療
- 第12回 予防医学と医療情報
- 第13回 臨床疫学・医療政策と医療情報
- 第14回 医療情報とリハビリテーション
- 第15回 4クォーターのまとめ

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 30 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 40 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業教材は本学の講義支援システム Moodle にて事前に提供するので、授業前に閲覧し、授業後には各回のまとめをおこなうこと

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

書 名：統計学への招待 (ISBN 9784419065133)  
著者名：日本経営数学会  
第5章 実際に計算してみる 芦田信之  
出版社：税務経理協会

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 統計学     |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 周藤 俊治   |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 2単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択  |      |    |

## ■ 内 容

取得したデータを集計し有効に活用するには、統計の基礎を理解するとともに取り扱う能力を身につける必要がある。そこで、本講義ではPCを利用しデータを取り扱い、見やすい表の作り方やグラフの作り方から、検定・推定などの手法に関する授業を行う。

## ■ 到達目標

PCを用いて代表値や散布度などの指標を算出できる。  
PCを用いてわかりやすい表・グラフを作成できる。  
推定や検定の内容を理解し適切な検定法を選択できる。

## ■ 授業計画

第1回 尺度、データ形式  
第2回 データの取り込み、整理 (1)  
第3回 データの取り込み、整理 (2)  
第4回 データの取り込み、整理 (3)  
第5回 データの取り込み、整理 (4)  
第6回 データの取り込み、整理 (5)  
第7回 推定 (1)  
第8回 推定 (2)  
第9回 t検定 (1)  
第10回 t検定 (2)  
第11回 カイ二乗検定 (1)  
第12回 カイ二乗検定 (1)  
第13回 判断分析－感度・特異度・ROC 曲線 (1)  
第14回 判断分析－感度・特異度・ROC 曲線 (2)  
第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |  |
|------------|---|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 50 | % |  |
| レポート       | ◎ | 50 | % |  |
| 小テスト       |   |    |   |  |
| その他・備考     |   |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<https://medbb.net>）および、講義中に配付した資料を基に予習・復習すること。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業に必要な資料は適宜サイトに提示もしくは配布します。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

PC を用いてデータの入手、加工なども行います。統計の基礎的な知識は医療情報学の該当する部分を事前に復習しておいてください。

|          |             |      |     |       |               |         |    |
|----------|-------------|------|-----|-------|---------------|---------|----|
| 授業科目     | 物理学         |      |     |       |               |         |    |
| 担 当 者    | 石井田 啓太・富永 岳 |      |     |       |               | (オムニバス) |    |
| 実務経験者の概要 |             |      |     |       |               |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻     | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位          | 講義形式    | 講義 |
|          | 作業療法学専攻     | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | PT 必修 / OT 選択 |         |    |

## ■ 内 容

症状を科学的に分析し、的確な治療法を決定するのに必要な思考力の基盤となる物理学の知識を学ぶ。  
特に、身体運動の基本を扱う力学を中心に扱う。

## ■ 到達目標

多様な症状に関係する物理の法則を見い出すことができる能力、更に医療法を改良したり、創造したりすることができる。また、能力の基となる知識を修得する。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 基本知識と単位の確認（リメディアル理系の内容確認）  
 第2回 基本知識と単位の確認  
 第3回 三平方の定理と有名直角三角形①  
 第4回 三平方の定理と有名直角三角形②  
 第5回 力の合成と分解①  
 第6回 力の合成と分解②  
 第7回 物体にはたらく力  
 第8回 力のつり合い  
 第9回 第8回までの総復習・日常の中の物理学  
 第10回 小テスト  
 第11回 小テスト解説／モーメント  
 第12回 モーメントのつり合い①  
 第13回 モーメントのつり合い②  
 第14回 合力・重心  
 第15回 第9回～第15回の内容について小テスト

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 70 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習 ：講義内容の理解を深める為の演習プリントを完成させる  
 予習は課さないなので復習に時間を割きましょう。

## ■ 教 科 書

書 名：不要

## ■ 参考図書

書 名：不要

## ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

運動学や治療学の基礎となる科目であるので、十分理解できるように取り組むこと。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 生物学     |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 林 研     |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

人体を理解するための基礎的な知識として、生物一般の構造と機能を学びます。前半では生物を理解するために最も重要な概念である「細胞」と「遺伝子」について学習します。後半では、それを踏まえた上で動物の身体の様々なはたらきを確認していきます。全体として、日常的な身体のはたらきが細胞や遺伝子のレベルとそのままつながっているという様子を見ていくことになります。

## ■ 到達目標

生物に共通する仕組みを知るとともに、生物学の基礎的な概念や用語をしっかりと身に着けることが目標となります。細胞や遺伝子について、またその生体内での具体的なはたらきについて理解することで、人間の身体をより根本的なレベルで把握できます。また、基礎知識を持つことによって、医療に関する情報をより正確に理解し、考慮することができるようになります。

## ■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、生物とは何か
- 第2回 細胞の構造
- 第3回 細胞分裂と発生
- 第4回 細胞の分化と幹細胞
- 第5回 神経・筋・骨
- 第6回 遺伝
- 第7回 遺伝子の発現
- 第8回 ゲノム科学
- 第9回 酵素
- 第10回 エネルギー代謝
- 第11回 血液と免疫
- 第12回 内分泌系と自律神経系
- 第13回 恒常性の調節
- 第14回 刺激の受容
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

生物学の様々な専門用語を理解して覚える必要があるため、講義後の復習が重要となります。復習問題を毎回配布するので、次の週までに解いておき、次の講義で確認してください。

## ■ 教科書

書 名：三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録  
著者名：鈴木孝仁 監修  
出版社：数研出版

## ■ 参考図書

書 名：ヒトを理解するための生物学 改訂版  
著者名：八杉貞雄  
出版社：裳華房

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

教科書に沿うわけではなく、授業の筋立てはこちらで用意します。その際図録を適宜用いますが、図にはていねいな説明がついていますので、授業で参照する部分はしっかり読んで理解を深めてください。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 医療英語    |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 近藤 未奈   |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 選択   |      |    |

## ■ 内 容

医療現場のグローバル化が進む中、外国人患者に満足な治療を提供するため、あるいは海外のリハビリについての情報収集や国際学会への参加のためなど、英語が必要になる機会はいっそう増えていると言えます。この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、一見複雑に見える専門用語の単語の成り立ちを学び、理解を深めます。さらに、英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習し、ある程度の長さの英文や、英語論文の抄録を読む演習も適宜行います。以上を通じて、理学療法士・作業療法士としての知識や技術を伸ばすために必要不可欠な国際的な学術論文を理解する土台を養います。

## ■ 到達目標

医療英語に特有の語彙や表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に、かつ効率的に理解できる力を身に付ける。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：受講にあたっての諸注意  
医学英語の基本構造
- 第2回 接尾辞と接頭辞
- 第3回 英語文献を読むための必須文法項目（1）
- 第4回 身体部位の用語
- 第5回 骨の用語
- 第6回 英語文献を読むための必須文法項目（2）
- 第7回 筋肉の用語
- 第8回 神経の用語
- 第9回 英語文献を読むための必須文法項目（3）
- 第10回 英文読解（1）症例を読む その1
- 第11回 英語論文の基礎知識（1）論文・抄録の構造と読み方
- 第12回 英文読解（2）論文の抄録（アブストラクト）を読む
- 第13回 英語論文の基礎知識（2）英語データベースの利用方法
- 第14回 英文読解（3）カルテを読む
- 第15回 英文読解（4）症例を読む その2

## ■ 評価方法

|            |                                           |    |   |                                                                             |
|------------|-------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                         | 40 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎                                         | 10 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                         | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 受講態度（演習問題の解答発表・その他授業に臨む態度）を 30% として評価します。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。英文読解の予習課題が出た場合は辞書や用語集でわからない語句の意味をあらかじめ調べ、適切な和訳を作成してくること。

## ■ 教科書

書 名：音声と例文でおぼえる基本医療単語1000  
著者名：笹島茂, Chad Godfrey, 小島さつき  
出版社：南雲堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。出題内容や実施スケジュールなど、詳細については初回授業で説明します。

授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。辞書アプリの利用を希望する場合にはルールを設けるので、初回授業で説明を受けてください。毎回配布される資料は教科書として扱い、過去に配布されたものも必ず毎回持ってきてください。

成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、受講の意思のある場合は必ず初回から出席してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

1 年次前期「英語コミュニケーション」を踏まえ、さらに応用、発展を目指す内容です。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 文学      |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 小林 信    |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 選択   |      |    |

## ■ 内 容

日本の近現代の文学史を振り返りながら、明治期、大正期、昭和期（戦前・戦後）の代表的作家の作品を読み、その批判的精神を理解する。

## ■ 到達目標

日本の近現代の文学の代表的作家の作品を読むことを通して、その作家の生き方や人となり、批判的精神を理解し、今後の学生生活ならびに社会生活のなかで必要とされる「自立して生きる力」を養うことをめざす。

## ■ 授業計画

- 第1回 授業ガイダンス（授業計画・形態の説明）  
自己紹介（興味・関心のある作家、作品、分野など）調べ、発表したい作家を選び記述・発表。
- 第2回 日本の近現代文学史概説（文学思潮、作家、作品など）
- 第3回 （ex）石川啄木の文学について  
時代背景や作品を通して作家像を解説
- 第4回 石川啄木の作品を読む「一握の砂，呼子と口笛，時代閉塞の現状」  
（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。）討論（意見の発表）
- 第5回 （1）森鷗外の文学について  
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第6回 森鷗外の作品を読む「礼儀小言，当流比較言語学，遺言」  
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。）討論。
- 第7回 （2）夏目漱石の文学について  
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第8回 夏目漱石の作品を読む「現代日本の開化，イズムの功過，私の個人主義」  
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第9回 （3）芥川龍之介の文学について  
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第10回 芥川龍之介の作品を読む「文芸的な、あまりに文芸的な、或旧友へ送る手記，或阿呆の一生，点鬼簿」  
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第11回 （4）永井荷風の文学について  
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第12回 永井荷風の作品を読む「浮世絵の鑑賞，新婦朝者日記，断腸亭日乗」  
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第13回 （5）坂口安吾の文学について  
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第14回 坂口安吾の作品を読む「墮落論，続墮落論，日本文化私観」  
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第15回 授業のまとめ（反省、課題、調べてみたい作家など）  
各自の発表以外の作家1名についての感想（800字以内）

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |   |     |   |  |
| レポート       | ○ | 100 | % |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業に関係する作家の作品（事前に配布）を読んで授業に臨むこと。

## ■ 教科書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

資料文等を精読してくること

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 教育学     |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 川村 光    |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 2単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

教育とはどのようなものか、教育を行う指導者に求められるものはなにか、指導者が学生に教育を行う学校とはどのようなものなのか、さらには、社会と教育の関係はどのようなになっているのかということに関する基礎的な内容について学びます。また、スピーチを行うことを通して、人に対する伝え方について実践的に学修します。

## ■ 到達目標

1. 教育の特徴、指導者に求められる力量、学校の機能について説明できる。
2. 授業で取り上げた内容について、自分の意見を主体的に述べることができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 教育学の授業に関するオリエンテーション
- 第2回 話すことと聞くこと①（伝える技術の学修）
- 第3回 話すことと聞くこと②（伝える技術の学修のまとめ）
- 第4回 教育することのカンファレンス
- 第5回 教育とは何か①（事例をもとに検討）
- 第6回 教育とは何か②（ボノボの事例）
- 第7回 教育とは何か③（社会化）
- 第8回 教育とは何か④（まとめ）
- 第9回 教えているときの思考過程
- 第10回 家庭教育①（良妻賢母の登場）
- 第11回 家庭教育②（昭和の教育ママ）
- 第12回 家庭教育③（三歳児神話）
- 第13回 学校教育①（隠れたカリキュラム）
- 第14回 学校教育②（学校の機能）
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |                       |    |   |                                                                             |
|------------|-----------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |                       |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                       |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                     | 70 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 小課題：3% × 10 回（合計 30%） |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：人にわかりやすく伝える方法と、人の話に耳を傾けるための方法について考えておくこと。また、必要に応じてそれらを表現できるように準備しておくこと。

復習：人に対してわかりやすく伝えることができたのか、人の話に耳を傾けることができたのかということについて振り返りを行うこと。また、必要に応じて振り返りを報告できるように準備しておくこと。

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

グループワークを行ったり、意見を発表したりすることがあります。積極的、主体的に授業に参加してください。また、協働的な姿勢が必要になります。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 法学概論    |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 松崎 秀明   |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 選択   |      |    |

## ■ 内 容

「理学療法士及び作業療法士法」を中心として、関係の深い医療法、医師法、保健師助産師看護師法あるいは個人情報保護法、福祉法規等に関して、判例や具体的事例を解り易く説明します。さらに近年、関連の深い介護保険制度や地域包括システムにも言及します。法律または患者の立場から医療事故、医療過誤の実例を知り、インフォームド・コンセント、安全な医療を提供する意義と必要性を学びます。

## ■ 到達目標

- ・ 関係法規に関する国家試験を正答できるようになる。
- ・ 安全な医療を提供する意義と必要性を知り、医療事故を防止していく方向を見つけ出せるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 法規の概念
- 第2回 医事法規① 理学療法士及び作業療法士法
- 第3回 医事法規② 医療法、医師法、保健師助産師看護師法
- 第4回 保健衛生法規 精神保健福祉法、精神保健福祉センター
- 第5回 福祉関係法規① 身体障害者福祉法、障害者基本法、身体障害者障害程度等級表、障害者総合支援法
- 第6回 国際生活機能分類（ICF）概論、ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーション
- 第7回 福祉関係法規② 児童福祉法、老人福祉法
- 第8回 高齢者の医療の確保に関する法律、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）
- 第9回 福祉関係法規③ 介護保険法、介護保険制度（要介護認定）
- 第10回 地域包括ケアシステム、地域包括支援センター
- 第11回 個人情報保護法、患者情報の取り扱い
- 第12回 インフォームド・コンセント、クリニカルパス、患者対応・医療面接
- 第13回 労働関係法規（労働基準法）、産業衛生概論
- 第14回 医療事故概論（医療事故はなぜ起こるのか、医療事故防止のために）
- 第15回 医療過誤訴訟の事例分析、模擬裁判

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                 |    |   |  |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                               | 50 | % |  |
| レポート       | ◎                                                                                               | 50 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                 |    |   |  |
| その他・備考     | 正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点）<br>また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

聞き慣れない法律用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。国家試験との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間（国家試験過去問題を解くことが中心）を確保することが望ましいです。単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

## ■ 教科書

不要

## ■ 参考図書

書 名：医療事故－看護の法と倫理の視点から－  
著者名：石井トク  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

国家試験で出題数が増加傾向にある重要な科目である。グループ学習を中心に議論の場を多く持ちたいと考えておりますので、欠席しないように心がけてください。

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 国際社会と日本 |      |    |       |     |      |    |
| 担 当 者    | 白井 博雄   |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 2単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択  |      |    |

## ■ 内 容

国際社会の構造と現状を理解し、現代国際社会が当面する戦争と平和の問題、途上国問題、人権問題、地球環境問題などの全人類的課題を取り上げながら、その中で占める日本の位置と役割について考察する。

## ■ 到達目標

国際社会の主要な展開についての基本的な知識の修得とともに、多角的な思考の学びを通して、高い国際感覚を養うことを目標とする。

## ■ 授業計画

- 第1回 国際社会の成立
- 第2回 国際社会の発展
- 第3回 国際社会と主要なアクター
- 第4回 20世紀の国際社会
- 第5回 今日の国際社会
- 第6回 国際社会と日本の政治
- 第7回 国際社会と日本の国際協力
- 第8回 国際社会と日本の経済
- 第9回 グローバル化とその背景
- 第10回 グローバル化の動向（人材・サービス）
- 第11回 グローバル化の動向（金融・情報）
- 第12回 国際社会と安全保障
- 第13回 国際社会と人権
- 第14回 地球環境問題
- 第15回 国際社会と日本の位置付け

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |  |
|------------|---|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 70 | % |  |
| レポート       | ◎ | 10 | % |  |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |  |
| その他・備考     |   |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日常的に国際問題への関心を持ち、新聞・テレビ等から国際社会に関わる情報を得るように努めること。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

積極的に、関連事例を調べるように心がけること。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 自然科学概論  |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 林 研     |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 選択   |      |    |

## ■ 内 容

現代医療は科学であり、医療にたずさわるには科学的なものの考え方や基本的な科学知識を身につけておく必要があります。この科目では科学の基礎を押さえるために、①科学とは何かを歴史と哲学から学ぶ、②高校理科の重要なところを改めて確認する、③現代科学の様々な分野を見渡して多様なトピックを知る、という3つの角度からアプローチします。

## ■ 到達目標

人間の身体を理解する土台となる基礎知識と科学的素養を身につけることが目標となります。科学の各分野について知識の枠組みができることで、何か不明なことがあればすぐ調べて理解できる素地が作られます。また、現在何がどの程度わかっているのかを知っておくことによって、新しい発見の意義や面白さを認識できるようになります。

## ■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、科学の歴史
- 第2回 科学の方法
- 第3回 ニュートンと力学
- 第4回 回転運動と仕事
- 第5回 宇宙と物理
- 第6回 物質
- 第7回 物質の状態と変化
- 第8回 エネルギーと環境
- 第9回 地球科学
- 第10回 生命の起源と歴史
- 第11回 医学の歴史
- 第12回 脳科学
- 第13回 ウィルスとバイオテクノロジー
- 第14回 シミュレーションの科学
- 第15回 科学と現代社会

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

用語を覚える必要はありませんが、講義がどういう内容であったのかを振り返り、理解し直す復習を行ってください。物理や化学については復習問題を出す場合がありますので、そのときは各自で取り組んでください。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

全体を把握することも大事ですが、試験ではひとつのテーマについて論述してもらうので、興味を持ったテーマがあればニュースや本を参照して理解を深めておくといいでしょう。

|          |                                 |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------------------------------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 福祉住環境論                          |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 曾我部 千鶴美（実務経験者）                  |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 | 建築設計事務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持っている。 |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                         | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 2単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                         | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択  |      |    |

## ■ 内 容

OT・PTの職能の一つとして、日常生活活動の支援がある。環境因子である住環境を改善することで、対象者の生活機能の維持向上を計ります。本講義では、住環境の改善に関する制度や施策、関連する職能との連携及び住環境改善を行うための建築的基礎知識等を学びます。

## ■ 到達目標

- ・住環境改善に関する法制度や社会状況を理解する。
- ・高齢者や障害者の住み慣れた地域における暮らしの状況を理解する。
- ・病気や障害の特性を理解し、住環境改善の方法を理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境  
 第2回 介護保険法における介護保険制度の概要  
 第3回 障害者を取り巻く社会状況と住環境、障害者施策の概要  
 第4回 障害のとらえ方と自立支援のあり方  
 第5回 疾患別・障害別に見た不便と不自由と福祉住環境整備の考え方  
 第6回 福祉住環境とマネジメント  
 第7回 建築図面を理解する  
 第8回 建築物の構造とその留意点、からだの大きさと寸法  
 第9回 福祉住環境整備の共通基本的技術  
 第10回 生活行為別 福祉住環境整備の手法 玄関  
 第11回 生活行為別 福祉住環境整備の手法 トイレ  
 第12回 生活行為別 福祉住環境整備の手法 浴室  
 第13回 生活行為別 福祉住環境整備の手法 その他  
 第14回 住環境整備課題  
 第15回 理解度確認まとめテスト

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                    |    |   |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                  | 60 | % |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                  | 40 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                    |    |   |  |
| その他・備考     | 講義後に行う宿題課題の提出・・・40%（期限：次回授業日前日）<br>検定試験でよく出る問題を集めた理解度まとめテストを最終日に実施・・・60%<br>に加え、出席状況（無断欠席や遅刻はマイナス評価）を合わせて総合的に評価する。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当ページをすべて読んでおくこと。  
 復習に十分な時間をかけること。  
 テキストは最新版を購入すること。

## ■ 教 科 書

書 名：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト（改定5版）

著者名：東京商工会議所

出版社：東京商工会議所

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 生命倫理    |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 豊泉 俊大   |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

「医の倫理」の思想的系譜を概観し、基本の考えを説明する。  
「医の倫理」をめぐる諸問題を紹介し、論点および問題の諸相を確認する。

## ■ 到達目標

- ・現代にいたるまでの「医の倫理」の思想の流れ、基本の考えを把握する。
- ・理学療法士、作業療法士の倫理綱領を把握する。
- ・「医の倫理」をめぐる諸問題について、その論点を把握する。
- ・医療における「自律」概念の重要性を把握したうえで、その妥当な理解のありようを探る。

## ■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス／成績評価、講義一般について  
第2回 倫理の倫理：倫理はひとそれぞれ？／研究の倫理：レポートの決まりごと  
第3回 医の倫理小史 i ／「ヒポクラテスの誓い」から「リスボン宣言」まで  
第4回 医の倫理小史 ii ／理学療法、作業療法のルーツ  
第5回 インフォームドコンセントをめぐる倫理問題  
第6回 小児医療・高齢者医療をめぐる倫理問題  
第7回 終末期医療をめぐる倫理問題  
第8回 「自律」に欠かせないケア

## ■ 評価方法

|            |                        |  |     |  |
|------------|------------------------|--|-----|--|
| 科目試験（筆記試験） |                        |  |     |  |
| レポート       | ◎                      |  | 44% |  |
| 小テスト       |                        |  |     |  |
| その他・備考     | リアクションペーパー（7 × 8）＝ 56% |  |     |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習、復習を問わず、参考図書にあげた書籍は必ず借りて読んでください。  
（下記「講義受講にあたって」を読んでください。）  
復習は講義プリントを見直すようにしてください。

## ■ 教科書

書名：はじめて学ぶ生命倫理 「いのち」は誰が決めるのか

著者名：小林亜津子

出版社：ちくまプリマー新書

書名：マンガで学ぶ生命倫理 わたしたちに課せられた「いのち」の宿題

著者名：児玉聡 マンガ：なつたか

出版社：化学同人

書名：いのちを"つくって""もいいですか？ 生命科学のジレンマを考える哲学講義"

著者名：島蘭進

出版社：NHK 出版

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

はじめて学ぶことで、分からないことがあるのは当然です。知らないことを恥じる必要はまったくありません。

分からないことを、分からないままに放っておくことは、絶対にしないでください。

少しでも疑問に感じたこと、知りたいとおもったことは、遠慮せずに聞いてください。どんなものであれ質問を歓迎します。

講義は考える場、問う場です。したがって、講義の不参加（スマホいじり、内職）、講義の妨害（私語）は禁じます。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

この講義は、専門用語を暗記するための講義ではありません。講義期間も短く、学ぶことのできる内容もかぎられています。みなさんには、医療の現場でさまざまな倫理問題が生じていること、みなさんの一人一人がそれに対処しなければならないまさにそのひとであること、そして、現実には起きている問題が、容易には解決することのできない困難をいくつも抱えていることを学んでもらいたいと考えています。講義のなかで、いくつかの事例を紹介しますが、大切なことは、何が問題とされているかをみなさんがみずから考えること、問うことです。そのためには、たくさんのお書物を読まなくてはなりません。書物を読むだけでなく、読んだり、聞いたりしたことを日頃から友人どうしで話しあうことも必要です。書物については、ひとまず参考図書①から③（もしくは、すくなくともどれかひとつ）を読んでから、講義に臨むようにしてください。

|          |                       |      |     |       |      |      |    |
|----------|-----------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅰ |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 春海 淳子（実務経験者）          |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 臨床心理師として心理査定業務を行っている。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻               | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 演習 |
|          | 作業療法学専攻               | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

現状の自分の傾向を把握する。その上で、コミュニケーションの基本について体験しながら学ぶ

## ■ 到達目標

現状の自分を知り理解する。そして、リハビリテーションの現場でコミュニケーションをとるためのスキルについて理解し、身に着ける努力をする。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・人間のこころとは？
- 第2回 自分自身について知ってみよう
- 第3回 対人コミュニケーションとは① – 対人認知と社会的認知
- 第4回 対人コミュニケーションとは② – コミュニケーションの要素・上手な話し方と聞き方
- 第5回 コミュニケーション体験
- 第6回 なぜ人は他者に好意を抱くのか？ – 対人魅力
- 第7回 集団の影響
- 第8回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                   |
|------------|---|----|---|---------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 84 | % | 各講義終了時に授業についての疑問点や感想を書く、レスポンスシートをレポートとします。（2点×8回） |
| レポート       | ◎ | 16 | % |                                                   |
| 小テスト       |   |    |   |                                                   |
| その他・備考     |   |    |   |                                                   |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

コミュニケーションは日々の積み重ねです。一日の内、挨拶をする際の自分や、相手に声尾をかける自分を意識し、明るく元気をを心掛けてみましょう。それらがこの講義の復習になります。

## ■ 教 科 書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業の最後に感想シートの配布・提出の時間があります。質問や感想を積極的に発信してください。  
 新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。



|          |                       |      |     |       |      |          |    |
|----------|-----------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 春海 淳子（実務経験者）          |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 | 臨床心理師として心理査定業務を行っている。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻               | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          | 作業療法学専攻               | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

対象者の深い気持ちや希望を正しく受け止めるために、「傾聴」の意味と作用を演習で学ぶ。また、現在の自分の表現の仕方を振り返り、相手に伝わる伝え方について演習を通して考える。様々なリハビリテーション場面における1対1の人間関係と、コミュニケーションの基本姿勢を学ぶ。

## ■ 到達目標

「傾聴」のためのスキルを知る。  
相手に声が届くように、声をかけることができるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 コミュニケーション・リハビリテーションⅠの振り返り
- 第2回 自分の表現の仕方 - 説得的コミュニケーション・自己呈示と自己開示
- 第3回 自分の気持ちの伝え方① - 自分の表現の特徴を知る
- 第4回 自分の気持ちの伝え方② - 3つの自己表現
- 第5回 相手の話の「聴き方」① - 自分の気持ちと相手の気持ち
- 第6回 相手の話の「聴き方」② - 基本的な傾聴技法
- 第7回 傾聴技法のグループワーク
- 第8回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |                                                     |
|------------|---|-----|---|-----------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |   |     |   | 2回のレポート課題と授業後のレスポンスシート（授業の疑問点や感想）の提出をレポート（100%）とします |
| レポート       | ◎ | 100 | % |                                                     |
| 小テスト       |   |     |   |                                                     |
| その他・備考     |   |     |   |                                                     |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

コミュニケーションは日々の積み重ねです。一日の内、挨拶をする際の自分や、相手に声尾をかける自分を意識し、明るく元気に心を掛けてみましょう。それらがこの講義の復習になります。

## ■ 教 科 書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

演習は積極的に行う事。臨床では、対象の方を選ぶことはできないので、自身が苦手とするタイプの人とでも明るくコミュニケーションができるようになる練習として、演習に取り組みましょう。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                                                |      |     |       |      |          |         |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅲ                                                          |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 大西環（実務経験者）・井口知也（実務経験者）・他                                                       |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 大西環（言語聴覚士として病院などに勤務しコミュニケーション障害の患者を担当した）<br>井口知也（作業療法士として病院などで失語症を有する障害者に介入した） |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                        | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習      |
|          | 作業療法学専攻                                                                        | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

- ・失語症とはどのような言語障害であるかを理解し、コミュニケーションの取り方について学ぶ。
- ・講義のほか一部会話演習を行う。（感染状況等によって変更の可能性あり）

## ■ 到達目標

- ・失語症が他の言語障害とどのように異なるのか、概略を説明できるようになる。
- ・有効なコミュニケーション方法を知り、自ら工夫しコミュニケーションを図れるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 言語障害について 失語症とその他の言語障害との違い 失語症の定義 大西環（実務経験者）
- 第2回 失語症の特徴と症状 話す・聞く 大西環（実務経験者）
- 第3回 失語症の特徴と症状 読む・書く 大西環（実務経験者）
- 第4回 失語症のタイプ分類 大西環（実務経験者）
- 第5回 失語症検査の概要 大西環（実務経験者）
- 第6回 失語症の理解とコミュニケーションの工夫 大西環（実務経験者）
- 第7回 失語症の方とのコミュニケーション 大西環・井口知也（実務経験者）
- 第8回 まとめと試験対策 大西環（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |                                                                             |
|------------|---|-----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |     |   |                                                                             |
| 小テスト       |   |     |   |                                                                             |
| その他・備考     |   |     |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・教科書を中心に進めます。失語症の単元を事前に読み、授業後は復習をしてください。

## ■ 教 科 書

書 名：絵でわかる言語障害  
 著者名：毛束真知子  
 出版社：学研メディカル秀潤社

## ■ 参 考 図 書

書 名：笑顔のかたち1  
 出版社：食とコミュニケーション出版会

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法や講義形態を変更することがあり、変更する場合には、講義支援システム（Moodle）等を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

臨床に必要な知識です。積極的に取り組んでください。

|          |                    |      |    |       |     |          |    |
|----------|--------------------|------|----|-------|-----|----------|----|
| 授業科目     | 医療コミュニケーション学（面接技法） |      |    |       |     |          |    |
| 担当者      | 島 雅人               |      |    |       |     |          |    |
| 実務経験者の概要 |                    |      |    |       |     |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻            | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                    | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修  |          |    |

## ■ 内 容

理学療法を学び始めた時期に、職業教育の一環として理学療法士としてのプロフェッショナリズムを学ぶ。様々な分野で活躍する理学療法士の話を聞き、理学療法士の業務や役割、職業としてのやりがい、多様性、求められる知識・技能・態度、社会からどのように求められているのか、将来性等について学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 理学療法士の仕事内容、役割を理解できる
2. 理学療法士の職業の多様性について理解できる
3. 理学療法士としてのプロフェッショナリズムとは何かを理解できること
4. 社会に求められる理学療法士像についてイメージすることができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 コミュニケーションスキルと患者満足度  
 第2回 患者様に選ばれるために必要なコミュニケーションスキルとは  
 第3回 コミュニケーションスキルの実践：導入、共感的コミュニケーション  
 第4回 コミュニケーションスキルの実践：傾聴と情報収集  
 第5回 コミュニケーションスキルの実践：説明する  
 第6回 コミュニケーションスキルの実践：理学療法に必要な情報の収集  
 第7回 模擬症例を用いたコミュニケーションの演習  
 第8回 医療コミュニケーションスキルの確認（OSCE）

## ■ 評価方法

|            |           |    |   |  |
|------------|-----------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |           |    |   |  |
| レポート       | ◎         | 50 | % |  |
| 小テスト       |           |    |   |  |
| その他・備考     | 実技の確認 50% |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

コミュニケーションスキルは、講義を聞くだけでは身につけません。講義内容を理解し、繰り返し練習する事が必要です。毎回講義で学んだ事や実施したことは、復習・実技の練習を実施してください。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

医療におけるコミュニケーションは、友人同士のコミュニケーションあるいは一般社会におけるコミュニケーションよりも高度なテクニックが求められます。まずは、コミュニケーションに関連するこれまでの講義を見直し、基本的なコミュニケーションスキルを理解しておいてください。また、今後も実習そして医療・介護・福祉の現場に就職した際も、常にコミュニケーションスキルを高め続けなければなりません。そのための基礎的な知識と技術を学びますので、確実に身につけられるよう実技練習を含めた学修を実施してください。

|          |                |      |     |       |               |          |    |
|----------|----------------|------|-----|-------|---------------|----------|----|
| 授業科目     | 国語表現学（レポート作成法） |      |     |       |               |          |    |
| 担当者      | 岡崎 昌宏          |      |     |       |               |          |    |
| 実務経験者の概要 |                |      |     |       |               |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻        | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位          | 講義<br>形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻        | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | PT 必修 / OT 選択 |          |    |

## ■ 内 容

レポートの作成など、大学では、自身の考えを練り、それを正確に、過不足なく表現する能力が一層求められる。そしてそれは、社会の様々な場面でも必要となる能力である。この授業では、正確な表現のために必要な知識や技術を習得するとともに、レポートの作成方法を実践的に学ぶ。また、優れた文章を読み、表現技術への意識を高める。

## ■ 到達目標

自身の考えを整理し、それをレポートなどの形で正確に表現できるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 概説―正確な表現の重要性
- 第2回 文章を書くための知識（1）―表記など
- 第3回 文章を書くための知識（2）―原稿用紙の使い方、段落など
- 第4回 正確な文章のために（1）―説明不足の文をなくす
- 第5回 正確な文章のために（2）―過度な説明、重複説明をなくす
- 第6回 正確な文章のために（3）―長くなってしまった文を、短くする
- 第7回 正確な文章のために（4）―句読点への意識を高める、語彙力を高める
- 第8回 論文・レポートの文章を読み、その表現の特徴を学ぶ
- 第9回 レポートを書く（1）―様々な事実を集める
- 第10回 レポートを書く（2）―意見の方向を定める
- 第11回 レポートを書く（3）―自説の明確な根拠を考える
- 第12回 レポートを書く（4）―基本的な展開方法を知る
- 第13回 レポートを書く（5）―レポートを書き、推敲する
- 第14回 様々な文章に接し、表現への意識を高める
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |                              |  |  |  |
|------------|------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                              |  |  |  |
| レポート       |                              |  |  |  |
| 小テスト       |                              |  |  |  |
| その他・備考     | 平常点（授業中の課題への取り組みも含む） 1 0 0 % |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

前回までの内容をよく復習したうえで授業にのぞむこと。

## ■ 教科書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                             |      |     |       |      |      |    |
|----------|-----------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 心理学（人間関係学、教育心理学を含む）         |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 鈴木 暁子（実務経験者）                |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 大学病院や精神科病院で臨床心理士としての勤務経験を持つ |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                     | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                     | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。

## ■ 到達目標

人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 心理学の考え方①
- 第2回 心理学の考え方②
- 第3回 ト라우マについて
- 第4回 人と音楽①
- 第5回 人と音楽②
- 第6回 人の性格①
- 第7回 人の性格②
- 第8回 学習①
- 第9回 学習②
- 第10回 記憶と知能
- 第11回 動機づけ①
- 第12回 動機づけ②
- 第13回 動機づけ③
- 第14回 コーチング入門①
- 第15回 コーチング入門②

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

教科書に載っている内容は、講義の後に読んで復習してください。

## ■ 教 科 書

書 名：はじめて出会う心理学［第3版］  
 著者名：長谷川寿一 他  
 出版社：有斐閣アルマ

## ■ 参考図書

書 名：心理学概論

著者名：山内弘継・橋本宰監修

出版社：ナカニシヤ出版

## ■ 留意事項

指定教科書の第3版は2020年9月に刊行されました。旧版と内容が変わっていますので、旧版を購入しないよう注意してください。配布資料が多いので整理方法をよく考えて下さい。配布資料は複数回使うことが多いので、2回目、3回目に忘れないよう注意してください。資料が無いと講義の理解が難しくなります。

## ■ 講義受講にあたって

私語は厳禁です。違反者は退室してもらいます。

|          |         |      |    |       |    |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|----|------|----|
| 授業科目     | 言語学     |      |    |       |    |      |    |
| 担当者      | 松井 理直   |      |    |       |    |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |    |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 2  | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択 |      |    |

## ■ 内 容

言語聴覚士（ST）とのチーム医療を行う上で、ST の仕事に必要な言語学に関する基礎知識の涵養を目指します。

## ■ 到達目標

言語学の基本的な知識を身につけると共に、日常的な言語現象およびコミュニケーションに対する基本的な分析ができるようになることが目標です。

## ■ 授業計画

- 第1回 言語学の導入
- 第2回 音声学の基礎
- 第3回 日本語分節音の基本
- 第4回 日本語の子音について
- 第5回 分節音の構造：モーラと音節
- 第6回 日本語の音調について
- 第7回 文字の基本
- 第8回 漢字とかな文字の関係
- 第9回 意味論と心的尺度
- 第10回 意味の適合度：信頼性と妥当性
- 第11回 信号検出理論
- 第12回 判断とエラー
- 第13回 偽陽性・偽陰性について
- 第14回 言語学と統計学の関係
- 第15回 言語学・統計学から見たコミュニケーション・エラー

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |   |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 60 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 40 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業ごとに必ず予習が必要です。対面授業の場合は反転学習で授業を行いますので、予習をしない場合には、授業内容がおそらく理解できません。予習に関しては、おおよそ1週間でおよそ2時間程度の勉強量となります。また、復習については授業中の理解度によって変わってきますが、最低でも90分程度の時間が必要になるでしょう。選択授業ですので、本当に勉強したい人だけ授業を取るようにして下さい。なお、最初の授業時にシラバスをきちんと読んだことを確認し、もし読んでいない場合には受講を認めません。

## ■ 教科書

書名：言語聴覚士のための基礎知識「音声学・言語学」第2版

著者名：今泉敏（編）

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

対面授業の場合反転授業を行いますので、事前に web 上の教材で90分程度のビデオ視聴が必要になります。反転授業とは、あらかじめ授業内容を予習しておき、対面の授業場面では予習した内容について質疑応答を行うことが基本となる授業形態です。学力がつく授業形態ですが、きちんと真面目に予習をしないと効果が上がりません。これらの点を踏まえて、授業を選択するようにしてください。

|          |                    |      |     |       |      |          |    |
|----------|--------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 英語コミュニケーション（英会話初級） |      |     |       |      |          |    |
| 担当者      | 近藤 未奈              |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 |                    |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻            | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          | 作業療法学専攻            | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 選択   |          |    |

## ■ 内 容

社会全体のグローバル化が進む中、日本の医療現場でも、外国人の患者やその家族と英語でコミュニケーションを取る機会は増え、今後もますます増えていくと予想されます。この授業では、語彙、リスニング、会話、文法の各技能の演習をバランス良く行い、医療実務に役立つ総合的な英語力の養成をはかります。基礎的な英語文法の確認をしつつ医療関連の語彙を増やし、ロールプレイ方式での会話練習を行うことにより、実際の現場で英語を使うことのできる能力の習得を目指します。

## ■ 到達目標

医療専門分野に関係した基礎的な英語表現に慣れ、現場で実際に英語が必要とされた時に適切な対応ができる英語運用能力を身につける。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：受講にあたっての諸注意  
イントロダクション：医療現場で英語を使えることの意義 / 医療の英語はどのようなものかを知る
- 第2回 Meeting Patients「患者登録と生活習慣アンケートをする」その1
- 第3回 Meeting Patients「患者登録と生活習慣アンケートをする」その2
- 第4回 Taking a Medical History「病歴および健康状態を把握する」その1
- 第5回 Taking a Medical History「病歴および健康状態を把握する」その2
- 第6回 Assessing Patients' Symptoms「病状や症状をアセスメントする」
- 第7回 Taking Vital Signs「バイタルサインを確認する」
- 第8回 Conducting Medical Examinations「検査の注意や指示をする」
- 第9回 Directions「道案内・建物の中の案内の英語」
- 第10回 Assessing Pain「疾病・負傷による痛みをアセスメントする」
- 第11回 Advising about Medication「処方された薬についてアドバイスする」
- 第12回 Improving Patients' Mobility「体の機能回復を介助・援助する」その1
- 第13回 Improving Patients' Mobility「体の機能回復を介助・援助する」その2
- 第14回 Appointments「病院の予約・日時の表現」
- 第15回 Caring for Inpatients「入院患者のケアをする」

## ■ 評価方法

|            |                                                        |    |   |                                                                             |
|------------|--------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                      | 40 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                        |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                      | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 受講態度（演習問題の解答発表・ロールプレイ練習への取り組み・その他授業に臨む態度）を40%として評価します。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。

教科書の予習指示があった場合、指定の箇所の英語を読み、英和辞書などを使いわからない語句の意味を調べ、内容を日本語で理解・説明できるようにしておく。

小テスト対策の勉強は教科書の内容を理解するための予習も兼ねているので、範囲の語句の意味を覚えておくこと。

## ■ 教科書

書 名：Caring for People（医療分野で働くためのコミュニケーションコース）

著者名：黛美智子，宮津多美子，Philip Hinder，志田京子，杉田雅子，山下巖

出版社：センゲージ ラーニング

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。出題内容や実施スケジュールなど、詳細については初回授業で説明します。

授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。辞書アプリの利用を希望する場合にはルールを設けるので、初回授業で説明を受けてください。配布される資料は教科書として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。

成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、必ず初回から出席してください。新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

1 年次後期「医療英語」へとつながる内容です。

|          |         |      |     |       |      |          |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 基礎ゼミナール |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 専任教員・他  |      |     |       |      | (オムニバス)  |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

自分自身の療法士としての将来像を具体化し、求められる態度、療法士としてのコミュニケーション技能、対象者の理解、リスク管理の概要、プレゼンテーション方法、学習への態度と学習方法などについて、講義とグループ活動を通して学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 自分の将来像をイメージし、早期に大学生としての学習方法や学習に対する構えを作ることが出来る。
2. 療法士として求められる態度・知識・技能を知り、一步でも近づくための方向づけを行うことが出来る。
3. 他者の意見を理解する能力、自分の考えを整理して表現する能力、情報を収取し整理する能力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを習得する。
  - ①授業をしっかりと聞いてノートが取れる
  - ②時間内で学んだことを図やテーマでまとめることが出来る
  - ③ディスカッションをして集団で考えをまとめることが出来る

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション（基礎ゼミについて、大学生活に関わる内容について、など）
- 第2回 プレイメントテスト（これまでの学習状況を確認しよう）
- 第3回 ソーシャルネットサービスの利用時のマナーと防犯について学ぼう
- 第4回 ハラスメントについて学ぼう
- 第5回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講習会）
- 第6回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講習会）
- 第7回 現代社会と基礎経済を学ぼう
- 第8回 療法士としてのリスク管理について学ぼう①
- 第9回 療法士としてのリスク管理について学ぼう②（一次救急救命法、AED の使用方法）
- 第10回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
- 第11回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
- 第12回 関連するテーマについて調べる方法
- 第13回 図書館貸し出し体験 テーマについて調べる
- 第14回 貸出本の要約作成 調べた結果を GW で成果物として発表
- 第15回 興味のあるテーマについて調べてまとめる 1
- 第16回 興味のあるテーマについてまとめたものを発表する 1（ディスカッション、まとめ）
- 第17回 興味のあるテーマについて調べてまとめる 2
- 第18回 興味のあるテーマについてまとめたものを発表する 2（ディスカッション、まとめ）
- 第19回 障害のある当事者の話 1
- 第20回 障害のある当事者の話 1（ディスカッション、まとめ）
- 第21回 障害のある当事者の話 2
- 第22回 障害のある当事者の話 2（ディスカッション、まとめ）
- 第23回 障害のある当事者の話 3
- 第24回 障害のある当事者の話 3（ディスカッション、まとめ）
- 第25回 障害のある当事者の話 4
- 第26回 障害のある当事者の話 4（ディスカッション、まとめ）

- 第27回 人権研修  
 第28回 人権研修（ディスカッション、まとめ）  
 第29回 国家試験問題を解いてみよう  
         ディプロマポリシーの確認, 目指すセラピスト像と今後の取り組み 1  
 第30回 ディプロマポリシーの確認, 目指すセラピスト像と今後の取り組み 2

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                           |     |   |  |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                                           |     |   |  |
| レポートなど提出課題 | ◎                                                                                                                                                                         | 100 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                           |     |   |  |
| その他・備考     | ノートの内容、整理された図やテーマの内容、ディスカッションへの参加態度などを講義毎に採点し、その積み重ねを最終評価とする。<br>そのため、欠席するとその日の成績が0点となるため注意すること。<br>また、基礎ゼミナールの資料集や、講義に必要な資料は持参すること。不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料の準備不足など）は減点対象である。 |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「次回講義までの課題」が提示された場合には、取り組んで授業に臨むこと。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

積極的に参加し、取り組みましょう。多くの外部講師も関わるため、講師の都合により日程変更、講義順番を変更する可能性があります。

授業に欠席した場合は、その日の評価は0点となります。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                                                                                                                                                                                 |      |     |       |      |         |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 障がい者スポーツ入門                                                                                                                                                                                                      |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 島 雅人（実務経験者）・相原 一貴（実務経験者）                                                                                                                                                                                        |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | ・ 島 雅人 日本パラリンピック委員会 スポーツ医・科学・情報サポート事業 バイオメカニクス担当（公財）日本障がい者スポーツ協会公認中級障がい者スポーツ指導員（2015～）<br>スペシャルオリンピック日本 認定コーチ（MATP 2010～、ユニファイドサッカー 2016～）、スポーツコーチ（2017～）、ローカルトレーナー（2018～）<br>・ 相原一貴 理学療法士として病院やデイサービス等で実務経験あり。 |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                                                                                                                         | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                                                                                                                                                                                                         | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 自由   |         |    |

## ■ 内 容

障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて、講義と実技実習を交えて学ぶ。障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学ぶ。また、障がいに応じたスポーツの工夫や、障がい者との交流をはかり、障がい者スポーツ指導者としての導入を図る。本講義を履修することで、地域の障がい者で初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける。島 雅人（実務経験者）、相原一貴（実務経験者）

## ■ 到達目標

1. 障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて概説できる。
2. 障がい者スポーツの意義と理念を理解できる。
3. 身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解できる。
4. 日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について説明できる。
5. 障がい者との交流をはかり、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 障がい者福祉施策と障がい者スポーツ 1（0.5）、障がい者スポーツの意義と理念 1（1.0）：島（実務経験者）
- 第2回 障がい者スポーツの意義と理念（1.0）、文化としてのスポーツ（0.5）：島（実務経験者）
- 第3回 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義（1.5）：相原（実務経験者）
- 第4回 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義（0.5）：相原（実務経験者）  
（公財）日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度（1.0）：相原（実務経験者）
- 第5回 全国障害者スポーツ大会の実施競技（1.0）安全管理 1（0.5）：島（実務経験者）
- 第6回 安全管理 2（0.5）ボランティア論 1（1.0）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第7回 ボランティア論 2（1.0）、スポーツと栄養（0.5）：相原（実務経験者）
- 第8回 スポーツと心理（1.5）：島（実務経験者）
- 第9回 障がいの理解とスポーツ（身体、知的、精神、視覚など）（1.5）：相原（実務経験者）
- 第10回 障がい者のスポーツ指導における留意点 1（1.5）：島（実務経験者）
- 第11回 全国障害者スポーツ大会の概要（1.0）島（実務経験者）  
全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割（0.5）島（実務経験者）
- 第12回 障がいに応じたスポーツの工夫・実施（実技）（1.5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第13回 障がいに応じたスポーツの工夫・実施（実技）（1.5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第14回 障がい者との交流（実技）学外（1.5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第15回 障がい者との交流（実技）学外（1.5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |          |    |   |  |
|------------|----------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |          |    |   |  |
| レポート       | ◎        | 50 | % |  |
| 小テスト       |          |    |   |  |
| その他・備考     | 提出課題 50% |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身が出来ることについて考え行動することを望みます。

## ■ 教科書

書 名：障がいのある人のスポーツ指導教本

著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会

出版社：ぎょうせい

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

本科目は、初級・中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。欠席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

## ■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む講義日は学校指定のジャージを着用すること。

|          |                                                                                                                                                                                                                 |      |     |       |      |          |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 障がい者スポーツ指導論                                                                                                                                                                                                     |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 島 雅人（実務経験者）・相原 一貴（実務経験者）                                                                                                                                                                                        |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | ・ 島 雅人 日本パラリンピック委員会 スポーツ医・科学・情報サポート事業 バイオメカニクス担当（公財）日本障がい者スポーツ協会公認中級障がい者スポーツ指導員（2015～）<br>スペシャルオリンピック日本 認定コーチ（MATP 2010～、ユニファイドサッカー 2016～）、スポーツコーチ（2017～）、ローカルトレーナー（2018～）<br>・ 相原一貴 理学療法士として病院やデイサービス等で実務経験あり。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                                                                                                                         | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                                                                                                                                                                                                         | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 自由   |          |    |

## ■ 内 容

障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけ、地域における障がい者スポーツのリーダー的役割が担えるよう、知識と技術の習得を図る。障がい者スポーツ指導における留意点や心理的側面について学ぶ。全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障がい区分に関する理解を座学にて学習する。全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につける。 島 雅人（実務経験者）、相原一貴（実務経験者）

## ■ 到達目標

1. 障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけることができる。
2. 障がい者スポーツ指導に留意点や心理的側面について理解することができる。
3. 全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障害区分を理解できる。
4. 全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につけることができる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 文化としてのスポーツ（1. 5）：島（実務経験者）
- 第2回 障がい者のスポーツ指導における留意点（1. 5）：島（実務経験者）
- 第3回 全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割（1. 5）：島（実務経験者）
- 第4回 全国障害者スポーツ大会の実施競技（1. 0）、全国障害者スポーツ大会の障害区分（0. 5）：島（実務経験者）
- 第5回 全国障害者スポーツ大会の障害区分（1. 5）：島（実務経験者）
- 第6回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 陸上（1. 5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第7回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 陸上（1. 5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第8回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 サッカー（1. 5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第9回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 サッカー（1. 5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第10回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 グランドソフトボール（1. 5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第11回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 グランドソフトボール（1. 5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 車いすバスケットボール（1. 5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第13回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 車いすバスケットボール（1. 5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第14回 最重度障がい者のスポーツの実践（実技）学内 ボッチャ 他（1. 5）：島（実務経験者）・相原（実務経験者）

第15回 最重度障がい者のスポーツの実際（実技） 学内 ボッチャ 他（1. 5）  
：島（実務経験者）・相原（実務経験者）

### ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |   |     |   |  |
| レポート       | ◎ | 100 | % |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身が出来ることについて考え行動することを望みます。

### ■ 教科書

書 名：障がいのある人のスポーツ指導教本  
著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会  
出版社：ぎょうせい

### ■ 参考図書

書 名：メディカルスタッフのための障がい者スポーツ  
著者名：青木 隆明 編集  
出版社：MEDICAL VIEW

### ■ 留意事項

本科目は、中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。  
欠席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

### ■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む講義日は学校指定のジャージを着用すること。実技の実施内容については、新型コロナウイルスの感染拡大状況や天候により変更する可能性があります。その際は事前に Moodle にて連絡いたします。

|          |              |      |     |       |      |      |         |
|----------|--------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | スポーツ医学       |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 境 隆弘・佐藤 睦美 他 |      |     |       |      |      | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 |              |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻      | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          | 作業療法学専攻      | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 自由   |      |         |

## ■ 内 容

スポーツによる傷害、内科的疾患、トレーニングや栄養についての基礎を学び、  
 色々な職種（医師、理学療法士、薬剤師、アスレチックトレーナー）がそれぞれの立場で  
 スポーツ選手にどのように関わっているかを知る。

## ■ 到達目標

スポーツ医学の基礎的内容とスポーツ選手に関わる多職種の役割を理解する

## ■ 授業計画

- 第1回 スポーツ傷害総論 : 佐藤 睦美  
 第2回 スポーツと栄養 : 外部講師  
 第3回 ドーピング : 外部講師  
 第4回 アスレチックリハビリテーション, スポーツ現場におけるサポート① : 外部講師  
 第5回 スポーツ現場におけるサポート② : 境 隆弘  
 第6回 スポーツ現場におけるサポート③ : 外部講師  
 第7回 スポーツ現場におけるサポート④ : 外部講師  
 第8回 スポーツ現場におけるサポート⑤ : 外部講師

## ■ 評価方法

|            |                        |     |   |  |
|------------|------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                        |     |   |  |
| レポート       | ◎                      | 100 | % |  |
| 小テスト       |                        |     |   |  |
| その他・備考     | 講義内に作成する講義レポートで成績を評価する |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

## ■ 教 科 書

書 名：教科書指定無し（配布資料で講義を行う）

## ■ 参考図書

書 名：やさしいスチューデントトレーナーシリーズ4 新・スポーツ医学  
 著者名：メディカル・フィットネス協会（監修）  
 出版社：嵯峨野書院

## ■ 留意事項

講義内容・日程は外部講師の都合により前後したり変更する可能性があります。

Moodle を適宜確認すること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

連絡事項は Moodle の科目ページを通じて行うので、各自確認を怠らないこと

|          |                          |      |     |       |      |      |    |
|----------|--------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | リハビリテーション概論（地域包括ケアシステム）  |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 井上 悟（実務経験者）              |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | リハビリテーション医療での実務経験が豊富にある。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                  | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                  | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

リハビリという言葉は、一般社会でも非常によく使われるようになった。  
通常、疾病や外傷によって生じた障害に対する機能回復のための治療・訓練として用いられてきている。  
しかし、この解釈は、リハビリテーションの中の極めて狭い領域を示しているに過ぎない。  
リハビリテーション本来の理念や基本を概説する。

## ■ 到達目標

リハビリテーション（rehabilitation）を正しく理解する。  
正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状について知る。

## ■ 授業計画

- 第1回 講義オリエンテーション、導入：リハビリテーションとは？概念・語源
- 第2回 リハビリテーションの理念・定義
- 第3回 健康・疾病・障害の概念と分類
- 第4回 障害論（国際障害分類、国際生活機能分類）
- 第5回 廃用症候群とは
- 第6回 障害の心理的・社会的視点（障害受容とは）
- 第7回 リハビリテーションの過程（評価とは？ 評価学的重要性）
- 第8回 リハビリテーションの諸段階1：医学的・職業的リハビリテーション
- 第9回 リハビリテーションの諸段階2：教育的・社会的リハビリテーション
- 第10回 医療とリハビリテーションに関わる諸問題1
- 第11回 医療とリハビリテーションに関わる諸問題2
- 第12回 チーム・アプローチ（リハ専門職の役割、評価と記録の重要性）
- 第13回 ADL・QOL の概念、 地域包括ケアシステム（地域リハビリテーション含）
- 第14回 リハビリテーションを支える社会保障制度と法律1
- 第15回 リハビリテーションを支える社会保障制度と法律2

## ■ 評価方法

|            |                                             |     |   |  |
|------------|---------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                           | 100 | % |  |
| レポート       |                                             |     |   |  |
| 小テスト       |                                             |     |   |  |
| その他・備考     | 授業態度 30%（正当な理由がない欠席や遅刻・等については減点とする（30% 以内）） |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

## ■ 教 科 書

書 名：リハビリテーション概論（第4版）  
著者名：上好秋孝・田島文博  
出版社：永井書店，2021年（最新版で）,3000円税別

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

指定の教科書は後期開講のリハビリテーション医学の参考書として利用可能。各回の講義テーマ、内容については関連する講義の進捗状況により変更することがあります。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |             |      |     |       |      |         |    |
|----------|-------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | リハビリテーション医学 |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 非常勤講師       |      |     |       |      | (オムニバス) |    |
| 実務経験者の概要 |             |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻     | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          | 作業療法学専攻     | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

リハビリテーション医学の目的は、病気や外傷により生じた障害を医学的に診断・治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することです。主なる対象となる疾患を紹介し、どのように目的を達成していくかを受講者とともに考えます。

## ■ 到達目標

リハビリテーション医学の基本的な知識を習得し、リハビリテーションに対する自分の考えを持つことができ、リハビリテーション関連職種の専門家を指すための明確な動機付けができることを期待しています。

## ■ 授業計画

- 第1回 総論：病気の予後・予測を、外部環境（自然・病原体・薬物・食事・人等）と、内部環境（遺伝子・ホルモン・免疫・睡眠等）との関連から述べる。 今城
- 第2回 在宅リハビリテーションの意義：まず、機能の喪失にならないように（フレイル・ロコモティブシンドローム等）、また、失った機能の回復について（脳梗塞等）、訪問リハビリテーション・施設リハビリテーション等の意義を述べる。 今城
- 第3回 運動発達のみかた 脳性麻痺早期診断 脳性麻痺総論 障害児療育 痙縮治療
- 第4回 脳性麻痺児（り）ハビリテーションの特徴 脳卒中との比較（り）ハビリテーションのあり方と実際 二次障害
- 第5回 脳性麻痺重症児の障害 脳性麻痺の歯科治療 小児の姿勢・歩容異常（その他神経筋疾患を含む）装具療法 まとめ
- 第6回 診断、治療総論
- 第7回 外傷
- 第8回 大腿骨頸部骨折と骨粗鬆症
- 第9回 疾患各論（脊髄損傷含む）
- 第10回 変形性関節症
- 第11回 胸腔内臓器関連（循環器・呼吸器）①
- 第12回 胸腔内臓器関連（循環器・呼吸器）②
- 第13回 胸腔内臓器関連（循環器・呼吸器）③
- 第14回 脳卒中各論①（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第15回 脳卒中各論②（遠隔授業：オンデマンド配信）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                             |     |   |  |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                                                             |     |   |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                                                           | 100 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                             |     |   |  |
| その他・備考     | 正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。<br>授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）や態度、課題の未提出に関しては減点（-2点）対象とする。<br>レポート<br>提出期限を厳守すること。不自然なレポート（内容が他者と酷似しているなど）が提出された場合は、規則に従って対応する。 |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に予習をすること。授業後は授業内での説明や配布された資料を下に復習をすること。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

書名：リハビリテーション医学テキスト 改訂第4版

著者名：三上真弘（監修）、出江紳一・加賀谷斉（編）

出版社：南江堂

書名：Crosslink リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学

著者名：上月正博、高橋仁美（編）

出版社：メジカルビュー社

## ■ 留意事項

遠隔授業（オンデマンド型）が行われた場合は課題を必ず提出すること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

私語や無断で席を離れるなど、講師および他の受講者の迷惑になる行為は、言うまでもなく厳禁です。多職種の協調が大事である医療・福祉・介護分野で働くための最低限の常識やマナーを身につけて講義に臨んで下さい。

|          |                      |      |    |       |     |      |    |
|----------|----------------------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 介護概論                 |      |    |       |     |      |    |
| 担 当 者    | 綾部 貴子（実務経験者）         |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 | 社会福祉士とし、福祉施設で勤務していた。 |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻              | 学 年  | 3年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻              | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 選択  |      |    |

## ■ 内 容

日本の介護の実態について様々な側面から学ぶとともにその課題についても考察する。  
介護の実態を踏まえて、介護に関する主な法律について（介護保険法）学ぶ。

## ■ 到達目標

- ①日本が抱える介護の実態とその要因について学ぶことができる。
- ②介護に関する主な法律（介護保険法）について理解することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・日本の介護の実態①（少子高齢化・高齢者の世帯の動向）（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第2回 日本の介護の実態②（家族介護者の現状）
- 第3回 日本の介護の実態③（高齢者の経済面：所得や就業）
- 第4回 日本の介護の実態④（終末期）
- 第5回 高齢者介護に関する法律（介護保険法）（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第6回 日本の介護の実態⑤（認知症 1）認知症とは・認知症高齢者数の現状）
- 第7回 日本の介護の実態⑥（認知症 2）症状・ケアのあり方）
- 第8回 日本の介護の実態⑦（認知症 3）認知症高齢者を抱える家族介護者の現状）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                 |     |   |  |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                               | 100 | % |  |
| レポート       |                                                                                                 |     |   |  |
| 小テスト       |                                                                                                 |     |   |  |
| その他・備考     | 正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする．（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点）<br>また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする． |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から介護に関するニュースや記事について関心をもつようにしてください。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留意事項

教科書を使用せずに毎回テーマに沿って資料を配布します。A 4 ファイル等で資料を整理しておくようにしてください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

授業に対して積極的な態度での参加を望みます。

|          |                                          |      |     |       |      |          |    |
|----------|------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 感染症学（感染症の基礎及び予防策を含む）                     |      |     |       |      |          |    |
| 担当者      | 藤岡 重和（実務経験者）                             |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者は、医療機関において医師として各種感染症を含む診療業務に従事している。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                  | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                                  | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

リハビリテーション領域において、感染症は特に注意が必要であり、各種感染症について基本的理解ができるよう概説する。感染症学の基礎として、感染症と人・微生物との関わり、感染防御機構、感染症の検査について解説する。次に、呼吸器感染症、消化器感染症、肝炎、尿路感染症などの各種感染症において、原因となる病原微生物、その感染経路、臨床像、検査と診断、治療、予後、及び感染予防策について学習する。

## ■ 到達目標

1. 微生物と感染症、感染防御機構について基本的理解ができる
2. 代表的な感染症について、病原微生物とその感染経路、臨床像、診断と治療法について説明できる
3. 感染予防対策、リハビリテーション業務における感染対策について説明できる

## ■ 授業計画

- |     |       |     |                                  |
|-----|-------|-----|----------------------------------|
| 第1回 | 感染症総論 | (1) | 微生物と感染症、感染防御機構                   |
| 第2回 | 感染症総論 | (2) | 感染症の検査と診断、感染症の治療                 |
| 第3回 | 感染症各論 | (1) | 呼吸器感染症、結核                        |
| 第4回 | 感染症各論 | (2) | 消化器感染症、食中毒、肝炎                    |
| 第5回 | 感染症各論 | (3) | 尿路感染症、性感染症、皮膚・粘膜の感染症、その他         |
| 第6回 | 感染症各論 | (4) | 人獣共通感染症、寄生虫感染症、新興感染症、感染症トピックス    |
| 第7回 | 感染制御学 | (1) | 院内感染、薬剤耐性菌、標準予防策、感染経路別予防策        |
| 第8回 | 感染制御学 | (2) | リハビリテーション業務における感染対策、国家試験対策（問題演習） |

## ■ 評価方法

|            |   |  |     |                                                                             |
|------------|---|--|-----|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ |  | 80% | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |  |     |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ |  | 20% |                                                                             |
| その他・備考     |   |  |     |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。  
また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

## ■ 教 科 書

書 名：ナーシング・グラフィカ 疫病の成り立ちと回復の促進 3 臨床微生物・医動物 第4版  
 著者名：矢野久子、安田陽子  
 出版社：MC メディカ出版

## ■ 参考図書

書 名：病原体・感染・免疫 第2版  
著者名：藤本秀士  
出版社：南山堂

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                               |      |    |       |     |      |    |
|----------|-----------------------------------------------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 障害者福祉論（自立支援、就労支援を含む）                          |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 増田 和高（実務経験者）                                  |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 | 障がい者支援領域で介護職（重度訪問介護員）ならびに相談職（社会福祉士）として勤務していた。 |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                       | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                                       | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

現代社会における障害のある人の生活実態を踏まえつつ、そうした生活像にどのように制度・政策が関与し、どのような点において「生活のし辛さ」が発生してくるのかということを理解するとともに、「生活のし辛さ」を解消していくための福祉的支援の在り方、支援の理念について学ぶ。特に「障害」、「自立」および「就労」という概念が生活とどのように関連するのかをイメージできる講義とする。

## ■ 到達目標

1. 障害者支援に関わる専門職として、障害者問題に対応できる基本的知識を涵養する。
2. 「障害」という概念について基本的な考えを理解し、説明できるようになる。
3. 障害特性に応じた日常生活の課題について分析できる力を身に付ける。
4. 自立と関連付けた支援のありかたや、就学・就労支援との関連について説明できるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 「障害」概念の歴史的展開（古代 - 中世）
- 第2回 「障害」概念の歴史的展開（近代）
- 第3回 身体障害者福祉法の概要
- 第4回 知的障害者福祉法の概要
- 第5回 精神障害者福祉に関する法律の概要
- 第6回 障害者の生活実態と社会情勢
- 第7回 障害者と自立
- 第8回 障害者と就学・就労支援

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習については、講義時間内に指示する資料を読み、理解しておくことで講義受講時に必要な基礎的情報を得てから講義に臨むこととする。また、復習については講義内でのディスカッションにおいて得られた他の受講生の意見や自身の関心について、関連する資料等を自主的に学習することで学びを深めるようにする。

## ■ 教 科 書

書 名：特になし

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留意事項

講義資料については講義開始前に配布するものを活用する。

講義形式は全て動画視聴（オンデマンド）とする（期末の筆記試験を除く）

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 老人福祉論   |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 綾部 貴子   |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 選択  |      |    |

## ■ 内 容

現代日本の高齢者をとりまく現状と福祉課題を考察する。さらに、高齢者に関する虐待や孤立死等要因も探る。また、今後増えていく認知症高齢者についても理解する。  
現状を踏まえて高齢者に関する主な法律（介護保険制度や高齢者虐待防止法）についても学ぶ。

## ■ 到達目標

- ① 高齢者福祉の社会的背景として、高齢者自身の現状、高齢者をとりまく環境について理解することができる。
- ② 高齢者に関する法律（介護保険制度や高齢者虐待防止法）について理解することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高齢者をとりまく現状①（高齢者人口）（遠隔授業：オンデマンド配信）  
 第2回 高齢者をとりまく現状②（家族）  
 第3回 高齢者をとりまく現状③（経済面）  
 第4回 高齢者をとりまく現状④（地域とのつながり～孤立死等～）  
 第5回 高齢者をとりまく現状⑤認知症とは1）種類・症状  
 第6回 高齢者をとりまく現状⑥認知症とは2）認知症高齢者数・本人を支える家族介護者の現状  
 第7回 高齢者に関する法律②（介護保険法）（遠隔授業：オンデマンド配信）  
 第8回 高齢者に関する法律①（高齢者虐待法）（遠隔授業：オンデマンド配信）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                 |     |   |  |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                               | 100 | % |  |
| レポート       |                                                                                                 |     |   |  |
| 小テスト       |                                                                                                 |     |   |  |
| その他・備考     | 正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2 点、遅刻：－ 1 点）<br>また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1 回：－ 5 点）とする。 |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から高齢者に関するニュースや記事について関心をもつようにしてください。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留意事項

教科書を使用せずに毎回テーマに沿って資料を配布します。A 4 ファイル等で資料を整理しておくようにすること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

授業に対して積極的な態度での参加を望みます。

|          |         |      |     |       |      |          |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 基礎解剖学   |      |     |       |      |          |    |
| 担当者      | 柴田 雅朗   |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本的事項を系統的に学ぶ。

## ■ 到達目標

人体構造の基礎的知識を身につけ、運動器系や神経系の解剖学を学ぶための基礎を作ると同時に、専門科目を理解する際の礎になる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 <解剖学総論> 1. 細胞・組織・器官・系 2. 人体の正常・異常・個体差 3. 解剖学的姿勢 4. 基本的な解剖学用語 5. 組織（上皮組織、支持組織） 6. 三層性胚盤と器官・組織形成
- 第2回 <骨学・関節総論> 1. 骨の種類と構造 2. 軟骨 3. 骨の発生 4. 関節の種類と分類
- 第3回 <筋学総論> 1. 筋の種類と構造 2. 筋の形と名前 3. 筋の作用 4. 筋と関節 5. 骨格筋の神経と運動終板 6. 筋紡錘 7. 骨格筋の構造
- 第4回 <神経学総論> 1. 神経の分類 2. 神経細胞 3. 神経系の区分 4. 伝達方向とシナプス 5. 神経膠細胞 6. 脳の発生
- 第5回 <循環器系総論> 1. 動脈と静脈、動脈血と静脈血、毛細血管 2. 吻合と機能的終動脈 3. 伴行静脈と脈管の脈管 4. 血管の構造 <心臓1> 1. 位置と外形 2. 冠状動脈 3. 心臓に出入りする血管 4. 血液の流れ
- 第6回 <心臓2> 1. 弁 2. 心臓壁と心嚢 3. 刺激伝導系 4. 心臓の神経 <動脈系1> 1. 上行大動脈、大動脈弓と下行大動脈 2. 頸動脈小体と頸動脈洞 3. 外頸動脈の枝 4. 脈拍を触れる動脈
- 第7回 <動脈系2> 1. 内頸動脈の枝 2. ウイリス動脈輪 3. 脳表面の動脈の分布 4. 脳梗塞と疾患 5. 鎖骨下動脈の枝
- 第8回 <動脈系3> 1. 腋窩動脈の枝 2. 肩甲動脈吻合 3. 上腕動脈の枝 4. 橈骨動脈と尺骨動脈 5. 胸動脈の枝 6. 腹大動脈の枝 7. 骨盤部の動脈（内腸骨動脈の枝）
- 第9回 <動脈系4> 1. 総腸骨動脈の枝 2. 前腹壁の側副循環路 3. 大腿動脈の枝 4. 内転筋管と腱裂孔 5. 大腿骨頭の栄養動脈 6. 膝窩動脈の枝 7. 下腿の動脈 <静脈系1> 1. 頭頸部の静脈 2. 上肢の静脈 3. 下大静脈 4. 奇静脈系 5. 門脈系
- 第10回 <静脈系2> 1. 下肢の静脈と静脈瘤 2. 胎児循環 <リンパ管系> 1. リンパ本幹と胸管 2. リンパ節 3. 脾臓 4. 胸腺と重症筋無力症
- 第11回 <消化器系1> 1. 消化管系の基礎と消化管の基本 2. 口腔（唾液腺、舌、咽頭） 3. 食道 4. 胃 5. 小腸 6. 大腸 7. 消化管に分布する動脈
- 第12回 <消化器系2> 1. 肝臓 2. 膵臓 3. 腹膜と後腹膜器官 4. 大網 <呼吸器系1> 1. 鼻腔 2. 喉頭と発声
- 第13回 <呼吸器系2> 1. 気管および気管支 2. 肺と胸膜 3. 縦隔 <泌尿器系> 1. 腎臓 2. 尿管 3. 膀胱 4. 尿道
- 第14回 <生殖器系> 1. 男性生殖器 2. 女性生殖器 <総復習1>：国試形式による練習問題、解答と解説
- 第15回 <総復習2>：国試形式による練習問題、解答と解説

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業を受けた内容について、配布資料、板書したノート、教科書、ネッター解剖学アトラスを用いて、必ず復習を毎回行い、分からない内容がないようにして下さい。分からないことは自分で調べ考えてみて、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

## ■ 教科書

書 名：PT・OT・STのための解剖学  
著者名：渡辺正仁 監修  
出版社：廣川書店

## ■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス  
著者名：相磯貞和 訳  
出版社：南江堂

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

毎回、授業資料を配布しますが、随時、授業を聞きながら書き込みをして下さい。

|          |                                       |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 基礎解剖学                                 |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 永瀬 佳孝                                 |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 歯科医師として実務経験があり、解剖学、神経解剖学、神経生理学の研究を実施。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                               | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                       | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に学ぶ。

## ■ 到達目標

人体構造の基礎的知識を覚えている。

運動器系や神経系の解剖学を学ぶための基礎を作る。

## ■ 授 業 計 画

第1回 解剖学の基礎、基礎医学を学ぶ意味

1. 組織 2. 骨 3. 感覚 4. 筋 5. 関節

第2回 消化器系

1. 口腔 2. 咽頭 3. 食道 4. 胃・腸管

第3回 消化器系

1. 肝臓 2. 脾臓

第4回 呼吸器系

1. 鼻腔 2. 咽頭と喉頭 3. 気管・気管支 4. 肺・胸膜 5. 呼吸筋

主動筋、拮抗筋、協力筋 8. 骨格筋の補助装置（筋膜、支帯、筋間中隔、筋滑車、滑液包、腱鞘）

第5回 心臓

1. 心筋細胞 2. 心臓の位置 3. 心臓を包む膜 4. 心臓の内腔（心房と心室）

5. 肺循環と体循環

第6回 循環器系総論

1. 血管系の役割 2. 血管（動脈・毛細血管・静脈の構造） 3. 動脈・静脈と動脈血・静脈血

4. 吻合 5. 終動脈

第7回 脊柱と体肢

1. 腕神経叢 2. 上肢 3. 膝関節 4. 脊柱

第8回 骨盤周辺部

1. 尿路 2. 腎臓

第9回 頭頸部

1. 表情筋 2. 咀嚼筋 3. 咽頭

第10回 中枢神経系

1. 全体像 2. 脊髓

第11回 中枢神経系

1. 脳幹 2. 小脳 3. 大脳基底核

第12回 中枢神経系

1. 視床 2. 大脳皮質

第13回 中枢神経系

1. 視床下部 2. 内分泌系

第14回 末梢神経系

1. 体性神経系 2. 自律神経系

第15回 感覚器

1. 視覚器 2. 聴覚・平衡感覚器

## ■ 評価方法

|            |                                         |    |   |  |
|------------|-----------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                       | 60 | % |  |
| レポート       | ◎                                       | 40 | % |  |
| 小テスト       |                                         |    |   |  |
| その他・備考     | すべて板書するので、毎回授業ノート及び予習・復習ノートの提出をレポートとする。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：指定した教科書の範囲を手書きでノートにまとめてくること。（2時間）

復習：授業の終わりに指定した事項を覚えること。（2時間）

## ■ 教科書

書 名：臨床につながる解剖学イラストレイテッド

著者名：松村 譲児

出版社：羊土社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

体調管理も能力に含まれるので、遅刻・欠席には注意すること。

呼名している時間がもったいないので、授業終了時のノート提出により出席とする。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

臨床実習において学習不十分を実感する学生が多いので、解剖学・生理学はすべての基本となるので、しっかり勉強すること。

|          |                  |      |     |       |      |         |    |
|----------|------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 解剖学基礎演習          |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 相原 一貴・文本 聖現・岡 智大 |      |     |       |      | (オムニバス) |    |
| 実務経験者の概要 |                  |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻          | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 演習 |
|          |                  | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

上下肢の骨・関節・筋、体幹の骨・関節・筋について、骨標本や体表解剖学などを通して学ぶ。

## ■ 到達目標

運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 全身骨格とその分類： 全身骨格・体軸性骨格・付属性骨格の分類、全身骨格の組み立て（担当：相原）
- 第2回 上肢帯骨と体表解剖学： 肩甲骨と鎖骨の理解（担当：相原）
- 第3回 自由上肢と体表解剖学： 上腕骨・橈骨・尺骨・手指骨・手根骨の理解（担当：相原）
- 第4回 肩関節と肘関節： 肩関節・肘関節の構造、靭帯の理解（担当：相原）
- 第5回 肘関節の靭帯と手関節（担当：相原）
- 第6回 胸郭と体表解剖学： 胸骨・肋骨と肋軟骨の理解、胸郭の連結の理解（担当：相原）
- 第7回 下肢帯骨と骨盤： 寛骨・腸骨・坐骨・恥骨の理解（担当：岡）
- 第8回 自由下肢骨： 大腿骨・脛骨・腓骨・膝蓋骨・足の骨の理解（担当：岡）
- 第9回 股関節と仙腸関節： 股関節・仙腸関節の構造、靭帯の理解（担当：岡）
- 第10回 膝関節： 膝関節の構造、靭帯の理解（担当：岡）
- 第11回 脛腓関節と足関節： 脛腓関節・足関節の構造、靭帯の理解（担当：岡）
- 第12回 足部の理解（担当：岡）
- 第13回 脊柱と体表解剖学①： 椎骨の基本、頸椎・胸椎・腰椎・仙椎・尾椎の理解（担当：相原）
- 第14回 脊柱と体表解剖学②： 椎骨間の連結・環軸関節・頸椎・胸椎・腰椎の連結、靭帯の理解（担当：相原）
- 第15回 頭蓋骨： 頭蓋骨を構成する骨とその連結、眼窩・鼻腔・副鼻腔・顎関節の理解（担当：相原）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                    |    |   |                                                                             |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                  | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                    |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                  | 40 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 正当な理由のない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点）<br>また、必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-2点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

第2Qに学修した、運動器系の解剖学の内容が大半を占めています。骨標本を使用し理解を深めるためにも、必ず運動器系の解剖の内容を振り返り講義に臨んでください。また、毎回講義内容の定着度を測るため、講義の冒頭に小テストに臨んでもらいます。しっかりと講義内容を復習し、次の講義に臨んでください。

## ■ 教科書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

書 名：標準理学療法学・作業療法学【解剖学】

著者名：（編）野村 巖

出版社：医学書院

---

書 名：プロメテウス解剖学アトラス【解剖学総論運動器系】

著者名：（監訳）坂井 建雄，松村 譲兒

出版社：医学書院

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣をつけてください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。

|          |            |      |     |       |      |          |         |
|----------|------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 解剖学基礎演習    |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 寺村 晃・渡部 雄太 |      |     |       |      |          | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 |            |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻    | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習      |
|          |            | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

身体の骨の触診や関節運動の実技を実施し、人間の体の動き、筋の作用について理解する。また、体表解剖についても図表などで学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 骨の触診ができる。
2. 体表解剖について理解することができる。
3. 関節の動きについて理解することができる。
4. 筋肉の作用について理解することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 神経系1（総論）・小テスト
- 第3回 神経系2（上肢）
- 第4回 神経系3（下肢）・小テスト
- 第5回 上肢の触診1（肩・肘）
- 第6回 下肢の触診1（股・大腿）
- 第7回 上肢の触診2（前腕・手関節）
- 第8回 手部の触診・小テスト
- 第9回 下肢の触診1（股・大腿）
- 第10回 下肢の触診2（膝・下腿）
- 第11回 足部の触診
- 第12回 上下肢の振り返り・小テスト
- 第13回 頸部の触診1
- 第14回 体幹の触診2
- 第15回 全体の振り返り・小テスト

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |                                                                             |
|------------|---|-----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |   |     |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |     |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 100 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |     |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。  
 作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。  
 単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

## ■ 教科書

書 名：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版  
著者名：野村 巖 編集  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

身体障害分野などの科目で、当該科目の知識が必要となります。  
自身や他者の身体を用いて、積極的に学習するよう心掛けてください。

|          |          |      |     |       |    |      |    |
|----------|----------|------|-----|-------|----|------|----|
| 授業科目     | 運動器系の解剖学 |      |     |       |    |      |    |
| 担当者      | 田中 稔     |      |     |       |    |      |    |
| 実務経験者の概要 |          |      |     |       |    |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻  | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1  | 講義形式 | 講義 |
|          |          | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修 |      |    |

## ■ 内 容

身体部位の形態と構造を理解することにより、身体運動を理解するための基礎を学ぶ。田中 稔（実務経験者）

## ■ 到達目標

理学療法においては、加齢や寝たきり等による運動機能低下の予防、維持が主要目的となるが、骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は目的の達成のために極めて重要となる。講義内容では、細胞と組織、骨格系、関節靭帯系、筋系の形態を機能と関連付けすることで理解を深めていく。また、組織学的な知見を示すことで、解剖学分野の科学的な関心へとつなげていく。

## ■ 授業計画

- 第1回 解剖学総論：人体の概要・構成 田中 稔（実務経験者）
- 第2回 骨学各論：上肢の骨 田中 稔（実務経験者）
- 第3回 上肢の関節と靭帯 田中 稔（実務経験者）
- 第4回 筋学各論：上肢帯、上腕の筋 田中 稔（実務経験者）
- 第5回 筋学各論：前腕、手の筋 田中 稔（実務経験者）
- 第6回 骨学各論：下肢の骨 田中 稔（実務経験者）
- 第7回 下肢の関節と靭帯 田中 稔（実務経験者）
- 第8回 筋学各論：下肢帯の筋 田中 稔（実務経験者）
- 第9回 筋学各論：大腿の筋 田中 稔（実務経験者）
- 第10回 筋学各論：下腿、足の筋 田中 稔（実務経験者）
- 第11回 骨学各論：頭蓋、脊柱、胸郭 田中 稔（実務経験者）
- 第12回 頭頸部、体幹の関節と靭帯 田中 稔（実務経験者）
- 第13回 筋学各論：頭頸部の筋 田中 稔（実務経験者）
- 第14回 筋学各論：胸腹部の筋 田中 稔（実務経験者）
- 第15回 筋学各論：背部の筋 田中 稔（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため、事前に前回授業の復習をしておくこと。

## ■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学

著者名：編集：野村 巖

出版社：医学書院

書 名：基礎運動学 第6版 補訂

著者名：中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著

出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認をしてください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

全ての基礎になる学習領域である。運動学、評価学等の先の講義につながるように知識の積み重ねを意識して講義に臨むこと。

|          |            |      |     |       |      |         |    |
|----------|------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 運動器系の解剖学   |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 寺村 晃・渡部 雄太 |      |     |       |      | (オムニバス) |    |
| 実務経験者の概要 |            |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻    | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |            | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は、作業療法支援を行う上で必要となる。講義では、骨・関節・筋系の構造と作用、神経について理解を深める。

## ■ 到達目標

1. 骨の位置や構造を理解できる。
2. 筋の位置や構造、作用を理解できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、解剖学の総論  
 第2回 肩・肘の骨  
 第3回 肩・肘の筋  
 第4回 前腕・手部の骨・小テスト  
 第5回 前腕・手部の筋  
 第6回 振り返り・小テスト  
 第7回 股・大腿部の骨  
 第8回 股・大腿部の筋  
 第9回 膝の骨・小テスト  
 第10回 下腿・足部の骨  
 第11回 下腿・足部の筋  
 第12回 振り返り・小テスト  
 第13回 上肢の筋の作用の復習  
 第14回 下肢の筋の作用の復習  
 第15回 全体の振り返り、小テスト

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |                                                                             |
|------------|---|-----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |   |     |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |     |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 100 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |     |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内容についての小テストを実施します。小テストまでに、授業で確認した内容を各自復習を行って下さい。こまめに復習をしてください。

## ■ 教 科 書

書 名：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版  
 著者名：野村巖 編集  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。

作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。

単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

講義では、骨標本や受講者の体を用いて触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 神経系の解剖学 |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 大井 康浩   |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

中枢神経系および末梢神経系の構成および機能を理解し、感覚（上行路）、運動（下行路）の伝導路を学ぶ

## ■ 到達目標

解剖学は他の医療系科目の基礎となる重要な科目であり、神経解剖学を学ぶことにより、中枢神経系、末梢神経系の神経系疾患、リハビリテーションを理解を助けるための基礎をつくる。

## ■ 授業計画

- 第1回 髄膜、脳室、脳脊髄液  
脊髄：各部の名称、前根、後根
- 第2回 大脳：1. 溝、回、葉 2. 大脳皮質 3. ブロードマン野 4. 運動野、体性感覚野  
5. 優位半球 6. 神経線維の種類
- 第3回 大脳：大脳基底核、内包、大脳辺縁系[扁桃体]
- 第4回 大脳辺縁系[海馬]  
間脳：視床上部、視床、視床下部  
中脳：中脳蓋、中脳被蓋、大脳脚
- 第5回 橋：橋底部、橋被蓋  
延髄：オリーブ、錐体交叉、網様体  
小脳：構造（皮質・髄質・小脳核）とその機能
- 第6回 末梢神経系：脊髄神経前枝、脊髄神経後枝
- 第7回 末梢神経系：腕神経叢
- 第8回 末梢神経系：脳神経 《嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、三叉神経、外転神経
- 第9回 末梢神経系：脳神経 《顔面神経、内耳神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経》  
自律神経系：交感神経、副交感神経
- 第10回 下行性伝導路：錐体路、錐体外路（パーキンソン氏病）、反射
- 第11回 上行性伝導路：温痛覚、非識別性触圧覚、識別性触圧覚・深部感覚
- 第12回 上行性伝導路：1. 無意識的な深部感覚：脊髄小脳路・副楔状束小脳路 2. 関連痛
- 第13回 総復習
- 第14回 総復習
- 第15回 総復習

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

質問はいくらでもして下さい。復習を毎回行い、自分で調べて理解して下さい

## ■ 教科書

書名：PT/OT/ST のための解剖学

著者名：渡辺正二 監修

出版社：廣川書店

書名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学

著者名：野村 巖

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書名：消っして忘れない解剖学 要点整理ノート

著者名：井上 馨・松村讓兒

出版社：羊土社

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

解剖学は全ての医療系学科の基礎科目です、部位の名称を覚えて下さい。また機能を理解し、情報が多いほど記憶は促進されます。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 神経系の解剖学 |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 柴田 雅朗   |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

中枢神経系および末梢神経系の各部について学習し、運動や感覚の伝わる経路（伝導路）について学ぶ

## ■ 到達目標

中枢神経系および末梢神経系を構成している各部の名称や機能を説明でき、上行性および下行性伝導路の種類と各伝導路の主要な部位が分かる。これらは専門領域で学ぶ神経系疾患、リハビリテーションの理解の基礎となる。

## ■ 授業計画

- 第1回 <神経学総論：復習> 1. 神経の分類 2. 神経細胞 3. シナプス 4. 灰白質、白質および神経核 5. 神経節 6. 支持細胞 7. 脳の発生
- 第2回 <中枢神経系1> 1. 脊髄 2. 脳幹（中脳、橋、延髄） 3. 小脳
- 第3回 <中枢神経系2> 1. 間脳（視床と視床下部） 2. 大脳
- 第4回 <中枢神経系3> 1. 大脳（続き）
- 第5回 <脳室系と脳の血管系> 1. 髄膜 2. 脳室系 3. 脳脊髄液 4. ウイリス動脈輪 5. 脳表面の動脈（皮質枝） 6. 脳深部の動脈（中心枝）
- 第6回 <末梢神経系1> 1. 末梢神経の復習 2. 脊髄神経 3. 脊髄神経叢
- 第7回 <末梢神経系2> 1. 脳神経の基礎 2. 脳神経
- 第8回 <末梢神経系3> 1. 脳神経（続き） 2. 自律神経
- 第9回 <これまでの復習1> 1. 国家試験の過去問題と解説
- 第10回 <これまでの復習2> 1. 国家試験の過去問題と解説
- 第11回 <下行性伝導路> 1. 錐体路 2. 錐体外路
- 第12回 <上行性伝導路1> 1. 温痛覚・触圧覚・意識できる深部感覚 2. 無意識的な深部感覚の伝導路
- 第13回 <上行性伝導路2> 1. 特殊感覚の伝導路（視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚）
- 第14回 <総復習1> 復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説
- 第15回 <総復習2> 復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業を受けた内容について、配布資料、板書したノート、教科書、ネッター解剖学アトラスを用いて、必ず復習を毎回行い、分からない内容がないようにして下さい。分からないことは自分で調べ考えてみて、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

## ■ 教科書

書 名：PT・OT・STのための解剖学  
著者名：渡辺正仁 監修  
出版社：廣川書店

## ■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス  
著者名：相磯貞和 訳  
出版社：南江堂

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

毎回、授業資料を配布しますが、随時、授業を聞きながら書き込みをして下さい。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 内臓系の解剖学 |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 赤松 香奈子  |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

医学の基礎である解剖学のうち内臓系について、単なる形態構造のみの学習にとどまらず、関連する器官と合わせてその構造と機能を学ぶ。

## ■ 到達目標

医療専門職として必要な内臓系の構造と機能を、関連機関と合わせて理解する。  
適切な専門用語を用いて説明することができることを目標とする。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、呼吸器系；鼻腔、咽頭
- 第2回 呼吸器系；喉頭、声帯、気管
- 第3回 呼吸器；胸腔、肺
- 第4回 消化器系；口腔、歯列、唾液腺、舌
- 第5回 消化器系；食道、胃
- 第6回 消化器系；小腸、大腸
- 第7回 消化器系；肝臓、胆嚢、膵臓
- 第8回 消化器系；後腹膜臓器、消化管の脈管
- 第9回 泌尿器系；腎臓
- 第10回 泌尿器系；尿管、膀胱
- 第11回 生殖器系；男性生殖器
- 第12回 生殖器系；女性生殖器
- 第13回 内分泌系；視床下部と脳下垂体、甲状腺、副腎、精巣と卵巣、膵臓
- 第14回 感覚器系；視覚器
- 第15回 感覚器系；聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚感覚器、テスト前総復習

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

系統ごとに復習プリントを配布するので、復習しておくこと。講義で配布する資料のみでなく、さまざまな参考書等を用いて理解を深めること。

## ■ 教 科 書

書 名：PT・OT・STのための解剖学  
著者名：渡辺 正仁  
出版社：廣川書店

## ■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス  
著者名：F.H.Netter  
出版社：南江堂

## ■ 留意事項

遅刻・欠席はルールに従って必ず届けを出すこと。配布された資料は必ず講義に持参すること。講義内容は、講義形態により（対面または遠隔授業）、順番が前後することがある。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 内臓系の解剖学 |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 赤松 香奈子  |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

医学の基礎である解剖学のうち内臓系について、単なる形態構造のみの学習にとどまらず、関連する器官と合わせてその構造と機能を学ぶ。

## ■ 到達目標

医療専門職として必要な内臓系の構造と機能を、関連機関と合わせて理解する。  
適切な専門用語を用いて説明することができることを目標とする。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、呼吸器系；鼻腔、咽頭
- 第2回 呼吸器系；喉頭、声帯、気管
- 第3回 呼吸器；胸腔、肺
- 第4回 消化器系；口腔、歯列、唾液腺、舌
- 第5回 消化器系；食道、胃
- 第6回 消化器系；小腸、大腸
- 第7回 消化器系；肝臓、胆嚢、膵臓
- 第8回 消化器系；後腹膜臓器、消化管の脈管
- 第9回 泌尿器系；腎臓
- 第10回 泌尿器系；尿管、膀胱
- 第11回 生殖器系；男性生殖器
- 第12回 生殖器系；女性生殖器
- 第13回 内分泌系；視床下部と脳下垂体、甲状腺、副腎、精巣と卵巣、膵臓
- 第14回 感覚器系；視覚器
- 第15回 感覚器系；聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚感覚器、テスト前総復習

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

系統ごとに復習プリントを配布するので、復習しておくこと。講義で配布する資料のみでなく、さまざまな参考書等を用いて理解を深めること。

## ■ 教 科 書

書 名：PT・OT・STのための解剖学  
著者名：渡辺 正仁  
出版社：廣川書店

## ■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス  
著者名：F.H.Netter  
出版社：南江堂

## ■ 留意事項

遅刻・欠席はルールに従って必ず届けを出すこと。配布された資料は必ず講義に持参すること。講義内容は、講義形態により（対面または遠隔授業）、順番が前後することがある。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                 |      |     |       |      |      |    |
|----------|-----------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 機能解剖学（体表解剖学・触知） |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 津村 宜秀           |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |                 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻         | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                 | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

理学療法士には解剖学を二次元的に覚えるだけでなく、三次元的に捉えて触知する能力が求められます。また、各組織には機能が存在し、その機能の破綻が対象者の問題動作として表出されるため、その機能を学ぶことは理学療法士にとって必須となります。この科目では、各組織の機能解剖学と触知の技術を学びます。

## ■ 到達目標

- ・筋の走行を二次元、三次元的に理解する。
- ・筋や骨の位置関係を俯瞰的に捉え、基本的な触診技術を身に付ける。
- ・筋の構造と日常生活や傷害との関係を理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 肩関節の機能解剖学（骨・靱帯）
- 第2回 肩関節の機能解剖学（筋）
- 第3回 肘関節の機能解剖学（骨・靱帯）
- 第4回 肘関節の機能解剖学（筋）
- 第5回 手関節・手指の機能解剖学（骨・靱帯）
- 第6回 手関節・手指の機能解剖学（筋）
- 第7回 脊柱・骨盤の機能解剖学（骨・靱帯）
- 第8回 脊柱・骨盤の機能解剖学（筋）
- 第9回 股関節の機能解剖学（骨・靱帯）
- 第10回 股関節の機能解剖学（筋）
- 第11回 膝関節の機能解剖学（骨・靱帯）
- 第12回 膝関節の機能解剖学（筋）
- 第13回 足関節の機能解剖学（骨・靱帯）
- 第14回 足関節の機能解剖学（筋）
- 第15回 これまでの復習

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                   |    |   |                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                                 | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                                                                                   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                                                 | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 小テストは講義終了時と講義開始時の両方に実施します。<br>講義中にしっかりと理解するよう努めて下さい。<br>正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点）<br>また、不良な学習態度（私語やルールを守らないなど）についても減点対象（1回：-5点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

触知技術は一朝一夕では習得できないものです。また、技術は覚えるよりも実際に身体を動かして身に付けるものです。講義内では時間がある限り実技に取り組み、講義外でも友人同士で確認し合うなど技術の習得に励んで下さい。

## ■ 教科書

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版

著者名：林 典雄

出版社：MEDICAL VIEW

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改定第2版

著者名：林 典雄

出版社：MEDICAL VIEW

## ■ 参考図書

書名：運動療法のための運動器超音波機能解剖 拘縮治療との接点 -WEB 動画付き

著者名：林 典雄（著） 杉本 勝正（監修）

出版社：文光堂

書名：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 / 運動器系 第3版

著者名：坂井 建雄

出版社：医学書院

書名：運動器臨床解剖アトラス

著者名：中村 耕三

出版社：医学書院

書名：機能解剖と触診

著者名：BKPT 研究会、工藤 慎太郎

出版社：羊土社

## ■ 留意事項

講義内の実技は組織の走行に沿って皮膚上にマーキングを行いながら行います。可能な限り肌を露出できる服装で参加して下さい。準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

本科目はこれまでに学習した解剖学、解剖学基礎演習の知識を基に講義を進めますので、必ず復習をしておいて下さい。

|          |                              |      |     |       |      |      |    |
|----------|------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 生理学Ⅰ                         |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 木村 晃大（実務経験者）                 |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                      | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                      | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

人体の各臓器の機能を学習することで、1 個体が総体としてどの様にして生命活動を維持しているのかを理解する。

## ■ 到達目標

各臓器の機能を理解するだけでなく、生理学の学習を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

## ■ 授業計画

- 第1回 細胞と内部環境（総論）
- 第2回 筋肉1（筋収縮のメカニズム）
- 第3回 筋肉2（赤筋・白筋、伸張反射）
- 第4回 神経1（Ⅰa 抑制、Ⅱb 抑制）
- 第5回 神経2（活動電位、軸索伝導）
- 第6回 末梢神経（脳神経）
- 第7回 自律神経
- 第8回 中枢神経1（脊髄）
- 第9回 中枢神経2（皮質下）
- 第10回 中枢神経3（大脳皮質、視覚）
- 第11回 中枢神経4（聴覚、平衡感覚、触覚）
- 第12回 中枢神経5（高次機能）
- 第13回 代謝1（栄養・代謝）
- 第14回 代謝2（体温調節）
- 第15回 前期総括

## ■ 評価方法

|            |                                                                                      |    |   |                                                                             |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                    | 70 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                      |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                    | 10 | % |                                                                             |
| その他・備考     | ・本試験直前のプレテスト（10%）<br>・生理学 Web についての次週までの宿題（10%）<br>※各講義後に提示し、次週の講義の予習および小テスト対策に相当する。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義後に提示する生理学 Web の範囲を各 Stage について、次週までに達成度50%以上にすることが宿題となります。

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。

## ■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学  
著者名：岡田 隆夫・鈴木敦子・長岡 正範  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：標準生理学  
著者名：小澤 滯司 他  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

生理学は国家試験でも多数出題され、解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目です。臨床医学を学ぶ上での土台となるということを意識して授業に臨んで下さい。

|          |                              |      |     |       |      |      |    |
|----------|------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 生理学Ⅱ                         |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 木村 晃大（実務経験者）                 |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                      | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                      | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

人体の各臓器の機能を学習することで、1 個体が総体としてどの様にして生命活動を維持しているのかを理解する。

## ■ 到達目標

各臓器の機能を理解するだけでなく、生理学の学習を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

## ■ 授業計画

- 第1回 血液1（概要、血球、止血）
- 第2回 血液2（免疫）
- 第3回 循環器1（概要、心周期）
- 第4回 循環器2（心電図、圧受容器、血圧の変動）
- 第5回 呼吸器1（概要、%肺活量、1秒率）
- 第6回 呼吸器2（酸素解離曲線、酸塩基平衡）
- 第7回 腎臓1（概要、腎臓の機能、ネフロン、浸透圧）
- 第8回 腎臓2（排尿）
- 第9回 消化器1（消化、肝臓の機能）
- 第10回 消化器2（嚥下・排便、腸管の運動）
- 第11回 内分泌1（概要、成長ホルモン、甲状腺ホルモン、糖代謝と関わるホルモン）
- 第12回 内分泌2（副腎）
- 第13回 内分泌3（骨代謝と関わるホルモン、生殖）
- 第14回 性と生殖（生殖）
- 第15回 後期総括

## ■ 評価方法

|            |                                                                                      |    |   |                                                                             |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                    | 70 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                      |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                    | 10 | % |                                                                             |
| その他・備考     | ・本試験直前のプレテスト（10%）<br>・生理学 Web についての次週までの宿題（10%）<br>※各講義後に提示し、次週の講義の予習および小テスト対策に相当する。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義後に提示する生理学 Web の範囲を各 Stage について、次週までに達成度50%以上にすることが宿題となります。

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。

## ■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学  
著者名：岡田 隆夫・鈴木敦子・長岡 正範  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：標準生理学  
著者名：小澤 滯司 他  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

生理学は国家試験でも多数出題され、解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目です。臨床医学を学ぶ上での土台となるということを意識して授業に臨んで下さい。

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 生理学Ⅲ    |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 中村 彩    |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択  |      |    |

## ■ 内 容

本科目では、1年次に学んだ解剖学と生理学を基盤として、リハビリテーションを実践する際に必要となる知識を重点的に学習し、理解を深める。

## ■ 到達目標

- ・身体運動にかかわる神経・筋・感覚系のはたらきについて理解する。
- ・身体運動にかかわる呼吸・循環系のはたらき、および運動に伴うそれら機能の変化について理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 神経系の構造、神経の興奮伝導
- 第2回 中枢神経系
- 第3回 随意運動
- 第4回 筋収縮のしくみ、筋の長さや張力との関係
- 第5回 筋収縮のエネルギー、筋繊維の種類と特徴
- 第6回 運動単位、筋張力の調節
- 第7回 反射
- 第8回 自律神経系
- 第9回 呼吸器の構造と機能
- 第10回 呼吸の調節、酸塩基平衡
- 第11回 循環器の構造と機能
- 第12回 循環の調節
- 第13回 運動時の呼吸・循環機能の変化
- 第14回 エネルギー代謝
- 第15回 総復習

## ■ 評価方法

|            |                                                                         |    |   |                                                                             |
|------------|-------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                       | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                         |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                       | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 正当な理由がない欠席や遅刻については減点（欠席：-2点、遅刻：-1点）とする。<br>不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した内容を復習すること。  
講義後は、次の小テストに向けて復習すること。

## ■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学（第5版）  
著者名：岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

運動・動作を治療手段とするセラピストにとって、生理学は自らの治療が生体機能に及ぼす影響を理解する基礎となります。1年次の「生理学Ⅰ・Ⅱ」や、2年次の「生理学実習」とリンクする内容でもありますので、しっかりと学んでください。

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 生理学Ⅲ    |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 赤松 香奈子  |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択  |      |    |

## ■ 内 容

1年次科目である「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学んだ内容を基盤として、人間の生命活動や日常生活に関わる生体の機能について、身体運動との関係と合わせて学習し、理解を深める。

## ■ 到達目標

生体の持つさまざまな機能およびその調節機構を理解し、人体の生命現象を論理的に説明することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 体液；細胞内液と細胞外液、浸透圧、酸塩基平衡
- 第2回 血液；血液成分について、止血
- 第3回 免疫；自己と非自己、細胞性免疫と液性免疫、アレルギー
- 第4回 循環；循環系の構造、心臓、心電図、血圧、末梢循環
- 第5回 呼吸；呼吸運動、排気量、血液ガス
- 第6回 代謝；栄養素、ATP、物質代謝
- 第7回 内分泌；ホルモン、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、生殖
- 第8回 体温；熱の産生と放散、体温測定と体温の変動、体温中枢と発熱
- 第9回 消化；消化と吸収、消化管について、腸機能の調整、肝臓
- 第10回 泌尿器；排泄と腎臓、尿、腎臓の内分泌機能
- 第11回 感覚器；感覚の法則、皮膚感覚、視覚、聴覚、嗅覚、味覚
- 第12回 神経1；神経の構造、中枢神経の性質と構造、脊髄と伝導路
- 第13回 神経2；末梢神経、自律神経
- 第14回 運動器1；筋収縮の仕組み
- 第15回 運動器2；骨格筋、骨について、テスト前総復習

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した内容を復習しておくこと。  
配布資料のみではなく、参考書やインターネットなども活用し、さまざまな角度から理解を深めること。

## ■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学（第4）  
著者名：岡田 隆夫・長岡 正範  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

遅刻・欠席はルールに従って必ず届けを出すこと。配布された資料は必ず講義に持参すること。講義内容は、講義形態により（対面または遠隔授業）、順番が前後することがある。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 生理学Ⅳ    |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 中村 彩    |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択  |      |    |

## ■ 内 容

本科目では、1年次に学んだ解剖学と生理学を基盤として、身体運動にかかわる神経・筋や呼吸循環器系のはたらき、運動に伴うそれらの機能の変化、およびトレーニング効果について講義する。

## ■ 到達目標

- ・運動生理学の基礎的な知識と考え方を身につける。
- ・身体運動にかかわる神経・筋や呼吸・循環系のはたらき、運動に伴うそれらの機能の変化、およびトレーニング効果について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、体力の定義（中村）  
 第2回 筋収縮のしくみ（中村）  
 第3回 筋収縮のエネルギー供給機構、筋線維の種類と特徴（中村）  
 第4回 運動単位による運動の調節（中村）  
 第5回 反射（中村）  
 第6回 随意運動（中村）  
 第7回 呼吸の解剖・生理学（中村）  
 第8回 運動に伴う呼吸機能の変化（中村）  
 第9回 循環の解剖・生理学（中村）  
 第10回 運動に伴う循環機能の変化（中村）  
 第11回 エネルギー代謝（中村）  
 第12回 運動強度の計算（中村）  
 第13回 トレーニングによる身体機能の変化（遠隔授業：オンデマンド配信）（伊禮）  
 第14回 年齢に伴う運動機能の変化（遠隔授業：オンデマンド配信）（伊禮）  
 第15回 総復習

## ■ 評価方法

|            |                                                                         |    |   |                                                                             |
|------------|-------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                       | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                         |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                       | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 正当な理由がない欠席や遅刻については減点（欠席：-2点、遅刻：-1点）とする。<br>不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した内容を復習すること。  
 講義後は、次回的小テストに向けて復習すること。

## ■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学（第5版）  
著者名：岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：運動生理学20講 第2版  
著者名：勝田 茂  
出版社：朝倉書店

---

書 名：リハビリテーション運動生理学  
著者名：玉木 彰（監修）、解良武士（編集）  
出版社：メジカルビュー社

---

書 名：改訂 身体活動と体力トレーニング  
著者名：藤原勝夫、外山寛  
出版社：日本出版サービス

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

運動・動作を治療手段とするセラピストにとって、運動生理学は自らの治療が生体機能に及ぼす影響を理解する基礎となります。1年次の「生理学Ⅰ・Ⅱ」や、2年次の「生理学実習」とリンクする内容でもありますので、しっかりと学んでください。

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 生理学Ⅳ    |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 中村 彩    |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 選択  |      |    |

## ■ 内 容

本科目では、1年次に学んだ解剖学と生理学を基盤として、身体運動にかかわる神経・筋や呼吸循環器系のはたらき、運動に伴うそれらの機能の変化、およびトレーニング効果について講義する。

## ■ 到達目標

- ・運動生理学の基礎的な知識と考え方を身につける。
- ・身体運動にかかわる神経・筋や呼吸・循環系のはたらき、運動に伴うそれらの機能の変化、およびトレーニング効果について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、体力の定義（中村）  
 第2回 筋収縮のしくみ（中村）  
 第3回 筋収縮のエネルギー供給機構、筋線維の種類と特徴（中村）  
 第4回 運動単位による運動の調節（中村）  
 第5回 反射（中村）  
 第6回 随意運動（中村）  
 第7回 呼吸の解剖・生理学（中村）  
 第8回 運動に伴う呼吸機能の変化（中村）  
 第9回 循環の解剖・生理学（中村）  
 第10回 運動に伴う循環機能の変化（中村）  
 第11回 エネルギー代謝（中村）  
 第12回 運動強度の計算（中村）  
 第13回 トレーニングによる身体機能の変化（遠隔授業：オンデマンド配信）（伊禮）  
 第14回 年齢に伴う運動機能の変化（遠隔授業：オンデマンド配信）（伊禮）  
 第15回 総復習

## ■ 評価方法

|            |                                                                         |    |   |                                                                             |
|------------|-------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                       | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                         |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                       | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 正当な理由がない欠席や遅刻については減点（欠席：-2点、遅刻：-1点）とする。<br>不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した内容を復習すること。  
 講義後は、次回の小テストに向けて復習すること。

## ■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学（第5版）  
著者名：岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：運動生理学20講 第2版  
著者名：勝田 茂  
出版社：朝倉書店

---

書 名：リハビリテーション運動生理学  
著者名：玉木 彰（監修）、解良武士（編集）  
出版社：メジカルビュー社

---

書 名：改訂 身体活動と体力トレーニング  
著者名：藤原勝夫、外山寛  
出版社：日本出版サービス

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

運動・動作を治療手段とするセラピストにとって、運動生理学は自らの治療が生体機能に及ぼす影響を理解する基礎となります。1年次の「生理学Ⅰ・Ⅱ」や、2年次の「生理学実習」とリンクする内容でもありますので、しっかりと学んでください。

|          |                              |      |     |       |      |          |    |
|----------|------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 生理学実習                        |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 木村 晃大（実務経験者）                 |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 | 医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                      | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          | 作業療法学専攻                      | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。

## ■ 到達目標

人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・伸張反射:伸張反射の神経メカニズムについて理解を深める（筋電図の計測）
- 第2回 随意運動：随意運動の神経メカニズムについて理解を深める（筋電図の計測）
- 第3回 酸塩基平衡：酸塩基平衡のメカニズムについて理解を深める（デイスカッション）
- 第4回 呼吸：換気～エネルギー生成のメカニズムについて理解を深める（デイスカッション）
- 第5回 VT（換気性作業閾値）：有酸素運動、無酸素運動について理解を深める（エルゴメーター・呼気ガス分析装置）
- 第6回 心電図：不整脈を題材に心電図・刺激電動系について理解を深める（心電図測定）
- 第7回 血圧：血圧の調節のメカニズムについて考える（血圧測定）
- 第8回 スパイロメーター：肺気量分画、換気障害について理解を深める（スパイロメーターでの測定）
- 第9回 脳神経：脳神経について理解を深める（デイスカッション）
- 第10回 脊髄：脊髄疾患を題材に脊髄路について理解を深める（デイスカッション）
- 第11回 予備日程（筋電図、呼吸、視覚）
- 第12回 プレテスト・実習総括

## ■ 評価方法

|            |                                                 |    |   |                                                                             |
|------------|-------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                               | 40 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎                                               | 30 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                               | 10 | % |                                                                             |
| その他・備考     | ・本試験直前のプレテスト（10%）<br>・生理学 Web についての次週までの宿題（10%） |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

小テスト対策として、毎週出される生理学 Web の宿題を行ってください。

生理学実習では、自分が理解できない事に対してまず参考書などを調べて考えることで、“課題を自分で解決できるようになる”事を一つの目標にしています。同時に、学生間で議論することで一人だけで勉強するよりも情報量が増え理解が深まる、という事を体験して貰う事も近年意識しています。全ての内容は国家試験に直結します。積極的に色々な参考書を調べてレポートを作成し、各項目について理解を深める様に努めて下さい。

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

書 名：標準生理学  
著者名：小澤 滯司 他  
出版社：医学書院

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

レポート提出は期限厳守のこと。レポート未提出・レポートのコピー（した方・させた方両者とも）は再履修とします。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 運動学総論   |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 境 隆弘    |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

理学療法にとっての運動学（Kinesiology）は、「人間の運動の科学」であり、理学療法士として実務をするために必須の学問である。

人間のからだの構造を学ぶ解剖学、人間のからだの機能を学ぶ生理学、そして、身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることについて学ぶ。

## ■ 到達目標

運動学用語を理解し、使用できるようになる。

運動力学を理解する。

上肢の運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス  
講義の進め方、評定方法の他、理学療法士にとっての運動学の重要性を学ぶ
- 第2回 運動学（Kinesiology）総説  
解剖学・生理学ならびに運動療法学との関連、Kinematics と Kinetics について学ぶ
- 第3回 身体運動①基本面  
運動学を学ぶにあたって必要な身体における運動面と軸について学ぶ
- 第4回 身体運動②名称  
運動学を学ぶにあたって必要な身体各部の運動方向の名称について学ぶ
- 第5回 身体運動③演習  
①②で学んだ身体運動について、演習を行い理解を深める
- 第6回 運動を構成する要素と器官①  
ヒトの運動を生む器官のうち、骨と関節について学ぶ
- 第7回 運動を構成する要素と器官②  
ヒトの運動を生む器官のうち、筋について学ぶ
- 第8回 運動を構成する要素と器官③  
①②で学んだ運動を構成する要素と器官について、演習を行い理解を深める
- 第9回 力学の基礎①  
運動学を学ぶにあたって必要なニュートン力学について学ぶ
- 第10回 力学の基礎②  
運動学を学ぶにあたって必要な身体とてこについて学ぶ
- 第11回 力学の基礎③  
運動学を学ぶにあたって必要なモーメント（トルク）について学ぶ
- 第12回 力学の基礎④  
運動学を学ぶにあたって必要な生体における力とモーメントについて学ぶ
- 第13回 構えと姿勢①  
ヒトの運動にかかわる構えと姿勢の名称について学ぶ
- 第14回 構えと姿勢②  
①で学んだ構えと姿勢について、演習を行い理解を深める

- 第15回 上肢の運動学①  
肩甲帯に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第16回 上肢の運動学演習①  
肩甲帯の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第17回 上肢の運動学②  
肩関節に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第18回 上肢の運動学演習②  
肩関節の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第19回 上肢の運動学③  
肘関節に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第20回 上肢の運動学演習③  
肘関節の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第21回 上肢の運動学④  
前腕に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第22回 上肢の運動学演習④  
前腕の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第23回 上肢の運動学⑤  
手関節に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第24回 上肢の運動学演習⑤  
手関節の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第25回 上肢の運動学⑥  
手指に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第26回 上肢の運動学演習⑥  
手指の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第27回 実技試験  
学んだ運動学について実技試験を実施する
- 第28回 実技試験のフィードバック  
実技試験の解説、講評を行う
- 第29回 総括①  
本講義で学んだことについて、復習、再確認を行う
- 第30回 総括②  
本講義で学んだことについて、復習、再確認を行う

## ■ 評価方法

|            |                       |    |   |                                                                             |
|------------|-----------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                     | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                       |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                     | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

（予習）

運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。

毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の復習をしてくる。

例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてくる。

（復習）

授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。

## ■ 教科書

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

---

書 名：PT・OTのための運動学テキスト

著者名：小柳磨毅 他編

出版社：金原出版

## ■ 参考図書

書 名：筋骨格系のキネシオロジー原著第3版

著者名：ドナルド・A・ヌーマン

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

初講時に説明する、受講時の服装や必要品を忘れないようにすること

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

理学療法の基礎学問として重要な科目であり、2年生に進んで、運動学各論、運動学実習、臨床運動学と引き続く勉強なのでしっかり学んでほしい。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 運動学総論   |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 長谷川 昌士  |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

運動学 (Kinesiology) は、「人間の運動の科学」であり、解剖学、生理学、そして、運動力学を基礎とした応用科学であることを学ぶ。そこから、人体の各関節における運動機能のメカニズムについて、詳しく学んでいく。運動障害を治療対象とする作業療法士にとって、その理論的基盤をなす重要な基礎科目である。

## ■ 到達目標

身体運動の記述に必要な力学の基礎知識を理解する。可動関節の分類と関節運動の種類を理解する。筋の基本構造と機能を理解する。各関節（肩複合体、肘関節、前腕、手関節、手指関節、股関節、膝関節、足関節、脊柱・体幹、顔面と頭部）の構造と関節運動および関節運動における靭帯や筋の作用を理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 生体力学 (並進運動と回転運動)
- 第2回 生体力学 (力と力の合成・分解)
- 第3回 生体力学 (力のモーメント、身体のでこ)
- 第4回 運動器の構造と機能 (可動関節の分類、骨運動と関節包内運動、運動軸と運動面)
- 第5回 運動器の構造と機能 (骨格筋の構造、筋収縮機序、筋線維の種類、運動単位、筋の収縮様式とはたらき)
- 第6回 肩複合体の運動学 (肩複合体の構造)
- 第7回 肩複合体の運動学 (肩複合体の骨運動と関節包内運動)
- 第8回 肩複合体の運動学 (肩複合体の運動に関与する筋)
- 第9回 肘関節・前腕の運動学 (肘関節・前腕の構造、肘関節・前腕の骨運動と関節包内運動)
- 第10回 肘関節・前腕の運動学 (肘関節・前腕の運動に関与する筋)
- 第11回 手関節の運動学 (手関節の構造、手関節の骨運動と関節包内運動)
- 第12回 手関節の運動学 (手関節の運動に関与する筋、手のアーチ)
- 第13回 手指の運動学 (手指関節の構造)
- 第14回 手指の運動学 (手指関節の骨運動と関節包内運動)
- 第15回 手指の運動学 (手指関節の運動に関与する筋)
- 第16回 股関節の運動学 (股関節の構造)
- 第17回 股関節の運動学 (股関節の骨運動と関節包内運動)
- 第18回 股関節の運動学 (股関節の運動に関与する筋)
- 第19回 膝関節の運動学 (膝関節の構造)
- 第20回 膝関節の運動学 (膝関節の骨運動と関節包内運動)
- 第21回 膝関節の運動学 (膝関節の運動に関与する筋)
- 第22回 足関節・足部の運動学 (足関節・足部の関節の構造)
- 第23回 足関節・足部の運動学 (足関節・足部の骨運動と関節包内運動)
- 第24回 足関節・足部の運動学 (足関節・足部の運動に関与する筋)
- 第25回 脊柱・体幹の運動学 (脊柱の構造と運動)
- 第26回 脊柱・体幹の運動学 (頸椎の構造と骨運動および運動に関与する筋)
- 第27回 脊柱・体幹の運動学 (胸椎の構造と骨運動および運動に関与する筋)
- 第28回 脊柱・体幹の運動学 (腰椎の構造と骨運動および運動に関与する筋)

第29回 顔面と頭部の運動学（顎関節の構造と骨運動および運動に関与する筋）  
第30回 顔面と頭部の運動学（表情筋）

### ■ 評価方法

|            |                     |    |   |                                                                             |
|------------|---------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                   | 70 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| ノート        | ◎                   | 20 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                   | 10 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 板書のまとめプリントは授業毎に配布予定 |    |   |                                                                             |

### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習に関して、できるだけその日のうちに自宅等で20分程度は（授業でおこなった内容について）教科書、参考書、配布プリントなどを見直すようにしてください。また、学習したことを授業ノートに追記しておいてください。なお、自己学習によるノートについても評価の対象とします。

### ■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学  
著者名：石川朗 種村留美 小島悟  
出版社：中山書店

### ■ 参考図書

書 名：筋骨格系のキネシオロジー  
著者名：P.D.Andrew ほか監訳  
出版社：医歯薬出版株式会社

### ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

### ■ 講義受講にあたって

解剖学（骨・関節・靱帯）、生理学（筋収縮のメカニズム）、物理学（運動力学）の知識が必要となる

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 運動学各論   |      |    |       |     |      |    |
| 担 当 者    | 境 隆弘    |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 2単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

理学療法にとっての運動学（Kinesiology）は、「人間の運動の科学」であり、理学療法士として実務をするために必須の学問である。

下肢、体幹・頭頸部の機能解剖に立脚した運動の分析を関節運動学と運動力学の視点から部位別に学ぶ。姿勢や歩行に関する運動学的、運動力学的分析と筋出力、運動学習について学ぶ。

## ■ 到達目標

下肢、体幹・頭頸部の運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。  
姿勢や歩行に関する関節運動学、運動力学を理解し、観察や分析が出来るようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス  
講義の進め方、評定その他、前期に学んだ運動学総論、後期に学ぶ運動学実習との関連性を学ぶ
- 第2回 下肢の運動学①  
股関節に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第3回 下肢の運動学演習①  
股関節の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第4回 下肢の運動学②  
膝関節に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第5回 下肢の運動学演習②  
膝関節の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第6回 下肢の運動学③  
足関節に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第7回 下肢の運動学演習③  
足関節の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第8回 体幹の運動学  
体幹に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第9回 体幹の運動学演習  
体幹の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第10回 頭頸部・顔面の運動学  
頭頸部・顔面に関する運動器官と運動学について学ぶ
- 第11回 頭頸部・顔面の運動学演習  
頭頸部・顔面の運動学について、演習を行い理解を深める
- 第12回 四肢と脊柱の運動連鎖  
開放性運動連鎖（OKC）と閉鎖性運動連鎖（CKC）について学ぶ
- 第13回 四肢と脊柱の運動連鎖演習  
OKC と CKC に関する演習を行い、理解を深める
- 第14回 筋トルク  
様々な収縮形態により発揮される筋トルクについて学ぶ
- 第15回 筋トルク演習  
実際に筋トルクを計測し、理解を深める

|      |                                         |
|------|-----------------------------------------|
| 第16回 | 姿勢制御の神経機構<br>ヒトの姿勢反応について学ぶ              |
| 第17回 | 姿勢制御の神経機構演習<br>ヒトの姿勢反応について、演習を行い理解を深める  |
| 第18回 | 運動戦略<br>ヒトの運動戦略（ストラテジー）について学ぶ           |
| 第19回 | 運動戦略<br>ヒトの運動戦略（ストラテジー）について学ぶ           |
| 第20回 | 歩行の運動学①<br>歩行の運動学について、概論を学ぶ             |
| 第21回 | 歩行の運動学②<br>歩行の運動学的分析について学ぶ              |
| 第22回 | 歩行の運動学③<br>歩行の運動力学的分析について学ぶ             |
| 第23回 | 運動学習<br>ヒトの運動学習機能について学ぶ                 |
| 第24回 | 運動学習演習<br>ヒトの運動学習について、演習を行い理解を深める       |
| 第25回 | 実技試験（口頭試問含む）①<br>学んだ運動学、動作について実技試験を実施する |
| 第26回 | 実技試験（口頭試問含む）②<br>学んだ運動学、動作について実技試験を実施する |
| 第27回 | 実技試験（口頭試問含む）のフィードバック①<br>実技試験の解説、講評を行う  |
| 第28回 | 実技試験（口頭試問含む）のフィードバック②<br>実技試験の解説、講評を行う  |
| 第29回 | 総括① 本講義で学んだ事について、復習、再確認を行う              |
| 第30回 | 総括② 本講義で学んだ事について、復習、再確認を行う              |

## ■ 評価方法

|            |                       |    |   |                                                                             |
|------------|-----------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                     | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                       |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                     | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

（予習）

運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。

毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の復習をしてくること。

例：股関節の授業の前は、股関節の解剖の復習をしてくる。

（復習）

授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。

## ■ 教科書

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

---

書 名：PT・OTのための運動学テキスト

著者名：小柳磨毅 他編

出版社：金原出版

## ■ 参考図書

書 名：PT・OT ビジュアルテキスト姿勢・動作・歩行分析

著者名：畠中泰彦編集

出版社：羊土社

## ■ 留意事項

初講時に説明する、受講時の服装や必要品を忘れないようにすること

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

理学療法の基礎学問として運動学総論から続く重要な科目であり、更に運動学実習、臨床運動学と引き続く勉強なのでしっかり学んでほしい。

|          |         |      |     |       |      |      |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 運動学各論   |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 長谷川 昌士  |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻 | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

運動学習における理論について理解を深める。運動学的分析手法である床反力、体重心、関節モーメントについて理解を深める。その応用として立ち上がりや歩行における運動学的分析について理解を深める。呼吸・心臓リハビリテーションにおける必要な知識や技術について理解を深める。筋力増強およびストレッチングにおける必要な知識や技術について理解を深める。

## ■ 到達目標

運動学習における理論について理解し、説明ができる。運動学的分析手法（床反力、体重心、関節モーメント）について理解し、説明ができる。健常者の立ち上がりや歩行における運動学的分析について理解し、説明ができる。呼吸・心臓リハビリテーションにおける評価および運動療法について理解し、説明ができる。筋力増強、ストレッチングにおける理論および一般的な実施方法について理解し、説明ができる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 運動学習（運動学習の定義、3つの記憶システム、運動の学習段階、練習、学習の転移）
- 第2回 運動学習（動機づけ、フィードバック、パフォーマンスと運動技能）
- 第3回 動作分析に必要な力学の基礎（体重心）
- 第4回 動作分析に必要な力学の基礎（床反力）
- 第5回 動作分析に必要な力学の基礎（関節モーメント）
- 第6回 姿勢と姿勢制御の仕組み（重心と支持基底面、安静立位姿勢とその保持）
- 第7回 姿勢と姿勢制御の仕組み（外乱動揺時の姿勢制御、姿勢制御における感覚機構）
- 第8回 健常者の歩行分析（歩行周期、距離・時間因子）
- 第9回 健常者の歩行分析（身体重心移動、下肢関節運動）
- 第10回 健常者の歩行分析（床反力、足底圧中心）
- 第11回 健常者の歩行分析（筋活動、エネルギー消費）
- 第12回 健常者の立ち上がりの分析（身体重心移動、下肢関節運動、関節モーメント変化）
- 第13回 健常者の歩き始めの分析（身体重心移動、下肢関節運動、関節モーメント変化）
- 第14回 日常生活活動における評価法（FIM の運動項目の採点方法）
- 第15回 日常生活活動における評価法（FIM の運動項目の採点方法）
- 第16回 日常生活活動における作業分析技法（流れ図による作業分析）
- 第17回 呼吸リハビリテーション（呼吸器系の解剖・生理・病態）
- 第18回 呼吸リハビリテーション（フィジカルアセスメント）
- 第19回 呼吸リハビリテーション（コンディショニング、運動療法）
- 第20回 呼吸リハビリテーション（ADL 評価の種類と介入方法）
- 第21回 心臓リハビリテーション（バイタルサイン）
- 第22回 心臓リハビリテーション（心電図モニターの判読）
- 第23回 心臓リハビリテーション（運動療法）
- 第24回 心臓リハビリテーション（作業療法）
- 第25回 筋力増強（筋力増強の仕組み）
- 第26回 筋力増強（効果的なトレーニング方法）
- 第27回 ストレッチング（ストレッチの種類）
- 第28回 ストレッチング（効果的なストレッチ方法）

第29回 介護予防における体力測定技法（開眼片足立ち、5m歩行、ファンクショナルリーチ）  
第30回 介護予防における体力測定技法（TUG、2ステップテスト、立ち上がりテスト）

### ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |
|            |   |    |   |                                                                             |

### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習に関して、できるだけその日のうちに自宅等で20分程度は（授業でおこなった内容について）教科書、参考書、配布プリントなどを見直すようにしてください。

### ■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 作業療法テキスト 内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝  
著者名：野田和恵ほか  
出版社：中山書店

### ■ 参考図書

書 名：基礎バイオメカニクス  
著者名：江原義弘、山本澄子、石井慎一郎  
出版社：医歯薬出版

### ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

### ■ 講義受講にあたって

解剖学（骨・関節）、生理学（呼吸・循環のメカニズム）、物理学（運動力学）の知識が必要となる

|          |         |      |     |       |      |          |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 運動学基礎演習 |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 津村 宜秀   |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |         | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

運動学総論、運動学各論により修得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を観察、分析するといった実習を行う。その様な取り組みを繰り返すことで、理学療法の基礎となる物理的（力学的）な動作の解釈、考察力を身に付ける。

## ■ 到達目標

重心、支持基底面、モーメントなどの力学を理解する。  
 一般的な基本動作・歩行の力学的特徴を理解する。  
 動作を観察することで、その状況で生じている筋活動などを考察することが出来る。  
 観察した動作を運動学的用語で説明することができるようになる。

## ■ 授 業 計 画

第1回 動作分析の基礎知識（スクワット動作を用いた分析）  
 第2回 動作観察と分析① 立ち上がり動作の概要  
 第3回 動作観察と分析① 立ち上がり動作の観察と分析 動作撮影・分析作業・資料作成  
 第4回 動作観察と分析① 立ち上がり動作の観察と分析 発表・フィードバック  
 第5回 動作観察と分析① 立ち上がり動作の観察と分析 動作撮影・分析作業・資料作成  
 第6回 動作観察と分析① 立ち上がり動作の観察と分析 発表・フィードバック  
 第7回 動作観察と分析② 歩行動作の概要  
 第8回 動作観察と分析② 歩行動作の観察と分析 動作撮影・分析作業・資料作成  
 第9回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析 発表・フィードバック  
 第10回 動作観察と分析② 歩行動作の観察と分析 動作撮影・分析作業・資料作成  
 第11回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析 発表・フィードバック  
 第12回 動作観察と分析② 歩行動作の観察と分析 動作撮影・分析作業・資料作成  
 第13回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析 発表・フィードバック  
 第14回 症例動画を用いた動作分析  
 第15回 動作観察と分析③ 寝返り、起き上がりの観察と分析、総まとめ

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                        |    |   |  |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                      | 70 | % |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                      | 30 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                        |    |   |  |
| その他・備考     | ペアの動作を動画で撮影し、PC を使用して分析します。<br>発表資料の正確性や考察力でレポート点が決まりますので、1 つ 1 つの作業を大事にしてください。<br>レポートは提出期限を過ぎたものは 0 点になりますのでご注意ください。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回で実施する内容に必要と思われる運動学の知識をしっかりと確認、補充し授業に臨んでください。  
各回に該当する内容について、授業前に教科書で確認し授業に臨んでください。  
実施した内容について理解が不十分であった場合は、次の授業までに質問に来て理解を深めてください。  
観察・分析内容を相手へ伝える機会を設定します。指定された時間内に、分析した内容を伝えられるよう、事前練習を行ってください。

動作分析は知識ではなくスキル（技術）です。何度も繰り返し行うことで身につきます。初めは難しいと感じるかもしれませんが、何度もトライして下さい。  
講義動画を moodle に掲示することで復習しやすい環境を整えています。有効活用して下さい。

## ■ 教科書

書 名：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践

著者名：石井 慎一郎 / 編

出版社：MEDICAL VIEW

書 名：観察による歩行分析

著者名：月城 慶一、山本 澄子、江原 義弘、盆子原 秀三 / 訳

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

提出物は、提出期限を必ず守ること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

動画撮影の際にはランドマークを露出することがあります。指定された服装で参加するようにして下さい。  
PC でプレゼンテーション資料を作成するため、各自 PC を用意しておいて下さい。

|          |                          |      |     |       |      |          |         |
|----------|--------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 運動学基礎演習                  |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 林部 美紀（実務経験者）・寺村 晃（実務経験者） |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 |                          |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                  | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習      |
|          |                          | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

運動学総論、運動学各論により習得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を分析する実習を通して、作業療法の基礎となる人体の運動のしくみについて理解を深める。

## ■ 到達目標

1. 動作を観察する視点を身につけることができる。
2. 観察した動作を運動学的用語で説明することができる。
3. 観察した動作を運動学・運動力学的に分析することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、ランドマークの復習、姿勢、姿勢の演習
- 第2回 オリエンテーション、ランドマークの復習、姿勢、姿勢の演習
- 第3回 筋の起始停止や作用の復習、重心
- 第4回 筋の起始停止や作用の復習、重心
- 第5回 重心の演習、肩関節
- 第6回 重心の演習、肩関節
- 第7回 肩関節の演習
- 第8回 肩関節の演習
- 第9回 手の演習、まとめ
- 第10回 手の演習、まとめ
- 第11回 立ち上がり、立ち上がりの演習
- 第12回 立ち上がり、立ち上がりの演習
- 第13回 寝返り・起き上がり、寝返り起き上がりの演習
- 第14回 寝返り・起き上がり、寝返り起き上がりの演習
- 第15回 歩行、歩行分析の復習
- 第16回 歩行、歩行分析の復習
- 第17回 歩行の演習、まとめ
- 第18回 歩行の演習、まとめ
- 第19回 発表準備
- 第20回 発表準備
- 第21回 発表
- 第22回 発表
- 第23回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |         |    |   |                                                                             |
|------------|---------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |         |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎       | 80 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎       | 10 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 発表点 10% |    |   |                                                                             |

### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

定期的に小テストを実施します。また、演習、発表時にはレポート課題を設けます。提出期限には気を付けてください。

### ■ 教科書

### ■ 参考図書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト

著者名：小柳磨毅、西村敦

出版社：金原出版株式会社

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版株式会社

### ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

### ■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む為、指定された日は学校指定のジャージを着用してください。

|          |                                                  |      |    |       |     |      |    |
|----------|--------------------------------------------------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 生涯人間発達学                                          |      |    |       |     |      |    |
| 担 当 者    | 藪中 良彦（実務経験者）                                     |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 | 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年、小児訪問リハビリテーションで8年の実務経験） |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                          | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                                  | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

理学療法士として必要な子どもの発達の知識を、運動発達を中心に学習する。

## ■ 到達目標

子どもの機能獲得の仕組みを知ること、子どもの治療だけでなく、成人の治療にも発達の知識を利用できるようにすることが、この科目の目標である。

## ■ 授 業 計 画

第1回 「イラストでわかる人間発達学」 第1章 発達概念  
 第2回 「イラストでわかる人間発達学」 第2章 発達理論  
 第3回 「イラストでわかる人間発達学」 第3章 発達検査  
 第4回 「小児理学療法学」 第2章 5 姿勢と粗大運動  
 第5回 「小児理学療法学」 第2章 5 姿勢と粗大運動  
 第6回 「イラストでわかる人間発達学」 第5章 運動発達（0～3ヶ月）、  
 第6章 運動発達（4～6ヶ月）  
 第7回 「イラストでわかる人間発達学」 第7章 運動発達（7～9ヶ月）、  
 第8章 運動発達（10～12ヶ月）  
 第8回 「イラストでわかる人間発達学」 第9章 運動発達（13～18ヶ月）、  
 第10章 姿勢反射／反応と6歳までの発達  
 第9回 「小児理学療法学」 第2章 2 筋・骨格系  
 第10回 「小児理学療法学」 第2章 3 神経系  
 第11回 「小児理学療法学」 第2章 3 神経系  
 第12回 「小児理学療法学」 第2章 6 歩行  
 第13回 「小児理学療法学」 第2章 7 目と手・上肢機能  
 第14回 「小児理学療法学」 第2章 8 日常生活活動と遊び  
 第15回 「イラストでわかる人間発達学」 第14章 学童・青年・成人・老年期の発達

## ■ 評価方法

|            |                                                                                             |    |   |                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                           | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                             |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                           | 40 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 出席（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点）<br>小テストの点数に含まれる内容（小テスト+Moodle 課題+予習課題+授業中の口頭試問）（40点）<br>筆記試験（60点） |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲の予習を行う。予習を行っていることを前提に、授業中に口頭試問を行う。また、毎回講義後に Moodle 課題および課題提示を行い、授業の復習を促す。

## ■ 教科書

書名：イラストでわかる人間発達学

著者名：上杉雅之 監修

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：小児理学療法学

著者名：藪中良彦、木元稔、坂本仁（編集）

出版社：メジカルビュー社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。予習の課題を Moodle に掲載するため、Moodle をしっかり確認してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

3 年次で学習する「小児期理学療法治療学」で学ぶ身体障害のある子どもたちへの理学療法治療を理解するための基礎となる小児期の正常発達を、「生涯人間発達学」でしっかりと学習してください。

|          |                                      |      |     |       |      |         |    |
|----------|--------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 生涯人間発達学                              |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 寺村 晃（実務経験者）、井口 知也（実務経験者）、吉田 文（実務経験者） |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 担当教員全員が作業療法士として医療・福祉施設に勤務した経験を持つ。    |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                              | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                                      | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

作業療法においては、ひとのライフサイクルとそれに伴う課題や役割について理解することは、ひとの生活を考える上で重要である。乳幼児期を中心にひとの生涯の発達について、各実務経験者がライフサイクルとひとの作業との関係、作業療法と結びつけながら講義等により学習をすすめる。

## ■ 到達目標

1. 原始反射と姿勢反応について理解する
2. 乳児期～青年期までの子どもの発達について理解する
3. 成人期・壮年期・高齢期（老年期）の発達について理解する

## ■ 授業計画

- 第1回 発達理論① エリクソンの発達理論（人間発達とは） 寺村 晃（実務経験者）  
 第2回 発達理論② ピアジェの発達理論 寺村 晃（実務経験者）  
 第3回 定型発達、乳幼児の運動 寺村 晃（実務経験者）  
 第4回 定型発達、乳幼児の社会性 寺村 晃（実務経験者）  
 第5回 定型発達、乳幼児の言語 寺村 晃（実務経験者）  
 第6回 定型発達、反射反応 寺村 晃（実務経験者）  
 第7回 学童期～青年期の発達1（遊びの発達を含む） 寺村 晃（実務経験者）  
 第8回 学童期～青年期の発達2（遊びの発達を含む） 寺村 晃（実務経験者）  
 第9回 青年期・成人初期・成人期の発達（余暇活動の発達含む） 吉田 文（実務経験者）  
 第10回 成人初期・成人期と作業バランス 吉田 文（実務経験者）  
 第11回 高齢期（老年期）への準備 吉田 文（実務経験者）  
 第12回 高齢期の発達とライフサイクル 井口知也（実務経験者）  
 第13回 喪失と自己効力 井口知也（実務経験者）  
 第14回 肯定的な高齢期とは 井口知也（実務経験者）  
 第15回 授業のまとめ（まとめテスト含む）

## ■ 評価方法

|            |         |    |   |                                                                             |
|------------|---------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎       | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |         |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎       | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 提出物 10% |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

\* 授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

## ■ 教 科 書

書 名：イラストでわかる人間発達学  
著者名：上杉雅之 監修  
出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 参 考 図 書

書 名：参考書は授業で随時紹介する

## ■ 留 意 事 項

学生自身と異なる年代の特徴を理解するのは難しい。どのように発達を遂げながら、どのような時代を行き、今の目の前にこの対象者の方が存在するのかを理解するとともに、これからの発達を予測し、実際の作業療法場面にその知識を生かせるようになること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 臨床心理学   |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 春海 淳子   |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 3年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻 | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

臨床心理学は「こころの病」や「こころのメカニズム」について学ぶものです。私たちのこころは流動的で環境からの影響を受けながら形成され、揺らぎもします。そうした、こころのありようについて、身近な素材や具体的な話を用いて臨床心理学に関する理論や概念の基礎的素養を身につける機会にします。

## ■ 到達目標

学んだことを今後の専門職としての活動の中や普段の生活に行かせるよう習得することを目指します。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・臨床心理学とは
- 第2回 臨床心理査定（1）：意義と方法（観察、面接、検査）
- 第3回 臨床心理査定（2）：発達検査・知能検査・神経心理学検査
- 第4回 臨床心理査定（3）：人格検査（概要）
- 第5回 臨床心理査定（4）：人格検査
- 第6回 臨床心理査定（5）：体験
- 第7回 こころの構造（1）：人格構造論の観点から
- 第8回 こころの構造（2）：発達論的観点から
- 第9回 精神病理（1）：統合失調症、気分障害
- 第10回 精神病理（2）：不安障害、身体表現性障害、人格障害
- 第11回 患者・障がい者の心理
- 第12回 臨床心理面接（1）：来談者中心療法
- 第13回 臨床心理面接（2）：精神分析
- 第14回 臨床心理面接（3）：学習理論と行動療法
- 第15回 総合的ふりかえり

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |  |
|------------|---|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 70 | % |  |
| レポート       | ◎ | 30 | % |  |
| 小テスト       |   |    |   |  |
| その他・備考     |   |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業終了後、授業で配布したプリントを見直し、復習しておくこと。

## ■ 教科書

書 名：特に指定しません

## ■ 参考図書

書 名：適宜紹介します

## ■ 留意事項

授業の最後に感想シートの配布・提出の時間があります。質問や感想を積極的に発信してください。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

「こころ」についての学びの機会になります。日常生活のなかでも自身や身の回りの人たちの”こころ”  
の動きに関心を払ってみてください。

|          |                    |      |    |       |     |      |    |
|----------|--------------------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 病理学概論              |      |    |       |     |      |    |
| 担 当 者    | 山本 与毅（実務経験者）       |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 | 医師として、医療機関に勤務している。 |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻            | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻            | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

疾病の分類と成り立ちを考える。

## ■ 到達目標

病気が何故起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明が出来る。  
病気に関わる専門用語の定義が理解できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 病因論、進行性病変と退行性病変
- 第2回 炎症と免疫：炎症の定義、創傷治癒について
- 第3回 アレルギーと感染症（前半）
- 第4回 アレルギーと感染症（後半）
- 第5回 循環障害：循環系の構造と機能、止血の仕組みについて
- 第6回 代謝障害：代謝異常の種類、脂質代謝・糖質代謝について
- 第7回 先天異常：先天異常の概念と疾患、遺伝性疾患について
- 第8回 腫瘍：癌の特徴や種類、癌の検査・治療法について

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

## ■ 教 科 書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

授業は大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中にすべての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。分からないことは講義中でも遠慮なく質問して下さい。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。



|          |                                                                                           |      |     |       |      |    |         |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----|---------|
| 授業科目     | 一般臨床医学（救急救命を含む）                                                                           |      |     |       |      |    |         |
| 担 当 者    | 藤岡 重和（実務経験者）・岡本 文雄（実務経験者）・神納 光一郎（実務経験者）<br>竹原 友貴（実務経験者）・福原 雅之（実務経験者）・藤本 宣正（実務経験者）<br>矢吹裕栄 |      |     |       |      |    | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者である 藤岡、岡本、竹原、福原、藤本は、医療機関において医師として診療業務に、福山は看護師として従事した経験がある。                           |      |     |       |      |    |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義 | 講義      |
|          | 作業療法学専攻                                                                                   | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   | 形式 |         |

## ■ 内 容

救急医学の概要と救急措置法について概説する。リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を学習する。次に、外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、その病因、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。また、皮膚科、眼科、耳鼻科疾患を有する対象患者のリハビリテーション実施上の留意事項についても概説する。

## ■ 到達目標

1. 救急疾患の病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を修得する。
2. 外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科の代表的疾患について、その病態、特徴的に現れる症状、検査、診断、治療法を説明できる。
3. 皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科疾患におけるリハビリテーション実施上の留意事項を説明できる。

## ■ 授 業 計 画

|                              |                    |
|------------------------------|--------------------|
| 第1回 救急医学総論 (1)               | 岡本文雄 / 藤岡重和（実務経験者） |
| 第2回 救急医学総論 (2)               | 岡本文雄（実務経験者）        |
| 第3回 救急医学各論 (1) ショック、心肺停止     | 神納光一郎（実務経験者）       |
| 第4回 救急医学各論 (2) 意識障害、吐血、下血と腹痛 | 神納光一郎（実務経験者）       |
| 第5回 救急医学各論 (3) 外傷、環境障害       | 神納光一郎（実務経験者）       |
| 第6回 産科学                      | 福山智子（実務経験者）        |
| 第7回 婦人科学                     | 福山智子（実務経験者）        |
| 第8回 皮膚科学                     | 竹原友貴（実務経験者）        |
| 第9回 皮膚科学                     | 竹原友貴（実務経験者）        |
| 第10回 眼科学                     | 福原雅之（実務経験者）        |
| 第11回 眼科学                     | 福原雅之（実務経験者）        |
| 第12回 耳鼻咽喉科学                  | 矢吹裕栄               |
| 第13回 耳鼻咽喉科学                  | 矢吹裕栄               |
| 第14回 泌尿器科学                   | 藤本宣正（実務経験者）        |
| 第15回 泌尿器科学                   | 藤本宣正（実務経験者）        |

## ■ 評 価 方 法

|            |   |  |      |  |
|------------|---|--|------|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ |  | 100% |  |
| レポート       |   |  |      |  |
| 小テスト       |   |  |      |  |
| その他・備考     |   |  |      |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。  
また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

## ■ 教科書

書 名：PT・OTのための一般臨床医学  
著者名：明石 謙  
出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書 名：救急診療指針 改訂第4版  
著者名：日本救急医学会監修  
出版社：へるす出版

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                           |      |     |       |      |      |    |
|----------|-------------------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 医療安全学                                     |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 藤岡 重和（実務経験者）                              |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者は、医療機関において医師として医療安全業務を含む診療業務に従事している。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                                   | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

頻発する医療事故を概観し、医療現場の現状と医療安全対策の必要性について理解する。次に、事故発生のメカニズムと事故分析、事故対策、リスクマネジメント、医療機関における安全対策、リハビリテーション業務における安全対策、医療事故の報告制度について学習する。また、事故事例の分析演習を通して医療事故発生のメカニズム、医療機関における安全対策のありかたについて理解を深める。

## ■ 到達目標

1. 医療事故の実際を知り、安全対策の必要性について理解する
2. 事故の発生要因について説明できる
3. 医療機関における安全対策、リハビリテーション業務における安全対策を説明できる

## ■ 授業計画

- 第1回 医療事故の疫学、頻度、医療事故事例の紹介  
 第2回 医療事故の定義、分類、医療事故の報告制度  
 第3回 医療事故発生のメカニズム、医療事故分析、事故対策  
 第4回 医療事故分析と対策（演習）  
 第5回 医療機関における安全対策（1）  
 第6回 医療機関における安全対策（2）  
 第7回 医療事故後の対応、医療事故に関する法的責任  
 第8回 リハビリテーション業務における安全対策、国試対策（問題演習）

## ■ 評価方法

|            |   |  |     |                                                                             |
|------------|---|--|-----|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ |  | 70% | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |  |     |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ |  | 30% |                                                                             |
| その他・備考     |   |  |     |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。  
 また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

## ■ 教科書

書 名：ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践2 医療安全 第4版  
 著者名：松下由美子、杉山良子、小林美雪  
 出版社：MC メディカ出版

## ■ 参考図書

書 名：リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン  
著者名：日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会  
出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                    |      |     |       |      |      |    |
|----------|--------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 疫学・公衆衛生学（予防の基礎を含む） |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 白井 文恵              |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 |                    |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻            | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻            | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

地域で生活する人々の健康の維持・増進・向上のために必要な公衆衛生学とその研究手法である疫学について学習する。

## ■ 到達目標

- ①健康とは何かを理解する。
- ②健康に生活するとはどのようなことか理解する。
- ③健康に生活することを保障する社会の仕組みを理解する。
- ④健康に関する研究手法である疫学について理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 公衆衛生学序論、健康の定義  
第2回 疫学・保健統計からみる健康指標  
第3回 成人保健と健康管理、健康増進  
第4回 わが国の母子保健の現状と課題  
第5回 わが国の高齢者保健の現状と課題  
第6回 わが国の感染症の予防対策  
第7回 食品保健と食中毒予防  
第8回 地球規模での健康問題と国際保健

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業計画内容を確認し、教科書の該当箇所を読んでください。  
復習：授業箇所の教科書を読み返してください。

## ■ 教 科 書

書 名：公衆衛生がみえる 2022-2023  
著者名：医療情報科学研究所  
出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

書 名：厚生の指標 増刊 国民衛生の動向 2022/2023  
出版社：厚生労働統計協会

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                    |      |     |       |      |      |    |
|----------|------------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 内科学 I                              |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 藤岡 重和（実務経験者）                       |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者は、医療機関において医師として内科診療業務に従事している。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                            | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                            | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

リハビリテーションの対象となる内科疾患は、年々拡大しており、療法士には、各種の内科疾患の病態、評価、治療に関する詳細な理解が必要とされる。内科学 I では、循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患の生体内部の障害について、その病因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。また、循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患を有する患者のリハビリテーション実施上の留意事項を説明できるよう指導する。

## ■ 到達目標

1. 代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、各種検査所見（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患患者のリハビリテーション実施上の留意事項を説明できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 内科学総論  
第2回 循環器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）  
第3回 循環器疾患（1） 高血圧、虚血性心疾患  
第4回 循環器疾患（2） 弁膜症、先天性心疾患、心筋疾患  
第5回 循環器疾患（3） 心不全、不整脈、その他  
第6回 循環器疾患（4） 大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈、リンパ管疾患  
第7回 呼吸器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）  
第8回 呼吸器疾患（1） 感染性肺疾患、アレルギー性肺疾患  
第9回 呼吸器疾患（2） 慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患  
第10回 呼吸器疾患（3） 肺腫瘍、肺循環障害  
第11回 呼吸器疾患（4） 呼吸不全、呼吸調節の異常、胸膜疾患、その他  
第12回 腎、泌尿器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）  
第13回 腎、泌尿器疾患（1） 糸球体疾患、全身性疾患と腎障害  
第14回 腎、泌尿器疾患（2） 腎不全、電解質異常、泌尿器疾患、その他  
第15回 総復習（国家試験対策）

## ■ 評価方法

|            |   |  |     |                                                                             |
|------------|---|--|-----|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ |  | 80% | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |  |     |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ |  | 20% |                                                                             |
| その他・備考     |   |  |     |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

## ■ 教科書

書 名：ナースの内科学 第10版  
著者名：奈良信雄  
出版社：中外医学社

## ■ 参考図書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版  
著者名：大成浄志  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生の感染症学講義において詳しく学習します。

|          |                                    |      |     |       |      |          |    |
|----------|------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 内科学 II                             |      |     |       |      |          |    |
| 担当者      | 藤岡 重和（実務経験者）                       |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者は、医療機関において医師として内科診療業務に従事している。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                            | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                            | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

リハビリテーションの対象となる内科疾患は、年々拡大しており、療法士には、各種内科疾患の病態、評価、治療に関する詳細な理解が必要とされる。内科学 II では、消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患について、その病因、病態、疫学、臨床像、検査、診断、治療法、予後を学習する。また、消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患を有する患者のリハビリテーション実施上の留意事項を説明できるよう指導する。

## ■ 到達目標

1. 代表的な消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 消化器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第2回 消化器疾患（1） 食道疾患、胃の疾患
- 第3回 消化器疾患（2） 小腸、大腸の疾患
- 第4回 消化器疾患（3） 肝疾患
- 第5回 消化器疾患（4） 胆道疾患、膵疾患、その他
- 第6回 代謝、内分泌総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第7回 代謝、内分泌疾患（1） 糖尿病、脂質代謝異常、栄養障害、その他
- 第8回 代謝、内分泌疾患（2） 下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
- 第9回 免疫、アレルギー総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第10回 免疫、アレルギー疾患（1） アレルギー疾患
- 第11回 免疫、アレルギー疾患（2） 自己免疫疾患
- 第12回 血液、造血器疾患（1） 赤血球系疾患
- 第13回 血液、造血器疾患（2） 白血球系疾患、出血性疾患
- 第14回 リハビリテーションと内科臨床について
- 第15回 総復習（国家試験対策）

## ■ 評価方法

|            |   |  |     |                                                                             |
|------------|---|--|-----|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ |  | 80% | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |  |     |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ |  | 20% |                                                                             |
| その他・備考     |   |  |     |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

## ■ 教科書

書 名：ナースの内科学 第10版  
著者名：奈良信雄  
出版社：中外医学社

## ■ 参考図書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版  
著者名：大成浄志  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生の感染症学講義において詳しく学習します。

|          |                                                       |      |     |       |      |          |    |
|----------|-------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 整形外科学Ⅰ                                                |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 佐藤 睦美、境 隆弘、岡 智大、臼井 俊方（実務経験者）、高木 啓至<br>中村 憲正（実務経験者）    |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 臼井 俊方、中村憲正（医師として、臨床現場において整形外科疾患の患者に対して、診察・治療に従事している。） |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                               | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          |                                                       | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

運動機能障害から日常生活動作を障害する原因となる、整形外科疾患について病因、病態生理、診断、治療法、予後 について学習する。

## ■ 到達目標

まず、運動器の障害に関する基礎的な理解を深めた上で、各分野ごと、それぞれの疾患について、病因、病態生理、治療法を理解する。  
さらに、その知識を理学療法士としてどのように臨床につなげていくか理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 整形外科とは：臼井 俊方（実務経験者）
- 第2回 整形外科診断総論：臼井 俊方（実務経験者）
- 第3回 整形外科治療総論：臼井 俊方（実務経験者）
- 第4回 整形外科疾患総論：臼井 俊方（実務経験者）
- 第5回 炎症性関節疾患（関節リウマチとその類縁疾患・慢性関節疾患等）：岡 智大
- 第6回 骨端症・骨壊死・骨・軟部腫瘍：高木 啓至
- 第7回 先天性疾患・骨系統疾患：佐藤 睦美
- 第8回 神経・筋疾患，代謝性疾患：境 隆弘
- 第9回 整形外科領域における再生医療について：中村 憲正（実務経験者）
- 第10回 肩・肘・手関節と手：岡 智大
- 第11回 頸・胸・腰椎：岡 智大
- 第12回 股・膝・足関節と足：岡 智大
- 第13回 外傷（骨折）：佐藤 睦美
- 第14回 外傷（捻挫，脱臼）：佐藤 睦美
- 第15回 外傷（脊椎・脊髄損傷，末梢神経損傷）：境 隆弘

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため、事前に前回授業の復習をしておくこと。

## ■ 教科書

書 名：標準整形外科学 第14版  
著者名：中村利孝・松野丈夫（監修）  
出版社：医学書院

---

書 名：病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科  
著者名：医療情報科学研究所（編）  
出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認をしてください。

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

本講義は1年次の運動器系の解剖学および生理学の知識を踏まえた講義内容となっている。また、本講義内容は運動器障害に関する評価学や治療学を理解するうえで必要となる。

|          |                                                      |      |     |       |      |      |         |
|----------|------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 整形外科科学Ⅰ                                              |      |     |       |      |      |         |
| 担当者      | 寺村 晃・西田 裕希・渡部雄大・臼井俊方（実務経験者）・中村憲正（実務経験者）              |      |     |       |      |      | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 臼井俊方、中村憲正（医師として、臨床現場において整形外科疾患の患者に対して、診察・治療に従事している。） |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                              | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |                                                      | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |         |

## ■ 内 容

運動器の解剖・生理を立ち戻り、整形外科疾患の病態を理解することを目的に行う。整形外科科学Ⅰでは、整形外科の概要および身体部位別の疾患の理解を深める。

## ■ 到達目標

運動器の障害に関する基礎的な解剖・生理学の理解を深める  
身体部位別の整形外科疾患の病態、整理等を理解を深める

## ■ 授業計画

- 第1回 整形外科とは：臼井 俊方（実務経験者）
- 第2回 整形外科診断総論：臼井 俊方（実務経験者）
- 第3回 整形外科治療総論：臼井 俊方（実務経験者）
- 第4回 整形外科疾患総論：臼井 俊方（実務経験者）
- 第5回 下肢の疾患 足部 新任教員（実務経験者）
- 第6回 上肢の疾患 肩・肩甲帯 西田 裕希（実務経験者）
- 第7回 上肢の疾患 肘・前腕 西田 裕希（実務経験者）
- 第8回 上肢の疾患 手・手指 西田 裕希（実務経験者）
- 第9回 下肢の疾患 股関節疾患総論 西田 裕希（実務経験者）
- 第10回 下肢の疾患 股関節各論 西田 裕希（実務経験者）
- 第11回 下肢の疾患 膝関節 西田 裕希（実務経験者）
- 第12回 体幹の疾患 体幹疾患総論 新任教員（実務経験者）
- 第13回 体幹の疾患 脊椎疾患 脊椎・脊髄損傷 寺村 晃（実務経験者）
- 第14回 体幹の疾患 脊椎疾患 脊椎・脊髄疾患 寺村 晃（実務経験者）
- 第15回 整形外科領域における再生医療について 中村 憲正（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。  
作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。  
単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

## ■ 教科書

書名：病気がみえる 11 運動器・整形外科  
著者名：医療情報科学研究所 編集  
出版社：株式会社 メディックメディア

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

|          |           |      |     |       |      |      |         |
|----------|-----------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 整形外科科学Ⅱ   |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 岡 智大・境 隆弘 |      |     |       |      |      | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 |           |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻   | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |           | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |         |

## ■ 内 容

整形外科科学Ⅰをもとに、治療場面でよく扱う疾患を中心に理解を深める。

## ■ 到達目標

疾患についての基礎的知識を確実に習得する。

## ■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、骨折総論①：岡 智大  
 第2回 骨折総論②：岡 智大  
 第3回 肩関節の疾患①：境 隆弘  
 第4回 肩関節の疾患②：境 隆弘  
 第5回 肘・手関節の疾患①：岡 智大  
 第6回 肘・手関節の疾患②、関節リウマチ、変形性関節症（総論）：岡 智大  
 第7回 脊椎の疾患①：岡 智大  
 第8回 脊椎の疾患②：岡 智大  
 第9回 中間まとめ：岡 智大  
 第10回 股関節の疾患①：岡 智大  
 第11回 股関節の疾患②：岡 智大  
 第12回 膝関節の疾患①岡 智大  
 第13回 膝関節の疾患②：岡 智大  
 第14回 足関節・足部の疾患①：岡 智大  
 第15回 足関節・足部の疾患②：岡 智大

## ■ 評価方法

|            |                                                          |    |   |                                                                             |
|------------|----------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                        | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                          |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                        | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 中間まとめの講義時間の中で中間試験を実施します。<br>筆記試験は、中間試験と期末試験の両方の成績で判定します。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 教科書

書 名：標準整形外科学 第14版（2年前期で購入済）

著者名：中村利孝・松野丈夫（監修）

出版社：医学書院

書 名：病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科（2年前期で購入済）

著者名：医療情報科学研究所（編）

出版社：メディックメディア

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル

著者名：百島祐貴（著）

出版社：医学教育出版社

## ■ 参考図書

書 名：リハで読むべき運動器画像

著者名：塩野寛大（監），瀧田勇二（著）

出版社：メジカルビュー社

書 名：リハビリテーションのための画像の読み方

著者名：本間光信・高橋仁美（編）

出版社：メジカルビュー社

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

本講義の内容は、3年生の運動器障害理学療法治療学に繋がっていきます。  
各疾患の概要と整形外科的治療を理解して下さい。

|          |                  |      |     |       |      |      |         |
|----------|------------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 整形外科科学Ⅱ          |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 寺村 晃・渡部 雄太・上里 圭吾 |      |     |       |      |      | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 |                  |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻          | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |                  | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |         |

## ■ 内 容

運動器の解剖・生理を立ち戻り、整形外科疾患の病態を理解することを目的に行う。整形外科科学Ⅱでは、発生機序による整形外科疾患の理解を深める。

## ■ 到達目標

運動器の解剖・生理学が理解できる  
発生機序別の整形外科疾患の病態が理解できる

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション, 切断 (実務経験者: 寺村 晃)
- 第2回 末梢神経損傷・腕神経叢 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第3回 末梢神経損傷・腰神経叢 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第4回 外傷① 区画症候群・複合性局所疼痛症候群 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第5回 外傷② 上肢の骨折 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第6回 外傷③ 骨盤・下肢の骨折 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第7回 外傷④ 脱臼その他 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第8回 熱傷・末梢神経損傷の支援 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第9回 リウマチ性疾患・総論 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第10回 リウマチ性疾患・各論 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第11回 慢性関節性疾患・関節炎 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第12回 慢性関節性疾患・変形性関節症 (実務経験者: 上里圭吾)
- 第13回 骨系統疾患 (実務経験者: 新任教員)
- 第14回 代謝性骨疾患 (実務経験者: 新任教員)
- 第15回 講義内容の振り返り (実務経験者: 寺村 晃)

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。  
作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。  
単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

## ■ 教 科 書

書 名：病気がみえる 11 運動器・整形外科

著者名：医療情報科学研究所 編集

出版社：株式会社 メディックメディア

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 臨床神経学Ⅰ  |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 岩田 篤    |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違っていても脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。神経内科疾患では、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することが重要です。この講義では神経機能解剖学を理解したのち、神経症候のメカニズムについて解説します。

## ■ 到達目標

運動や感覚に係る神経機能解剖学を理解し、どの神経系が障害されればどのような臨床像になるのか、そのメカニズムを理解できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 臨床神経学を学ぶ意義
- 第2回 臨床神経学の基礎 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第3回 大脳皮質の機能局在①
- 第4回 大脳皮質の機能局在② (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第5回 脳動脈の走行と脳血管支配域
- 第6回 外側皮質脊髄路の走行 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第7回 外側皮質脊髄路以外の下行性経路
- 第8回 中枢神経と末梢神経の概要と臨床症状 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第9回 大脳基底核系の機能解剖
- 第10回 大脳基底核障害の臨床症状 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第11回 小脳回路網と臨床症状
- 第12回 感覚路の障害と臨床症状 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第13回 脳神経障害と臨床症状
- 第14回 自律神経系障害と臨床症状 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

講義内容の理解度を確保するために対面講義の開始時に小テストを行いますので、講義内容の復習を必ず行っておいてください。

## ■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版  
著者名：医療情報科学研究所 / 編集  
出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ・Ⅱ」の科目の理解が重要である。  
また、「臨床神経学Ⅱ」「神経障害理学療法治療学Ⅰ」「神経障害理学療法治療学Ⅱ」へとつながる内容である。

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 臨床神経学Ⅰ  |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 林部 美紀   |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

脳や神経の仕組みや働きを理解し、神経症候のメカニズムと症状について講義やグループワークを進めて行く。

## ■ 到達目標

1. 脳や神経の仕組みを理解できる。
2. 脳や神経の働きを理解できる。
3. 脳や神経が障害されることによつての症状を理解できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション・大脳の機能局在と高次脳機能障害
- 第2回 脳画像の見方・脳血管
- 第3回 錐体路と運動麻痺
- 第4回 上位運動ニューロンと下位運動ニューロン
- 第5回 感覚器系と症状
- 第6回 錐体外路と症状
- 第7回 大脳基底核・小脳と症状
- 第8回 脳幹と症状
- 第9回 脳神経と症状
- 第10回 脳神経と症状
- 第11回 脊髄・脊髄神経と症状
- 第12回 自律神経系と症状
- 第13回 大脳辺縁系と症状
- 第14回 間脳と症状
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1年生で学んだ解剖学や生理学を基本にやっていきます。授業前は必ず1年生の時に習ったその単元の復習をしておいてください。その日の講義内容は必ずその日のうちに復習してください。その日の講義で用いた図表を見て、その日の講義内容が想起できるようにしてください。少なくとも30分以上は復習してください。

## ■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版  
著者名：医療情報科学研究所 / 編集  
出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

書 名：PT・OTのための脳画像のみかた  
著者名：森 惟明, 鶴見 隆正  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

3年生で習う身体障害治療学や実習に結びつく、非常に大事な基礎科目です。1年生の解剖学生理学から繋がっています。しっかり復習してください。レポート小テストでこまめに評価していきます。

|          |         |      |    |       |     |      |    |
|----------|---------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 臨床神経学Ⅱ  |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 岩田 篤    |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻 | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |         | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違っていても脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。神経内科疾患では、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することが重要です。この講義では、臨床神経学Ⅰの講義内容を踏まえた上で、神経内科疾患の臨床症状について解説します。

## ■ 到達目標

神経内科疾患の概要を理解し、特徴的な臨床症状がなぜ生じるのかを、神経機能解剖学的に説明できる。さらに、理学療法と関連し、どのようなメカニズムで障害が改善するのかも考察できるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 臨床神経学Ⅱの位置づけ
- 第2回 中枢神経疾患の検査法 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第3回 脳梗塞(総論) 病理の捉え方
- 第4回 脳梗塞(各論) 神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第5回 脳内出血(総論) 病理の捉え方
- 第6回 脳内出血(各論) 神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第7回 くも膜下出血の病理と神経症候の捉え方
- 第8回 パーキンソン病およびその他の錐体外路疾患の病理と神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第9回 脊髄小脳変性症の病理と神経症候の捉え方
- 第10回 多発性硬化症の病理と神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第11回 末梢神経障害の検査法
- 第12回 ギランバレー症候群の病理と神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第13回 重症筋無力症の病理と神経症候の捉え方
- 第14回 筋萎縮性側索硬化症の病理と神経症候の捉え方 (遠隔授業：オンデマンド配信)
- 第15回 筋疾患およびその他ニューロパチーの病理と神経症候の捉え方

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

講義内容の理解度を確保するために対面講義の開始時に小テストを行いますので、講義内容の復習を必ず行っておいてください。

## ■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版

著者名：医療情報科学研究所 / 編集

出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ」の科目の理解が重要である。また、「神経障害理学療法治療学Ⅰ」「神経障害理学療法治療学Ⅱ」へとつながる内容である。

|          |             |      |     |       |      |      |         |
|----------|-------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 臨床神経学Ⅱ      |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 岡山 友哉・林部 美紀 |      |     |       |      |      | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 |             |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻     | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |             | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |         |

## ■ 内 容

臨床神経学Ⅰの講義内容を踏まえた上で、神経内科疾患の臨床症状について講義やグループワークを進めていきます。

## ■ 到達目標

1. 作業療法の対象となる各神経内科疾患のメカニズムを理解できる。
2. 作業療法の対象となる各神経内科疾患の臨床症状を理解できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・臨床神経学Ⅰの復習  
 第2回 脳血管障害の概要  
 第3回 脳血管障害の具体的な臨床症状  
 第4回 頭部外傷の概要と具体的な臨床症状  
 第5回 脳腫瘍の概要と具体的な臨床症状  
 第6回 パーキンソン病・脊髄小脳変性症の概要と具体的な臨床症状  
 第7回 多発性硬化症の概要と具体的な臨床症状  
 第8回 ギランバレーの概要と具体的な臨床症状  
 第9回 筋萎縮性側索硬化症の概要と具体的な臨床症状  
 第10回 ニューロパチーの概要と具体的な臨床症状  
 第11回 重症筋無力症・周期性四肢麻痺・多発性筋炎の概要と具体的な臨床症状  
 第12回 筋ジストロフィーの概要と具体的な臨床症状  
 第13回 てんかんの概要と具体的な臨床症状  
 第14回 認知症の概要と具体的な臨床症状 1/19  
 第15回 その他の神経内科疾患（二分脊椎・脳炎・髄膜炎）の概要と具体的な臨床症状

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床神経学Ⅰの学習内容が基本となるため、事前に必ず復習をしておいてください。講義内容を基に定期的に、小テストを実施して理解度を確認します。そのため各自で少なくとも30分以上は復習が必要となります。

## ■ 教 科 書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版  
 著者名：医療情報科学研究所／編集  
 出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

書 名：ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版  
著者名：田崎義昭，斎藤佳雄他  
出版社：南山堂

## ■ 留意事項

授業中に実際の患者様の動画を視聴することがありますが、個人情報保護の観点から得られた情報の取り扱いについて十分注意して下さい。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

本講義は、臨床神経学Ⅰを基盤に成り立つ科目です。必ず、臨床神経学Ⅰの内容を理解しておいてください。また、身体障害治療学や臨床実習につながってくる重要な授業です。

|          |                                  |      |     |       |      |      |    |
|----------|----------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 精神医学                             |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 高井田 輪香子（実務経験者）                   |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 現在、精神科クリニックに勤務し、精神科チーム医療の経験を有する者 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                          | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                          | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

精神疾患の症状・診断基準・治療法について学ぶ

## ■ 到達目標

精神医学に関心を持ち、基本的な知識を身につける

## ■ 授業計画

|      |                          |                         |
|------|--------------------------|-------------------------|
| 第1回  | 精神医学総論                   | 精神医学の歴史と現状・精神障害の分類      |
| 第2回  | 精神医学総論                   | 精神機能とその異常①              |
| 第3回  | 精神医学総論                   | 精神機能とその異常②・ライフステージと精神障害 |
| 第4回  | 精神医学各論                   | 統合失調症                   |
| 第5回  | 精神医学各論                   | 気分障害 / 第1回 小テスト         |
| 第6回  | 精神医学各論                   | 神経症性障害①                 |
| 第7回  | 精神医学各論                   | 神経症性障害②・摂食障害・心身症        |
| 第8回  | 精神医学各論                   | パーソナリティ障害               |
| 第9回  | 精神医学各論                   | 物質関連障害・嗜癖障害             |
| 第10回 | 精神医学各論                   | 認知症・てんかん / 第2回 小テスト     |
| 第11回 | 精神医学各論                   | 児童・青年期の精神障害             |
| 第12回 | 精神医学各論                   | 知的障害・睡眠障害・症状性精神障害       |
| 第13回 | 精神科的面接・検査・薬物療法           |                         |
| 第14回 | 精神療法                     |                         |
| 第15回 | 司法精神医学・地域精神医療 / 第3回 小テスト |                         |

## ■ 評価方法

|            |                                           |    |   |                                                                             |
|------------|-------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                         | 70 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                           |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                         | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 小テストは3回行います。出題範囲は①授業第1回～5回②第6～10回③第11～15回 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

可能な限り疾患ごとに事例を紹介しますので、授業用資料で症状や経過などを復習し、疾患への理解を深めてください。

## ■ 教科書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

書 名：改訂第2版 専門医がやさしく語る はじめての精神医学  
著者名：渡辺 雅幸  
出版社：中山書店

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |               |      |     |       |    |         |    |
|----------|---------------|------|-----|-------|----|---------|----|
| 授業科目     | 臨床運動学         |      |     |       |    |         |    |
| 担 当 者    | 島 雅人・ 文 本 聖 現 |      |     |       |    | (オムニバス) |    |
| 実務経験者の概要 |               |      |     |       |    |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻       | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1  | 講義形式    | 講義 |
|          |               | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修 |         |    |

## ■ 内 容

運動学総論、運動学各論、運動学実習で修得した知識を踏まえ、疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化や活動の変化について学ぶ。実際の運動を教材等で観察し、模倣しながら、障害のある対象者の運動特性を学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化、運動・活動を理解できる。
2. 障がい者の姿勢や動作を観察し、その特徴や要因を検討することができる。
3. 機能障害と能力障害の関連を理解できる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 コース・ガイダンス、関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ(総論):島・文本(実務経験者)
- 第2回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ(股関節①):島・文本(実務経験者) オンデマンド
- 第3回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ(股関節②):島・文本(実務経験者)
- 第4回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ(膝関節①):島・文本(実務経験者) オンデマンド
- 第5回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ(膝関節②、足関節①):島・文本(実務経験者)
- 第6回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ(足関節②):島・文本(実務経験者) オンデマンド
- 第7回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ(総論、肩、脊髄損傷①):島・文本(実務経験者) オンデマンド
- 第8回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ(肩、脊髄損傷②):島・文本(実務経験者)
- 第9回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ(末梢神経障害 上肢①):島・文本(実務経験者) オンデマンド
- 第10回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ(末梢神経障害 上肢②):島・文本(実務経験者)
- 第11回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ(末梢神経障害 下肢①):島・文本(実務経験者) オンデマンド
- 第12回 筋力低下による運動や活動の変化を学ぶ(末梢神経障害 下肢②):島・文本(実務経験者)
- 第13回 疾患(中枢神経障害 等)による運動や活動の変化を学ぶ①:島・文本(実務経験者) オンデマンド
- 第14回 疾患(中枢神経障害 等)による運動や活動の変化を学ぶ②:島・文本(実務経験者)
- 第15回 本講義で学んだことについて復習、再確認を行う:島・文本(実務経験者)

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

第2回～第5回においては、各関節の構造、機能をあらかじめ学習しておくこと。  
第6回～12回においては、各関節に作用する筋について、起始、停止、作用、支配神経をあらかじめ学習しておくこと。第13回・14回においては、特に中枢神経系の障害について、その特徴を学習しておくこと。  
対面講義日に小テストを実施し、理解状況を確認する。毎回の授業で学習したことを復習し、小テストに臨んでください。実施した内容について理解が不十分であった場合は、次の授業までに質問に来て理解を深めてください。オフィスアワーを活用してください。

## ■ 教科書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト：基礎・実習・臨床  
著者名：小柳 磨毅 ほか  
出版社：金原出版

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

既に学習した運動学の知識を用いる為、運動学の知識が十分でない場合は自ら補うこと。  
分からないことがあれば科目担当教員へ質問して解決すること。

|          |                                                                                                                                                           |      |     |       |      |         |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 臨床運動学                                                                                                                                                     |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 渡部 雄太（実務経験者）・山岡 信（実務経験者）・井口 知也（実務経験者）                                                                                                                     |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 渡部雄太：高齢者施設で高齢期の方への作業療法を担当、地域で健康増進プログラムを提供。<br>山岡 信：身体障害領域のリハビリテーション病院で作業療法を担当。<br>井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期・高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者への健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供。 |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                                                                                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義      | 講義 |
|          |                                                                                                                                                           | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 自由   | 形式      |    |

## ■ 内 容

正常の運動学の理論を踏まえて、臨床における病態臨床学を演習などを体験しながら理解を深める。

## ■ 到達目標

正常の運動学の理論の理解を深める

臨床における病態臨床学の理解を深める

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、生体力学：井口知也（実務経験者）  
第2回 肩甲帯：渡部雄太（実務経験者）  
第3回 肩関節：渡部雄太（実務経験者）  
第4回 肘、前腕：渡部雄太（実務経験者）  
第5回 手関節：渡部雄太（実務経験者）  
第6回 手指：渡部雄太（実務経験者）  
第7回 骨盤体、股関節：渡部雄太（実務経験者）  
第8回 膝、下腿：渡部雄太（実務経験者）  
第9回 足、足関節1：山岡 信（実務経験者）  
第10回 足、足関節2：山岡 信（実務経験者）  
第11回 脊柱：山岡 信（実務経験者）  
第12回 寝返り：山岡 信（実務経験者）  
第13回 立ち座り：山岡 信（実務経験者）  
第14回 歩行、杖歩行：山岡 信（実務経験者）  
第15回 車椅子移動：山岡 信（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                        |    |   |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                                                                                      | 70 | % |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                                                                      | 30 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                                        |    |   |  |
| その他・備考     | ※1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は -10 点、事前連絡のある遅刻・欠席は -3 点とする）。<br>※2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1 回につき -5 点）。<br>※3 試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第 16 条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際、前回の内容に関するの発表をしたり、レポートを提出する。また、講義前に予習として配布資料を読んでくること。復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

## ■ 教 科 書

## ■ 参 考 図 書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト

著者名：小柳 磨毅、山下 協子、大西 秀明、境 隆弘

出版社：金原出版株式会社

書 名：理学療法・作業療法テキスト 運動学実習

著者名：石川 朗、種村留美

出版社：中山書店

## ■ 留 意 事 項

講義前後に資料を配布しますので、予習・復習は必ずすること。無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、触診などを行ない確認をします。そのため、触診がしやすい服装で受講してください。

|          |                                                                             |      |     |       |      |          |         |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 臨床薬理学                                                                       |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 名徳 倫明（実務経験者）・石田 志門（実務経験者）・池田 宗一郎（実務経験者）<br>下村 裕章（実務経験者）・藤岡 重和（実務経験者）        |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者である石田、池田、下村、藤岡は、医療機関において内科医師として診療業務に従事している。名徳は医療機関において薬剤師として業務に従事していた。 |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                     | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義      |
|          | 作業療法学専攻                                                                     | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

リハビリテーション医療は、医師、療法士、看護師、薬剤師、栄養士など多職種によるチーム医療であり、脳神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、精神疾患を有する対象者の理解、評価のために薬理学の基礎的知識が必要とされる。本講義では、薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用、器官毒性とその発現メカニズムを学習する。特に、理学療法士、作業療法士の実地臨床上、重要である神経、筋に作用する薬剤、循環器治療薬、呼吸器治療薬等については、症例提示により実践的知識の修得を目指す。東洋医学の基礎、漢方薬についても学習する。

## ■ 到達目標

1. 薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用を説明できる。
2. 代表的な神経、筋作用薬、循環器治療薬、呼吸器治療薬について説明できる。

## ■ 授業計画

|     |             |                  |                         |
|-----|-------------|------------------|-------------------------|
| 第1回 | 臨床薬理学総論 (1) | 薬剤の体内動態          | 名徳倫明（実務経験者）             |
| 第2回 | 臨床薬理学総論 (2) | 頻用薬剤の薬理作用、副作用    | 名徳倫明（実務経験者）             |
| 第3回 | 臨床薬理学各論 (1) | 脳卒中と治療薬          | 石田志門（実務経験者）             |
| 第4回 | 臨床薬理学各論 (2) | 神経疾患と治療薬         | 石田志門（実務経験者）             |
| 第5回 | 臨床薬理学各論 (3) | 呼吸器疾患と治療薬        | 池田宗一郎（実務経験者）            |
| 第6回 | 臨床薬理学各論 (4) | 各種感染症と治療薬        | 池田宗一郎（実務経験者）            |
| 第7回 | 臨床薬理学各論 (5) | 循環器疾患、生活習慣病の治療薬  | 下村裕章（実務経験者）             |
| 第8回 | 臨床薬理学各論 (6) | 東洋医学の基礎、漢方薬、国試対策 | 下村裕章（実務経験者） 藤岡重和（実務経験者） |

## ■ 評価方法

|            |   |  |      |
|------------|---|--|------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ |  | 100% |
| レポート       |   |  |      |
| 小テスト       |   |  |      |
| その他・備考     |   |  |      |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。  
また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

## ■ 教科書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

書 名：臨床薬理学（NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ち 2）

著者名：古川裕之

出版社：MC メディカ出版

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                                    |      |    |       |     |          |         |
|----------|--------------------------------------------------------------------|------|----|-------|-----|----------|---------|
| 授業科目     | 臨床検査医学（画像診断・評価を含む）                                                 |      |    |       |     |          |         |
| 担当者      | 藤岡 重和（実務経験者）・津田 泰宏（実務経験者）・和田 晋一（実務経験者）<br>久田 洋一（実務経験者）・掛川 泰朗       |      |    |       |     |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 科目担当者である藤岡、津田、久田は、医療機関において医師として診療業務に従事している。和田は臨床検査技師として、病院勤務をしている。 |      |    |       |     |          |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                            | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義<br>形式 | 講義      |
|          | 作業療法学専攻                                                            | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修  |          |         |

## ■ 内 容

リハビリテーションに携わる医療専門職には、各種画像診断、生理機能検査学の基本的理解が必要である。本講では、放射線医学の基礎、人体各部位のエックス線、CT、MRI の検査方法と画像診断を学習する。生理機能検査学では、心電図、呼吸機能検査、血液ガス検査、脳波、筋電図検査、超音波検査について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を学習する。

## ■ 到達目標

1. X 線、CT、MRI の検査方法と、胸部、腹部、頭部画像診断を説明できる。
2. 心電図、呼吸機能検査、脳波、筋電図検査の臨床的意義、情報収集技術、評価法を説明できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 生理機能検査学総論、生理機能検査学各論（1）心電図、運動負荷検査  
 第2回 生理機能検査学各論（2）心電図、運動負荷心電図演習（不整脈、心筋虚血等）  
 第3回 生理機能検査学各論（3）呼吸機能検査、血液ガス検査  
 第4回 生理機能検査学各論（4）脳波検査、筋電図検査  
 第5回 放射線医学総論、画像診断各論（1）胸部 X 線、CT 検査  
 第6回 画像診断各論（2）腹部 X 線、CT、超音波検査  
 第7回 画像診断各論（3）頭部 X 線、CT、MRI 検査  
 第8回 画像診断各論（4）頭部 CT、MRI 読影演習

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

書 名：PT・OT のための画像診断マニュアル  
 著者名：百島祐貴  
 出版社：医学教育出版社

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                                                   |      |     |       |      |          |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 小児科学                                                                              |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 早島 禎幸・藪中 良彦                                                                       |      |     |       |      | (オムニバス)  |    |
| 実務経験者の概要 | 早島禎幸 (小児科医として 17 年の実務経験)<br>藪中良彦 (理学療法士として、肢体不自由施設で 20 年、小児訪問リハビリテーションで 8 年の実務経験) |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                           | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                                                                           | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

理学療法士・作業療法士として必要な子どもの病気の知識を学習する。

## ■ 到達目標

子どもの疾患に合わせて適切な理学療法及び作業療法を提供するために必要な子どもの病気の原因や病態を知ることが、この科目の目標である。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 I 乳幼児健診・予防接種について (早島禎幸)  
 第2回 II 新生児・未熟児疾患について (藪中良彦)  
 第3回 III 発達障害について (早島禎幸)  
 第4回 IV 先天性異常と遺伝子病について (藪中良彦)  
 第5回 V 神経疾患 (特にてんかん) / 内分泌・代謝疾患について (早島禎幸)  
 第6回 VI 脊髄性疾患 / 末梢神経疾患 / 筋疾患 / 骨・関節疾患について (藪中良彦)  
 第7回 VII 感染症 / 免疫・アレルギー疾患、膠原病について (早島禎幸)  
 第8回 VIII 循環器疾患について (藪中良彦)

## ■ 評価方法

|            |                                                                                  |    |   |                                                                             |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                  |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 小テスト内訳:予習課題+Moodle 及びその他の課題+口頭試問(20点)、筆記試験(80点) 授業態度、出席状況(欠席-4点、遅刻/早退-2点、居眠り-1点) |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

藪中担当講義では、次の授業の範囲を明示するので、その範囲の予習を行う。予習を行っていることを前提に、授業中に口頭試問を行う。また、毎回講義後に Moodle 課題および課題提示を行い、授業の復習を促す。

## ■ 教 科 書

書 名: 標準理学療法学・作業療法学 小児科学  
 著者名: 富田豊  
 出版社: 医学書院

## ■ 参考図書

書 名: 最新育児小児病学  
 著者名: 黒田泰弘  
 出版社: 南江堂

## ■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。予習の課題等を Moodle に掲載するため、Moodle をしっかり確認してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

3 年次で学習する「小児期理学療法治療学」及び「発達障害治療学Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ障害のある子どもたちへの理学療法治療及び作業療法治療を理解するための基礎となる小児期の疾患を、「小児科学」でしっかりと学習してください。

|          |                                               |      |     |       |      |         |    |
|----------|-----------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 老年医学                                          |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 大中 玄彦・藤岡 重和（すべて実務経験者）                         |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 科目担当である大中、藤岡は医療機関において、医師として老年期疾患の診療業務に従事している。 |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                       | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          | 作業療法学専攻                                       | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

著しい高齢化の進展に伴い高齢者の医療に対するニーズが高まっており、療法士が老年医学、高齢者医療に精通することが求められる。老化のメカニズム、加齢に伴う生理機能の変化を理解し、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その病態、臨床像、評価、治療を学習する。また、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者へのアプローチについても幅広く解説する。

## ■ 到達目標

1. 加齢に伴う生理機能の変化、老年症候群、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化を説明できる。
2. 加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害（循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、腎機能等）について、その疫学、症候、評価、検査（画像、生理機能検査を含む）、診断、治療、予後を説明できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 老年医学総論（1）老化と老年病の考え方、加齢に伴う生理機能変化  
大中玄彦／藤岡重和（実務経験者）
- 第2回 老年医学総論（2）高齢者に多い症候とそのアセスメントについて、老化に伴う生活機能の変化と高齢者へのアプローチ  
大中玄彦（実務経験者）
- 第3回 老年医学各論（1）精神機能の老化と精神疾患（うつ状態、せん妄、認知症、その他）  
大中玄彦（実務経験者）
- 第4回 老年医学各論（2）心、血管機能の老化と循環器疾患（心不全、末梢循環障害）  
大中玄彦（実務経験者）
- 第5回 老年医学各論（3）呼吸機能の老化と呼吸器疾患（誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患）  
大中玄彦（実務経験者）
- 第6回 老年医学各論（4）消化機能の老化と消化器疾患（摂食、嚥下障害、消化器癌）  
大中玄彦（実務経験者）
- 第7回 老年医学各論（5）腎機能、内分泌、代謝機能の老化と疾患（腎不全、糖尿病等）  
大中玄彦（実務経験者）
- 第8回 老年医学各論（6）加齢による免疫機能の変化、高齢者の感染症、骨、運動機能の老化と疾患、感覚機能の老化と疾患  
大中玄彦（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。  
また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。  
国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。

## ■ 教科書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版  
著者名：大内尉義  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：新老年学 第3版  
著者名：大内 尉義、秋山 弘子、折茂 肇  
出版社：東京大学出版社

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

老年医学を学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学、内科学Ⅰをよく理解しておく必要があります。授業の前に十分復習をしておいてください。

|          |                                                                                                                        |      |     |       |      |    |         |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----|---------|
| 授業科目     | 高次脳機能障害学Ⅰ                                                                                                              |      |     |       |      |    |         |
| 担 当 者    | 林部 美紀（実務経験者）、掛川 泰朗（実務経験者）、呉 鳳美（実務経験者）、石田 敦子（実務経験者）                                                                     |      |     |       |      |    | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 林部は作業療法士として脳卒中に関連した病院（急性期・回復期・生活期）に勤めていた経験がある。また、そこで高次脳機能障害について経験を積んでいる。掛川、呉、石田は高次脳機能障害を専門とした病院や施設で作業療法士として勤めていた経験がある。 |      |     |       |      |    |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                                | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義 | 講義      |
|          |                                                                                                                        | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   | 形式 |         |

## ■ 内 容

大脳機能との関連から高次脳機能障害の基本的知識を講義などにより理解する。

## ■ 到達目標

1. 大脳機能を理解することができる。
2. 各々の高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができる。
3. 各々の高次脳機能障害について、検査方法や特徴的な治療方法が分かる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要  
 第2回 注意障害の特徴と評価～リハビリテーション  
 第3回 半側空間無視の特徴と評価～リハビリテーション  
 第4回 その他の失認の特徴と評価～リハビリテーション  
 第5回 記憶障害の特徴と評価～リハビリテーション  
 第6回 失行の特徴と評価～リハビリテーション  
 第7回 失語の特徴と評価～リハビリテーション  
 第8回 前頭葉障害・遂行機能障害の特徴と評価～リハビリテーション

## ■ 評価方法

|           |   |     |   |  |
|-----------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験 | ◎ | 100 | % |  |
| レポート      |   |     |   |  |
| 小テスト      |   |     |   |  |
| その他・備考    |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の復習をすること。20分以上は必要である。

## ■ 教科書

書 名：高次脳機能障害学 第2版  
 著者名：石合 純夫  
 出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ ①基礎知識のエッセンス  
 著者名：山鳥 重, 早川裕子ら  
 出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

8回の授業です。遅刻・欠席に気をつけてください。

|          |                                                                       |      |     |       |      |      |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 高次脳機能障害学Ⅰ                                                             |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 林部 美紀（実務経験者）                                                          |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として脳卒中に関連した病院（急性期・回復期・生活期）に勤めていた経験がある。また、そこで高次脳機能障害について経験を積んでいる。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                               | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                                                       | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

大脳機能との関連から高次脳機能障害の基本的知識を講義やグループワーク、レポートなどにより理解する。

## ■ 到達目標

1. 大脳機能を理解することができる。
2. 各々の高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができる。
3. 各々の高次脳機能障害について、検査方法や特徴的な治療方法が分かる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要  
 第2回 注意障害の特徴と評価～リハビリテーション  
 第3回 半側空間無視の特徴と評価～リハビリテーション  
 第4回 その他の失認の特徴と評価～リハビリテーション  
 第5回 記憶障害の特徴と評価～リハビリテーション  
 第6回 失行の特徴と評価～リハビリテーション  
 第7回 失語の特徴と評価～リハビリテーション  
 第8回 前頭葉障害・遂行機能障害の特徴と評価～リハビリテーション

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の復習をすること。20分以上は必要である。毎回小テストを実施する。

## ■ 教科書

書 名：高次脳機能作業療法学（標準作業療法学）  
 著者名：能登真一  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ ①基礎知識のエッセンス  
 著者名：山鳥 重，早川裕子ら  
 出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

8回の授業です。遅刻・欠席に気をつけてください。

|          |                           |      |     |       |      |      |         |
|----------|---------------------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 高次脳機能障害学Ⅱ                 |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 林部美紀（実務経験者） 寺村晃（実務経験者）    |      |     |       |      |      | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験がある |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |                           | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 自由   |      |         |

## ■ 内 容

高次脳機能障害学Ⅰを基に理学療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害のスクリーニング検査や理学療法中の注意事項やアプローチ方法などを講義やグループワークで学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 各高次脳機能障害の検査方法を理解できる。
2. 各高次脳機能障害の検査を抽出できる。
3. 各高機能機能障害の特徴を理解できる。
4. 高次脳機能障害について、理学療法中の注意事項が分かる。

## ■ 授業計画

- 第1回 知能検査 HDS-R・MMSE  
 第2回 知能検査の解釈・認知機能障害における理学療法中の注意事項  
 第3回 注意機能の評価  
 第4回 注意機能の評価の解釈・注意障害における理学療法中の注意事項  
 第5回 記憶の評価  
 第6回 記憶の評価の解釈・記憶障害における理学療法中の注意事項  
 第7回 行為の評価  
 第8回 行為の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |   |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 70 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 教 科 書

書 名：不要

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。



|          |                         |      |     |       |      |      |    |
|----------|-------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 高次脳機能障害学Ⅱ               |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 岡山 友哉（実務経験者）            |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                 | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                         | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

高次脳機能障害学Ⅰを基に作業療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害の検査方法を講義やグループワークで学びます。最後に事例を通じてプログラム実施まで経験します。

## ■ 到達目標

1. 各高次脳機能障害の検査方法を理解できる。
2. 各高次脳機能障害の検査を抽出できる。
3. 各高次脳機能障害の特徴を理解できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要・注意の評価（TMT・かな拾いテスト）  
 第2回 注意の評価（CAT）  
 第3回 半側空間無視の検査（BIT）  
 第4回 記憶の検査（リバーミード行動記憶検査・三宅式記銘力検査・ベントン視覚記銘検査）  
 第5回 失行の検査（高次動作性検査）・構成障害の検査（コース立方体検査）  
 第6回 遂行機能の検査（WCST・BADS）  
 第7回 事例検討  
 第8回 事例報告会

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |   |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 60 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 40 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

事前に高次脳機能障害Ⅰの復習をしておいて下さい。授業中に検査の演習時間を設けますが、不十分である事が予測されますので、授業外でも検査練習をお勧めします。

## ■ 教 科 書

書 名：高次脳機能作業療法学（標準作業療法学）  
 著者名：能登真一  
 出版社：医学書院

## ■ 参 考 図 書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ③リハビリテーション評価  
 著者名：鈴木孝治ほか  
 出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 留 意 事 項

全8回の授業のため欠席回数には各自で十分注意して下さい。

毎回、グループワークがありますのでフェイスシールドを持参して下さい。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

高次脳機能障害Ⅱでは正確な検査実施方法が習得できるよう、何度も練習することが必要です。作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱあるいは臨床実習で高次脳機能障害のある対象者を担当した場合に、検査が実施できるように練習しておきましょう。

|          |                                                                                                                                |      |     |       |      |         |    |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | スタディースキルⅠ                                                                                                                      |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 境 隆弘（実務経験者）・相原 一貴（実務経験者）・文本 聖現（実務経験者）                                                                                          |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 境（理学療法士としての臨床経験があり、現在もスポーツ整形分野の病院に携わっている）<br>相原（理学療法士としての臨床経験があり、現在も維持期の病院に携わっている）<br>文本（理学療法士としての臨床経験があり、現在も整形外科クリニックに携わっている） |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                                        | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義      | 演習 |
|          |                                                                                                                                | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   | 形式      |    |

## ■ 内 容

大学における各科目の学習が円滑に進められように、学習計画や方法について実践を通じて学ぶ。  
グループ学習や実技を行い、基礎となる解剖学・生理学・運動学・評価学の理解を深める。  
学内の学びを通じ、臨床現場との関係性や目標とする理学療法士像について意識を高める。

## ■ 到達目標

- ・学習習慣を身に着ける。
- ・基礎となる解剖学・生理学・運動学・評価学の理解を深める。
- ・理学療法士の役割、職域についての興味や関心、知識を深める。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 ソーシャルスキルについて
- 第2回 大学での学びについて、基礎学力確認①
- 第3回 基礎学力確認②
- 第4回 レポートの書き方、文献等の引用方法
- 第5回 臨床と教育
- 第6回 個人スピーチ
- 第7回 科目試験に向けて①
- 第8回 グループワーク①
- 第9回 グループワーク②
- 第10回 解剖学の復習
- 第11回 学習計画の見直し
- 第12回 ソーシャルスキルトレーニング
- 第13回 臨床の体験：1年次の実習に向けて①
- 第14回 臨床の体験：1年次の実習に向けて②
- 第15回 科目試験に向けて②
- 第16回 臨床見学の振り返り①
- 第17回 臨床見学の振り返り② 発表会まとめ
- 第18回 生理学の体験
- 第19回 前期の振り返り
- 第20回 自己学習のポイント
- 第21回 神経系の解剖学①
- 第22回 神経系の解剖学②
- 第23回 基礎科目の振り返りと国家試験に向けて
- 第24回 グループワーク③
- 第25回 グループワーク④
- 第26回 理学療法評価学の復習 / 年末および年度末に向けての学習計画
- 第27回 臨床思考の入り口①
- 第28回 臨床思考の入り口②
- 第29回 臨床思考の入り口③
- 第30回 科目試験に向けて③

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                   |    |   |                                                                             |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                   |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                                                                   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                                 | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 遠隔授業や講義内での提出物（レポート等）80％、小テスト（講義内テスト）で20％とする。正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点）また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-2点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・授業内で取り扱う内容は、事前に学習している内容である。そのため授業内で取り扱った内容は、必ず教科書で読み返し復習することを推奨する。
- ・学習習慣をつけるため、提示された課題以外に、自主的な調べ学習を行うことを強く推奨する。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

- 書 名：基礎運動学  
著者名：中村隆一、斎藤宏  
出版社：医歯薬出版
- 
- 書 名：PT・OT・STのための解剖学  
著者名：渡辺正仁 監修  
出版社：廣川書店
- 
- 書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学  
著者名：岡田隆夫、長岡正範  
出版社：医学書院
- 
- 書 名：ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学  
著者名：白田 滋 編  
出版社：医歯薬出版
- 
- 書 名：カラー図解 神経系解剖学講義ノート  
著者名：寺島 俊雄  
出版社：株式会社 金芳堂

## ■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。また、準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣を身に付けること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、必ず数日中に講義資料等を取りに来ること。

|          |                                                                                                                    |      |     |       |      |          |    |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | スタディースキルⅡ                                                                                                          |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 藪中 良彦・田中 稔・中村 彩・貫戸 紗英子（4 名とも実務経験者）                                                                                 |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 講義は毎時間、3 名の担当で担当する。<br>藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で 20 年間、小児訪問リハビリテーションで 5 年間の実務経験）<br>田中稔（理学療法士として整形外科クリニック、デイケアでの実務経験） |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                            | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                                                                                                                    | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

理学療法士として欠かせない徒手筋力検査・関節可動域検査に関わりが深い、筋の起始・停止、作用、触診に関わる学習を行う。これらの学習成果は実技を通して確認する。同様に、関節可動域検査、徒手筋力検査についても習得を目指す。

また、国家試験の頻出箇所である解剖・生理に関する学習も同時に進める。

## ■ 到達目標

- ・理学療法技術の習得に向けて、計画的に学習に取り組むことが出来る。
- ・MMT と ROM 測定に関わる主要な筋群を理解する。
- ・それらの筋の起始・停止を明示し、作用を説明できる。更には、正確な触診が行える。
- ・ROM 検査を正確に行うことができる。
- ・MMT を正確に行うことが出来る。
- ・解剖・生理学の知識を身につけ、頻出箇所は8割以上の正答出来る。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 上肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 1（肩甲帯周囲）
- 第3回 上肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 2（肩関節）
- 第4回 上肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 3（肘関節）
- 第5回 上肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 4（前腕前面）
- 第6回 上肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 5（前腕後面）
- 第7回 上肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 6（手関節）
- 第8回 下肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 1（股関節）
- 第9回 下肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 2（大腿前面）
- 第10回 下肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 3（大腿後面）
- 第11回 下肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 4（下腿前面）
- 第12回 下肢筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 5（下腿後面）
- 第13回 体幹筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 1（体幹前面）
- 第14回 体幹筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 2（体幹後面）
- 第15回 頭頸部・顔面筋の走行（起始・停止）、作用、触診について 1（頭頸部・顔面）
- 第16回 オリエンテーション、ROM 検査（上肢） 1 肩関節屈曲・伸展、外転・内転、  
国家試験基礎部分の復習 1
- 第17回 ROM 検査（上肢） 2 肩関節水平屈曲・伸展、外旋・内旋、肘関節屈曲・伸展  
国家試験基礎部分の復習 2
- 第18回 ROM 検査（上肢） 3 前腕回内・回外、手関節掌屈・背屈・撓屈・尺屈  
国家試験基礎部分の復習 3
- 第19回 第16回から第18回の実技確認テスト  
国家試験基礎部分の復習 4
- 第20回 MMT（上肢） 1 肩関節屈曲・伸展、外転、水平外転・内転  
国家試験基礎部分の復習 5

|      |                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------|
| 第21回 | MMT（上肢） 2 肩関節外旋・内旋、肘関節屈曲・伸展<br>国家試験基礎部分の復習 6                  |
| 第22回 | 第20回と第21回の実技確認テスト<br>国家試験基礎部分の復習 7                            |
| 第23回 | ROM 検査（下肢） 1 股関節屈曲・伸展、外転・内転、外旋・内旋<br>国家試験基礎部分の復習 8            |
| 第24回 | ROM 検査（下肢） 2 足関節背屈・底屈、足部外返し・内返し、外転・内転<br>国家試験基礎部分の復習 9        |
| 第25回 | 第23回と第24回の実技確認テスト<br>国家試験基礎部分の復習 10                           |
| 第26回 | MMT（下肢） 1 股関節屈曲・縫工筋・伸展、外転・TFL・内転<br>国家試験基礎部分の復習 11            |
| 第27回 | MMT（下肢） 2 股関節外旋・内旋、膝関節屈曲・伸展、足関節底屈・背屈内返し<br>国家試験基礎部分の復習 12     |
| 第28回 | MMT（下肢、体幹） 3 足関節内返し・底屈外返し、体幹伸展、骨盤挙上、体幹屈曲・回旋<br>国家試験基礎部分の復習 13 |
| 第29回 | 第26回から第28回の実技確認テスト<br>国家試験基礎部分の復習 14                          |
| 第30回 | ROM 検査（体幹） 1 体幹屈曲・伸展・回旋<br>国家試験基礎部分の復習 15                     |

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                   |     |   |  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                                                                 |     | % |  |
| レポートなど提出課題 | ◎                                                                                                                                                                                 |     | % |  |
| 小テスト（実技含む） | ◎                                                                                                                                                                                 | 100 | % |  |
| その他・備考     | 学習成果（実技の確認や確認テスト、提出課題）で 100%とする。<br>出席：正当な理由のない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4 点、遅刻：-2 点）<br>ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。<br>授業参加態度：授業への参加態度に問題があり、警告を与えた後も問題が持続する場合は、減点対象とする（1 回：-2 点） |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

理学療法士に必須の知識・技術である。

紙面上の知識についてはテキストの該当ページを用いて予習を行ってこること。該当箇所は都度提示する。  
技術の習得には授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。上記の学習計画に基づき、以下の状況で講義に参加すること。

- ・それぞれの筋の起始・停止を明示出来る、作用を説明出来る、正確な触診が行える。
- ・ROM 検査も同様に測定肢位、基本軸・移動軸、注意点などを理解し、正しく測定が行える。
- ・MMT では、関係する筋群、測定肢位、運動方向、抵抗位置、注意点などを理解し、正しい測定が行える。

## ■ 教科書

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢

著者名：青木隆明（監修）、林典雄（執筆）

出版社：メジカルビュー社

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹

著者名：青木隆明（監修）、林典雄（執筆）

出版社：メジカルビュー社

書名：臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一、他（訳）

出版社：共同医書出版

書名：PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編

著者名：ヒントレ研究所

出版社：南江堂

## ■ 参考図書

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

## ■ 留意事項

真摯に学習に臨むこと。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

この科目内容を理解・定着するためには、「解剖学」「生理学」「運動学」「評価学」などの科目の理解が重要である。

|          |                                                                                                                                      |      |     |       |      |         |    |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 理学療法概論（制度・教育・倫理）                                                                                                                     |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 藪中 良彦, 岩田 篤、岡 智大                                                                                                                     |      |     |       |      | (オムニバス) |    |
| 実務経験者の概要 | 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で 20 年、小児訪問リハビリテーションで 8 年の実務経験）<br>岩田篤（理学療法士として、神経疾患を多く有する慢性期病院での実務経験あり）<br>岡智大（理学療法士として、整形外科疾患を主とする病院での実務経験あり） |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                                              | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義      | 講義 |
|          |                                                                                                                                      | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   | 形式      |    |

## ■ 内 容

理学療法士になる事を目標に入学してきてはいるが、理学療法のわずかな部分の知識しかない学生に対して、今後4年間学ぶ理学療法の大枠を示す。

## ■ 到達目標

理学療法の大枠を理解することにより、今後4年間で学ばなければならない内容の概略を把握する。

## ■ 授業計画

- 第1回 当大学の理学療法学専攻のカリキュラムの解説  
 理学療法の歴史、理学療法の定義、理学療法を構成する各種技術の概要、理学療法とリハビリテーション
- 第2回 理学療法と障害、医学の領域、理学療法の対象。
- 第3回 理学療法の流れ（理学療法過程）、クリニカルパス、理学療法における診療ガイドラインの適用
- 第4回 理学療法士の使命と倫理、理学療法士に関する法律、理学療法士に求められる資質、接遇・コミュニケーション
- 第5回 理学療法士が働く現場
- 第6回 理学療法士の職能
- 第7回 理学療法（士）教育
- 第8回 中枢神経疾患理学療法概論
- 第9回 整形外科疾患理学療法概論
- 第10回 小児理学療法概論
- 第11回 理学療法研究
- 第12回 理学療法士と報酬
- 第13回 医療事故
- 第14回 感染予防
- 第15回 理学療法記録とまとめ方、臨床実習において学生に求められるもの、フィールドワークをやってみよう

## ■ 評価方法

|            |                                                                                         |    |   |                                                                             |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                       | 50 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                         |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                       | 50 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 出席（欠席 -4 点、遅刻／早退 -2 点、居眠り -1 点）<br>Moodle 課題（または小テスト）＋予習課題＋授業中の口頭試問（50 点）<br>筆記試験（50 点） |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲の予習を行う。予習を行っていることを前提に、授業中に口頭試問を行う。また、第1回目の授業を除き、毎回前回の授業内容に関する小テストまたは課題提示を行い、授業の復習を促す。

## ■ 教科書

書 名：理学療法概論テキスト（理学療法入門テキスト 改訂第3版）  
著者名：監修 細田多穂、編集 中島喜代彦、森田正治、久保田章仁  
出版社：南江堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。予習の課題を Moodle に掲載するため、Moodle をしっかり確認してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

「理学療法概論」において4年間の理学療法学の学習の大枠を理解することで、各専門基礎科目および各理学療法専門科目を目的をしっかりと理解して学習することができるようになってください。

|          |                                                                                                        |      |     |       |      |          |    |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 臨床ゼミナールⅠ                                                                                               |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | PT 専任教員                                                                                                |      |     |       |      | (オムニバス)  |    |
| 実務経験者の概要 | 担当者（PT 専任教員）は、病院や福祉・介護施設、スポーツ現場など多岐に亘る現場での実務経験があると共に、各現場での実務指導にも従事した経験があり、それらの知見・経験を基に学生指導にあたる事が可能である。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                                                                                                        | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

大学生活をスタートし理学療法を学び始めたこの時期に、理想とする理学療法士像や求められる知識・技能・態度について理解を深めます。小グループ活動を基本とし、理学療法士に求められる知識・技術にふれ、学生同士さらには教員とともにディスカッションを行います。また、臨床で見学した経験をもとに、ディスカッション等を通して、理学療法の理解を促します

## ■ 到達目標

1. 実施方法や内容を理解し、ゼミに参加できる
2. 理学療法士の仕事について調べることができる
3. ゼミを協調的にすすめる事ができる
4. ゼミ内で自ら考え、調べ、準備し、伝える事ができる
5. ゼミで与えられた課題は期日までに実施し提出する事ができる
6. 教員に質問、相談することができる
7. 自分の行動を自分で振り返り、行動を修正する事ができる

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 目指す理学療法士になるために①
- 第3回 目指す理学療法士になるために②
- 第4回 目指す理学療法士になるために③
- 第5回 理学療法士について①
- 第6回 理学療法士について②
- 第7回 興味のある分野について①
- 第8回 興味のある分野について②
- 第9回 臨床実習とは－理学療法プロセスの理解－
- 第10回 ホウレンソウの重要性－KYTの視点から考える－
- 第11回 振り返り①
- 第12回 振り返り②
- 第13回 運動器系の解剖学・運動学の重要性－整形外科疾患の症例検討－
- 第14回 神経系の解剖学・生理学の重要性－中枢神経疾患の症例検討－
- 第15回 総括－入学当初の「私」との比較－

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                   |  |  |  |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                   |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                   |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                   |  |  |  |
| その他・備考     | 自己学習課題とディスカッションノート（50%） グループワークの内容、態度（50%）ゼミに臨む態度を重視するため、欠席 -8 点，遅刻・早退 -2 点（累積 3 回で欠席同様 -8 点）とする。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

小グループをつくり、グループ単位で実施します。グループ内で連絡が取れる体制を整え、連絡事項が行き届くようにしておくこと。また、グループワークがスムーズに実施できるよう、準備物、考えて来る事等を忘れないこと。質問や相談があれば担当教員に連絡を取ることに。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

1回1回が大切なゼミとなります。遅刻欠席が無いように取り組んでください。

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

グループの中で協調的に活動する事は、大学の学生生活および社会人として生活する中で、様々な問題を解決するためにも重要な行動です。また、信頼関係を構築するための基礎となります。参加する事はもちろん、その中で自分の考えを表現できる事、相手の意見を傾聴できること、グループとしての意見を円滑にまとめていく事が大切です。そのためにはグループ構成メンバー1人1人の理解と協力が必要です。お互いに尊重し合いながら、教員と共に活動し、それぞれのテーマについて大いに語り学び合う事を期待します。

|          |                                                                         |      |     |       |      |          |    |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 臨床ゼミナールⅡ                                                                |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 藪中 良彦（実務経験者）・田中 稔（実務経験者）・中村 彩（実務経験者）<br>貫戸 紗英子（実務経験者）・PT 専任教員（すべて実務経験者） |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 担当者は病院における臨床経験を積んでおり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定である。                 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                 | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                                                                         | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

理学療法士の職域について理解を深め、理学療法に対する興味や関心を高める。  
 学内での学習が臨床現場においてどのように活用されるのか、また、どのような知識が求められるのか、臨床現場での事例を基に理解を深め、学内での学習意欲の向上に繋げる。  
 理学療法士の活躍する領域や可能性について学習することにより、将来の進路選択に繋げる。

## ■ 到達目標

1. 理学療法士の職域を理解する。
2. 理学療法士に求められる知識と技術を理解する。
3. 臨床現場での事例を基に将来の進路選択に繋げる。

## ■ 授業計画

- 第1回 症例紹介 ～医学的情報の重要性～  
 第2回 小児理学療法 ～子どものリハビリの臨床場面の紹介～  
 第3回 理学療法における基礎研究 ～基礎研究と臨床のつながりについて～  
 第4回 脳卒中の理学療法 ～予後を見据えた理学療法の重要性～  
 第5回 運動器・スポーツ疾患の理学療法 ～バイオメカニクスに基づくアプローチについて～  
 第6回 臨床現場における理学療法教育～対象者、実習生への教育・指導について～  
 第7回 理学療法と立位姿勢制御  
 第8回 理学療法介入の実際〔実技含む〕～急性期から在宅まで～  
 第9回 理学療法士と ADL ～住宅改修や福祉機器について～  
 第10回 脳機能が解明されるまで？錯覚、無視、盲点の体験  
 第11回 急性期病院での臨床理学療法  
 第12回 障害者スポーツと理学療法  
 第13回 内部障害理学療法  
 第14回 人工関節後の理学療法～早期退院、早期社会復帰に向けたアプローチ～  
 第15回 まとめ（グループ・ディスカッション）

## ■ 評価方法

|            |                                     |     |   |  |
|------------|-------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                     |     |   |  |
| レポート       | ◎                                   | 100 | % |  |
| 小テスト       |                                     |     |   |  |
| その他・備考     | 各講義後にリアクションペーパーを作成し、提出する。その内容を評価する。 |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各領域に関して事前に調べてから講義に臨むこと。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認をしてください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

理学療法士の職域について理解を深め、理学療法士として将来どのように歩んでいくか考えるための講義である。積極的に講義に取り組むことを期待する。

|          |                             |      |    |       |     |         |    |
|----------|-----------------------------|------|----|-------|-----|---------|----|
| 授業科目     | 総合理学療法学Ⅰ                    |      |    |       |     |         |    |
| 担 当 者    | 3年チューター（すべて実務経験者）           |      |    |       |     | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり |      |    |       |     |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                     | 学 年  | 3年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                             | 開講時期 | 通年 | 選択・必修 | 必修  |         |    |

## ■ 内 容

評価実習の準備として、総合的に知識の復習を行う。

## ■ 到達目標

評価実習に必要な臨床医学の知識および理学療法専門分野の知識を修得する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 呼吸領域の臨床医学に関する学習1
- 第2回 呼吸領域の臨床医学に関する学習2
- 第3回 呼吸領域の臨床医学に関する学習3
- 第4回 循環器系の臨床医学に関する学習1
- 第5回 循環器系の臨床医学に関する学習2
- 第6回 循環器系の臨床医学に関する学習3
- 第7回 神経系の臨床医学に関する学習1
- 第8回 神経系の臨床医学に関する学習2
- 第9回 神経系の臨床医学に関する学習3
- 第10回 評価学系の理学療法専門分野に関する学習1
- 第11回 評価学系の理学療法専門分野に関する学習2
- 第12回 内科学系の理学療法専門分野に関する学習1
- 第13回 内科学系の理学療法専門分野に関する学習2
- 第14回 神経系の理学療法専門分野に関する学習1
- 第15回 神経系の理学療法専門分野に関する学習2

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                   |    |   |                                                                             |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                   |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                                                                   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                                 | 50 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 国家試験模試：50%<br>小テスト：50%<br>正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。<br>不真面目な受講態度や課題の未提出についても減点対象とする（-1点）。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

過去の資料を整理し、知識の定着に結び付けられるような準備をすること。

## ■ 教科書

書名：PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編（改訂第2版）

著者名：ヒントレ研究所（編集）

出版社：南江堂

書名：病気がみえる vol.4呼吸器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.2循環器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.7脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

提出を求められた場合は確実に提出すること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

総合理学療法学Ⅰは、これまで学修してきた臨床医学や評価学の内容を総合的に取り扱い、国家試験に向けた準備となる科目である。

|          |                          |      |     |       |      |      |    |
|----------|--------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 理学療法評価学Ⅰ                 |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 中村 彩（実務経験者）              |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、臨床現場において従事していた。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                  | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                          | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいか、また対象者の生活像の理解と分析のためにどのような方法があるか、具体的に代表的な方法を学修する。

## ■ 到達目標

1. 生活機能について説明できる
2. 理学療法評価の過程について説明できる
3. 基本動作の評価について説明できる
4. 形態測定、関節可動域測定、筋力検査法、神経系の検査の概要を説明できる

## ■ 授業計画

- 第1回 生活機能と理学療法評価、理学療法プロセス
- 第2回 理学療法評価（検査・測定）の概要
- 第3回 基本的動作・日常生活活動の評価
- 第4回 日常生活活動と生活の質の評価
- 第5回 関節可動域測定法の基礎
- 第6回 関節可動域測定法の実際
- 第7回 関節可動域測定法の実際
- 第8回 筋力検査法の基礎
- 第9回 筋力検査法の実際
- 第10回 筋力検査法の実際
- 第11回 形態測定
- 第12回 感覚検査とバランス検査
- 第13回 神経系の検査（反射・筋緊張）
- 第14回 神経系の検査（協調運動機能）
- 第15回 講義内容の総括・振り返り

## ■ 評価方法

|            |                                                                                       |    |   |                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                     | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                       |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                     | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 正当な理由のない欠席や遅刻については減点する（欠席：-2点、遅刻：-1点）。<br>不良な学習態度（必要な資料・教科書・物品の忘れなど）は減点対象（1回：-5点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業後には必ず内容の振り返りを講義時間と同程度行ってください。  
質問などがあれば、その都度教員へと質問してください。

## ■ 教科書

書 名：理学療法基礎評価学

著者名：臼田滋（編）

出版社：医歯薬出版

書 名：臨床 ROM－測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

## ■ 参考図書

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書 名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書 名：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版

著者名：嶋田智明・有馬慶美（監訳）

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

理学療法評価学は、解剖学や生理学・運動学などの基礎科目、2年生で学ぶ疾患などの臨床医学、その他の評価学や治療学などに関連が深い科目です。その最初の科目になりますので、真摯に学習へと取り組んで下さい。

|          |                                                                                                                                          |      |     |       |      |         |    |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 理学療法評価学Ⅱ                                                                                                                                 |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 牧之瀬 一博・相原 一貴・津村 宜秀 （すべて実務経験者）                                                                                                            |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 牧之瀬一博（理学療法士として慢性期医療施設、通所リハ、訪問リハなどで10年の実務経験）<br>相原一貴（理学療法士としての臨床経験があり、現在も維持期の病院に携わっている）<br>津村宜秀（理学療法士として急性期病棟や地域包括ケア病棟、慢性期病院での臨床経験を有している） |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                                                  | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義      | 講義 |
|          |                                                                                                                                          | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   | 形式      |    |

## ■ 内 容

理学療法評価学Ⅰに引き続き、評価のための様々な評価法、検査法の各論について学び、その方法と意義について理解する。バイタル測定、形態測定、関節可動域測定、筋力検査、脳神経検査、整形外科的テストなどをその内容とする。

## ■ 到達目標

- ・各種検査法の測定法・注意点について説明できる。
- ・各種検査法を学生同士で概ね実施することができる。
- ・各種検査法の臨床的意義を説明できる。
- ・理学療法評価を解剖学・運動学・生理学に基づいて理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション、理学療法評価学Ⅰの振り返り  
 理学療法評価学Ⅱの目指すところ（牧之瀬）
- 第2回 関節可動域検査（上肢） 関節可動域測定に関する講義（牧之瀬）
- 第3回 関節可動域検査（上肢） 関節可動域測定に関する講義（牧之瀬）
- 第4回 関節可動域検査（上肢） 関節可動域測定に関する講義（牧之瀬）
- 第5回 関節可動域検査（上肢） 関節可動域測定に関する講義（牧之瀬）
- 第6回 徒手筋力検査（上肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義（牧之瀬）
- 第7回 徒手筋力検査（上肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義（牧之瀬）
- 第8回 徒手筋力検査（上肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義（牧之瀬）
- 第9回 徒手筋力検査（上肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義（牧之瀬）
- 第10回 神経系（脳神経検査）の評価の実際（津村）
- 第11回 神経系（脳神経検査）の評価の実際（津村）
- 第12回 神経系（脳神経検査）の評価の実際（津村）
- 第13回 運動器疾患の評価の実際（相原）
- 第14回 運動器疾患の評価の実際（相原）
- 第15回 運動器疾患の評価の実際（相原）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                 |    |   |                                                                             |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                               | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポートなど提出課題 |                                                                                                                                                 |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                                               | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 出席：学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。<br>また、不良な学習態度（指示を守らない、提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1回につき-5点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

真摯に学習に臨むこと。

小テストが実施される場合、十分に学習した状態で小テストを受けるよう計画的に準備する事。また小テストの受験により不理解の箇所が判明した場合、しっかりと再学習を行うこと。解決が困難な場合は、オフィスアワーなどを活用する事。

## ■ 教科書

書 名：臨床 ROM- 測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：理学療法評価学

著者名：松澤正，江口勝彦

出版社：金原出版

書 名：神経診察クロズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

## ■ 参考図書

書 名：理学療法基礎評価学

著者名：臼田 滋（編）

出版社：医歯薬出版

書 名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書 名：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版

著者名：嶋田智明・有馬慶美（監訳）

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

真摯に学習に臨むこと。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

真摯に学習に臨むこと。

|          |                                                                                                  |      |     |       |      |         |    |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 理学療法評価学Ⅲ（画像評価を含む）                                                                                |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 田坂 厚志・藪中 良彦・津村 宜秀（すべて実務経験者）                                                                      |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 田坂厚志（総合病院、介護老人保健施設、クリニックでの実務経験あり）、藪中良彦（肢体不自由施設で20年間、小児訪問リハビリテーションで5年間の実務経験あり）、津村宜秀（病院などでの実務経験あり） |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                          | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義      | 講義 |
|          |                                                                                                  | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   | 形式      |    |

## ■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、呼吸循環代謝疾患、小児疾患、中枢神経疾患に関する病態と障害に対する評価法について学びます。

## ■ 到達目標

1. 代表的な呼吸循環代謝疾患に関わる検査及び評価法について説明することができる。
2. 臨床像と年齢を基に適切な小児期の理学療法評価法を選択できるようになる。
3. 総合評価の実施方法と、得られた検査結果の解釈について理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 呼吸器理学療法評価Ⅰ（呼吸困難の評価）  
田坂（実務経験者）
- 第2回 呼吸器理学療法評価Ⅱ（フィジカルアセスメント）  
田坂（実務経験者）
- 第3回 呼吸器理学療法評価Ⅲ（画像評価・スパイロメトリー）  
田坂（実務経験者）
- 第4回 循環器理学療法評価Ⅰ（冠危険因子・画像評価）  
田坂（実務経験者）
- 第5回 循環器理学療法評価Ⅱ（心臓カテーテル検査・心臓エコー検査等）  
田坂（実務経験者）
- 第6回 循環器理学療法評価Ⅲ（心電図・身体機能検査等）  
田坂（実務経験者）
- 第7回 代謝疾患に対する理学療法評価  
田坂（実務経験者）
- 第8回 小児期理学療法評価Ⅰ  
藪中（実務経験者）
- 第9回 小児期理学療法評価Ⅱ  
藪中（実務経験者）
- 第10回 片麻痺患者の評価Ⅰ（運動麻痺・痙縮・共同運動）  
津村（実務経験者）
- 第11回 片麻痺患者の評価Ⅱ（体幹機能と歩行動作獲得の関係）  
津村（実務経験者）
- 第12回 脳卒中患者の総合評価（NIHSS）  
津村（実務経験者）
- 第13回 脳卒中患者の総合評価（SIAS）  
津村（実務経験者）
- 第14回 運動失調の評価（SARA）  
津村（実務経験者）
- 第15回 理学療法評価への脳画像（頭部CT、MRI）の応用  
津村（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                     |    |   |                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                   | 90 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                                                     |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                   | 10 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 提出物<br>正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。<br>授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）に関しては減点（-2点）対象とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

適宜提示する課題を確実に学習すること。  
提出を求められた場合は確実に提出すること。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

- 書 名：GMFM－粗大運動能力尺度  
著者名：近藤 和泉、福田 道隆、青山 香  
出版社：医学書院
- 
- 書 名：Clinics in Developmental Medicine Gross Motor Function Measure (GMFM-66 & GMFM-88) User's Manual 2nd Edition  
著者名：Dianne J. Russell、Peter L. Rosenbaum、Lisa M. Avery、Marilyn Wright  
出版社：Mac Keith Press
- 
- 書 名：Gross Motor Function Measure (GMFM) Self-Instructional Training CD-ROM  
著者名：Mary Lane、Dianne Russell  
出版社：Mac Keith Press
- 
- 書 名：PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価表  
著者名：里宇明元、近藤和泉、間川博之  
出版社：医歯薬出版株式会社
- 
- 書 名：脳性まひ児の24時間姿勢ケア－ The Chailey Approach to Postural Management  
著者名：今川忠男  
出版社：三輪書店
- 
- 書 名：EBOT 時代の評価法 作業療法ジャーナル増刊号 Vol.38. No. 7. 2004  
出版社：三輪書店
- 
- 書 名：ベッドサイドの神経の診かた  
著者名：田崎 義昭、斎藤 佳雄、坂井 文彦  
出版社：南山堂
- 
- 書 名：脳卒中理学療法の理論と技術 第3版  
著者名：原寛美、吉尾雅春  
出版社：MEDICAL VIEW
- 
- 書 名：標準理学療法学 神経理学療法学 第2版  
著者名：吉尾 雅春、森岡 周、阿部 浩明  
出版社：医学書院

書 名：セラピストのための脳卒中評価指標の解釈と活用

著者名：高見 彰淑

出版社：MEDICAL VIEW

書 名：CD-ROM でレッスン 脳画像の読み方

著者名：石原 健司

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：内部障害理学療法学テキスト改訂第3版

著者名：山崎裕司 / 川俣幹雄 / 丸岡弘 編集

出版社：南江堂

## ■ 留 意 事 項

無断欠席や遅刻に注意してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

これまでに学んできた解剖学、運動学、生理学の内容をしっかりと復習して学修を進めること。

|          |                                                                        |      |     |       |      |          |    |
|----------|------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 理学療法評価学実習                                                              |      |     |       |      |          |    |
| 担当者      | 牧之瀬 一博（実務経験者）                                                          |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 | 牧之瀬一博（理学療法士として慢性期医療施設、通所リハ、訪問リハなどで 10 年の実務経験、現在も整形外科クリニックにて臨床活動を行っている） |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          |                                                                        | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

理学療法評価学Ⅰ・Ⅱに引き続き、評価のための様々な評価法、検査法の各論について学び、その方法と意義について理解する。形態測定、関節可動域測定、筋力検査、各種神経学的検査、片麻痺運動機能テスト、感覚検査などをその内容とする。

その他、臨床場面を意識して、ペーパーペイシェントを用いた演習で障害構造について講義・演習を行う。必要に応じてグループ学習を行い、他者との関わりの中で思考を深める。

## ■ 到達目標

- ・各種検査法の測定法・注意点について説明できる。
- ・各種検査法を学生同士で概ね実施することができる。
- ・各種検査法の臨床的意義を説明できる。
- ・理学療法評価を解剖学・運動学・生理学に基づいて理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、理学療法評価学実習の目指すところ（牧之瀬）
- 第2回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する講義
- 第3回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する講義
- 第4回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する実習（検査実技）
- 第5回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する講義
- 第6回 関節可動域検査（下肢） 関節可動域測定に関する実習（検査実技）
- 第7回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第8回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の実習（検査実技）
- 第9回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第10回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の実習（検査実技）
- 第11回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第12回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の実習（検査実技）
- 第13回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の注意点（肢位や代償動作など）に関する講義
- 第14回 徒手筋力検査（下肢） 筋力測定の実習（検査実技）
- 第15回 神経学的検査（腱反射・病的反射・筋緊張検査）の講義
- 第16回 神経学的検査（腱反射・病的反射・筋緊張検査）の実習（検査実技）
- 第17回 神経学的検査（片麻痺運動機能テスト）の講義と講義
- 第18回 神経学的検査（片麻痺運動機能テスト）の講義と実習（検査実技）
- 第19回 感覚検査 感覚検査の意義と感覚障害（病態）に関する講義
- 第20回 感覚検査 感覚検査の実習（検査実技）
- 第21回 ペーパーペイシェントを用いた運動器疾患の障害像の理解
- 第22回 ペーパーペイシェントを用いた運動器疾患の障害像の理解
- 第23回 バイタルサインの測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、各種基本的検査法  
まとめと実技

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                       |    |   |  |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                                     | 50 | % |  |
| 小テスト及び提出課題 | ◎                                                                                                                                                     | 30 | % |  |
| 実技試験       | ◎                                                                                                                                                     | 20 | % |  |
| その他・備考     | 出席：学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4 点、遅刻：-2 点） ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。<br>また、不良な学習態度（指示を守らない、提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1 回につき -5 点）とする。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

真摯に学習に臨むこと。

小テストが実施される場合、十分に学習した状態で小テストを受けるよう計画的に準備する事。また小テストの受験により不理解の箇所が判明した場合、しっかりと再学習を行うこと。解決が困難な場合は、オフィスアワーなどを活用する事。

## ■ 教科書

書 名：臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一、他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：理学療法評価学

著者名：松澤正、江口勝彦

出版社：金原出版

書 名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

書 名：観察による歩行分析

著者名：月城 慶一、他（訳）

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：理学療法基礎評価学

著者名：臼田 滋（編）

出版社：医歯薬出版

書 名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏、長崎浩

出版社：医歯薬出版

書 名：筋骨格系のキネシオロジー カラー版

著者名：有馬慶美・日高正巳（監訳）

出版社：医歯薬出版

## ■ 留 意 事 項

真摯に学習に臨むこと。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

理学療法評価学Ⅰ／Ⅱと関連が深い科目である。また、この科目の履修後には臨床実習Ⅰがあり、実際の対象者に検査測定を実施することになります。

|          |                             |      |    |       |     |          |    |
|----------|-----------------------------|------|----|-------|-----|----------|----|
| 授業科目     | 理学療法評価学演習Ⅰ                  |      |    |       |     |          |    |
| 担 当 者    | 3年チューター（すべて実務経験者）           |      |    |       |     | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり |      |    |       |     |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                     | 学 年  | 3年 | 総単位数  | 1単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                             | 開講時期 | 通年 | 選択・必修 | 必修  |          |    |

## ■ 内 容

見学実習Ⅱおよび評価実習に向けた準備として、臨床で用いられる頻度が高い検査／測定項目を取り上げ、実技や演習を通してそれぞれの検査／測定意義について学ぶ。

## ■ 到達目標

理学療法現場で実施される基本的な検査／測定が実施できる。  
理学療法現場で実施される基本的な検査／測定の意義が理解できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 触診／形態測定の測定意義と実践
- 第3回 ROM 測定（上肢）の測定意義と実践
- 第4回 ROM 測定（下肢／体幹）の測定意義と実践
- 第5回 MMT（上肢）の検査意義と実践
- 第6回 MMT（下肢／体幹）の検査意義と実践
- 第7回 片麻痺機能検査／反射検査の検査意義と実践
- 第8回 失調症検査の検査意義と実践
- 第9回 感覚検査（表在感覚）の検査意義と実践
- 第10回 感覚検査（深部感覚）の検査意義と実践
- 第11回 特殊検査（トーマステスト／Oberテスト／ラセーグテスト／ブラガードテスト等）の検査意義と実践
- 第12回 バランス検査／歩行検査の検査意義と実践
- 第13回 模擬症例を用いた演習①
- 第14回 模擬症例を用いた演習②
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                            |  |  |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                            |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                                                            |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                            |  |  |  |
| その他・備考     | 実技試験（Basic OSCE）：80%<br>提出物：20%<br>正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。<br>不真面目な受講態度や課題の未提出についても減点対象とする（-1点）。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

これまでに学修してきた理学療法評価技術等に関しては自主練習等で復習をすること。

## ■ 教科書

書 名：理学療法基礎評価学

著者名：臼田 滋（編）

出版社：医歯薬出版

書 名：臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

## ■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書 名：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版

著者名：嶋田智明・有馬慶美（監訳）

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

提出を求められた場合は確実に提出すること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

理学療法評価学演習Ⅰは、これまで学修してきた評価学の内容を取り扱い、臨床実習に向けた準備となる科目である。

|          |                                                                                                                                 |      |     |       |      |         |    |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 理学療法評価学演習Ⅱ（思考プロセス）                                                                                                              |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 牧之瀬 一博、田坂 厚志、相原 一貴（すべて実務経験者）                                                                                                    |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 牧之瀬一博（理学療法士として慢性期医療施設、通所リハ、訪問リハなどで 10 年の実務経験）<br>田坂厚志（理学療法士として、病院や介護老人保健施設等での実務経験あり）<br>相原一貴（理学療法士としての臨床経験があり、現在も維持期の病院に携わっている） |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                                         | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義      | 演習 |
|          |                                                                                                                                 | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   | 形式      |    |

## ■ 内 容

3年後期で行う理学療法評価学演習Ⅱは、臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程、評価技能の理解を目指す。特に、代表的な疾患に対する病態の理解から評価の選択などの臨床思考過程を学び、症例像に合わせた実技までを体系的に学ぶ。

また、実際の症例の動画を用いて、動作観察・分析の思考過程をトレーニングする。

これらの実施を通して、総合臨床実習に向けた臨床思考能力及び評価方法をトレーニングする場とする。

## ■ 到達目標

- ・代表的な疾患に対して、障害像を理解し説明できる。
- ・代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた理学療法評価を選択できる。
- ・代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた評価方法を理解し説明できる。
- ・代表的な疾患に対して、評価結果から問題点を抽出できる。
- ・動作の観察から逸脱動作を複数抽出できる。
- ・逸脱動作から複数の機能障害を推測する事ができる。
- ・総合臨床実習に向けた基本的な評価内容を理解し説明できる。
- ・グループでの学修を通して、協同的な活動に参加し、クラス全体の能力向上に寄与することが出来る。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 理学療法評価学演習の目指すところ（症候障害学ならびにクリニカル・リーズニング）  
理学療法評価の思考過程（Top down 評価と Bottom up 評価）  
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第2回 脳血管症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈  
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第3回 脳血管症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈  
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第4回 神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈  
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第5回 神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈  
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第6回 運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈  
田坂厚志（実務経験者）
- 第7回 運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈  
田坂厚志（実務経験者）
- 第8回 運動器疾患（THA など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈  
相原一貴（実務経験者）
- 第9回 運動器疾患（THA など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈  
相原一貴（実務経験者）
- 第10回 動作観察・分析①（逸脱動作を抽出する）  
牧之瀬一博（実務経験者）

- 第11回 動作観察・分析②（逸脱動作から機能障害を推論する）  
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第12回 動作観察・分析③（逸脱動作から機能障害を推論する）  
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第13回 動作観察・分析④（逸脱動作から機能障害を推論する）  
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第14回 総合臨床実習に向けた演習①（レポートなどの記載方法・Daily note の記載方法）  
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第15回 総合臨床実習に向けた演習②（レポートなどの記載方法・Daily note の記載方法）  
牧之瀬一博（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                            |    |   |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                                          | 70 | % |
| レポートなど提出課題 | ◎                                                                                                                                                          | 30 | % |
| 小テスト       |                                                                                                                                                            |    |   |
| その他・備考     | <p>出席：学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。</p> <p>また、不良な学習態度（指示を守らない、提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1回につき-5点）とする。</p> |    |   |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

理学療法評価学演習Ⅱは理学療法評価学の総まとめである。この科目を履修し終える頃には、評価過程を独力で実施出来る状態となることが求められる。その為、授業時間外の学修にも真摯に臨むこと。

予習に関しては都度必要な内容について提示する。

第2～9回の講義においては、それぞれの疾患の病態や臨床症状についての理解が求められる。臨床神経学や整形外科学での講義内容について復習して講義に臨むこと。また、講義後の復習課題などについても真摯に取り組むこと。

第10～13回の講義については、教科書『観察による歩行分析』を用いた学習を行った上で受講して下さい。歩行時の関節運動がイメージ出来、また筋活動が説明できるようになる事が大切です。異常歩行についてもその成り立ちを含めて説明できるようになって下さい。特に、こういった運動分析が苦手な学生は、まず基本的な解剖（筋の走行）・運動学（筋の作用）について理解度を確認する必要がある。これらの基本が押さえられていれば、繰り返しの思考のトレーニングが必要である。

## ■ 教科書

書名：標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ

著者名：鶴見隆正、辻下守弘（編集）

出版社：医学書院

書名：観察による歩行分析

著者名：月城 慶一、他（訳）

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：理学療法基礎評価学

著者名：臼田 滋（編）

出版社：医歯薬出版

書 名：理学療法評価学

著者名：松澤正、江口勝彦

出版社：金原出版

書 名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一、他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書 名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

書 名：症候障害学序説 理学療法の臨床思考過程モデル

著者名：内山 靖

出版社：文光堂

書 名：理学療法臨床実習サポートブック

著者名：岡田 慎一郎／上村 忠正／永井 絢也／長谷川 真人／村上 京子／守澤 幸晃

出版社：医学書院

## ■ 留意事項

真摯に学習に臨むこと。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

評価学は、1 / 2 年次に学習した評価学の内容のみならず、「解剖学」「生理学」「運動学」などの基礎、「臨床神経学」「整形外科学」「内科学」などの臨床医学、あらゆる科目との関連性を持った科目です。長期の実習に出る前までの、学内での最後の学習期間です。全ての科目の理解を高め、評価学についても理解できるように努めて下さい。

|          |                                                                 |      |    |       |     |      |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 運動療法学Ⅰ                                                          |      |    |       |     |      |    |
| 担当者      | 柳 千磨（実務経験者）                                                     |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士としての臨床経験があり、クリニック・総合病院等で運動療法を介して治療を行っていた。現在も維持期の病院に携わっている。 |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                         | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                                                 | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

理学療法における運動療法の位置づけと基本的概念を学ぶ。  
解剖学・運動学・生理学などの基礎科目に立脚した学びを通して、運動療法を理解する。

## ■ 到達目標

疾患・症状に対応する各種運動療法の理論・目的・方法・適応について理解出来る。  
各種運動療法を解剖・生理・運動学に基づいて理解し、論理的に解説できる。  
関節拘縮の様々な因子について理解し、それらに対する関節可動域運動を説明することができる。  
筋力調節・増強に関わる因子について理解し、整理して論理的に解説する事が出来る。  
筋力増強運動の原則について理解し、適切な筋力増強運動について思考することが出来る。

## ■ 授業計画

- 第1回 運動療法の定義と特徴
- 第2回 関節可動域障害に対する運動療法（関節の構造と運動・関節拘縮）
- 第3回 関節可動域障害に対する運動療法（関節の構造と運動・関節拘縮）
- 第4回 関節可動域障害に対する運動療法（ストレッチング・モビライゼーション）
- 第5回 関節可動域障害に対する運動療法（ストレッチング・モビライゼーション）
- 第6回 筋力低下に対する運動療法（筋の構造・収縮様式・筋張力の規定因子）
- 第7回 筋力低下に対する運動療法（筋力増強の原則・筋力増強運動）
- 第8回 筋力低下に対する運動療法（筋力増強の原則・筋力増強運動）
- 第9回 持久力増強運動（筋持久力・全身持久力）
- 第10回 協調性障害に対する運動療法
- 第11回 運動学習を目的とした運動療法
- 第12回 バランス機能について
- 第13回 痛みに対する運動療法
- 第14回 嚥下機能障害に対する運動療法
- 第15回 その他（神経生理学的アプローチ等）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                   |    |   |                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                 | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                                   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                 | 40 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。<br>(欠席：-4点、遅刻：-2点)<br>また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする。<br>(1回：-2点) |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各学生は授業後十分に復習を行うようにしてください。2回目授業以降、小テストで理解度の確認を行ってまいります。

## ■ 教 科 書

書 名：運動療法学～障害別アプローチの理論と実際～第2版

著者名：市橋則明（編）

出版社：文光堂

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

基本的に座学ですが、随時実技も織り交ぜて授業を進めていきます。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

本科目で運動療法の基本的な知識・技術を学んでもらい、「運動療法学Ⅱ」でさらに発展的に実践してもらう形になります。

|          |                                                         |      |     |       |      |          |    |
|----------|---------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 運動療法学Ⅱ                                                  |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 田坂厚志・岡智大（すべて実務経験者）                                      |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 田坂厚志：病院、介護老人保健施設、クリニックでの実務経験あり<br>岡 智大：病院、クリニックでの実務経験あり |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                 | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          |                                                         | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

運動療法学Ⅰで学んだ知識をもとに、学生間での実技演習を通して各運動療法の基本的な技術を身につける。また、障害を有する対象者に対して、どのようにリスクを管理しながら効果的な運動療法を実施していくかを思考し模擬的に実施する。そのため、本学の履修においては、運動療法の原則や疾患の知識を復習しながら学んでいく。

## ■ 到達目標

1. 運動療法に必要な解剖・運動・生理学の知識及び運動療法の原則について理解を深める
2. 学生同士で各運動療法技術を実施することができる
3. 各運動療法技術を障害のある対象者に実施する際の注意点（リスク）を理解できる
4. 各障害を想定した運動療法を模擬的に実施できる

## ■ 授業計画

- 第1回 コースガイダンス  
運動療法の種類、方法、運動療法に必要な四肢・体幹の触知：岡（実務経験者）
- 第2回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第3回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第4回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第5回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：田坂（実務経験者）
- 第6回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：田坂（実務経験者）
- 第7回 全身調整運動（健康増進を含む）：田坂（実務経験者）
- 第8回 運動療法に必要な四肢・体幹の触知：岡（実務経験者）
- 第9回 筋力低下に対する運動療法の実際：岡（実務経験者）
- 第10回 筋力低下に対する運動療法の実際：岡（実務経験者）
- 第11回 筋力低下に対する運動療法の実際：岡（実務経験者）
- 第12回 協調性障害に対する運動療法（運動の協調性、バランス障害）：岡（実務経験者）
- 第13回 協調性障害に対する運動療法（運動の協調性、バランス障害）：岡（実務経験者）
- 第14回 自動介助運動の仕方：岡（実務経験者）
- 第15回 実技の到達度確認①：岡（実務経験者）、田坂（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                    |    |   |  |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                  | 80 | % |  |
| レポート       |                                                                                                                                    |    |   |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                    |    |   |  |
| その他・備考     | 実技試験（実技の到達度）20%<br>正当な理由の無い欠席（-4 点）、遅刻（-2 点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。<br>授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）に関しては減点（-2 点）対象とする。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業前には該当する運動療法学の知識を復習して臨んでください。

運動療法の技術を習得するためには、理論となる知識をしっかりと覚えること、そして実技の練習を何回も繰り返して行う必要があります。授業中に知識と実技の習得に真剣に取り組むことはもちろん、授業後も知識・技術を習得するための復習を行い、理学療法士の主要な治療技術の基本を身につけてください。

## ■ 教科書

書 名：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版

著者名：市橋 則明（編）

出版社：文光堂

## ■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第4版

著者名：シリーズ監修：奈良 勲 編集：吉尾 雅春

出版社：医学書院

書 名：crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学

著者名：対馬 栄輝

出版社：メジカルビュー

書 名：最新運動療法大全 I 基礎編 第6版

著者名：キャロリン・キスナー / リン・アラン・コルビー 他

出版社：ガイアブックス

## ■ 留意事項

理解できなかった内容や、実施方法が分からなかった場合は必ず質問に来ること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

学内の授業の際に実技を実施する際は、学校指定のジャージを着用すること。また、接触を伴うことから、感染症の予防として授業前後に手洗いを行い、授業中はマスクを着用すること。また、状況に応じてフェイスシールドを着用すること。

|          |                                                  |      |     |       |      |      |    |
|----------|--------------------------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 小児期理学療法治療学                                       |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 藪中 良彦                                            |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年、小児訪問リハビリテーションで8年の実務経験） |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                          | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                                  | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

正常発達と共に各疾患別の発達を理解し、小児理学療法評価法を学び、各小児疾患別の治療プログラム立案について学習する。

## ■ 到達目標

脳性麻痺や二分脊椎や筋ジストロフィー等の小児理学療法対象疾患のある子ども達に対して、適切な評価・治療が行えるようになること。

## ■ 授業計画

|      |     |              |   |                             |
|------|-----|--------------|---|-----------------------------|
| 第1回  | 第1章 | 小児理学療法概論     | 1 | 小児理学療法のパラダイムシフト             |
| 第2回  | 第1章 | 小児理学療法概論     | 2 | 運動学習の原則                     |
| 第3回  | 第1章 | 小児理学療法概論     | 3 | 小児理学療法の評価、4 小児理学療法アプローチの枠組み |
| 第4回  | 第2章 | 子どもの発達と評価・介入 | 5 | 姿勢と粗大運動                     |
| 第5回  | 第2章 | 子どもの発達と評価・介入 | 5 | 姿勢と粗大運動、4 呼吸・循環器系           |
| 第6回  | 第2章 | 子どもの発達と評価・介入 | 4 | 呼吸・循環器系                     |
| 第7回  | 第3章 | 疾患・対象児別アプローチ | 1 | 低出生体重児・ハイリスク児               |
| 第8回  | 第3章 | 疾患・対象児別アプローチ | 2 | 脳性麻痺                        |
| 第9回  | 第3章 | 疾患・対象児別アプローチ | 2 | 脳性麻痺                        |
| 第10回 | 第3章 | 疾患・対象児別アプローチ | 3 | 重症心身障害                      |
| 第11回 | 第3章 | 疾患・対象児別アプローチ | 4 | 小児整形疾患                      |
| 第12回 | 第3章 | 疾患・対象児別アプローチ | 5 | 筋ジストロフィー                    |
| 第13回 | 第3章 | 疾患・対象児別アプローチ | 7 | 発達障害                        |
| 第14回 | 第3章 | 疾患・対象児別アプローチ | 6 | 精神発達遅滞、8 地域学校での理学療法         |
| 第15回 | 第3章 | 疾患・対象児別アプローチ |   | 症例集                         |

## ■ 評価方法

|            |                                                                        |    |   |                                                                             |
|------------|------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                      | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                        |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                      | 40 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 出席（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点）<br>Moodle 課題＋予習課題＋授業中の口頭試問（40点）<br>筆記試験（60点） |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲の予習を行う。予習を行っていることを前提に、授業中に口頭試問を行う。また、毎回の講義後に Moodle 課題および課題提示を行い、授業の復習を促す。

## ■ 教科書

書 名：小児理学療法学  
著者名：藪中良彦、木元稔、坂本仁（編集）  
出版社：メジカルビュー社

## ■ 参考図書

書 名：イラストでわかる小児理学療法  
著者名：上杉雅之 監修  
出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。予習の課題を Moodle に掲載するため、Moodle をしっかり確認してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

「生涯人間発達学」で学んだ小児の正常発達の知識を基に、身体障害のある子どもたちへの理学療法治療を学習してください。また、正常発達を基にした各小児疾患患児への理学療法治療の知識を、成人の身体障がい者への治療に応用できるようになってください。

|          |                                                    |      |     |       |      |      |    |
|----------|----------------------------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 呼吸器障害理学療法治療学（喀痰等の吸引を含む）                            |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 野村 卓生                                              |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士としての臨床経験があり、急性期から慢性期の呼吸器障害を有する患者の理学療法に携わってきた。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                            | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                                    | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

「呼吸と運動」に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、呼吸器疾患の病態およびその基本治療を学ぶ。酸素化能障害や換気能力障害などの呼吸器の障害に対する評価と理学療法について、その禁忌やリスク管理をふまえて講義し、実技実習を行う。

## ■ 到達目標

- 1) 運動器障害や神経障害と同様に理学療法士が対処する主要な障害として関心をもつ。
- 2) 内部障害領域における理学療法士の存在意義と役割を考える。
- 3) 呼吸器系の障害を有する患者の運動耐容能を評価できる。
- 4) 呼吸器系の障害を有する患者に理学療法を行う上でリスク管理ができる。
- 5) 運動時の呼吸器系の適応について説明できる。
- 6) 呼吸器系の障害が運動を制限するメカニズムを説明できる。
- 7) 呼吸器系の障害を有する患者の急性期・回復期・生活期理学療法について説明できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 「呼吸理学療法総論」「科目オリエンテーション」  
内部障害の範囲と特徴を理解する。呼吸器系の解剖学・運動学を復習しつつ、呼吸器系の役割と運動時の適応、呼吸器系の障害が運動を制限するメカニズムを学習する。
- 第2回 「呼吸器系の生理学、呼吸不全の病態と呼吸器疾患」  
酸素化能障害、換気能力障害の基本的概念をふまえ理解する。酸素化能、換気能力の基本的な評価法について学習する。呼吸不全を呈する代表的な疾患について学習する。
- 第3回 「呼吸理学療法における評価①」  
医療面接、フィジカルアセスメントの基本となる胸部の観察、呼吸困難の評価方法、打診、聴診の実際を実技をふまえて学習する。
- 第4回 「呼吸理学療法における評価②」  
呼吸機能、運動耐容能、栄養状態、ADL および QOL の評価方法について、その実際を学習する。また、代表的な呼吸器疾患の画像所見の評価について学習する。
- 第5回 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）の理学療法」  
COPD における障害、呼吸器疾患患者の ADL および QOL 低下の特徴を理解し、特有の評価方法について学習する。他部門からの情報、理学療法評価結果に基づいた理学療法を学習する。
- 第6回 「拘束性肺疾患、外科手術後、その他呼吸器疾患の理学療法」  
疾患、病態の特徴を理解し、特有の評価方法、理学療法について学習する。外科手術が生体に与える影響を理解し、術前後および急性増悪例への理学療法を学習する。
- 第7回 「呼吸器理学療法基本手技、人工呼吸療法、吸引の概要」  
呼吸理学療法におけるコンディショニングや排痰法の目的とその適応、徒手のおよび体位肺療法の実際、吸引プロトコル第2版（日本理学療法士協会）に沿って吸引のための基礎知識を学習する。
- 第8回 「呼吸理学療法（総合演習）」  
提示された仮想症例をもとに、問題点の抽出、プログラムの作成から効果判定をどのように行うかまでの呼吸器疾患に対する理学療法介入の思考プロセスを経験する。

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                                   |    |   |  |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                                                                                                 | 60 | % |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                                                                                 | 40 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                                                   |    |   |  |
| その他・備考     | ・科目試験は、国家試験出題形式に準じた筆記試験（マークシート）で行う。<br>レポートは、国家試験ドリル（10%）、運動負荷試験経験レポート（10%）、仮想症例を用いた臨床推論レポート（計 2 回：10% × 2）を設定する。<br>・最終回には作成した臨床推論レポート（第 1 回目）をもって、グループディスカッションを行う。グループディスカッションの成果をもとに臨床推論レポートを修正し再提出する（第 2 回目）。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

指定教科書および参考図書の内容を取り込んだ授業資料を毎回準備する。とくに復習が重要であり、授業1コマに対して同じ1コマ分の復習を行うこと。国家試験の過去問題を調べることも有用である。

## ■ 教科書

書名：標準理学療法学 内部障害理学療法学 第2版  
 著者名：高橋哲也・神津 玲・野村卓生 編集  
 出版社：医学書院

---

書名：動画でわかる呼吸リハビリテーション 第5版  
 著者名：高橋仁美・塩谷隆信・宮川哲夫  
 出版社：中山書店

## ■ 参考図書

書名：内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版  
 著者名：山崎裕司・川俣幹雄・丸岡 弘 編集  
 出版社：南江堂

---

書名：PDCA 理論で学ぶ内部障害理学療法 呼吸器疾患編  
 著者名：森沢知之 野村卓生 編集  
 出版社：ヒューマンプレス

---

書名：リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術  
 著者名：美津島 隆・山内克哉 監修  
 出版社：メディカルビュー社

---

書名：内部障害リハのための胸部・腹部画像 読影のすすめ  
 著者名：美津島 隆・山内克哉 監修  
 出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

授業では、個人情報に関わる資料を提示する場合があります。取り扱いには十分に留意しなければならないことを認識して望むこと。授業には出席することが必須の前提であり、無断欠席、遅刻には十分に注意し、実習にも積極的に参加すること。実習を行う際には大学指定のジャージや白衣（KC）など実技を行いやすい衣服を着用し、爪は短く切っておくこと。

授業では、個人情報に関わる資料を提示する場合があります。取り扱いには十分に留意しなければならないことを認識して望むこと。授業には出席することが必須の前提であり、無断欠席、遅刻には十分に注意し、実習にも積極的に参加すること。実習を行う際には大学指定のジャージや白衣（KC）など実技を行いやすい衣服を着用し、爪は短く切っておくこと。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

内部障害は、現代の日本において理学療法の主要な対象疾患となっています。非常に内容の濃い8コマとなりますので、居眠りや授業と関係のない作業を行わず、授業に集中してください。授業中は注意をしますが、減点しますので、この点は十分に留意してください。

|          |                                                                |      |     |       |      |          |    |
|----------|----------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 代謝障害理学療法治療学                                                    |      |     |       |      |          |    |
| 担当者      | 野村 卓生                                                          |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士としての臨床経験があり、糖尿病や肥満症に対して理学療法士として関わってきた。現在も病院で生活習慣病へ関わっている。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                        | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          |                                                                | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

「代謝と運動」に関する生理学・生化学的な基本知識を整理し、代表的な代謝障害である糖尿病の病態およびその基本治療を学ぶ。長期にわたる糖代謝障害によって発症する糖尿病特有の合併症や足病変への理学療法、理学療法士の関わりについて講義し、実技実習を行う。

## ■ 到達目標

- 1) 運動器障害や神経障害と同様に理学療法士が対処する主要な障害として関心をもつ。
- 2) 内部障害領域（ここでは「がん」を含める）における理学療法士の存在意義と役割を考える。
- 3) 代謝疾患（とくに糖尿病）の運動耐容能を評価できる。
- 4) 代謝疾患（とくに糖尿病）に理学療法を行う上でリスク管理ができる。
- 5) 運動時の代謝系の適応について説明できる。
- 6) 代謝疾患（とくに糖尿病）の運動を制限するメカニズムを説明できる。
- 7) 代謝疾患（とくに糖尿病）の生活期理学療法について説明できる。

## ■ 授 業 計 画

### 第1回 「代謝障害理学療法総論」「科目オリエンテーション」

代謝障害に対する理学療法において何を学ばなければならないかを示したうえで、運動時における代謝系の適応、代謝系の障害が運動を制限するメカニズムを学習する。

### 第2回 「代謝疾患総論と糖尿病理学療法」

糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症等について、日本における患者数、疾患の概要と診断基準等の概略について学習する。とくに糖尿病の理学療法について理解を深める。

### 第3回 「糖尿病合併症」

低血糖に代表される急性合併症、糖尿病特有の慢性合併症（網膜症・腎症・神経障害）について学習する。

### 第4回 「糖尿病管理」

糖尿病の基本的治療法、とくに運動療法についてその概要を学習する。また、自己管理を支援するための患者教育の重要性を理解する。

### 第5回 「糖尿病理学療法1（導入編）」

一般的な糖尿病患者、および糖尿病合併症を有する患者への理学療法、理学療法士の関わりについて、その具体を演習形式で学習する。

### 第6回 「糖尿病理学療法2（実践編）」

実際に自己血糖測定を行い、理学療法を効果的かつ安全に進める上で必要な血液生化学的データの理解を深める。

### 第7回 「糖尿病理学療法3（応用編）」

振動覚検査、アキレス腱反射など糖尿病神経障害の簡易診断基準の一つともなる身体評価について演習形式で学習する。また、その結果を如何に患者教育に活用するかについて学習する。

### 第8回 「糖尿病理学療法4（総合演習）」

提示された仮想症例をもとに、問題点の抽出、プログラムの作成から効果判定をどのように行うかまでの慢性疾患に対する切れ目のない理学療法介入（循環型医療）の思考プロセスを経験する。

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                                    |    |   |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                                                                                                  | 60 | % |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                                                                                  | 40 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                                                    |    |   |  |
| その他・備考     | ・科目試験は、国家試験出題形式に準じた筆記試験（マークシート）で行う。<br>・レポートは、国家試験ドリル（10%）、自己血糖測定経験レポート（10%）、仮想症例を用いた臨床推論レポート（計 2 回：10% × 2）を設定する。<br>・最終回には作成した臨床推論レポート（第 1 回目）をもって、グループディスカッションを行う。グループディスカッションの成果をもとに臨床推論レポートを修正し再提出する（第 2 回目）。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

指定教科書にそった内容で、また、参考図書の内容を取り込んだ授業資料を毎回準備する。とくに復習が重要であり、授業1コマに対して同じ1コマ分の復習を行うこと。国家試験の過去問題を調べることも有用である。

## ■ 教科書

書名：糖尿病治療における理学療法 戦略と実践

著者名：野村卓生

出版社：文光堂

書名：身体機能・歩行動作からみたフットケア

著者名：野村卓生・河辺信秀 編集

出版社：文光堂

## ■ 参考図書

書名：糖尿病の理学療法

著者名：大平雅美・石黒元康・野村卓生 編集

出版社：メジカルビュー社

書名：PDCA 理論で学ぶ内部障害理学療法 心血管疾患・内分泌代謝疾患・腎疾患編

著者名：森沢知之 野村卓生 編集

出版社：ヒューマンプレス

書名：よくわかる内部障害の運動療法

著者名：上月正博 編著

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

授業では、個人情報に関わる資料を提示する場合がある。取り扱いには十分に留意しなければならないことを認識して望むこと。授業には出席することが必須の前提であり、無断欠席、遅刻には十分に注意し、実習にも積極的に参加すること。実習を行う際には大学指定のジャージや白衣（KC）など実技を行いやすい衣服を着用し、爪は短く切っておくこと。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

内部障害は、現代の日本において理学療法の主要な対象疾患となっています。非常に内容の濃い8コマとなりますので、居眠りや授業と関係のない作業を行わず、授業に集中してください。授業中は注意をしますが、減点しますので、この点は十分に留意してください。

|          |                                     |      |     |       |      |      |    |
|----------|-------------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 循環器障害理学療法治療学                        |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 田坂 厚志（実務経験者）                        |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として総合病院、介護老人保健施設、クリニックでの実務経験あり |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                             | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                     | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

代表的な循環器疾患の病態，症状，運動機能評価，理学療法プログラムについて学修します。不整脈の種類や心電図を用いた不整脈の判読手順を解説し，リスク管理について学修します。また，理学療法を進める際に必要となる心臓リハビリテーションについて解説します。

## ■ 到達目標

1. 循環器疾患の病態について説明できる。
2. 循環器疾患患者に対する評価や不整脈，リスク管理について説明できる。
3. 心臓リハビリテーション（特に運動療法）について説明できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 循環器の解剖・生理
- 第2回 運動と循環応答
- 第3回 心電図の診かたと不整脈
- 第4回 循環器疾患の病態・検査と治療 1
- 第5回 循環器疾患の病態・検査と治療 2
- 第6回 運動負荷試験による運動処方
- 第7回 循環器疾患に対する理学療法 1
- 第8回 循環器疾患に対する理学療法 2

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                        |    |   |                                                                             |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                      | 90 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                                                        |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                      | 10 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。<br>授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）や態度、課題の未提出に関しては減点（-2点）対象とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

適宜提示する課題を確実に学修して下さい。  
提出を求められた場合は確実に提出して下さい。

## ■ 教科書

書名：標準理学療法学 内部障害理学療法学 第2版  
著者名：高橋哲也・神津 玲・野村卓生 編集  
出版社：医学書院

---

書名：病気がみえる vol.2 循環器 第4版  
著者名：医療情報科学研究所 編集  
出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

書名：内部障害理学療法学テキスト改訂第3版  
著者名：山崎裕司 / 川俣幹雄 / 丸岡弘 編集  
出版社：南江堂

## ■ 留意事項

欠席した場合には必ず担当教員を訪ね、講義資料を受け取ること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

これまでに学んできた解剖学、運動学、生理学、臨床医学の内容をしっかりと復習して学修を進めること。

|          |                                                                    |      |     |       |      |         |    |
|----------|--------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 神経障害理学療法治療学Ⅰ                                                       |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 岩田 篤（実務経験者）、植田 翔介（実務経験者）                                           |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 岩田 篤（理学療法士として、慢性期病院での実務経験あり）<br>植田 翔介（理学療法士として、脊髄損傷患者専門施設での実務経験あり） |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                            | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                                                                    | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

各種神経疾患の理学療法における神経科学の重要性を説き、根拠ある理学療法を展開するための基礎知識の習得とその方法論を学習する。

## ■ 到達目標

- 1) 神経機能解剖学および神経生理学等の基本的内容が理解できる。
- 2) 各種神経疾患の病態および症状が理解できる。
- 3) 各種神経疾患およびその病期ごとに注意すべきリスクを想起できる。
- 4) 各種神経疾患およびその病期ごとに実施すべき理学療法について、科学的根拠に基づいた臨床推論が行える。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 大脳基底核の基礎知識  
 第2回 パーキンソン病の病態と症候（遠隔授業：オンデマンド配信）  
 第3回 パーキンソン病の理学療法1  
 第4回 パーキンソン病の理学療法2（遠隔授業：オンデマンド配信）  
 第5回 パーキンソン病の理学療法3（国家試験対策含む）  
 第6回 小脳の基礎知識（遠隔授業：オンデマンド配信）  
 第7回 脊髄小脳変性症の病態と症候  
 第8回 脊髄小脳変性症の理学療法1（遠隔授業：オンデマンド配信）  
 第9回 脊髄小脳変性症の理学療法2（国家試験対策含む）  
 第10回 脊髄損傷の病態と症候1（遠隔授業：オンデマンド配信）  
 第11回 脊髄損傷の病態と症候2  
 第12回 脊髄損傷の理学療法1  
 第13回 脊髄損傷の理学療法2（国家試験対策含む）  
 第14回 その他神経疾患の病態／症候と理学療法（遠隔授業：オンデマンド配信）  
 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

理解度を促進するために、次の講義で小テストを行うこともありますので、翌週までに該当する箇所を教科書および配布資料をもとに必ず復習しておいてください。また、予習課題は確実に遂行し、授業に臨んでください。

## ■ 教科書

書 名：改訂第2版 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ  
著者名：小森 哲夫（監）  
出版社：メディカルビュー

## ■ 参考図書

書 名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅱ  
著者名：石川 朗（総編集）  
出版社：中山書店

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」の科目の理解が重要である。また、「神経障害理学療法治療学Ⅱ」「評価実習」「総合臨床実習」へとつながる内容である。

|          |                        |      |     |       |      |      |    |
|----------|------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 神経障害理学療法治療学Ⅱ           |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 岩田 篤（実務経験者）            |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、慢性期病院での実務経験あり |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                        | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

脳血管障害の理学療法における神経科学の重要性を説き、根拠ある理学療法を展開するための基礎知識の習得とその方法論を学習する。

## ■ 到達目標

- 1) 神経機能解剖学および神経生理学等の基本的内容が理解できる。
- 2) 脳血管疾患の病態および症状が理解できる。
- 3) 脳血管疾患およびその病期ごとに注意すべきリスクを想起できる。
- 4) 脳血管疾患およびその病期ごとに実施すべき理学療法について、科学的根拠に基づいた臨床推論が行える。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 脳卒中片麻痺患者の症例提示
- 第2回 脳卒中片麻痺患者の予後予測の実際（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第3回 急性期脳卒中の病態
- 第4回 急性期脳卒中片麻痺患者の早期離床の実際（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第5回 脳卒中片麻痺患者の評価方法
- 第6回 脳卒中片麻痺患者の早期歩行練習の実際（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第7回 脳卒中片麻痺患者の症候
- 第8回 脳卒中片麻痺患者の肩障害に対する理学療法の実際（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第9回 脳卒中片麻痺患者の機能・動作能力改善に対する理学療法の理論的背景
- 第10回 脳卒中片麻痺患者の機能・動作能力改善に対する理学療法の実際（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第11回 脳卒中片麻痺患者の歩行障害に対する理学療法の理論的背景
- 第12回 脳卒中片麻痺患者の歩行障害に対する理学療法の実際（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第13回 脳卒中片麻痺患者の姿勢定位障害および半側空間無視に対する理学療法の理論的背景
- 第14回 脳卒中片麻痺患者の姿勢定位障害および半側空間無視に対する理学療法の実際（遠隔授業：オンデマンド配信）
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

理解度を促進するために、次の講義で小テストを行うこともありますので、翌週までに該当する箇所を教科書および配布資料をもとに必ず復習しておいてください。また、予習課題は確実に遂行し、授業に臨んでください。

## ■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅰ  
著者名：石川 朗（総編集）  
出版社：中山書店

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」「神経障害理学療法治療学Ⅰ」の科目の理解が重要である。また、「評価実習」「総合臨床実習」へとつながる内容である。

|          |                                                                                                                                                         |      |     |       |      |         |    |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 老年期理学療法治療学                                                                                                                                              |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 田坂 厚志・新家 寿貴・木上 秀幸・奥野 泰介・池田 耕二（全て実務経験者）                                                                                                                  |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 田坂厚志（総合病院、老人保健施設、クリニックでの実務経験あり）、新家寿貴（慢性期病院、リハ部門長として実務経験あり）、木上秀幸（介護老人保健施設所属）、奥野泰介（急性期、回復期リハ病院所属）、池田耕二（有床クリニック、急性期・回復期・療養型病院、訪問リハ従事、総合リハセンター部門長として実務経験あり） |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                                                                 | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義      | 講義 |
|          |                                                                                                                                                         | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   | 形式      |    |

## ■ 内 容

老年期における心身機能を踏まえて理学療法の治療について学びます。田坂については自身の実務経験をふまえて老年期の理学療法全般に関する内容について講義します。新家、奥野、池田先生についてはそれぞれ実務経験に即した領域を講義します。

## ■ 到達目標

1. 老年期の心身機能の特徴について説明できる。
2. 介護老人保健施設での理学療法士の役割について説明できる。
3. 急性期、回復期、生活期・終末期・緩和ケアにおける老年期理学療法について説明できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 老年期理学療法の背景 田坂  
 第2回 老年期の身体機能（呼吸・循環・代謝を中心に）(1) 田坂  
 第3回 老年期の身体機能（呼吸・循環・代謝を中心に）(2) 田坂  
 第4回 介護老人保健施設での理学療法士の役割 木上  
 第5回 遷延性意識障害と理学療法 新家  
 第6回 老年期における急性期・回復期の理学療法の実際 奥野  
 第7回 終末期・緩和ケアにおける老年期理学療法 池田  
 第8回 総括 田坂

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                        |     |   |  |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                      | 100 | % |  |
| レポート       |                                                                                                                        |     |   |  |
| 小テスト       |                                                                                                                        |     |   |  |
| その他・備考     | 正当な理由の無い欠席（-4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学へ出席した後、速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。<br>授業に不必要な行為（携帯端末の操作等）や態度、課題の未提出に関しては減点（-2点）対象とする。 |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業後には必ず内容の振り返りを1時間程度してください。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

書 名：高齢者理学療法学テキスト

著者名：山田和政

出版社：南江堂

## ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

これまでに学んできた解剖学、運動学、生理学の内容を復習して学修を進めて下さい。

|          |                            |      |     |       |      |      |         |
|----------|----------------------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 運動器障害理学療法治療学Ⅰ              |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 佐藤 睦美（実務経験者）・高木 啓至（実務経験者）  |      |     |       |      |      | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 医療機関での運動器障害に対する理学療法の経験を有する |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                    | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |                            | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |         |

## ■ 内 容

運動器障害の疾患の概念および理学療法評価・治療について学ぶ

## ■ 到達目標

運動器障害に対する理学療法評価計画，治療プログラムが立案できる

## ■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス，骨折の理学療法： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第2回 熱傷の理学療法： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第3回 上肢運動器障害の理学療法（肩関節）①： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第4回 上肢運動器障害の理学療法（肩関節）②： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第5回 上肢運動器障害の理学療法（肘・前腕・手関節）①： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第6回 上肢運動器障害の理学療法（肘・前腕・手関節）②： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第7回 がんに対する理学療法①： 高木啓至（実務経験者）  
 第8回 がんに対する理学療法②： 高木啓至（実務経験者）  
 第9回 中間まとめ： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第10回 脊椎・体幹運動障害の理学療法①： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第11回 脊椎・体幹運動障害の理学療法②： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第12回 下肢運動器障害に対する理学療法（股・膝関節）①： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第13回 下肢運動器障害に対する理学療法（股・膝関節）②： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第14回 下肢運動器障害に対する理学療法（膝・足関節）①： 佐藤睦美（実務経験者）  
 第15回 下肢運動器障害に対する理学療法（膝・足関節）②： 佐藤睦美（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                                                         |    |   |                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                       | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                         |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                       | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 中間まとめの講義時間の中で中間試験を実施します。<br>筆記試験は中間試験と期末試験の両方の成績で判定します。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義で扱う疾患について事前に moodle に掲示するので、整形外科学Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。

## ■ 教科書

書 名：運動器障害理学療法学

著者名：加藤浩（編）

出版社：メジカルビュー社

---

書 名：整形外科術後療法プログラム 第3版

著者名：島田洋一・高橋仁美（編）

出版社：三輪書店

---

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル（2年時入済み）

著者名：百島祐貴（著）

出版社：医学教育出版社

## ■ 参考図書

書 名：実践PTノート 第2版

著者名：小柳磨毅（編）

出版社：三輪書店

---

書 名：標準整形外科学 第14版

著者名：中村利孝・松野丈夫（監修）

出版社：医学書院

---

書 名：病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科

著者名：医療情報科学研究所（編）

出版社：メディックメディア

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

対面講義時は実技演習も併せて行うので、動きやすい服装で出席すること。

講義に関わる連絡は全て moodle と通じて行うので、適宜確認すること。

|          |                             |      |     |       |      |         |    |
|----------|-----------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 運動器障害理学療法治療学Ⅱ               |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 佐藤 睦美（実務経験者）・境 隆弘（実務経験者）    |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 医療機関での運動器障害に対する理学療法の経験を有する。 |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                     | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                             | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

スポーツ傷害の疾患の概念および理学療法評価・治療について学ぶ

## ■ 到達目標

スポーツ傷害に対する理学療法評価計画，治療プログラムが立案できる

## ■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス，スポーツ傷害総論，下肢のスポーツ外傷①：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第2回 下肢のスポーツ外傷②：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第3回 下肢のスポーツ外傷③：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第4回 下肢のスポーツ外傷④：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第5回 下肢のスポーツ外傷⑤：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第6回 下肢のスポーツ障害①：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第7回 下肢のスポーツ障害②：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第8回 下肢のスポーツ障害③：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第9回 中間まとめ：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第10回 上肢のスポーツ外傷①：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第11回 上肢のスポーツ外傷②：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第12回 上肢のスポーツ障害①：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第13回 上肢のスポーツ障害②：佐藤 睦美（実務経験者）  
 第14回 上肢のスポーツ障害③（投球障害）：境 隆弘（実務経験者）  
 第15回 上肢のスポーツ障害④（投球障害）：境 隆弘（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                                                         |    |   |                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                       | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                         |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                       | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 中間まとめの講義時間の中で中間試験を実施します。<br>筆記試験は中間試験と期末試験の両方の成績で判定します。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義で扱う疾患について事前に moodle に掲示するので、整形外科科学Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。

## ■ 教科書

書 名：運動器障害理学療法学

著者名：加藤浩（編）

出版社：メジカルビュー社

書 名：整形外科術後療法プログラム 第3版

著者名：島田洋一・高橋仁美（編）

出版社：三輪書店

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル（2年時入済み）

著者名：百島祐貴（著）

出版社：医学教育出版社

## ■ 参考図書

書 名：実践PTノート 第2版

著者名：小柳磨毅（編）

出版社：三輪書店

書 名：標準整形外科学 第14版

著者名：中村利孝・松野丈夫（監修）

出版社：医学書院

書 名：スポーツ膝の臨床（第2版）

著者名：史野根生

出版社：金原出版

書 名：理学療法 MOOK 9 スポーツ傷害の理学療法 第2版

著者名：福井勉・小柳磨毅（編）

出版社：三輪書店

書 名：復帰を目指す スポーツ整形外科

著者名：宗田大（編）

出版社：メジカルビュー社

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

実技演習も併せて行うので、動きやすい服装で出席すること。

講義に関わる連絡は全て moodle と通じて行うので、適宜確認すること。

|          |                                   |      |     |       |      |         |    |
|----------|-----------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 運動器障害理学療法治療学Ⅲ                     |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 井上 悟（実務経験者）・加藤 直樹（実務経験者）          |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 両名とも疼痛性疾患、関節リウマチの理学療法の実務経験が豊富にある。 |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                           | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                                   | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

疼痛性疾患、関節リウマチの理学療法治療の現在の臨床について解説する。

## ■ 到達目標

疼痛性疾患、関節リウマチの理学療法治療の実際を知る。

## ■ 授業計画

- 第1回 疼痛性疾患総論1（加藤）
- 第2回 疼痛性疾患総論2（加藤）
- 第3回 疼痛性疾患3：腰痛
- 第4回 疼痛性疾患4：肩痛
- 第5回 関節リウマチ1
- 第6回 関節リウマチ2
- 第7回 関節リウマチ3
- 第8回 関節リウマチ4

## ■ 評価方法

|            |                                             |     |   |  |
|------------|---------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                           | 100 | % |  |
| レポート       |                                             |     |   |  |
| 小テスト       |                                             |     |   |  |
| その他・備考     | 授業態度 30%（正当な理由がない欠席や遅刻・等については減点とする（30% 以内）） |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書・参考書の授業該当範囲を予習しておくこと

## ■ 教 科 書

書 名：運動器障害理学療法学

著者名：加藤浩（編）

出版社：メジカルビュー社

書 名：整形外科術後療法プログラム 第3版

著者名：島田洋一・高橋仁美（編）

出版社：三輪書店

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル（2年時入済み）

著者名：百島祐貴（著）

出版社：医学教育出版社

## ■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 骨関節理学療法学  
著者名：吉尾雅春・小柳磨毅  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

各回の講義テーマ、内容については関連する講義の進捗状況により変更することがあります。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                      |      |     |       |      |      |    |
|----------|--------------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 物理療法学                                |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 田中 稔（実務経験者）                          |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、臨床現場において物理療法機器を用いた治療に従事していた |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                              | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                      | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

まずは、物理療法機器によってもたらされる身体への生理学的作用を理解する。その上で、それに伴うリスク・適応・禁忌などを考える。実際の機器の操作は、物理療法学演習で体験する。田中 稔（実務経験者）

## ■ 到達目標

1. 理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する。
2. 各物理療法の生理学的作用を理解する。
3. 各物理療法のリスクを想起できるようになる。
4. 生理学的作用、リスクを勘案して、適切な物理療法機器の選択ができるようになる。
5. 各物理療法機器の設定値の意味を理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 物理療法の意義・位置づけ 田中 稔（実務経験者）  
 第2回 生理学的作用 田中 稔（実務経験者）  
 第3回 炎症・痛みに対する理学療法 田中 稔（実務経験者）  
 第4回 温熱療法 田中 稔（実務経験者）  
 第5回 寒冷療法 田中 稔（実務経験者）  
 第6回 光線療法 田中 稔（実務経験者）  
 第7回 光線療法・電磁波療法 田中 稔（実務経験者）  
 第8回 超音波療法 田中 稔（実務経験者）  
 第9回 電気刺激療法① 田中 稔（実務経験者）  
 第10回 電気刺激療法② 田中 稔（実務経験者）  
 第11回 その他の電気療法 田中 稔（実務経験者）  
 第12回 牽引療法 田中 稔（実務経験者）  
 第13回 マッサージ 田中 稔（実務経験者）  
 第14回 水治療法 田中 稔（実務経験者）  
 第15回 リスク管理その他 田中 稔（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |   |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため、事前に前回授業の復習をしておくこと。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

書 名：物理療法学 第4版（標準理学療法学 専門分野）  
著者名：奈良 勲  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認をしてください。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

実際の物理療法機器を使用する物理療法学演習につながる講義である。まずは生理学的作用とリスク管理  
に焦点を当て実際に機器使用するにあたり必要な知識を身に付ける。

|          |                                      |      |     |       |      |          |    |
|----------|--------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 物理療法学演習                              |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 田中 稔（実務経験者）                          |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、臨床現場において物理療法機器を用いた治療に従事していた |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                              | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                                      | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

物理療法学演習では、実際に物理療法機器を操作し、生体の反応を体感する。実際の機器操作前には、出力や温度などの物理療法機器の設定、適応・禁忌などのリスク管理などを重点的に学習する。また、実際の機器操作時には、それを扱うに足る知識があることを確認した後に機器操作の許可を出す。

実習はグループに分かれ、各物理療法機器をローテーションで実施する。田中 稔（実務経験者）

## ■ 到達目標

1. 理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する。
2. 各物理療法の生理学的作用を理解する。
3. 各物理療法のリスクを想起できるようになる。
4. 生理学的作用、リスクを勘案して、適切な物理療法機器の選択ができるようになる。
5. 各物理療法機器の設定値の意味を理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（①ホットパック、②パラフィン） 田中 稔（実務経験者）
- 第2回 オリエンテーション（③寒冷療法、④極超短波、⑤超音波） 田中 稔（実務経験者）
- 第3回 オリエンテーション（⑥低周波、⑦干渉波、⑧ S-D 曲線、⑨間欠的空気圧迫療法） 田中 稔（実務経験者）
- 第4回 オリエンテーション（⑩牽引 [頸椎・腰椎]、⑪水治療法 [渦流浴]、⑫マッサージ） 田中 稔（実務経験者）
- 第5回 実習 第1回目 指定された各班が、ローテーションで物理療法治療介入の演習を行う。  
その結果・考察などをレポートにまとめ翌週の授業開始時に提出する。2回目以後も同様とする。  
田中 稔（実務経験者）
- 第6回 実習 第2回目 田中 稔（実務経験者）
- 第7回 実習 第3回目 田中 稔（実務経験者）
- 第8回 実習 第4回目 田中 稔（実務経験者）
- 第9回 実習 第5回目 田中 稔（実務経験者）
- 第10回 実習 第6回目 田中 稔（実務経験者）
- 第11回 実習 第7回目 田中 稔（実務経験者）
- 第12回 実習 第8回目 田中 稔（実務経験者）
- 第13回 実習 第9回目 田中 稔（実務経験者）
- 第14回 実技テスト 田中 稔（実務経験者）
- 第15回 症例提示 田中 稔（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                        |    |   |                                                                             |
|------------|------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |                        |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎                      | 70 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                      | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 講義内にて小テストとして実技試験を実施する。 |    |   |                                                                             |

#### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1. 「演習の手引き」をあらかじめ十分に熟読・予習し、実習開始後速やかに行動ができるようにする。
2. 演習第1回目から第9回目までのグループ演習では、9回の実習項目について全員がレポートを提出する。

#### ■ 教科書

#### ■ 参考図書

#### ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認をしてください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

#### ■ 講義受講にあたって

実際に物理療法機器を使用することにより知識と技術を身に付ける講義である。物理療法学における知識の積み重ねなく参加することは事故につながる危険性があるため、リスク管理の知識は必須である。

|          |                  |      |     |       |      |      |    |
|----------|------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 義肢装具学            |      |     |       |      |      |    |
| 担 当 者    | 井上 悟（実務経験者）      |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 義肢装具の実務経験が豊富にある。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻          | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                  | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

義肢装具に関する基本的事項を学習し、各種義肢装具の特性と構造を紹介する。

## ■ 到達目標

臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やす。  
臨床で使用される義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。

## ■ 授 業 計 画

第1回 オリエンテーション（授業計画の概要と成績判定方法の説明）  
義肢学1 切断総論1  
第2回 義肢学2 切断総論2  
第3回 義肢学3 義足総論1  
第4回 義肢学4 義足総論2  
第5回 義肢学5 下腿切断と下腿義足1（ソケット）  
第6回 義肢学6 下腿義足2（足部、足継手）  
第7回 義肢学7 下腿義足3（適合とアライメント）  
第8回 義肢学8 大腿切断と大腿義足1（ソケット）  
第9回 義肢学9 大腿義足2（ソケットと懸垂）  
第10回 義肢学10 大腿義足3（膝継手）  
第11回 義肢学11 大腿義足4（適合とアライメント）  
第12回 装具学1 装具総論（下肢装具を中心に）  
第13回 装具学2 下肢装具の基本構造  
第14回 装具学3 下肢装具のアライメント  
第15回 装具学4 靴と靴型装具（FO）

## ■ 評価方法

|            |                                 |     |   |  |
|------------|---------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                               | 100 | % |  |
| レポート       |                                 |     |   |  |
| 小テスト       |                                 |     |   |  |
| その他・備考     | 正当な理由がない欠席や遅刻等については減点とする（30%以内） |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

## ■ 教 科 書

書 名：義肢装具学（第4版）  
著者名：川村次郎・他編  
出版社：医学書院、定価：7350円、2009年（注：最新版で）

## ■ 参考図書

書 名：切断と義肢（第2版）

著者名：澤村誠志

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

義肢学と装具学の配分は変更することがあります。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                 |      |     |       |      |          |         |
|----------|---------------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 義肢装具学演習                         |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 井上 悟・境 隆弘・高木 啓至・西野 誠一（すべて実務経験者） |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 4名とも義肢装具の実務経験が豊富にある。            |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                         | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習      |
|          |                                 | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

義肢装具に関する基本的事項を学習し、各種義肢装具の特性と構造を紹介する。

## ■ 到達目標

臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やす。

## ■ 授業計画

- 第1回 義肢学演習1 股関節離断と股義足
- 第2回 義肢学演習2 膝離断と膝義足
- 第3回 義肢学演習3 サイム切断とサイム義足
- 第4回 義肢学演習4 足部切断と足部義足
- 第5回 義肢学演習5 切断者の理学療法1
- 第6回 義肢学演習6 切断者の理学療法2
- 第7回 義肢学演習7 切断者の理学療法3
- 第8回 義肢学演習8 切断者の理学療法4：（異常歩行とその対策）
- 第9回 装具学演習1 疾患・障害別装具1 対麻痺、二分脊椎の装具（足装具含）
- 第10回 装具学演習2 疾患・障害別装具2 小児疾患用装具、整形外科的治療用装具
- 第11回 装具学演習3 疾患・障害別装具3 体幹・頸椎装具、側弯症装具
- 第12回 装具学演習4 疾患・障害別装具4 CVA片麻痺、頸随損傷の装具
- 第13回 装具学演習5 疾患・障害別装具5 スポーツ障害の装具療法（境）（実務経験者）
- 第14回 義肢装具学演習6 がんりハビリテーションと義肢・装具（高木 PT）（実務経験者）
- 第15回 義肢装具学演習7 義肢・装具の最新情報（最新の支給制度含む）（西野 PO）（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                                 |     |   |  |
|------------|---------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                               | 100 | % |  |
| レポート       |                                 |     |   |  |
| 小テスト       |                                 |     |   |  |
| その他・備考     | 正当な理由がない欠席や遅刻等については減点とする（30%以内） |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

## ■ 教科書

書 名：義肢装具学（第4版）  
 著者名：川村次郎・他編  
 出版社：医学書院、定価：7350円、2009年（注：最新版）

## ■ 参考図書

書 名：切断と義肢（第2版）

著者名：澤村誠志

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

義肢学と装具学の配分は変更することがあります。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                                         |      |     |       |      |      |    |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 日常生活活動学                                                                 |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 相原 一貴（実務経験者）                                                            |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院やデイサービスでのリハビリテーションに携わっている。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                 | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                                                         | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

日常生活活動学では、我々が普段意識することなく行っている日常生活が、理学療法において重要な評価・介入対象であることを学びます。そして、理学療法士として専門的な視点における日常生活の捉え方を学びます。主な疾患や病態における日常生活の特徴並びに介助方法や指導方法について学習します。

## ■ 到達目標

- ・日常生活活動の定義や概念を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な ADL 評価方法を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な福祉用具について理解する。
- ・各疾患の日常生活動作の特徴を理解する。
- ・疾患や障害と日常生活との関係を理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 日常生活活動（ADL）の概念と範囲 - 、基本的 ADL と生活の質（QOL）（担当：相原）  
 第2回 ADL の評価①（代表的な評価方法について：Barthel Index）（担当：相原）  
 第3回 ADL の評価②（代表的な評価方法について：FIM）（担当：相原）  
 第4回 ADL の評価③（担当：相原）  
 第5回 福祉機器や生活環境（担当：相原）  
 第6回 片麻痺患者の ADL（担当：相原）  
 第7回 整形疾患患者の ADL（担当：相原）  
 第8回 呼吸・循環器系疾患患者の ADL（担当：相原）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                  |    |   |                                                                             |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                | 70 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                                                  |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 上記以外に講義内提出物（課題プリント等）10%とする。正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点）また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-2点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。  
 理学療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。  
 単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、教科書や講義資料で積極的に予習・復習し、取り組んでください。

## ■ 教科書

書 名：Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学  
著者名：(編集) 臼田 滋  
出版社：株式会社 メジカルビュー

## ■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 (第5版)  
著者名：鶴見隆正編  
出版社：医歯薬出版

---

書 名：新版 日常生活活動 (ADL) - 評価と支援の実際 -  
著者名：伊藤利之、江藤文夫／著  
出版社：医歯薬出版

---

書 名：PT・OT ビジュアルテキスト ADL  
著者名：柴喜崇、下田信明／著  
出版社：羊土社

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣をつけてください。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態 (災害等) が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム (Moodle) を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。

|          |                                                                                                                  |      |     |       |      |          |    |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 日常生活活動学演習                                                                                                        |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 相原 一貴（実務経験者）・植田 翔介（実務経験者）                                                                                        |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 相原（理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院やデイサービスでのリハビリテーションに携わっている。）<br>植田（理学療法士として脊髄損傷患者を専門とした施設に勤務している） |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                          | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                                                                                                                  | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

日常生活活動学実習では、姿勢と動作の基礎知識、起居・移動・移乗・段差・階段・歩行など日常生活に関わる動作を理解し、それらの介助方法を学びます。また、各疾患の特性を踏まえ、対象者に対して適切な、動作指導や介助技術を学びます。

## ■ 到達目標

- ・ADL 指導に必要な基本的動作について理解できる。
- ・動作指導・運動学習の視点から適切な介助法を理解し、安全に実践することができる。
- ・各疾患患者に対する介助法を理解し、模倣することができる。
- ・各疾患患者に対する動作指導を理解し、説明することができる。
- ・車椅子や歩行補助具の特性を理解し、安全に操作することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 姿勢と動作の基本理解、コーチングについて（担当：相原）
- 第2回 動作介助の基本、車椅子の理解（担当：相原）
- 第3回 起居動作の理解と介助法（担当：相原）
- 第4回 立ち上がり・移乗動作の理解と介助法（担当：相原）
- 第5回 歩行・段差昇降・階段昇降動作の理解と介助法（担当：相原）
- 第6回 各論 片麻痺患者の ADL 指導①（担当：相原）
- 第7回 各論 片麻痺患者の ADL 指導②（担当：相原）
- 第8回 各論 整形外科疾患患者（関節リウマチ、人工股関節置換術後）の ADL 指導（担当：相原）
- 第9回 各論 パーキンソン病患者の ADL 指導（担当：相原）
- 第10回 各論 神経筋疾患患者、難病疾患患者の ADL 指導、コミュニケーションツールについて①（担当：相原）
- 第11回 各論 神経筋疾患患者、難病疾患患者の ADL 指導、コミュニケーションツールについて②（担当：相原）
- 第12回 各論 脊髄損傷患者の ADL 指導①（担当：植田）
- 第13回 各論 脊髄損傷患者の ADL 指導②（担当：植田）
- 第14回 各論 呼吸循環器系疾患患者の ADL 指導（担当：相原）
- 第15回 トランスファー等の介助方法の実技確認（担当：相原）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                        |    |   |                                                                             |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                        |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎                                                                                                                                      | 20 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                                      | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     | レポート20%、その他講義内提出物（課題、ノート等）30%、小テスト30%、実技試験20%とする。正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：－1点）また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：－2点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

この科目は、第2Qで学修した日常生活活動学と深く関係しています。そのため、日常生活活動学で学んだ内容を必ず復習し講義に望んでください。講義で学習した介助技術の熟練のため、自主的に学生同士、実技練習することを推奨します。疾患によって生じる臨床症状に合わせた動作介助方法・指導方法を学ぶため、各疾患の病態について復習し、講義を受ける事が望ましいです。

## ■ 教科書

書 名：Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学  
著者名：（編集） 臼田 滋  
出版社：株式会社 メジカルビュー

## ■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学（第5版）  
著者名：鶴見隆正編  
出版社：医歯薬出版

---

書 名：新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－  
著者名：伊藤利之、江藤文夫／著  
出版社：医歯薬出版

---

書 名：PT・OT ビジュアルテキスト ADL  
著者名：柴喜崇、下田信明／著  
出版社：羊土社

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣をつけてください。動作介助に関する実技を行うので、必ず動きやすい服装・靴（上下ジャージ等）で参加してください。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。

|          |                                                                                                                                      |      |     |       |      |         |    |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 地域理学療法学                                                                                                                              |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 中村 彩・島 雅人・田中 仁（すべて実務経験者）                                                                                                             |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として地域理学療法を実践している、ないしはしていた。また訪問看護ステーション、通所介護、ケアマネ、訪問介護事業所、住宅型有料老人ホーム等の介護保険施設を経営し、また通所リハビリ、訪問リハビリを併設する診療所と児童発達、放課後等デイサービスを経営している。 |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                                              | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義      | 講義 |
|          |                                                                                                                                      | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   | 形式      |    |

## ■ 内 容

地域リハビリテーションの概念を学ぶとともに、地域で理学療法を実施している現職の理学療法士や関連職より業務の内容や必要な知識を学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 地域リハビリテーションを理解できる
2. 地域における理学療法士の役割を知る事ができる
3. 理学療法士としての地域理学療法に携わるやりがいを知る事ができる
4. 地域に求められる理学療法士像についてイメージすることができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 地域リハビ？リテーションと地域理学療法（島）  
 第2回 地域理学療法の関連制度・関連法規（中村）  
 第3回 地域包括ケアシステムと地域連携（島）  
 第4回 地域理学療法と介護保険制度（中村）  
 第5回 介護保険制度におけるリハビ？リテーション①（中村）  
 第6回 介護保険制度におけるリハビ？リテーション②（田中）  
 第7回 健康増進・介護予防（中村）  
 第8回 地域理学療法を実施するために必要な知識の整理：（島）

## ■ 評価方法

|            |          |    |   |  |
|------------|----------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎        | 60 | % |  |
| レポート       |          |    |   |  |
| 小テスト       |          |    |   |  |
| その他・備考     | 課題提出 40% |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

地域理学療法の重要性は益々広がっています。社会に求められる理学療法士になるために非常に重要な内容です。授業後には必ず内復習を行い、理解を深めてください。質問などがあれば、その都度教員に質問してください。また、オフィスアワーを活用してください。

## ■ 教 科 書

書 名：PT・OT ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版  
 著者名：重森 健太，横井賀津志／編  
 出版社：羊土社

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

地域理学療法の重要性は益々広がっています。障がいのある方が地域で生活する事を支援する、あるいは健康の維持・向上はかり疾病や障害の予防をおこなうことが、理学療法士に求められています。臨床実習においても、地域理学療法を学ぶ機会があるため、講義後の復習を行い理解を深めるとともに、新たな制度が出た時には、自ら情報収集し、知識をアップデートできるようになってほしいと思います。

|          |                                                                         |      |     |       |      |      |    |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|------|----|
| 授業科目     | 生活環境論                                                                   |      |     |       |      |      |    |
| 担当者      | 相原 一貴（実務経験者）                                                            |      |     |       |      |      |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院やデイサービスでのリハビリテーションに携わっている。 |      |     |       |      |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                 | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                                                         | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |    |

## ■ 内 容

生活環境論では、リハビリテーションに関係が深い、生活環境について学びます。理学療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのか、またどのように考えるのかを学びます。

## ■ 到達目標

- ・医療保険制度と介護保険制度を理解し、説明できるようになる。
- ・代表的な福祉用具について理解する。
- ・疾患や障害と生活環境の関係を理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 日本の社会保障の概論（担当：相原）  
 第2回 医療保険制度と介護保険制度①（担当：相原）  
 第3回 医療保険制度と介護保険制度②（担当：相原）  
 第4回 日本のリハビリテーションと地域包括ケアシステム（担当：相原）  
 第5回 居住環境：移乗移動関係（担当：相原）  
 第6回 居住環境：寝具関係（担当：相原）  
 第7回 居住環境：入浴・排泄関係（担当：相原）  
 第8回 住宅改修について（担当：相原）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                  |    |   |                                                                             |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                                                                                                  |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 上記以外に講義内提出物（課題プリント等）10％とする。正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点）また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-2点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。  
 理学療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。  
 単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、教科書や講義資料で積極的に予習・復習し、取り組んでください。

## ■ 教 科 書

書 名：シンプル理学療法学作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版  
 著者名：（監修）細田 多恵 （編集）村田 伸、岡本 加奈子、北島 栄二  
 出版社：株式会社 南江堂

## ■ 参考図書

書 名：生活環境論 - 生活支援の視点と方法 - 第6版

著者名：木村哲彦 監修

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：生活場面から見た福祉用具活用法

著者名：浅井憲義、大熊明、奈良篤史 編著

出版社：中央法規

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認する習慣をつけてください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。

|          |                        |      |     |       |      |      |         |
|----------|------------------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 国際リハビリテーション            |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 井口 知也・辻 郁・寺村 晃・PT 専任教員 |      |     |       |      |      | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 |                        |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          | 作業療法学専攻                | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 自由   |      |         |

## ■ 内 容

スタディツアーに参加し、他国の障害児者など人々と交流し、生活やリハビリテーションの現状に触れる交流するための活動の準備をする  
帰国後は、レポート作成を通して、ツアーを振り返り、人々の生活やリハビリテーションの現状を自国と比較しその相違を明らかにする。同時にセラピストのなるための自己課題を明らかにする

## ■ 到達目標

体調管理に努め、一連の活動に参加する  
帰国後に活動全体を振り返りレポート作成ができる

## ■ 授業計画

- 第1回 スタディツアー準備  
第2回 スタディツアーへの参加（5泊6日程度）  
第3回 スタディツアーの振り返り

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                        |    |   |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                        |    |   |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                      | 60 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                        |    |   |  |
| その他・備考     | 40%は出席と準備から振り返りまでの取り組み態度で評価する。<br>※１ 正当な理由がない欠席，遅刻早退は減点対象とする。（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。<br>※２ 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき－5点）。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

必要の応じて調べ物をしたり、期限までに準備等ができるよう取り組むこと

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。そして、体調管理に努めること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

国外に出かけることは学生時代に与えられた良い機会です。多くの学生が参加することを期待します。参加する者は十分な体調管理に努めてください。

|          |                                |      |     |       |    |         |    |
|----------|--------------------------------|------|-----|-------|----|---------|----|
| 授業科目     | 理学療法管理学Ⅰ（職業教育）                 |      |     |       |    |         |    |
| 担 当 者    | 島 雅人・他（すべて実務経験者）               |      |     |       |    | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、病院や介護老人保健施設等にて実務経験あり。 |      |     |       |    |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                        | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1  | 講義形式    | 講義 |
|          |                                | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修 |         |    |

## ■ 内 容

理学療法を学び始めた時期に、職業教育の一環として理学療法士としてのプロフェッショナリズムを学ぶ。様々な分野で活躍する理学療法士の話を聞き、理学療法士の業務や役割、職業としてのやりがい、多様性、求められる知識・技能・態度、社会からどのように求められているのか、将来性等について学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 理学療法士の仕事内容、役割を理解できる
2. 理学療法士の職業の多様性について理解できる
3. 理学療法士としてのプロフェッショナリズムとは何かを理解できること
4. 社会に求められる理学療法士像についてイメージすることができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 理学療法士を取り巻く社会状況、求められるセラピストとは何か？（島）  
 第2回 様々な分野で活躍する理学療法士：急性期医療（外部講師 実務経験者）  
 第3回 様々な分野で活躍する理学療法士：回復期医療（外部講師 実務経験者）  
 第4回 様々な分野で活躍する理学療法士：在宅医療（外部講師 実務経験者）  
 第5回 様々な分野で活躍する理学療法士：スポーツ分野（外部講師 実務経験者）  
 第6回 様々な分野で活躍する理学療法士：世界の医療・福祉（外部講師 実務経験者）  
 第7回 様々な分野で活躍する理学療法士：開業、経営（外部講師 実務経験者）  
 第8回 理学療法士としてのプロフェッショナリズムとは何か？（島）

## ■ 評価方法

|            |          |    |   |  |
|------------|----------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎        | 50 | % |  |
| レポート       |          |    |   |  |
| 小テスト       |          |    |   |  |
| その他・備考     | 課題提出 50% |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内容をメモし、メモした内容を次の授業までに整理しておくこと。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留 意 事 項

講師の先生へは大変お忙しい中をお越しいただきますので、礼儀正しく感謝の気持ちを込めて受講してください。準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

様々な分野で活躍する理学療法士をお招きし、それぞれの分野の役割ややりがいについて語っていただきます。質問がある場合は適宜授業時間内に行って下さい。講師の話聞き、メモを取り、次の授業までに整理し、理解を深めてください。

|          |                                                        |      |    |       |     |      |    |
|----------|--------------------------------------------------------|------|----|-------|-----|------|----|
| 授業科目     | 理学療法研究法                                                |      |    |       |     |      |    |
| 担 当 者    | 中村 彩（実務経験者）                                            |      |    |       |     |      |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、臨床現場において従事していた。また、リハビリテーション分野における基礎研究に従事している。 |      |    |       |     |      |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                | 学 年  | 2年 | 総単位数  | 1単位 | 講義形式 | 講義 |
|          |                                                        | 開講時期 | 後期 | 選択・必修 | 必修  |      |    |

## ■ 内 容

理学療法学における研究の意義、医学論文を読むために必要な知識、および研究を遂行する際に必要となる考え方について学ぶ。

## ■ 到達目標

理学療法学における研究の意義、医学論文を読むために必要な知識、研究を遂行する際に必要となる考え方について理解することができる。  
自身の興味のあるテーマについて文献検索を行い、論文を精読し、内容をまとめることができる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 理学療法研究の必要性（EBM・EBPT）
- 第2回 研究デザイン
- 第3回 文献検索
- 第4回 研究計画・研究倫理
- 第5回 データの尺度・特性値・グラフ
- 第6回 Excelを使ったデータ処理演習
- 第7回 推測統計学①（推定と検定の考え方）
- 第8回 推測統計学②（検定手法の選択）

## ■ 評 価 方 法

|            |                                                                                               |    |   |  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                               |    |   |  |
| レポート       | ◎                                                                                             | 30 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                               |    |   |  |
| その他・備考     | 講義内提出物：70%<br>正当な理由がない欠席や遅刻については減点（欠席：-2点、遅刻：-1点）とする。<br>提出物の不備など不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回で提示する課題に真摯に取り組んでください。  
新たな専門用語が多く出てきます。授業後の復習では、用語の意味を理解し定着させることがポイントです。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

書 名：PT・OTのための臨床研究ははじめの一步

著者名：山田実 編集

出版社：羊土社

---

書 名：最新理学療法学講座 理学療法研究法

著者名：対馬栄輝

出版社：医歯薬出版

---

書 名：リハビリテーション統計学（15レクチャーシリーズ）

著者名：対馬栄輝、木村雅彦

出版社：中山書店

## ■ 留意事項

授業内での学習経験が重要です。無断欠席や遅刻に注意してください。

欠席、遅刻の場合は必ず担当者へ連絡すること。欠席した場合には必ず担当教員を訪ね、講義資料を受け取ること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

国家試験の出題範囲でもあるため、内容および用語をしっかりと理解してください。

|          |                                |      |     |       |      |          |    |
|----------|--------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 理学療法演習Ⅰ（演習・調査・研究）              |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 理学療法学専攻教員                      |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、病院や介護老人保健施設等にて実務経験あり。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                        | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                                | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

ゼミナール形式で、領域を絞って疾患、理学療法について発展的内容を学ぶ  
実施内容の詳細については、各ゼミ担当教員より通知する

## ■ 到達目標

当該領域の疾患、理学療法について理解を深め、臨床で応用できるようになる

## ■ 授業計画

- 第1回 各領域における疾患の病態を理解する①
- 第2回 各領域における疾患の病態を理解する②
- 第3回 各領域における疾患の病態を理解する③
- 第4回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ①
- 第5回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ②
- 第6回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ③
- 第7回 計測・測定・検査の結果を解釈する①
- 第8回 計測・測定・検査の結果を解釈する②
- 第9回 計測・測定・検査の結果を解釈する③
- 第10回 理学療法アプローチを学ぶ①
- 第11回 理学療法アプローチを学ぶ②
- 第12回 理学療法アプローチを学ぶ③
- 第13回 ペーパーペイシェントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める①
- 第14回 ペーパーペイシェントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める②
- 第15回 ペーパーペイシェントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める③

## ■ 評価方法

|            |                                                                                    |  |  |  |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                    |  |  |  |
| レポート       |                                                                                    |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                    |  |  |  |
| その他・備考     | 参加態度（正当な理由・連絡のない欠席 -4 点、遅刻・早退 -2 点の減点となる）。<br>課題への取り組み、理解度確認テスト（筆記・実技）などで総合的に判断する。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各ゼミ担当教員より指示する

## ■ 教科書

各ゼミ担当教員より指示する

## ■ 参考図書

各ゼミ担当教員より指示する

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                           |      |     |       |      |          |    |
|----------|-----------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 臨床見学                                                      |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 棚 千磨（実務経験者）・1年チューター（実務経験者）                                |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 担当者は、病院等における臨床経験を積んでおり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定である。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                   | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          |                                                           | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

専任教員と共に医療施設で臨床現場の見学を行う。事前にオリエンテーションと演習を行う。また、見学後も、演習を実施する。

## ■ 到達目標

- ・理学療法の実際を見学し、理学療法士の仕事を理解する。
- ・対象者様や病院スタッフの方とスムーズにコミュニケーションを取れるようになる。

## ■ 授業計画

### 学内演習〈事前〉

- ・本授業の内容、目標等について
- ・医療現場におけるコミュニケーションについて（実技あり）
- ・車椅子操作について（実技あり）
- ・バイタル測定について（実技あり）
- ・感染症について（実技あり）
- ・身だしなみについて

### 学外実習

- ・理学療法の臨床現場を見学

### 学内演習〈事後〉

- ・見学で得られた経験、感想などを発表

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                                                                       |  |  |  |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                                                                                                                       |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                                                                                                                                                                       |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                                                                                       |  |  |  |
| その他・備考     | <ul style="list-style-type: none"><li>・課題提出物、実習に取り組む姿勢等を基に判断する。</li><li>・学内演習、学外実習とも欠席、遅刻は減点とし、特に無断欠席の場合は大幅減点とする（無断欠席 -6、遅刻 -2）。</li><li>・提出物の提出遅れ、内容不備は減点とする（-2）。</li><li>・身だしなみなど学外実習において当然求められる事項に関し、教員の指示に従わない場合、学外実習を履修することはできず不合格となる。</li></ul> |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

学内演習で学んだコミュニケーションに関する知識・経験を整理し、コミュニケーションの練習を積んで臨むこと。本科目終了後は、自身の課題を整理し、次の実習に繋げることができるよう心がけておくこと。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

この見学で得られる「理学療法士についての職業理解」「対象者・スタッフとのコミュニケーション経験」は、2年生の見学実習Ⅰに繋がっていくので、できるだけ沢山の経験を積むようにしてください。

|          |                                                                      |      |     |       |      |          |         |
|----------|----------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 見学実習Ⅰ                                                                |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 棚 千磨（実務経験者）・2年チューター（実務経験者）                                           |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 担当者は、病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定である。 |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                              | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 実習      |
|          |                                                                      | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

学生は、専任教員と共に協力医療機関で見学実習を行う。見学実習実施にあたっては、専任教員－リハビリテーション科スタッフ指導の下、病院施設内で見学を行い、併設の臨学共同参画センターで準備・まとめ作業等を行う。

## ■ 到達目標

1. スタッフ・教員の指導を受けながら「逸脱動作－機能障害」の関連を理解する。
2. スタッフ・教員の指導を受けながら、「生活－治療介入動作」の関連性を理解する。

## ■ 授業計画

学内オリエンテーション：安全管理、個人情報保護、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接、基本的臨床技能について取り上げる。

- ・実習施設：協力医療機関
- ・実習期間：5日間
- ・実習形態：専任教員とリハビリテーション科スタッフの指導／監督の下、臨床における理学療法場面の見学を行う。また、臨学共同参画センターで、見学における準備やまとめ作業を行い、それらの経験を踏まえて発展的に学習を進めていく。専任教員は学生の臨床実習現場を観察し、学生の学習課題などを適切に把握し、リハビリテーション科スタッフと綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。

第1回 医療施設スタッフ・対象者の利益：

協力医療施設スタッフに於いても、当連携に参加することにより、その資質向上が得られることが期待されている。学生指導を通して対象者の障害像把握が明確化され、更には教員との情報交換も経て、より良いリハビリテーション提供に繋がるものと考えられる。これらの事項は結果的に対象者の利益にも繋がり、学生・スタッフ・対象者三者の利益を得るという点に、本科目は主眼を置いている。

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                                                                          |  |  |  |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                                                                                                                          |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                                                                                                                                                                          |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                                                                                          |  |  |  |
| その他・備考     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出物、実習に取り組む姿勢等を基に判断する。</li> <li>・学内演習、学外実習とも欠席、遅刻は減点とし、特に無断欠席の場合は大幅減点とする（無断欠席-6、遅刻-2）。</li> <li>・提出物の提出遅れ、内容不備は減点とする（-2）。</li> <li>・身だしなみなど学外実習において当然求められる事項に関し、教員の指示に従わない場合、学外実習を履修することはできず不合格となる。</li> </ul> |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床見学を振り返り、自身の課題を明確化しておくこと。健常者同士での検査・測定技術はマスターしておくこと。

能力障害と機能障害との関係を理解していくために、解剖学・運動学等の知識を整理しておくこと。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

この見学で得られる「検査／測定場面の経験」「動作—機能障害との関連を考察する経験」「生活—治療介入動作との関連を考察する経験」は、3年生の見学実習Ⅱに繋がっていくので、できるだけ沢山の経験を積むようにしてください。

|          |                                                                      |      |     |       |      |          |         |
|----------|----------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 見学実習Ⅱ                                                                |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 棚 千磨（実務経験者）・3年チューター（実務経験者）                                           |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 担当者は、病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定である。 |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                              | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 実習      |
|          |                                                                      | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

学生は、専任教員と共に協力医療機関で見学実習を行う。見学実習実施にあたっては、専任教員－リハビリテーション科スタッフ指導の下、病院施設内で見学を行い、併設の臨学共同参画センターで準備・まとめ作業等を行う。

## ■ 到達目標

1. スタッフ・教員の指導を受けながら「逸脱動作－機能障害」の複合的な関連を理解する。
2. スタッフ・教員の指導を受けながら、「生活－動作」の複合的な関連性を理解する。
3. スタッフ・教員の指導を受けながら、問題点の抽出に至る統合と解釈を行う。

## ■ 授業計画

学内オリエンテーション：安全管理、個人情報保護、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接、基本的臨床技能について取り上げる。

- ・実習施設：協力医療機関
- ・実習期間：5日間
- ・実習形態：専任教員とリハビリテーション科スタッフの指導／監督の下、臨床における理学療法場面の見学を行う。また、臨学共同参画センターで、見学における準備やまとめ作業を行い、それらの経験を踏まえて発展的に学習を進めていく。専任教員は学生の臨床実習現場を観察し、学生の学習課題などを適切に把握し、リハビリテーション科スタッフと綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。

医療施設スタッフ・対象者の利益：

協力医療施設スタッフに於いても、当連携に参加することにより、その資質向上が得られることが期待されている。学生指導を通して対象者の障害像把握が明確化され、更には教員との情報交換も経て、より良いリハビリテーション提供に繋がるものと考えられる。これらの事項は結果的に対象者の利益にも繋がり、学生・スタッフ・対象者三者の利益を得るという点に、本科目は主眼を置いている。

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |  |  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |  |  |
| その他・備考     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席、実習内容、デイリーノート及び実習後の報告会の内容、臨床実習指導者の意見を基に、専任教員が総合的に判定する。</li> <li>・オリエンテーション等への事前連絡なしによる欠席等は減点対象とする（無断欠席－6、遅刻-2）。</li> <li>・提出物の提出遅れ、内容不備は減点とする（-2）。</li> <li>・身だしなみなど学外実習において当然求められる事項に関し、教員の指示に従わない場合、学外実習を履修することはできず不合格となる。</li> </ul> |  |  |  |

#### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

見学実習Ⅰの課題を再度見返し、健常者同士での検査・測定技術はマスターしておくこと。

また、能力障害と機能障害との関係を理解していくために、運動学および臨床運動学等の知識を整理しておくこと。

#### ■ 教科書

#### ■ 参考図書

#### ■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

#### ■ 講義受講にあたって

次の評価実習に繋がるように、しっかり経験を積んでください。

|          |                             |      |     |       |      |          |    |
|----------|-----------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 評価実習                        |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 3年チューター（すべて実務経験者）           |      |     |       |      | (オムニバス)  |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                     | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 4 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          |                             | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

国内の医療施設または介護老人保健施設等で4週間の臨床実習を行う。

## ■ 到達目標

臨床実習指導者の監督や助言の下で、理学療法評価からプログラム立案までのプロセスを経験し、個々の理学療法場面について理解を深める。

## ■ 授業計画

第1回 実習施設：近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院、介護老人保健施設など

実習期間：4週間

実習形態：臨床実習指導者の監督や助言の下で、主に理学療法士が実施する理学療法評価（医療面接や検査・測定、結果の解釈など）について、臨床現場の見学や指導者の説明を通じ、理学療法士がどのようなことを考えているのか思考を含めて学習する。また、可能な範囲で理学療法過程を経験する。実習期間中は、専任教員が適宜訪問あるいは遠隔で実習指導者と面談を行い、学生の実習態度や進行状況を把握する。

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                               |  |  |  |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                                               |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                                                                                               |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                               |  |  |  |
| その他・備考     | 出席（欠席 -4 点、遅刻・早退 -2 点）、実習内容及び態度（50％）、実習前後評価（50％）等を下に学内で協議し、総合的に判定する。<br>自己都合により、期日までに自己チャートを作成出来ない場合は、減点とする。<br>（履修要件）<br>3 年前期までに開講される全ての必修科目の単位を修得していなければ、評価実習を履修することが出来ない。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

自己チャートで作成した実習目標や実習前及び実習中の計画を踏まえた上で、予習・復習に取り組む。実習期間中に経験したことは、デイリーノートに記録をとる。また、経験した内容を踏まえ、文献を用いて学習した内容を記録する。

## ■ 教科書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留 意 事 項

評価実習の実習要綱には、評価実習を進めるにあたり必要事項が記載されているため、繰り返し目を通し、理解しておくこと。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等、3年次末までに学修した内容を総動員し、十分に身につけて総合臨床実習Ⅰに臨むこと。実習には情意領域を含め、相応しい態度を身につけて臨むこと。

|          |                                                                                         |      |     |       |      |          |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 作業療法概論                                                                                  |      |     |       |      |          |    |
| 担当者      | 辻 郁                                                                                     |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                 | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          |                                                                                         | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

作業療法は生活機能の改善・向上や活動性の発達・拡大を通して、社会参加の可能性を引き出す働きかけをする。本科目では講義、グループ学習を通して作業療法の基礎を学ぶ。

## ■ 到達目標

- 1) 作業療法実践の枠組みがわかる
- 2) 作業療法実践の実際がわかる
- 3) 作業療法を専門用語を使って説明できる

## ■ 授業計画

- 第1回 作業療法士の仕事 / 作業療法の実践現場
- 第2回 作業療法士の実態（我が国，世界）
- 第3回 作業療法の定義 / 作業の意味
- 第4回 作業療法の過程
- 第5回 作業療法の原理と歴史
- 第6回 作業療法の理論－1
- 第7回 作業療法の理論－2
- 第8回 実践例を読んでみよう

## ■ 評価方法

|            |                       |     |   |  |
|------------|-----------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                     | 100 | % |  |
| レポート       |                       |     |   |  |
| 小テスト       |                       |     |   |  |
| その他・備考     | 無断欠席の場合は、1 回につき 5 点減点 |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業終了後のノート整理に十分取り組むこと  
 今回の内容に相当するテキストのページ数を示すので、内容を大まかに事前に確認しておくこと

## ■ 教 科 書

書 名：作業療法概論第4版  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留意事項

欠席しないように日頃の健康管理に留意すること 教科書や資料を読む ノートをとる わからない点は積極的に質問すること

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

最初の専門科目ですから、興味を持って授業に臨んで下さい。作業療法には分かりづらい或いは説明しづらい点もたくさんありますが、この科目を学ぶことによって作業療法を具体的に理解していきましょう

|          |                                                                                                                                                                                                                                |      |     |       |      |          |         |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 基礎作業学Ⅰ                                                                                                                                                                                                                         |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 林部 美紀（実務経験者）・森本 かえで（実務経験者）・足立 一（実務経験者）・川口 真由（実務経験者）・金城 聡（実務経験者）                                                                                                                                                                |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 林部は作業療法士として身体障害分野の病院に勤めていた経験がある。発達障害領域や精神障害領域の施設に勤務していた経験がある。また、以前から化粧療法と身だしなみ講座を現在も実践し、現在も実践している。足立は作業療法士として精神障害分野の病院に勤めていた経験がある。川口は高齢期分野の作業療法士として勤務していた経験がある。また、身だしなみ講座を現在も実践している。金城は身体障害分野の病院に勤めていた経験がある。身だしなみ講座を実践した経験がある。 |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                                                                                                                                                        | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習      |
|          |                                                                                                                                                                                                                                | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

日常生活について作業分析を講義やグループワークや実技で学習していく。

## ■ 到達目標

1. 作業活動を構造的に捉え、分析することができる。
2. 作業分析の観点から作業療法評価を一度体験する。
3. 作業分析が作業療法にいかに重要かを理解する。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業の理解、工程分析理論と演習
- 第2回 動作分析理論と演習
- 第3回 動作分析理論と演習
- 第4回 ADL 作業分析の演習
- 第5回 ADL 作業分析の演習
- 第6回 就労に必要な技能に関する作業分析（ビューティーリハビリテーション）
- 第7回 ADL に関する作業分析（更衣の作業分析）
- 第8回 ADL に関する作業分析（整髪作業分析）
- 第9回 就労に必要な技能に関する作業分析（メイクセラピー）
- 第10回 就労に必要な技能に関する作業分析（メイクアップ体験と作業分析）
- 第11回 就労に必要な技能に関する作業分析（色の効果と作業分析）
- 第12回 障がい別の作業分析
- 第13回 作業分析（身だしなみ）
- 第14回 作業分析（身だしなみ）
- 第15回 就労に必要な技能に関する作業分析（身だしなみの実践）

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |   |     |   |  |
| レポート       | ◎ | 80% | % |  |
| 小テスト       | ◎ | 20% | % |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

演習後はレポートを提出すること。

観察評価体験から小テストを実施するため、授業後は復習すること。

## ■ 教科書

書名：メイクセラピー検定3級テキスト

著者名：岩井結美子

出版社：メイクセラピー検定事務局

書名：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版

著者名：濱口 豊太

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                   |      |     |       |      |          |         |
|----------|---------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 基礎作業学Ⅱ                                            |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 吉田 文（実務経験者）・平河 真未（実務経験者）・上原 央（実務経験者）・楠本 涼介（実務経験者） |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として、医療、福祉施設にて実務経験がある。                        |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                           | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義<br>形式 | 演習      |
|          |                                                   | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

教科書及び配布部資料を用いた講義と演習  
 非常勤講師による臨床現場での実践報告と課題提示  
 精神障害当事者との交流演習

## ■ 到達目標

集団作業療法実践に必要な基本的視点を理解し、基本的技術を習得する。  
 ウォーミングアップ

## ■ 授業計画

2コマ続きで授業を実施する（2コマ×計15回、30コマ）  
 第1回 オリエンテーション、集団の定義と構造（実務経験者：吉田文）  
 第2回 集団作業療法の治療因子（実務経験者：吉田文）  
 第3回 交流分析と集団（実務経験者：吉田文）  
 第4回 SST と集団（実務経験者：吉田文）  
 第5回 ウォーミングアップ（講義と演習）（実務経験者：吉田文）  
 第6回 ウォーミングアップ（グループ発表）（実務経験者：吉田文）  
 第7回 ウォーミングアップ（グループ発表）（実務経験者：吉田文）  
 第8回 ウォーミングアップ（グループ発表）（実務経験者：吉田文）  
 第9回 集団作業療法の実際（実務経験者：上原央、吉田文）  
 第10回 集団作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：吉田文）  
 第11回 集団作業療法の実際（実務経験者：平河真未、吉田文）  
 第12回 集団作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：吉田文）  
 第13回 集団作業療法の実際（実務経験者：楠本涼介、吉田文）  
 第14回 集団作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：吉田文）  
 第15回 まとめ（実務経験者：吉田文）

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 40 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 30 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

精神障害作業療法の実際の授業後はレポートを提出すること  
 疾患・障害別の作業療法の内容から小テストを実施するため

## ■ 教科書

書 名：新版 ひとと集団・場 治療や援助、支援における場と集団のもちい方  
著者名：山根 寛  
出版社：三輪書店

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                              |      |     |       |      |         |    |
|----------|------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 作業療法研究法                      |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 井口 知也（実務経験者）・渡部 雄太（実務経験者）    |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 井口知也、渡部雄太：学会及び学術誌での研究の報告がある。 |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                      | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                              | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

作業療法の発展を支えるのは研究であることを理解し、研究に必要な基礎知識を学ぶ。また、演習を通じて、卒業論文実施計画書を作成する技術を身につける。各論の個々の内容は目標を参照。  
井口知也（実務経験者）、渡部雄太（実務経験者）

## ■ 到達目標

- 1) 研究疑問を立て、研究を進める方法を理解する
- 2) 研究の種類やデザインを理解する
- 3) 研究計画の具体的な手順を学び、実践することができる

## ■ 授業計画

- 第1回 作業療法研究法の概論：井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第2回 研究とは何をするのか：井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第3回 研究の種類と論文構成：井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第4回 研究に関わる基礎知識：井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第5回 研究論文の発表と手続き：井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第6回 実際の作業療法研究事例について：井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第7回 研究疑問の立て方と解決法：井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第8回 文献検索（演習）：井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第9回 文献検索（演習）：井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第10回 研究計画の報告①井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第11回 研究計画の報告②井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第12回 研究計画書の作成（演習）井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第13回 研究計画書の作成（演習）井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第14回 研究計画書の作成（演習）井口知也、渡部雄太（実務経験者）
- 第15回 まとめ：井口知也、渡部雄太（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                      |     |   |  |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                      |     |   |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                    | 100 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                      |     |   |  |
| その他・備考     | ※1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする。（無断遅刻・無断欠席は-10点、事前連絡のある遅刻・欠席は-3点とする）。<br>※2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき-5点）。 |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際、前回の内容に関しての発表をしたり、レポートを提出する。また、講義前に予習として教科書を読んでくること。復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。予習・復習は必ずすること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

「作業療法研究（卒業研究）」で必要になる研究計画書や研究活動などの基礎知識を「作業療法研究法」でしっかりと学習する。

|          |                           |      |     |       |      |      |         |
|----------|---------------------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 作業療法総合演習Ⅰ                 |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 渡部 雄太・森本かえで・OT 専任教員       |      |     |       |      |      | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験がある |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                   | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |                           | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   |      |         |

## ■ 内 容

相互関係学習システムを用いて、学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し、同時にリーダーシップ力を一部修得する。

特に本科目では、積極的かつ主体的な学生生活を送り、学生間での情報交換・交流を図ることで本専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ

## ■ 到達目標

- ① 学年を越えた学生間の情報交換・交流が来ている
- ② 積極的・主体的な学生生活を送っている

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 班編成とチームビルディング（ゲーム）  
作業療法紹介媒体の作成
- 第2回 作業療法紹介媒体の作成
- 第3回 作業療法紹介媒体の作成
- 第4回 作業療法紹介媒体 報告会
- 第5回 グループ活動を企画しよう
- 第6回 グループ活動を企画しよう
- 第7回 グループ活動（前半グループ）
- 第8回 グループ活動（後半グループ）
- 第9回 作業療法の視野を拡大しよう
- 第10回 作業療法の視野を拡大しよう
- 第11回 作業療法と国際交流
- 第12回 事例分析に挑戦しよう 事例を理解するための学修を深めよう
- 第13回 事例から国家試験問題とその解説を作成しよう
- 第14回 問題への挑戦 解説と事例紹介
- 第15回 一斉試験に向けてグループ別に一年間の学修を振り返ろう

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                     |     |   |  |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                     |     |   |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                   | 100 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                     |     |   |  |
| その他・備考     | ※１ 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－１０点、事前連絡のある遅刻・欠席は－３点とする）。<br>※２ 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（１回につき－５点）。 |     |   |  |

#### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

時間内に達成できなかった内容を完成させる  
指摘された重要事項を復習する  
次回の課題遂行に必要な情報を収集し、資料等の準備を行う

#### ■ 教科書

#### ■ 参考図書

#### ■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディング 授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

#### ■ 講義受講にあたって

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること

|          |                           |      |     |       |      |          |         |
|----------|---------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 作業療法総合演習Ⅱ                 |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 渡部 雄太・森本かえで・OT 専任教員       |      |     |       |      |          | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験がある |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                   | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義      |
|          |                           | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

相互関係学習システムを用いて、学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し、同時にリーダーシップ力を一部修得する。

特に本科目では、積極的かつ主体的な学生生活を送り、学生間での情報交換・交流を図ることで本専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ

## ■ 到達目標

- ① リーダーシップに必要な知識と技術を一部修得できている
- ② 学年を越えた学生間の情報交換・交流が出来ている
- ③ 積極的・主体的な学生生活を送っている

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 班編成とチームビルディング（ゲーム）  
作業療法紹介媒体の作成
- 第2回 作業療法紹介媒体の作成
- 第3回 作業療法紹介媒体の作成
- 第4回 作業療法紹介媒体 報告会
- 第5回 グループ活動を企画しよう
- 第6回 グループ活動を企画しよう
- 第7回 グループ活動（前半グループ）
- 第8回 グループ活動（後半グループ）
- 第9回 作業療法の視野を拡大しよう
- 第10回 作業療法の視野を拡大しよう
- 第11回 作業療法と国際交流
- 第12回 事例分析に挑戦しよう 事例を理解するための学修を深めよう
- 第13回 事例から国家試験問題とその解説を作成しよう
- 第14回 問題への挑戦 解説と事例紹介
- 第15回 一斉試験に向けてグループ別に一年間の学修を振り返ろう

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                     |     |   |  |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                     |     |   |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                   | 100 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                     |     |   |  |
| その他・備考     | ※１ 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。<br>※２ 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき－5点）。 |     |   |  |

#### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

時間内に達成できなかった内容を完成させる  
指摘された重要事項を復習する  
次回の課題遂行に必要な情報を収集し、資料等の準備を行う

#### ■ 教科書

#### ■ 参考図書

#### ■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディング 授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

#### ■ 講義受講にあたって

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること

|          |                           |      |     |       |      |      |         |
|----------|---------------------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 作業療法総合演習Ⅲ                 |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 渡部 雄太・森本かえで・OT 専任教員       |      |     |       |      |      | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験がある |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |                           | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   |      |         |

## ■ 内 容

相互関係学習システムを用いて、学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し、同時にリーダーシップ力を一部修得する。

特に本科目では、積極的かつ主体的な学生生活を送り、学生間での情報交換・交流を図ることで本専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ

## ■ 到達目標

- ① リーダーシップに必要な知識と技術を修得できている
- ② 学年を越えた学生間の情報交換・交流が出来ている
- ③ 積極的・主体的な学生生活を送っている

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 班編成とチームビルディング（ゲーム）  
作業療法紹介媒体の作成
- 第2回 作業療法紹介媒体の作成
- 第3回 作業療法紹介媒体の作成
- 第4回 作業療法紹介媒体 報告会
- 第5回 グループ活動を企画しよう
- 第6回 グループ活動を企画しよう
- 第7回 グループ活動（前半グループ）
- 第8回 グループ活動（後半グループ）
- 第9回 作業療法の視野を拡大しよう
- 第10回 作業療法の視野を拡大しよう
- 第11回 作業療法と国際交流
- 第12回 事例分析に挑戦しよう 事例を理解するための学修を深めよう
- 第13回 事例から国家試験問題とその解説を作成しよう
- 第14回 問題への挑戦 解説と事例紹介
- 第15回 一斉試験に向けてグループ別に一年間の学修を振り返ろう

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                     |     |   |  |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                     |     |   |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                   | 100 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                     |     |   |  |
| その他・備考     | ※１ 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。<br>※２ 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき－5点）。 |     |   |  |

### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

時間内に達成できなかった内容を完成させる  
指摘された重要事項を復習する  
次回の課題遂行に必要な情報を収集し、資料等の準備を行う

### ■ 教科書

### ■ 参考図書

### ■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディング 授業時間外の学習は設定しているが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

### ■ 講義受講にあたって

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること

|          |                                                                                               |      |     |       |      |         |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 作業療法管理学                                                                                       |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 辻 郁・芳賀 大輔・西田 裕希                                                                               |      |     |       |      | (オムニバス) |    |
| 実務経験者の概要 | (辻 郁) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた。 |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                       | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義      | 講義 |
|          |                                                                                               | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   | 形式      |    |

## ■ 内 容

講義により、作業療法及び作業療法士が勤務する施設等の管理の在り方や、作業療法士を取り巻く社会制度、さらに、作業療法の職域と職業倫理に学び、理解を深める内容である。  
臨床見学実習の事前基礎学習となる

## ■ 到達目標

1. マネジメントとは何かを知ること
2. マネジメントの視点を知る
3. 作業療法士の職業倫理を理解すること
4. 作業療法を取り巻く諸制度を知ること

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 マネジメントとは
- 第2回 PDCA サイクルと生活行為向上マネジメント
- 第3回 情報のマネジメント
- 第4回 医療サービスのマネジメント
- 第5回 医療安全のマネジメント 1
- 第6回 医療安全のマネジメント 2
- 第7回 モノ（物）のマネジメント
- 第8回 タイムマネジメントとストレスマネジメント（セルフマネジメント）
- 第9回 作業療法士の役割と職域／作業療法士のキャリア開発
- 第10回 作業療法士の職業倫理
- 第11回 作業療法を取り巻く諸制度
- 第12回 作業療法臨床実習の理解と管理体制
- 第13回 作業療法管理の実際 1 芳賀 大輔先生
- 第14回 作業療法管理の実際 2 西田 裕希先生
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |                       |     |   |  |
|------------|-----------------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                     | 100 | % |  |
| レポート       |                       |     |   |  |
| 小テスト       |                       |     |   |  |
| その他・備考     | 無断欠席の場合は，1 回につき 5 点減点 |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- 予習：次回授業予定部分のテキストを読んでおくこと
- 復習：講義内容をまとめ、十分に理解できていなかった部分を適宜確認すること

## ■ 教科書

書名：作業療法管理学入門 第2版

著者名：大庭潤平 編集

出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

欠席しないこと

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

作業療法概論で学んだことを確認しておくこと

|          |                                               |      |     |       |      |         |    |
|----------|-----------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 作業療法評価学概論                                     |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 寺村 晃（実務経験者）・辻 郁（実務経験者）・渡部 雄太（実務経験者）           |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 当該科目の専門を用いて、臨床現場で障害児、障害者、高齢者に対して作業療法の実践経験を有する |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                       | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                                               | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

講義により、作業療法評価の枠組みを学習する。  
演習によって生活機能の把握方法を学ぶ。

## ■ 到達目標

- 1) 作業療法評価とは何かを説明できる
- 2) 作業療法評価の過程を説明できる
- 3) 作業療法評価における記録と責任について説明できる
- 4) 面接，観察による情報収集のポイントがわかる
- 5) 運動機能評価の一部についてそのデータ収集のポイントがわかる
- 6) 意識やバイタルサインについて理解する

## ■ 授業計画

- 第1回 作業療法評価とはなにか  
第2回 面接と観察  
第3回 意識の評価とバイタルサイン  
第4回 血圧測定 講義と演習  
第5回 形態計測と関節可動域測定 講義と演習  
第6回 徒手筋力検査 講義と演習  
第7回 事例分析  
第8回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |            |     |   |  |
|------------|------------|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |            |     |   |  |
| レポート       | ◎          | 100 | % |  |
| 小テスト       |            |     |   |  |
| その他・備考     | 実習着を着用すること |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。  
作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。  
単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

## ■ 教 科 書

## ■ 参考図書

## ■ 留 意 事 項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

欠席しないように日頃の健康管理につとめる。授業には主体的に参加する。メジャーやゴニオメーター、聴診器を使用するので忘れないようにする。演習があるので動きやすい服装で参加する。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

作業療法士として、対象者を深く理解する第一歩になる評価学の第一歩です。つまり、基礎の基礎ですから、この科目で作業療法評価とは何か、実際にどのように進めるのかを習得しましょう。

|          |                                                                     |      |     |       |      |    |         |
|----------|---------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----|---------|
| 授業科目     | 作業療法評価学Ⅰ                                                            |      |     |       |      |    |         |
| 担当者      | 岡山 友哉（実務経験者）・林部 美紀（実務経験者）・澤田 浩基（実務経験者）<br>橋元 和泉（実務経験者）・日高 茉実（実務経験者） |      |     |       |      |    | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。                                             |      |     |       |      |    |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                             | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義 | 講義      |
|          |                                                                     | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   | 形式 |         |

## ■ 内 容

作業療法評価で用いる心身機能に関わる検査・測定についての知識と技術を理解し、演習を繰り返して正確な検査・測定方法を身につけます。

## ■ 到達目標

1. 作業療法場面で用いる検査・測定が理解できる。
2. 作業療法場面で用いる検査・測定を正しい方法で実施できる。  
（オリエンテーション・フィードバックを含む）
3. 作業療法場面で用いる検査・測定を正しい方法で判断し、正確に記載することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、検査・測定の概要  
 第2回 ランドマークや運動方向の確認、関節可動域測定（上肢）  
 第3回 関節可動域測定（下肢）  
 第4回 関節可動域測定（体幹・頸部・手指）  
 第5回 関節可動域測定（予備）・徒手筋力テスト（上肢）  
 第6回 徒手筋力テスト（上肢）  
 第7回 徒手筋力テスト（下肢）  
 第8回 徒手筋力テスト（下肢）  
 第9回 徒手筋力テスト（体幹・頸部）  
 第10回 徒手筋力テスト（予備）・運動麻痺の検査  
 第11回 実技試験（第1回～第10回）  
 第12回 反射検査・筋緊張の検査  
 第13回 握力とピンチ力・上肢機能検査  
 第14回 バランス検査・感覚検査  
 第15回 実技試験（第12回～第14回）

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 40 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| 実技テスト      | ◎ | 40 | % |                                                                             |
| レポート       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学、運動学の基礎知識が必要となるため、事前に復習をして下さい。また、授業時間内で十分な演習時間を設けることが難しいため、自主的に授業以外で時間を設けて練習することを心がけて下さい。

## ■ 教科書

書 名：作業療法評価学 第3版

著者名：矢谷玲子監修

出版社：医学書院

---

書 名：新・徒手筋力検査法 第9版

著者名：Helen J.Hislop、Dale Avers ら

出版社：三輪書店

## ■ 参考図書

書 名：ROM 測定 第2版（PT・OTのための測定評価 DVD シリーズ1）

著者名：福田修監修

出版社：三輪書店

---

書 名：動画で学ぶ関節可動域測定法 ROM ナビ 増補改訂2版

著者名：青木主税ら

出版社：round Flat

## ■ 留意事項

原則、授業出席時の服装はケーシー、白色の靴と靴下とします。毎回実技を行うため、フェイスシールド、中ゴニオ、打腱器を持参して下さい。教室内の換気や各自手洗い、消毒など感染対策を各自で心掛けて下さい。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

作業療法評価学概論で学んだ心身機能に関する検査・測定に焦点をあてた科目です。正確に検査・測定が実施できることが作業療法評価において重要であるため、授業で実施した検査・測定は何度も練習することを心がけて下さい。

|          |                                    |      |     |       |      |         |    |
|----------|------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 作業療法評価学Ⅱ（画像評価を含む）                  |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 吉田 文・寺村 晃・渡部 雄太・森本 かえで・岡山 文哉・林部 美紀 |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験がある          |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                            | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                                    | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域のそれぞれの作業療法対象者の特徴を講義や動画などで学ぶ。また、事例を検討しながら評価から統合と解釈の流れを学ぶ。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。

## ■ 到達目標

1. 身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域の作業療法対象者の特徴が理解できる。
2. 面接・観察・情報収集・検査測定の実施方法が分かる。
3. 全体像が分かる（ICF で整理し、情報を統合し解釈できる）。
4. 作業療法ニーズが抽出でき、その理由を説明できる。
5. 作業療法計画（長期・短期目標、具体的なプログラム）が立案できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション ICF 復習
- 第2回 身体障害の特徴説明と評価計画
- 第3回 身体障害の評価（観察・情報収集・面接・検査測定）
- 第4回 身体障害の評価（検査測定）
- 第5回 身体障害の評価（検査測定・観察）
- 第6回 身体障害の統合と解釈（ICF で整理）
- 第7回 身体障害の統合と解釈（問題点の焦点化と ICF で整理・目標設定）
- 第8回 身体障害の統合と解釈（作業療法プログラム立案・統合と解釈）
- 第9回 身体障害の統合と解釈（統合と解釈）
- 第10回 身体障害の統合と解釈（統合と解釈）
- 第11回 精神障害の特徴説明
- 第12回 精神障害の分析
- 第13回 精神障害の統合と解釈
- 第14回 発達障害の特徴説明
- 第15回 発達障害の分析・統合と解釈

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |  |
|------------|---|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 40 | % |  |
| レポート       | ◎ | 60 | % |  |
| 小テスト       |   |    |   |  |
| その他・備考     |   |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各領域の授業について予習を行っておくこと（指定教科書、その他、授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと）。次回の授業につながる内容に関しては、その日習った内容について復習しておくこと。指定されたレポートについては必ず期日までに提出すること。

## ■ 教 科 書

書 名：標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学  
著者名：岩崎テル子 他（編集）  
出版社：医学書院

## ■ 参 考 図 書

## ■ 留 意 事 項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

他者に説明できるまで、調べて熟考すること。わからないままにしないこと。欠席遅刻に注意すること。

|          |                           |      |     |       |      |          |         |
|----------|---------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 身体障害治療学Ⅰ                  |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 岡山 友哉（実務経験者）・田中 陽一（実務経験者） |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。   |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義      |
|          |                           | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

まず、身体障害領域の作業療法について概要やアプローチについて学びます。各論では脳血管障害と脊髄損傷の特徴を交えて、作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワーク、実技を交えて理解を深めます。最後に、学んだ疾患ごとの事例を通して作業療法における思考過程を経験します。

## ■ 到達目標

1. 身体障害の作業療法の概要やアプローチ方法を理解できる。
2. 脳血管障害と脊髄損傷の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
3. 脳血管障害と脊髄損傷の作業療法アプローチにおける思考過程を理解できる。
4. 脳血管障害と脊髄損傷の作業療法アプローチにおける実技方法を習得できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 身体障害作業療法の概論・様々な身体障害の作業療法アプローチ  
 第2回 脳卒中の概要  
 第3回 脳卒中の作業療法評価  
 第4回 脳卒中の作業療法評価（実技）  
 第5回 脳卒中の作業療法アプローチ・嚥下障害  
 第6回 頭部外傷・運動失調（検査含む）  
 第7回 痛みの評価  
 第8回 脊髄損傷の概要  
 第9回 脊髄損傷の概要（動画視聴）  
 第10回 脊髄損傷の作業療法評価  
 第11回 脊髄損傷の作業療法評価（実技）  
 第12回 脊髄損傷の作業療法アプローチ  
 第13回 中枢疾患の事例検討（事例提示）  
 第14回 中枢疾患の事例検討（グループワーク）  
 第15回 中枢疾患の事例検討（発表）

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床神経学Ⅰで学習した「神経系の構造と機能」について復習し、可能であれば脳血管障害や脊髄損傷についても知識の整理をして下さい。本科目は身体障害領域の作業療法プログラムを計画するために必要な知識と技術を学ぶ科目です。

毎回各自、授業の復習を30分程度は行って下さい。小テストで知識の習熟度を確認します。

## ■ 教科書

書 名：標準作業療法学 - 専門分野 身体機能作業療法学  
著者名：編集：岩崎テル子他  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第2版  
著者名：二瓶隆一ら 編著  
出版社：協同医書出版社

---

書 名：第3版 リハ実践テクニック 脳卒中  
著者名：千田 富義、高見彰淑 編集  
出版社：メジカルビュー社

---

書 名：動画でわかる 摂食・嚥下リハビリテーション  
著者名：藤島一郎、柴本 勇 監修  
出版社：中山書店

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行いますので、各自必ず確認をして下さい。授業の進行状況に応じてシラバスの予定を変更する場合は、事前に連絡します。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

作業療法評価において推論された障害構造から、個別に立案されるプログラムを立案するために重要な科目です。「作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ」や身体障害領域の臨床実習で必要となります。

|          |                                                                      |      |     |       |      |    |         |
|----------|----------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----|---------|
| 授業科目     | 身体障害治療学Ⅱ                                                             |      |     |       |      |    |         |
| 担 当 者    | 林部 美紀（実務経験者）・熊野 宏治（実務経験者）・福岡 千枝（実務経験者）<br>渡部 雄太（実務経験者）・森本 かえで（実務経験者） |      |     |       |      |    | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験がある                                            |      |     |       |      |    |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                              | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義 | 講義      |
|          |                                                                      | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   | 形式 |         |

## ■ 内 容

内部障害・神経筋疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。また、内部障害・神経筋疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。内部障害・神経筋疾患ごとの作業療法に応じて痰の吸引や実技を学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 内部障害・神経筋疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
2. 内部障害・神経筋疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
3. 内部障害・神経筋疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション・内部障害の概要・心疾患の概要・作業療法評価
- 第2回 心疾患の作業療法アプローチ
- 第3回 呼吸器疾患の概要と作業療法評価
- 第4回 呼吸器疾患の作業療法アプローチ
- 第5回 糖尿病の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第6回 悪性腫瘍の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第7回 呼吸器疾患の作業療法評価とアプローチ例
- 第8回 悪性腫瘍の作業療法評価とアプローチ例
- 第9回 神経筋疾患の概要
- 第10回 パーキンソン概要と評価と作業療法アプローチ
- 第11回 脊髄小脳変性症・ギランバレーの概要と作業療法評価とアプローチ
- 第12回 筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症の概要と作業療法評価とアプローチ
- 第13回 内部障害・神経筋疾患の症例検討
- 第14回 内部障害・神経筋疾患の症例検討
- 第15回 手の ROM・手の MMT

## ■ 評 価 方 法

|            |   |    |   |  |
|------------|---|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 80 | % |  |
| レポート       | ◎ | 20 | % |  |
| 小テスト       |   |    |   |  |
| その他・備考     |   |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 教科書

書名：身体機能作業療法学 第3版 標準作業療法学専門分野

著者名：矢谷令子

出版社：医学書院

書名：作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション（第2版）

著者名：石川朗

出版社：中山書店

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                                                                                   |      |     |       |      |         |    |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 身体障害治療学Ⅲ（吸引を含む）                                                                                                   |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 林部 美紀（実務経験者）・岡山 友哉（実務経験者）・松永 伸志                                                                                   |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 林部は作業療法士として整形外科に関連した病院（急性期・回復期・生活期）に勤めていた経験がある。また岡山は作業療法士として整形外科に関連した病院、主に回復期病棟に従事していた。また現在も病院でのリハビリテーションに関わっている。 |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                                           | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義      | 講義 |
|          |                                                                                                                   | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   | 形式      |    |

## ■ 内 容

整形外科疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。手の整形外科疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。整形外科疾患ごとの作業療法に応じて実技を学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 整形外科疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
2. 整形外科疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
3. 整形外科疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・痰の吸引
- 第2回 手の骨折の概要
- 第3回 手の骨折の作業療法評価とアプローチ
- 第4回 末梢神経障害の概要
- 第5回 末梢神経障害の作業療法評価とアプローチ
- 第6回 腱損傷の概要
- 第7回 腱損傷の作業療法評価とアプローチ
- 第8回 関節リウマチの概要
- 第9回 関節リウマチの作業療法評価とアプローチ
- 第10回 熱傷と切断の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第11回 大腿骨頸部骨折の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第12回 大腿骨頸部骨折の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第13回 変形性膝関節の概要・作業療法評価とアプローチ・体幹の骨折の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第14回 手の整形外科の作業療法評価とアプローチ例
- 第15回 整形外科疾患の症例検討

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 60 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、各疾患に共通する解剖学・運動学や整形外科の知識の整理、復習を行っておくこと。毎回復習する時間は30分以上必要である。

## ■ 教科書

書 名：標準作業療法学 - 専門分野 身体機能作業療法学 第3版  
著者名：矢谷 令子監修  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：臨床ハンドセラピー  
著者名：坪田貞子  
出版社：文光堂

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

実技の際は袖を捲り上げやすい服装とバスタオルを持参のこと。レポート(宿題)課題を必ず提出すること。

|          |                                                       |      |     |       |      |      |         |
|----------|-------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 精神障害治療学Ⅰ                                              |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 吉田 文（実務経験者）・松田 匡弘（実務経験者）<br>櫛田 りさ（実務経験者）・堀内 勇志（実務経験者） |      |     |       |      |      | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 担当教員は全員作業療法士として医療・福祉施設での勤務経験を持つ                       |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                               | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |                                                       | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |      |         |

## ■ 内 容

教科書及び配布部資料を用いた講義と演習  
 非常勤講師による臨床現場での実践報告と課題提示  
 精神障害当事者との交流演習

## ■ 到達目標

精神障害のある方に対する作業療法評価・治療に必要な基本的視点を理解し、その介入方法を習得する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション、精神科疾患、精神障害とは？（実務経験者：吉田 文）  
 第2回 精神科治療（実務経験者：吉田 文）  
 第3回 精神保健医療福祉の現状と歴史、施策（実務経験者：吉田 文）  
 第4回 精神障害リハビリテーション、精神障害領域の作業療法（実務経験者：吉田 文）  
 第5回 統合失調症の作業療法①（疾患の復習）（実務経験者：吉田 文）  
 第6回 統合失調症の作業療法②（評価・治療）（実務経験者：吉田 文）  
 第7回 気分障害の作業療法（障害の復習、評価・治療）（実務経験者：吉田 文）  
 第8回 神経症性障害の作業療法、パーソナリティ障害の作業療法（障害の復習、評価・治療）（実務経験者：吉田 文）  
 第9回 精神障害作業療法の実際（実務経験者：松田匡弘、吉田 文）  
 第10回 精神障害作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：吉田 文）  
 第11回 精神障害作業療法の実際（実務経験者：櫛田理彩、吉田 文）  
 第12回 精神障害作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：吉田 文）  
 第13回 精神障害作業療法の実際（実務経験者：堀内勇志、吉田 文）  
 第14回 精神障害作業療法の実際について解説と討論（実務経験者：吉田 文）  
 第15回 まとめ（実務経験者：吉田 文）

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 50 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 30 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

精神障害作業療法の実際の授業後はレポートを提出すること。  
 歴史と施策、疾患・障害別の作業療法の内容から小テスト（または課題）を実施するため、授業後は復習すること。

## ■ 教科書

書 名：作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2 精神障害  
著者名：社団法人日本作業療法士協会監修 富岡詔子・小林正義編集  
出版社：協同医書出版社

## ■ 参考図書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学  
著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                   |      |     |       |      |      |         |
|----------|---------------------------------------------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 精神障害治療学Ⅱ                                          |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 吉田 文（実務経験者）・芳賀 大輔（実務経験者）・櫛田 理彩（実務経験者）・南庄一郎（実務経験者） |      |     |       |      |      | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 担当教員全てが作業療法士として医療・福祉施設にて勤務していた。                   |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                           | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |                                                   | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |         |

## ■ 内 容

教科書及び配布部資料を用いた講義と演習  
 非常勤講師による臨床現場での実践報告と課題提示  
 精神障害当事者との交流演習

## ■ 到達目標

精神障害のある方に対する作業療法評価・治療に必要な基本的視点を理解し、その介入方法を習得する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション、精神障害治療学Ⅰの復習・確認（実務経験者：吉田 文）  
 第2回 精神作用物質による精神および行動の障害の作業療法（疾患の復習）（実務経験者：吉田 文）  
 第3回 精神作用物質による精神および行動の障害の作業療法（評価・治療）（実務経験者：吉田 文）  
 第4回 発達障害の作業療法（障害の復習、評価・治療）（実務経験者：吉田 文）  
 第5回 器質性精神障害の作業療法（障害の復習、評価・治療）（実務経験者：吉田 文）  
 第6回 精神障害作業療法評価演習（実務経験者：吉田 文）  
 第7回 精神障害作業療法評価演習（実務経験者：吉田 文）  
 第8回 精神障害領域における地域生活支援（訪問・就労・就学・家族支援）（実務経験者：吉田 文）  
 第9回 精神障害作業療法の実践（実務経験者：芳賀大輔、吉田 文）  
 第10回 精神障害作業療法の実践について解説と討論（実務経験者：吉田 文）  
 第11回 精神障害作業療法の実践（実務経験者：櫛田理彩、吉田 文）  
 第12回 精神障害作業療法の実践について解説と討論（実務経験者：吉田 文）  
 第13回 精神障害作業療法の実践（実務経験者：南庄一郎、吉田 文）  
 第14回 精神障害作業療法の実践について解説と討論（実務経験者：吉田 文）  
 第15回 まとめ（実務経験者：吉田 文）

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 50 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 30 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

精神障害作業療法の実践の授業後はレポートを提出すること。  
 疾患・障害別の作業療法および評価演習の内容から小テストを実施するため、授業後に復習すること。

## ■ 教 科 書

書 名：作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2 精神障害  
 著者名：社団法人日本作業療法士協会監修 富岡詔子・小林正義編集  
 出版社：協同医書出版社

## ■ 参考図書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学  
著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                           |      |     |       |      |         |    |
|----------|-------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 発達障害治療学Ⅰ                                  |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 寺村 晃（実務経験者）                               |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 当該科目の専門を用いて、臨床現場で障害児、障害者に対して作業療法の実践経験を有する |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                                           | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

発達障害の基礎的なことから応用的なことを学習する。  
発達障害を有する障害児、障害者の活動を学習する。

## ■ 到達目標

事例を感覚・知覚・認知・行動の発達とライフステージごとの活動、環境因子・個人因子との相互関係で説明できる。

## ■ 授業計画

第1回 オリエンテーション、フリーライティング  
第2回 発達障害領域の作業療法の概要  
第3回 定型発達1  
第4回 定型発達2  
第5回 定型発達3  
第6回 自閉症スペクトラム1  
第7回 自閉症スペクトラム2  
第8回 ADHD、学習障害1  
第9回 ADHD、学習障害2  
第10回 筋ジストロフィー1  
第11回 筋ジストロフィー2  
第12回 脳性麻痺1  
第13回 脳性麻痺2  
第14回 脳性麻痺3  
第15回 振り返り

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。  
作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。  
単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

## ■ 教科書

書 名：作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学（改訂第2版）

著者名：監修：長崎重信 編集：神作一実

出版社：株式会社 メジカルビュー社

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

発達障害の理解には、運動発達、認知発達等の知識が不可欠となります。習得して活用できるように予習・復習をしてください。

|          |                                           |      |     |       |      |         |    |
|----------|-------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 発達障害治療学Ⅱ                                  |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 寺村 晃（実務経験者）                               |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 当該科目の専門を用いて、臨床現場で障害児、障害者に対して作業療法の実践経験を有する |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                                           | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

肢体不自由児、発達障害児の活動に着目する。  
自宅や学校、地域内といった活動の場所が違うことで起こる作業の違いを推察する。

## ■ 到達目標

発達障害領域の作業療法の実際について教科書とモデル事例を通じて理解する。  
障害のある子どもの遊びや作業を可能にする援助技法の基本を習得する。

## ■ 授業計画

第1回 オリエンテーション、フリーライティング  
第2回 自閉症スペクトラムのアプローチ1  
第3回 自閉症スペクトラムのアプローチ2  
第4回 自閉症スペクトラムのアプローチ3  
第5回 ADHD、自閉症のアプローチ1  
第6回 ADHD、自閉症のアプローチ2  
第7回 ADHD、自閉症のアプローチ3  
第8回 筋ジストロフィーのアプローチ1  
第9回 筋ジストロフィーのアプローチ2  
第10回 筋ジストロフィーのアプローチ3  
第11回 脳性麻痺のアプローチ1  
第12回 脳性麻痺のアプローチ2  
第13回 脳性麻痺のアプローチ3  
第14回 発達障害児者への地域支援1  
第15回 発達障害児者への地域支援2

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 100 | % |  |
| レポート       |   |     |   |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

新たな専門用語が多く出てくるので、講義後の復習が重要となります。  
作業療法との関係が密接な科目なため、講義時間と同等の復習時間を確保することが望ましいです。  
単なる暗記ではなく、考え方捉え方を理解し、応用できるようになることが求められるので、積極的に予習・復習し、取り組んでください。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

この授業は、発達障害治療学Ⅰの知識を前提としております。事前に、発達障害治療学Ⅰの授業で行った教科書の該当箇所に目を通してから授業に臨んでください。

|          |                                                                                                                                                                                                  |      |     |       |      |    |         |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----|---------|
| 授業科目     | 老年期障害治療学Ⅰ                                                                                                                                                                                        |      |     |       |      |    |         |
| 担当者      | 井口 知也（実務経験者）・渡部 雄太（実務経験者）・森本かえで（実務経験者）                                                                                                                                                           |      |     |       |      |    | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者への健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供。<br>渡部雄太：高齢者施設で高齢期の方への作業療法を担当、地域で健康増進プログラムを提供。<br>森本かえで：高齢者施設で高齢期の方への外来作業療法と訪問リハビリテーションを担当、精神科病院で青年期・高齢期の方への就労支援プログラムを提供。 |      |     |       |      |    |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                                                                                                                          | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義 | 講義      |
|          |                                                                                                                                                                                                  | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   | 形式 |         |

## ■ 内 容

高齢者の加齢による身体的、心理的、社会的な変化や老年期障害に対する評価、治療に関する基礎知識を学ぶ。老年期特有の障害に対する作業療法アプローチの概要やマネジメントを教授する。各論の個々の内容は目標を参照。

井口知也（実務経験者）、渡部雄太（実務経験者）、森本かえで（実務経験者）

## ■ 到達目標

- 1) 高齢者が生きてきた時代背景と社会の推移を理解する
- 2) 高齢者の心身機能、その特性について理解する
- 3) 老年期障害の生活・障害構造、社会資源を理解し、それらに対する具体的援助を考えられる
- 4) 老年期作業療法で活用できる検査・測定方法を理解して実践できる

## ■ 授業計画

- 第1回 高齢社会に伴う諸問題：井口知也（実務経験者）
- 第2回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について：井口知也（実務経験者）
- 第3回 高齢期の特徴：渡部雄太（実務経験者）
- 第4回 介護保険制度：渡部雄太（実務経験者）
- 第5回 老年期作業療法の実践（基本的枠組み、評価）1：井口知也（実務経験者）
- 第6回 老年期作業療法の実践（評価）2：井口知也（実務経験者）
- 第7回 老年期作業療法の実践（評価、実践例）3：井口知也（実務経験者）
- 第8回 老年期作業療法の実践（評価、実践例）4：井口知也（実務経験者）
- 第9回 老年期障害のマネジメント1：井口知也（実務経験者）
- 第10回 老年期障害のマネジメント2：森本かえで（実務経験者）
- 第11回 老年期疾患別作業療法（認知症）①：井口知也（実務経験者）
- 第12回 老年期疾患別作業療法（認知症）②：井口知也（実務経験者）
- 第13回 老年期疾患別作業療法（整形疾患）：渡部雄太（実務経験者）
- 第14回 老年期疾患別作業療法（中枢神経疾患）：渡部雄太（実務経験者）
- 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                      |    |   |  |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                                                                                    | 60 | % |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                                                                    | 40 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                                      |    |   |  |
| その他・備考     | ※ 1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。<br>※ 2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき - 5点）。<br>※ 3 試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第 16 条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際、前回の内容に関するの発表をしたり、レポートを提出する。また、講義前に予習として教科書を読んでくること。復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

## ■ 教科書

書 名：高齢期障害領域の作業療法 第2版  
著者名：山田 孝 編集  
出版社：中央法規

## ■ 参考図書

書 名：作業療法学全書第7巻 老年期  
著者名：村田 和香 編集  
出版社：協同医書出版社

---

書 名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学  
著者名：太田 睦美 編集  
出版社：協同医書出版社

---

書 名：認知症の作業療法 第2版  
著者名：小川 敬之、竹田 徳則 編集  
出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。予習・復習は必ずすること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

「老年期障害治療学Ⅰ」は「老年期障害治療学Ⅱ」「作業療法治療学実習ⅠⅡ」「臨床評価学実習Ⅱ」「総合臨床実習ⅠⅡ」の基礎となる高齢期の方への作業療法を学ぶ。個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち、作業の意味をしっかりと捉えること。その上で、高齢者にとっての作業とは何かを考え、生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

|          |                                                                                                                                                                                                                                                        |      |     |       |      |    |         |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----|---------|
| 授業科目     | 老年期障害治療学Ⅱ                                                                                                                                                                                                                                              |      |     |       |      |    |         |
| 担 当 者    | 井口 知也（実務経験者）・渡部 雄太（実務経験者）・森本 かえで（実務経験者）<br>熊野宏治（実務経験者）                                                                                                                                                                                                 |      |     |       |      |    | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者への健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供。<br>渡部雄太：高齢者施設で高齢期の方への作業療法を担当、地域で健康増進プログラムを提供。<br>森本かえで：高齢者施設で高齢期の方への外来作業療法と訪問リハビリテーションを担当、精神科病院で青年期～高齢期の方への就労支援プログラムを提供。<br>熊野宏治：身体障害領域の病院で青年期・高齢期の方への整形疾患、呼吸器疾患、がんなどの作業療法を担当。 |      |     |       |      |    |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                                                                                                                                                                                | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義 | 講義      |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                        | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   | 形式 |         |

## ■ 内 容

高齢者の特性に合わせた評価の方法、高齢者に対して使用頻度の高い生活評価、身体機能評価、認知機能評価、心理機能評価の実施方法などについて演習を実施する。評価から得られた情報をもとに全体像を把握する方法を学び、個々の文脈に沿った意味ある作業を提供し実践できる手だてを教授する。各論の個々の内容は目標を参照。

井口知也（実務経験者）、渡部雄太（実務経験者）、森本かえで（実務経験者）、熊野宏治（実務経験者）

## ■ 到達目標

- 1) 老年期での作業療法実践に必要な知識と技術の習得を目指す
- 2) 高齢者を対象とした作業療法プログラムを立案できる
- 3) 高齢者を対象とした作業療法プログラムの効果判定ができる

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 老年期障害治療学Ⅰの振り返りと老年期障害治療学Ⅱのオリエンテーション：井口知也（実務経験者）
- 第2回 老年期作業療法の実際（プロセス）：渡部雄太（実務経験者）
- 第3回 老年期作業療法の実際（検査測定）：渡部雄太（実務経験者）
- 第4回 老年期作業療法の実際（計画立案と実施，統合と解釈，解決策の絞り込み）1：井口知也（実務経験者）
- 第5回 老年期作業療法の実際（計画立案と実施，統合と解釈，解決策の絞り込み）2：井口知也（実務経験者）
- 第6回 老年期作業療法の実際（統合と解釈，解決策の絞り込み，再評価）3：井口知也（実務経験者）
- 第7回 施設系（入所）サービスにおける作業療法：渡部雄太（実務経験者）
- 第8回 施設系（通所）サービスにおける作業療法：森本かえで（実務経験者）
- 第9回 認知症高齢者に対する事例検討1：井口知也（実務経験者）
- 第10回 認知症高齢者に対する事例検討2：井口知也（実務経験者）
- 第11回 中枢神経疾患に対する事例検討1：井口知也（実務経験者）
- 第12回 中枢神経疾患に対する事例検討2：井口知也（実務経験者）
- 第13回 整形疾患、がんに対する事例検討1：熊野宏治（実務経験者）
- 第14回 整形疾患、がんに対する事例検討2：渡部雄太（実務経験者）
- 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                           |    |   |  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                                                                                         | 60 | % |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                                                                         | 40 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                                           |    |   |  |
| その他・備考     | ※ 1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は -10 点、事前連絡のある遅刻・欠席は -3 点とする）。<br>※ 2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1 回につき -5 点）。<br>※ 3 試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第 16 条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際、前回の内容に関するの発表をしたり、レポートを提出する。また、講義前に予習として教科書を読んでくること。復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

## ■ 教科書

書名：高齢期障害領域の作業療法 第2版  
著者名：山田 孝 編集  
出版社：中央法規

## ■ 参考図書

書名：作業療法学全書第7巻 老年期  
著者名：村田 和香 編集  
出版社：協同医書出版社

---

書名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学  
著者名：太田 睦美 編集  
出版社：協同医書出版社

---

書名：認知症の作業療法 第2版  
著者名：小川 敬之、竹田 徳則 編集  
出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。予習・復習は必ずすること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

「老年期障害治療学Ⅱ」は「作業療法治療学実習Ⅱ」「臨床評価学実習Ⅱ」「総合臨床実習ⅠⅡ」の基礎となる高齢期の方への作業療法を学ぶ。個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち、作業の意味をしっかりと捉えること。その上で、高齢者にとっての作業とは何かを考え、生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

|          |                                                                                   |      |     |       |      |          |         |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 作業療法治療学演習Ⅰ                                                                        |      |     |       |      |          |         |
| 担当者      | 岡山 友哉（実務経験者）・渡部 雄太（実務経験者）・森本かえで（実務経験者）                                            |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 岡山は身体障害領域での作業療法の経験があります。主には回復期リハビリテーション病棟における脳卒中や整形外科疾患の対象者への作業療法を実践し、現在も勤務しています。 |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                           | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義<br>形式 | 演習      |
|          |                                                                                   | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

実際の対象者（演習協力者）に対し、作業療法評価（作業療法に関連する情報収集と情報の統合、および課題の焦点化と作業療法計画立案）を実施し、ICF の枠組みで系統立てて報告するところまでを行います。

## ■ 到達目標

1. 対象者に関連する医学的情報が十分理解できる
2. 作業療法評価計画が立案できる
3. 正確な情報が収集できる
4. 情報を統合し、ICF の枠組みで対象者を理解できる
5. 実践結果をまとめて報告できる

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業療法評価準備
- 第2回 A：作業療法評価のための情報収集 -1  
B：実習見学および評価計画立案
- 第3回 B：作業療法評価のための情報収集 -1-2  
A：実習見学および記録の整理と評価計画立案
- 第4回 A：作業療法評価のための情報収集 -2  
B：実習見学および記録の整理と評価計画立案
- 第5回 B：作業療法評価のための情報収集 -2-2  
A：実習計画および記録の整理と評価計画立案
- 第6回 B：検査測定に関する技能試験 -1
- 第7回 A：検査測定に関する技能試験 -2
- 第8回 A：作業療法評価のための情報収集 -3  
B：実習見学および記録の整理と評価計画立案
- 第9回 B：作業療法評価のための情報収集 -3-2  
A：実習見学および記録の整理と評価計画立案
- 第10回 統合と解釈 -1
- 第11回 統合と解釈 -2 作業療法計画立案
- 第12回 A：作業療法の実施 B：見学
- 第13回 B：作業療法の実施 A 見学
- 第14回 協力者同席による実習報告会
- 第15回 報告書作成

## ■ 評価方法

|            |                                                                                             |  |  |  |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                             |  |  |  |
| レポート       |                                                                                             |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                             |  |  |  |
| その他・備考     | 臨床実習ルーブリック評価表に基づく評価 100%<br>身だしなみなど臨床実習において当然求められる事項に関し、教員の指示に従わない場合、臨床実習を履修することはできず不合格となる。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時間外で、実践に関連する知識と技術を習得し練習しておくことが必要です。  
実習後には、記録としてレポートをまとめたり、必要な知識を深化させるための復習が重要です。

## ■ 教科書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留意事項

健康に留意し、実習に影響が出ないよう十分な自己管理を行って下さい。  
障害がある方の協力があって成り立つ授業であるため、出席者は臨床実習と同等の認識で常に真摯に臨むように心掛けましょう。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

座学で学んだ知識や演習で習得した技術をこの経験を通して統合していきます。そのためには、これまでの復習と本科目に臨むための準備は不可欠です。また、臨床評価学実習Ⅱや総合臨床実習Ⅰ・Ⅱで必要となる作業療法士としての責任感と自覚を持った行動がとれるよう努めて下さい。

|          |                                                                                   |      |     |       |      |          |         |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 作業療法治療学演習Ⅱ                                                                        |      |     |       |      |          |         |
| 担当者      | 岡山 友哉（実務経験者）・渡部 雄太（実務経験者）・森本かえで（実務経験者）                                            |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 岡山は身体障害領域での作業療法の経験があります。主には回復期リハビリテーション病棟における脳卒中や整形外科疾患の対象者への作業療法を実践し、現在も勤務しています。 |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                           | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義<br>形式 | 演習      |
|          |                                                                                   | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

実際の対象者（演習協力者）に対し、作業療法（作業療法計画と実践）を実施し、ICF の枠組みで系統立てて報告するところまでを行います。

## ■ 到達目標

1. 対象者に関連する医学的情報が十分理解できる
2. 作業療法評価計画が立案できる
3. 正確な情報が収集できる
4. 情報を統合し、ICF の枠組みで対象者を理解できる
5. 実践結果をまとめて報告できる

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業療法評価準備
- 第2回 A: 作業療法評価のための情報収集 -1  
B: 実習見学および評価計画立案
- 第3回 B: 作業療法評価のための情報収集 -1-2  
A: 実習見学および記録の整理と評価計画立案
- 第4回 B: 検査測定に関する技能試験 -1
- 第5回 A: 検査測定に関する技能試験 -2
- 第6回 A: 作業療法評価のための情報収集 -2  
B: 実習見学および評価計画立案
- 第7回 B: 作業療法評価のための情報収集 -2-2  
A: 実習見学および記録の整理と評価計画立案
- 第8回 統合と解釈 -1
- 第9回 統合と解釈 -2 作業療法計画立案
- 第10回 A: 作業療法の実施 B: 見学
- 第11回 B: 作業療法の実施 A: 見学
- 第12回 検査測定に関する技能試験 -3
- 第13回 B: 作業療法の実施 A: 見学
- 第14回 A: 作業療法の実施 B: 見学
- 第15回 報告会 報告書作成

## ■ 評価方法

|            |                                                                                             |  |  |  |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                             |  |  |  |
| レポート       |                                                                                             |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                             |  |  |  |
| その他・備考     | 臨床実習ルーブリック評価表に基づく評価 100%<br>身だしなみなど臨床実習において当然求められる事項に関し、教員の指示に従わない場合、臨床実習を履修することはできず不合格となる。 |  |  |  |

### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時間外で、実践に関連する知識と技術を習得し練習しておく必要があります。  
実習後には、記録としてレポートをまとめたり、必要な知識を深化させるための復習が重要です。

### ■ 教科書

### ■ 参考図書

### ■ 留意事項

健康に留意し、実習に影響が出ないよう十分な自己管理を行って下さい。  
障害がある方の協力があって成り立つ授業であるため、出席者は臨床実習と同等の認識で常に真摯に臨むように心掛けましょう。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

### ■ 講義受講にあたって

座学で学んだ知識や演習で習得した技術をこの経験を通して統合していきます。そのためには、これまでの復習と本科目に臨むための準備は不可欠です。また、臨床評価学実習Ⅱや総合臨床実習Ⅰ・Ⅱで必要となる作業療法士としての責任感と自覚を持った行動がとれるよう努めて下さい。

|          |                                                                       |      |     |       |      |          |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 作業療法技術論Ⅰ                                                              |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 井口 知也（実務経験者）・足立 一（実務経験者）・中尾 拓（実務経験者）                                  |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 井口知也、足立一：医療、福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する。<br>中尾拓：障がい者スポーツの管理・運営・指導に携わる経験を有する。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                               | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          |                                                                       | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

スポーツという作業を通した様々な分野の作業療法実践について講義を行う。  
スポーツを通した障害児童及び保護者への信頼関係の形成や作業療法評価の演習を行う。

## ■ 到達目標

スポーツを通した作業療法実践の知識を得る。  
スポーツを通して障害児童へ安全で健全な成長を促す介入ができる。  
スポーツを通して障害児童の保護者へ適切な方法で情報収集ができる。  
スポーツを通して障害児童に対する作業療法評価（全体像を捉えこと）ができる。

## ■ 授業計画

第1回 オリエンテーション 作業療法士とスポーツ（実務経験者：足立一）  
第2回 身体障害とスポーツ（1）（実務経験者：足立一）  
第3回 身体障害とスポーツ（2）（実務経験者：足立一）  
第4回 知的障害・発達障害とスポーツ（1）（実務経験者：足立一）  
第5回 知的障害・発達障害とスポーツ（2）（実務経験者：足立一）  
第6回 精神障害者とスポーツ（1）（実務経験者：足立一）  
第7回 精神障害者とスポーツ（2）（実務経験者：足立一）  
第8回 高齢者とスポーツ（実務経験者：足立一）  
第9回 スポーツを通した作業療法評価の仕方（実務経験者：足立一）  
第10回 障害児童スポーツ教室参加（実務経験者：中尾拓、井口知也、足立一）  
第11回 障害児童スポーツ教室参加（実務経験者：中尾拓、井口知也、足立一）  
第12回 障害児童スポーツ教室参加（実務経験者：中尾拓、井口知也、足立一）  
第13回 障害児童スポーツ教室参加（実務経験者：中尾拓、井口知也、足立一）  
第14回 スポーツを通した作業療法評価のまとめ（実務経験者：足立一）  
第15回 スポーツを通した作業療法評価のまとめ（実務経験者：足立一）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                              |    |   |                                                                             |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                                                              |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                                                            | 60 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                                                                                            | 40 | % |                                                                             |
| その他・備考     | レポート課題は障害児童スポーツ教室へ参加し、作業療法評価演習したことをまとめる。<br>小テストの範囲は教科書を使用した講義の内容である。<br>※1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。<br>※2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき－5点）。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

第1～8回の教科書を使用した講義内容については復習しておくこと。

第10～13回の障害児童スポーツ教室へ参加する際は、参加児童の障害特性や発達段階について予習しておくこと。

## ■ 教科書

書名：作業療法ジャーナル7月増刊号スポーツがもつ可能性-作業療法への期待

著者名：上梓他

出版社：三輪書店

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

第10～13回の障害児童スポーツ教室はグループに分かれて土曜又は日曜日に1回（4コマ）実施する。無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                                                                                                                                        |      |     |       |      |    |         |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----|---------|
| 授業科目     | 作業療法技術論Ⅱ                                                                                                                                                               |      |     |       |      |    |         |
| 担当者      | 吉田 文（実務経験者）・木村 佳友・水上 言（実務経験者）・黒川 晶平（実務経験者）                                                                                                                             |      |     |       |      |    | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 黒川晶平（実務経験者）：獣医として動物リハビリテーションに携わる<br>水上 言（実務経験者）：介助犬トレーナーとして介助犬の育成・啓発、障害者の支援に携わる<br>吉田 文（実務経験者）：作業療法士として介助犬の導入、合同訓練への協力など介助犬使用者のリハビリテーションに携わる、また精神科病院、認知症デイケアで動物介在療法を実施 |      |     |       |      |    |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                                                                                                | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義 | 講義      |
|          |                                                                                                                                                                        | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   | 形式 |         |

## ■ 内 容

ひとの作業の中でもひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を学ぶ。動物介在療法・身体障害者補助犬（介助犬）を中心に、健康な生活をつくり、社会参加を促進するために動物との関わりをどのように活かすことができるのかを学習する。作業療法の中で実践できるように当事者の講義や実務経験者による事例紹介や臨床を再現した体験学習を含めて授業を展開する。

## ■ 到達目標

1. ひとと動物の関わる作業の分類と作業療法との関係について説明できる
2. ひとと動物の関わる作業が人の生活にどのように影響するか説明できる
3. ひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を実践するための計画が立てられる

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 人と動物の関わり 吉田 文（実務経験者）
- 第2回 動物介在療法、動物リハビリテーション、身体障害者補助犬の概要 吉田 文（実務経験者）
- 第3回 動物リハビリテーション①（概要） 黒川晶平（実務経験者）
- 第4回 動物リハビリテーション②（疾患と評価） 黒川晶平（実務経験者）
- 第5回 動物介在療法①（概要） 吉田 文（実務経験者）
- 第6回 動物介在療法②（作業療法と動物介在療法） 吉田 文（実務経験者）
- 第7回 動物介在療法②（作業療法における展開例） 吉田 文（実務経験者）
- 第8回 動物介在療法③（演習） 吉田 文（実務経験者）
- 第9回 動物介在療法④（まとめ） 吉田 文（実務経験者）
- 第10回 身体障害者補助犬①（盲導犬・聴導犬・介助犬の概要、身体障害者補助犬法） 吉田 文（実務経験者）
- 第11回 身体障害者補助犬②（介助犬と作業療法） 吉田 文（実務経験者）
- 第12回 身体障害者補助犬③（介助犬育成の実際、育成事業者と作業療法士の連携） 水上 言（実務経験者）
- 第13回 身体障害者補助犬④（介助犬使用者の生活、社会参加を促進するために）
- 第14回 身体障害者補助犬⑤（まとめ） 吉田 文（実務経験者）
- 第15回 授業のまとめ

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                                             |    |   |  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                                                                                             |    |   |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                                                                                           | 50 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                                                             |    |   |  |
| その他・備考     | 課題（リアクションペーパー含む）50%<br>出席を基本とする授業のため遅刻・早退-2点、欠席-5点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。<br>またリアクションペーパー、課題提出の遅れや不備は減点対象。遅れは当日中であれば2/3点、翌日は1/3点。2日目以降加点なし。但し提出すればFBは行う。<br>また、不備があった場合、軽微なもの-1点～重大なもの-3点で判断する。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

## ■ 教科書

書名：作業活動実習マニュアル  
著者名：古川 宏  
出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：別冊総合ケア 医療と福祉のための 動物介在療法  
著者名：高柳友子他  
出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

参考書は多数図書館に用意されているので、随時紹介する。人と動物の関わる作業の理解と同時に、この科目は作業療法の基本である作業分析や段階付け、作業の治療的応用について学習する。作業療法での利用にむすびつけられるように学習してほしい。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|  |
|--|
|  |
|--|

|          |                                                                                          |      |     |       |      |    |         |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----|---------|
| 授業科目     | 作業療法技術論Ⅲ                                                                                 |      |     |       |      |    |         |
| 担 当 者    | 吉田 文（実務経験者）・石橋 奈美（実務経験者）・有賀 喜代子（実務経験者）・橋本 弘子（実務経験者）                                      |      |     |       |      |    | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 吉田文・有賀喜代子・橋本弘子に関しては作業療法士として医療・福祉施設に勤務していた。石橋奈美はアロマセラピーの実務経験者としてアロマセラピーワークショップ講師等の経験を有する。 |      |     |       |      |    |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                  | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義 | 講義      |
|          |                                                                                          | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   | 形式 |         |

## ■ 内 容

「芸術」にはこれまでに様々な解釈があるが、この科目では芸術を広く解釈し作業療法にどのように用いるかを中心に学習する。芸術活動の意味・価値、自己表現としての芸術、人の生活に芸術はどのような影響を及ぼすのか、芸術はどのように治療に生かされるかなどをグループ活動などにより学ぶ。障害当事者と活動を共有し、各実務経験者の指導や臨床での応用を体験する方法を用いる。

## ■ 到達目標

1. 芸術に分類される作業活動と人の生活にどのような影響を及ぼすのかを述べることができる
2. 芸術を用いた作業療法の実践について説明できる
3. 芸術活動を作業療法の中でどのように展開していくか計画が立てられる
4. 芸術活動を障害当事者とその目的に合わせて提供できる

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、アロマセラピー概論
- 第2回 アロマセラピー演習（石橋奈美：実務経験者）
- 第3回 絵画療法概論・演習（有賀喜代子：実務経験者）
- 第4回 絵画療法計画①、観察記録の書き方（吉田 文：実務経験者）
- 第5回 絵画療法計画②、実施準備（吉田 文：実務経験者）
- 第6回 絵画療法実施 障害当事者参加（有賀喜代子・吉田 文：実務経験者）
- 第7回 絵画療法のまとめ（吉田 文：実務経験者）
- 第8回 ダンスセラピー概論・演習（橋本弘子：実務経験者）
- 第9回 ダンスセラピー計画①（吉田 文：実務経験者）
- 第10回 ダンスセラピー計画②、実施準備（吉田 文：実務経験者）
- 第11回 ダンスセラピー 障害当事者参加（橋本弘子・吉田 文：実務経験者）
- 第12回 ダンスセラピーのまとめ（吉田 文：実務経験者）
- 第13回 木工 ゲストスピーカー（吉田 文：実務経験者）
- 第14回 木工まとめ（吉田 文：実務経験者）
- 第15回 全体のまとめ

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                                              |    |   |  |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                                                                                              |    |   |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                                                                                            | 50 | % |  |
| 小テスト       |                                                                                                                                                                                                                              |    |   |  |
| その他・備考     | 課題（リアクションペーパー含む）50%<br>出席を基本とする授業のため遅刻・早退-2点、欠席-5点の減点とする。但し事前に連絡か？あり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。<br>またリアクションペーパー、課題提出の遅れや不備は減点対象。遅れは当日中であれば2/3点、翌日は1/3点。2日目以降加点なし。但し提出すればFBは行う。<br>また、不備があった場合、軽微なもの-1点～重大なもの-3点で判断する。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

## ■ 教科書

書名：作業活動実習マニュアル  
著者名：古川 宏  
出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：別冊総合ケア 医療と福祉のための 動物介在療法  
著者名：高柳友子他  
出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

参考書は多数図書館に用意されているので、随時紹介する。人と動物の関わる作業の理解と同時に、この科目は作業療法の基本である作業分析や段階付け、作業の治療的応用について学習する。作業療法での利用にむすびつけられるように学習してほしい。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |                                                                             |      |     |       |      |    |         |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----|---------|
| 授業科目     | 作業療法技術論Ⅳ                                                                    |      |     |       |      |    |         |
| 担 当 者    | 井口 知也（実務経験者）・渡部 雄太（実務経験者）・森本かえで（実務経験者）<br>林部 美紀（実務経験者）・松田 靖史（実務経験者）         |      |     |       |      |    | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 井口知也、山本清治、林部美紀：医療、福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する。<br>松田靖史：義肢や装具、福祉用具の開発、選択に携わる経験を有する。 |      |     |       |      |    |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                     | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義 | 講義      |
|          |                                                                             | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   | 形式 |         |

## ■ 内 容

障害を持つ方々が社会生活を送る際、社会参加する際に、それぞれの置かれている環境や提供できるサービスや使用している道具により、可能になる作業には差が生じる。

本講義では、社会生活の課題別に環境調整を行うための生活評価や環境調整方法を学び、理解を深める。事例を通して、課題解決策を学ぶ。

## ■ 到達目標

障がいを持つ方々の社会生活について理解する。

障がいを持つ方々が社会生活を送る上での課題について理解する。

障がいを持つ方々への環境調整方法を理解する。

障がいを持つ方々へ環境調整方法を検討する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 福祉用具概論：法制度とシステム（実務経験者：森本かえで）
- 第2回 自助具作成のための基礎知識とプロセス（実務経験者：渡部雄太）
- 第3回 車椅子の理解と適合①（実務経験者：松田靖史）
- 第4回 車椅子の理解と適合②（実務経験者：松田靖史）
- 第5回 義肢の理解とスポーツに関わる義肢①（実務経験者：松田靖史）
- 第6回 義肢の理解とスポーツに関わる義肢②（実務経験者：松田靖史）
- 第7回 義手のつくりの理解および義手の適合①（実務経験者：松田靖史）
- 第8回 義手のつくりの理解および義手の適合②（実務経験者：松田靖史）
- 第9回 福祉機器について（実務経験者：松田靖史）
- 第10回 装具とスプリントの概論（実務経験者：松田靖史）
- 第11回 福祉用具を活用した事例検討①（実務経験者：井口知也、森本かえで）
- 第12回 福祉用具を活用した事例検討②（実務経験者：森本かえで）
- 第13回 スプリントの理解及び適合及び作成①（実務経験者：林部美紀）
- 第14回 スプリントの理解及び適合及び作成②（実務経験者：林部美紀）
- 第15回 まとめ（実務経験者：渡部雄太）

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                           |    |   |  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                                                                                                                                                                                                         | 50 | % |  |
| レポート       | ◎                                                                                                                                                                                                         | 30 | % |  |
| 課題提出       | ◎                                                                                                                                                                                                         | 20 | % |  |
| その他・備考     | ※ 1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする（無断遅刻・無断欠席は -10 点、事前連絡のある遅刻・欠席は -3 点とする）。<br>※ 2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1 回につき -5 点）。<br>※ 3 試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第 16 条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。次回の講義、演習までに基本的な内容に関しては予習しておくこと。

## ■ 教科書

書 名：生活環境学テキスト  
著者名：監修 細田多穂  
出版社：南江堂

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

演習を行うため、動きやすい服装と靴で受講して下さい。グループワークでは主体的、積極的に行動し、グループに貢献して下さい。

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。予習・復習は必ずすること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

福祉用具と作業療法は、特に「作業療法治療学実習Ⅱ」「臨床実習」「国家試験」と関連が深い科目で、福祉用具等基礎的な科目の知識が必要となります。

|          |                                                                                |      |     |       |      |          |    |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 臨床ゼミナールⅠ                                                                       |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 吉田文・林部美紀・南庄一郎                                                                  |      |     |       |      | (オムニバス)  |    |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として身体障害領域の病院（急性期・回復期・生活期）に勤めていた経験がある。<br>また、そこで臨床実習学生を多数受け入れ、指導していた経験がある。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                        | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                                                                                | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

この科目では、作業療法に欠かせないコミュニケーションスキルや面接・観察を中心に学習を行う。臨床見学実習でその知識・技術を活用できるようにグループワーク、実技による演習を行い、事例を基にディスカッションする。他の科目で学んだ知識・技術も使いながら、作業療法場面における情報を掴み、作業療法と対象者について概説できる力をつける。

## ■ 到達目標

1. 作業療法学生として対象者・スタッフとコミュニケーションができる
2. 面接により作業療法評価に必要な情報を収集する
3. 観察により作業療法評価に必要な情報を収集する
4. 作業療法支援についての基本実技が習得できる

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションスキル
- 第3回 コミュニケーションスキル
- 第4回 面接
- 第5回 面接
- 第6回 記録の書き方
- 第7回 観察
- 第8回 観察
- 第9回 情報収集（カルテ）
- 第10回 情報収集（他職種）
- 第11回 実技（車椅子介助）
- 第12回 実技（触診の基本）
- 第13回 実技（起居動作・移乗動作）
- 第14回 作業療法場面の捉え方
- 第15回 授業のまとめ

## ■ 評価方法

|            |                                       |    |   |                                                                             |
|------------|---------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |                                       |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎                                     | 50 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                     | 20 |   |                                                                             |
| 実技テスト      | ◎                                     | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     | レポート・発表点 50%、小テスト 20%、実技テスト 30%で評価する。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む為、指定された日は学校指定のジャージを着用すること。  
PC でプレゼンテーション資料を作成するため、各自 PC を用意しておくこと。

|          |                                       |      |     |       |      |          |         |
|----------|---------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 臨床ゼミナールⅡ                              |      |     |       |      |          |         |
| 担 当 者    | 渡部 雄太（実務経験者）・吉田 文（実務経験者）              |      |     |       |      |          | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として身体分野、精神分野、高齢期分野、発達分野で実務経験がある。 |      |     |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                               | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習      |
|          |                                       | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

臨床評価学実習Ⅰの記録等を利用してしながら学習を進める。評価内容（観察・面接・検査・測定など）のより深い理解、記録の書き方の復習、記録の修正点と次回の実習のための対策を考える。また、実技を実践、文献等を調べ、作業療法対象者への理解を深め、3年次の評価・治療の理解へとつなげていく。適宜グループでのディスカッションを用い、相互に学習を深める。

## ■ 到達目標

1. 記録等から、評価内容（観察・面接・検査・測定など）と学生自身の関わり方の課題を説明することができる。
2. 文献等を参考に臨床実習で経験した作業療法をどのように理解できたか説明することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、実習の振り返り
- 第2回 担当事例についてまとめる
- 第3回 担当事例について発表、事例検討
- 第4回 担当事例について発表、事例検討
- 第5回 担当事例について発表、事例検討
- 第6回 担当事例についての記録の補足
- 第7回 担当事例について再度まとめる
- 第8回 担当事例について再度まとめる
- 第9回 評価の実践
- 第10回 評価の実践
- 第11回 評価の実践
- 第12回 まとめ
- 第13回 まとめ
- 第14回 発表
- 第15回 発表

## ■ 評価方法

|            |         |    |   |  |
|------------|---------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |         |    |   |  |
| レポート       | ◎       | 70 | % |  |
| 小テスト       |         |    |   |  |
| その他・備考     | 発表点 30% |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業で？提示する課題を次回授業時または定められた期限内に提出すること

## ■ 教科書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

書 名：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版  
著者名：能登真一 山口昇 他  
出版社：医学書院

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

3年次の臨床評価学実習Ⅱに向けての大切なステップとなる授業である。臨床評価学実習Ⅰで経験したことが生かされるように、自ら学ぶ姿勢で取り組むことを期待する。

|          |                                           |      |     |       |      |          |    |
|----------|-------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 臨床ゼミナールⅢ                                  |      |     |       |      |          |    |
| 担当者      | 寺村 晃（実務経験者）                               |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 | 臨床現場、身体障害を有する対象者に5年以上の作業療法を実施した経験がある作業療法士 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                                           | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

作業療法治療学実習ⅠⅡで担当したケース（Real Patient）の理解を深めると同時に作業療法に関連する知識を深め整理する。同様に Paper Patient についても同様の内容を行う。講義形式ではなく個別或いはグループ学習で行う。

適宜、国家試験対策を行う。

## ■ 到達目標

- 1) 専門基礎科目領域の知識が定着している
- 2) 情報の統合と解釈および臨床推論の方法がおおよそわかっている
- 3) 臨床評価学実習Ⅱの準備が整っている
- 4) 解剖、運動、生理学の国家試験問題に慣れる

## ■ 授業計画

- 第1回 作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ担当事例の基礎医学領域と作業療法について理解を深める -1  
 第2回 作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ担当事例の基礎医学領域と作業療法について理解を深める -2  
 第3回 作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ担当事例の基礎医学領域と作業療法について理解を深める -3  
 第4回 事例：Paper Patient 分析 関連する基礎知識の習得と臨床推論 -1  
 第5回 事例：Paper Patient 分析 関連する基礎知識の習得と臨床推論 -2  
 第6回 事例：Paper Patient 分析 関連する基礎知識の習得と臨床推論 -3  
 第7回 分析事例報告と共有 -1  
 第8回 分析事例報告と共有 -2  
 第9回 事例：Paper Patient 分析 関連する基礎知識の習得と臨床推論2-1  
 第10回 事例：Paper Patient 分析 関連する基礎知識の習得と臨床推論2-2  
 第11回 事例：Paper Patient 分析 関連する基礎知識の習得と臨床推論2-3  
 第12回 分析事例報告と共有2-1  
 第13回 分析事例報告と共有2-2  
 第14回 事例検討  
 第15回 事例検討

## ■ 評価方法

|            |                                |     |   |                                                                             |
|------------|--------------------------------|-----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |                                |     |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                |     |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                              | 100 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 講義内で、事例の理解に必要な国家試験の問題を解いていきます。 |     |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時に持参すべきテキスト等の確認をしておくこと

## ■ 教科書

書 名：不要

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

必要な参考図書、文献を準備して臨むこと。それぞれ自己課題を掲げ、授業経過の中で自己課題を明確化すること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

これまでのすべての学修が基盤となって進みます。臨地実習に出る前の最終準備として取り組んでください。

|          |                                           |      |     |       |      |          |    |
|----------|-------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 臨床ゼミナールⅣ                                  |      |     |       |      |          |    |
| 担当者      | 寺村 晃（実務経験者）                               |      |     |       |      |          |    |
| 実務経験者の概要 | 臨床現場、身体障害を有する対象者に５年以上の作業療法を実施した経験がある作業療法士 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習 |
|          |                                           | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

作業療法治療学実習ⅠⅡで担当したケース（Real Patient）の理解を深めると同時に作業療法に関連する知識を深め整理する。同様に Paper Patient についても同様の内容を行う。講義形式ではなく個別或いはグループ学習で行う。

適宜、関連する国家試験対策を行う。

## ■ 到達目標

- 1) 専門基礎科目領域の知識が定着している
- 2) 情報の統合と解釈および臨床推論の方法がおおよそわかっている
- 3) 臨床評価学実習Ⅱの準備が整っている
- 4) 事例に関する国家試験問題に慣れる

## ■ 授業計画

- 第1回 作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ担当事例の事例分析1
- 第2回 作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ担当事例の事例分析2
- 第3回 作業療法治療学実習Ⅰ・Ⅱ担当事例の事例分析3
- 第4回 事例：Paper Patient 分析 臨床推論-1
- 第5回 事例：Paper Patient 分析 臨床推論-2
- 第6回 事例：Paper Patient 分析 臨床推論-3
- 第7回 分析事例報告と共有-1 統合と解釈1
- 第8回 分析事例報告と共有-2 統合と解釈2
- 第9回 事例：Paper Patient 分析 関連する治療の理解2-1
- 第10回 事例：Paper Patient 分析 関連する治療の理解2-2
- 第11回 事例：Paper Patient 分析 関連する治療の理解2-3
- 第12回 分析事例報告と共有2-1 統合と解釈1
- 第13回 分析事例報告と共有2-2 統合と解釈2
- 第14回 事例検討 情報共有会 1
- 第15回 事例検討 情報共有会 2

## ■ 評価方法

|            |                                |     |   |                                                                             |
|------------|--------------------------------|-----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |                                |     |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       |                                |     |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                              | 100 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 講義内で、事例の理解に必要な国家試験の問題を解いていきます。 |     |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時に持参すべきテキスト等の確認をしておくこと

## ■ 教科書

書 名：不要

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

必要な参考図書、文献を準備して臨むこと。それぞれ自己課題を掲げ、授業経過の中で自己課題を明確化すること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

これまでのすべての学修が基盤となって進みます。臨地実習に出る前の最終準備として取り組んでください。

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |     |       |      |          |    |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 地域作業療法学Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | 辻 郁・田中 歩・小野 稿樹・多崎 沙耶香・葉山 靖明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |      |     |       |      | (オムニバス)  |    |
| 実務経験者の概要 | <p>(辻 郁) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた。</p> <p>(田中 歩) 老人保健施設において長年、作業療法士として入所・在宅の身体・認知症高齢者及び家族等に対する生活支援を経験されている。老人保健施設における作業療法士の機能・役割について学ぶ</p> <p>(小野 稿樹) 進行性の神経難病の方々を中心とした訪問リハビリテーション領域において長年、作業療法士として活躍されている。神経難病の方々に対する作業療法の実際（機能と役割）を学ぶ</p> <p>(多崎 紗耶香) 重度の精神障害がある方々に対して作業療法士として ACT（包括型地域生活支援プログラム）を使った地域生活支援を長年経験されている。</p> |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 講義 |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

様々なニーズをもつ障害児・者や高齢者等が地域社会の中で《いきいき》と、そして質の高い生活を送ることができるために作業療法（士）は、何を提供することができるのか？当事者の豊かな生活を支えるために必要な作業療法の機能・役割について学ぶ。また、ライフステージごとにおける生活の変化に関連づけながら生活支援という視点から作業療法について考察する。

## ■ 到達目標

- ①地域作業療法の理念や目的を理解する。
- ②地域概況を知る視点と地域の健康課題を推測できる / 解決策を提案できる
- ③ライフステージ及び障害等に起因する生活の変化に応じた作業療法の実践を理解する
- ④ライフステージの変化や当事者が希求する生活に応じた法制度等を理解する。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 地域作業療法 歴史、モデル
- 第2回 ライフステージごとの生活特性と健康・生活ニーズ（乳児期～学童期～思春期）
- 第3回 ライフステージごとの生活特性と健康・生活ニーズ（青年期～壮年期～老年期）
- 第4回 生活支援に関連する法制度・施策
- 第5回 老人保健施設における作業療法について 田中 歩先生
- 第6回 難病患者に対する訪問作業療法について 小野 稿樹先生
- 第7回 アクトについて（非常勤講師） 多崎 紗耶香先生
- 第8回 ヘルスプロモーション
- 第9回 SDG s と作業療法
- 第10回 地域を見る視点
- 第11回 地域概況の把握
- 第12回 地域の健康課題の特定
- 第13回 健康課題解決策の提案 企画書作成
- 第14回 報告会
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |                       |    |   |  |
|------------|-----------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                     | 60 | % |  |
| レポート       | ◎                     | 40 | % |  |
| 小テスト       |                       |    |   |  |
| その他・備考     | 無断欠席の場合は、1 回につき 5 点減点 |    |   |  |

#### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業に関連する情報等について調べておくこと

#### ■ 教科書

書名：地域作業療法学

著者名：大熊明

出版社：医学書院

#### ■ 参考図書

#### ■ 留意事項

既存の資料等を活用して選択の幅を広げ、積極的に授業に臨むこと

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

#### ■ 講義受講にあたって

日頃から保健医療福祉等に関する記事・ニュース等について関心をもつこと

|          |                                                                                                                           |      |     |       |      |    |         |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----|---------|
| 授業科目     | 地域作業療法学Ⅱ                                                                                                                  |      |     |       |      |    |         |
| 担 当 者    | 辻 郁・酒井 京子・堀内 勇志・寺山 依代・木戸 俊介・山河 正裕                                                                                         |      |     |       |      |    | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | (酒井京子先生) 身体・知的・精神・発達障害者の方たちへの就労支援を約 30 年行ってきた経験を元に就労支援の現状と作業療法の可能性について学ぶ(元:サテライトオフィス平野所長(発達障害者支援)、現:大阪市職業リハビリテーションセンター所長) |      |     |       |      |    |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                                                                   | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義 | 講義      |
|          |                                                                                                                           | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   | 形式 |         |

## ■ 内 容

職業リハビリテーションの理念と意義及び歴史等について学ぶ。また、職業リハビリテーション領域における作業療法(士)の機能と役割についても理解を深める。さらに障害種別ごとのアプローチの違いや職業評価についても学習する。

## ■ 到達目標

- ①職業リハビリテーションの理念・意義等について説明できる。
- ②職業リハビリテーションにおいて作業療法(士)が果たす役割が説明できる。
- ③就労ニーズをもつ障害者に対する作業療法評価と介入の方法を理解できる。
- ④障害種別ごとの就労支援の違いを理解できる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション 数値で知る障害者の就労・雇用の実態 関連法規
- 第2回 職業リハビリテーション概論 酒井京子先生
- 第3回 キャリア発達
- 第4回 ジョブコーチの方法と支援-1
- 第5回 ジョブコーチの方法と支援-2
- 第6回 ジョブコーチの方法と支援-3 働くことへの支援
- 第7回 作業分析と指導法
- 第8回 マスコミ報道から障害者の就労支援について考えよう
- 第9回 障害がある人が働き続けるために 研究結果
- 第10回 職業リハビリテーションセンターでの作業療法士の役割 寺山 依代先生
- 第11回 就労支援事業所での作業療法士の役割 山河 正裕先生
- 第12回 特例子会社での作業療法士の役割 堀内 勇志先生
- 第13回 当事者発信の就労支援と雇用創出 木戸 俊介先生
- 第14回 働くことの意味 木戸 俊介先生
- 第15回 まとめ

## ■ 評価方法

|            |                       |    |   |  |
|------------|-----------------------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎                     | 70 | % |  |
| レポート       | ◎                     | 30 | % |  |
| 小テスト       |                       |    |   |  |
| その他・備考     | 無断欠席の場合は，1 回につき 5 点減点 |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

各回の授業項目について「参考図書」その他の当授業に関連する書籍を読んだ上で、授業に臨むこと

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

書 名：作業療法全書 職業関連活動

著者名：日本作業療法士協会監修

出版社：協同医書出版社

---

書 名：職業リハビリテーション入門

著者名：松為信雄

出版社：協同医書出版社

## ■ 留意事項

多様な就労支援を学び機会があるため欠席しないこと

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

地域作業療法学 I と両輪であることを意識して臨むこと

|          |                            |      |     |       |      |      |         |
|----------|----------------------------|------|-----|-------|------|------|---------|
| 授業科目     | 日常生活活動学                    |      |     |       |      |      |         |
| 担 当 者    | 寺村 晃・森本かえで・渡部 雄太（すべて実務経験者） |      |     |       |      |      | （オムニバス） |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験がある  |      |     |       |      |      |         |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                    | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式 | 講義      |
|          |                            | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |      |         |

## ■ 内 容

作業療法は人の生活行為を広く社会の場において支援する。それら支援を行うには、ADL の概念を理解する必要がある。さらに ADL 支援を行うためには、対象者の生活機能を評価、生活行為への支援方法を検討し、実施していく。本講義では、これら ADL の支援を行うための過程を学ぶ。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。

## ■ 到達目標

- 1.ADL について理解する
- 2.ADL 評価に関して一連の手続きについて理解する
- 3.ADL 支援計画立案の構造について理解する

## ■ 授業計画

- 第1回 日常生活活動学概論
- 第2回 日常生活活動の支援
- 第3回 日常生活活動評価
- 第4回 日常生活活動の治療理論
- 第5回 食事活動
- 第6回 食事の支援方法
- 第7回 更衣活動
- 第8回 更衣の支援方法
- 第9回 排泄活動
- 第10回 排泄の支援方法
- 第11回 入浴活動
- 第12回 入浴の支援方法
- 第13回 国家試験対策
- 第14回 国家試験対策
- 第15回 授業のまとめ

## ■ 評価方法

|            |   |     |   |  |
|------------|---|-----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） |   |     |   |  |
| レポート       | ◎ | 100 | % |  |
| 小テスト       |   |     |   |  |
| その他・備考     |   |     |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

確認のための課題・テストなどを実施する場合はある。

## ■ 教科書

書 名：標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学  
著者名：編集 濱口豊太  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

|          |         |      |     |       |      |         |    |
|----------|---------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 作業療法研究  |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | OT 専任教員 |      |     |       |      | (オムニバス) |    |
| 実務経験者の概要 |         |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻 | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 4 単位 | 講義形式    | 演習 |
|          |         | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

作業療法領域における具体的なテーマを設定し、研究計画を立て、それに沿って必要な情報や資料を収集し、整理し、結果を導き出す。  
研究の基本手法を実践から学ぶ。その集大成を卒業論文として完成させる。  
研究の結果を報告する。

## ■ 到達目標

1. 作業療法における問題を科学的根拠に基づいて解決する姿勢と能力を高める。
2. 卒業論文を完成させ、報告できる。

## ■ 授業計画

第1回～15回 ゼミ単位で進行する  
オリエンテーション  
研究テーマの決定 / 先行研究論文の抄読  
研究計画書の作成  
研究データの収集  
収集したデータの整理・解析  
結果についての考察  
論文作成  
報告準備

## ■ 評価方法

|            |                                                  |  |  |  |
|------------|--------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                  |  |  |  |
| レポート       |                                                  |  |  |  |
| 小テスト       |                                                  |  |  |  |
| その他・備考     | 課題の提出と内容 50%<br>論文内容 30%<br>報告姿勢（質疑応答を含む）と内容 20% |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

研究の進行に沿って、課題を仕上げ、ゼミではディスカッションによって考えをまとめることが出来るように準備すること。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。そして、体調管理に努めること。教員と連絡を密にとり、積極的に研究を進めていくことが重要。新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

自らが興味を持って取り組んでいることなので、積極的であってほしい。  
研究の大変さと楽しさ、達成感、さらには、作業療法の面白さ、大切さを実感できることを期待する。

|          |                                                                                |      |     |       |      |          |    |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 臨床見学実習                                                                         |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | OT 専任教員                                                                        |      |     |       |      | (オムニバス)  |    |
| 実務経験者の概要 | 作業療法士として身体障害領域の病院（急性期・回復期・生活期）に勤めていた経験がある。<br>また、そこで臨床実習学生を多数受け入れ、指導していた経験がある。 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                                                        | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          |                                                                                | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

1. 実習前学習、臨床見学、終了後のまとめと報告会で構成する。
  2. 実習施設：一般病院、リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設。
  3. 臨床現場での実習期間：5日間（2月）。
  4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと作業療法実践現場や関係部署の見学を行う。
- 本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。

## ■ 到達目標

1. 作業療法の実施状況を観察し、記録できる。
2. リハビリテーションの流れの中の作業療法（士）の役割を理解できる。
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る。

## ■ 授業計画

第1回 全体オリエンテーション  
 実習前準備（講義・演習・レポート）  
 臨床見学実習（5日間）  
 実習のまとめ  
 実習報告会

## ■ 評価方法

|            |                                                                                         |  |  |  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                         |  |  |  |
| レポート       |                                                                                         |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                         |  |  |  |
| その他・備考     | 実習前後の課題 30% 実習地での成績 30% 実習終了後の報告・報告書の内容 40% 実習前後の課題、実習地での成績、実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員及び臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと

## ■ 教 科 書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

#### ■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと 2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること 3. 全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また、無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する。

|          |          |      |     |       |      |          |    |
|----------|----------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 臨床評価学実習Ⅰ |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | OT 専任教員  |      |     |       |      | (オムニバス)  |    |
| 実務経験者の概要 |          |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻  | 学 年  | 2 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          |          | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

1. 実習前学習、臨床実習、終了後のまとめと報告会で構成する。
2. 実習施設：一般病院、リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：5日間（8月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと作業療法評価の実践を行う。

## ■ 到達目標

1. 作業療法の実践と実施状況を観察し、記録できる。
2. 作業療法評価の位置づけを理解できる。
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る。

## ■ 授業計画

第1回～15回  
 全体オリエンテーション  
 実習前準備（講義・演習・レポート）  
 臨床評価実習（5日間）  
 実習のまとめ  
 実習報告会

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                 |  |  |  |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                 |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                 |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                 |  |  |  |
| その他・備考     | 実習前後の課題 30%<br>実習地での成績 30%<br>実習終了後の報告・報告書の内容 40%<br>実習前後の課題、実習地での成績、実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。そして、体調管理に努めること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと。
2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること。
3. 全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また、無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する。

|          |                                             |      |     |       |      |          |    |
|----------|---------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 臨床評価学実習Ⅱ                                    |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | OT 専任教員（実務経験者）                              |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                     | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 3 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          |                                             | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：3週間（2月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法評価を行う

## ■ 到達目標

1. 作業療法評価の位置づけと過程がわかる。
2. 対象者の作業療法評価（情報収集、検査測定、統合と解釈、作業療法プログラムの立案）が出来る。
3. 上記を適切に記録できる。

## ■ 授業計画

第1回 第1回～第30回：全体オリエンテーション  
 実習前準備（講義・演習・レポート）  
 臨床見学実習（3週間）  
 実習のまとめ  
 実習報告会

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                  |  |  |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                  |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                  |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                  |  |  |  |
| その他・備考     | 実習前後の課題 30%<br>実習地での成績 30%<br>実習終了後の報告・報告書の内容 40%<br>実習前後の課題，実習地での成績，実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

## ■ 教科書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留 意 事 項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。  
新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する  
場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方  
法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと。
2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること。
3. 全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また、無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する。

|          |          |      |     |       |      |          |    |
|----------|----------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 地域作業療法実習 |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | OT 専任教員  |      |     |       |      | (オムニバス)  |    |
| 実務経験者の概要 |          |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻  | 学 年  | 3 年 | 総単位数  | 2 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          |          | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

1. 実習前学習、臨床実習、終了後のまとめと報告会で構成する。
2. 実習施設：通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーションなど大学が依頼し決定した施設。
3. 臨床現場での実習期間：10日間（8月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもとに生活支援の在り方や問題解決に向けて実践される作業療法を経験する。

## ■ 到達目標

1. 地域作業療法の位置づけと過程がわかる。
2. 指導者とともに対象者の作業療法評価（情報収集、検査測定、統合と解釈、作業療法プログラムの立案）が出来る。
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る。

## ■ 授業計画

第1回～15回  
 全体オリエンテーション  
 実習前準備（講義・演習・レポート）  
 臨床評価実習（10日間）  
 実習のまとめ  
 実習報告会

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                  |  |  |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                  |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                  |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                  |  |  |  |
| その他・備考     | 実習前後の課題 30%<br>実習地での成績 30%<br>実習終了後の報告・報告書の内容 40%<br>実習前後の課題、実習地での成績，実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

## ■ 教 科 書

## ■ 参考図書

## ■ 留 意 事 項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。そして、体調管理に努めること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと。
2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること。
3. 全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する。

|          |                                   |      |       |       |     |         |    |
|----------|-----------------------------------|------|-------|-------|-----|---------|----|
| 授業科目     | 理学療法研究特別演習（卒業研究）／理学療法分野別特別演習 共通部分 |      |       |       |     |         |    |
| 担 当 者    | 牧之瀬 一博・岩田 篤・中村 彩・津村 宜秀            |      |       |       |     | (オムニバス) |    |
| 実務経験者の概要 | 理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり       |      |       |       |     |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                           | 学 年  | 3年～4年 | 総単位数  | 3単位 | 講義形式    | 演習 |
|          |                                   | 開講時期 | 通年    | 選択・必修 | 選択  |         |    |

## ■ 内 容

理学療法研究特別演習（卒業研究）／理学療法分野別特別演習は、『基礎教育分野の共通部分』と『各卒業研究・分野別特別演習』から構成されている。

### 【共通部分】

- ・臨床医学（内科疾患や神経系疾患、それらの症状など）の知識定着を図る。
- ・適宜グループ活動を行い、学習内容、進捗状況、学習成果などの確認や向上に取り組む。

## ■ 到達目標

### 【共通部分】

- ・臨床医学領域の国家試験出題内容を把握できる。
- ・国家試験に使用される専門用語一つ一つについて、丁寧に学び、確実な理解へとつなげる。
- ・解剖・生理・運動学の知識とのつながりを持って臨床医学を理解することができる。
- ・理学療法士を目指すコミュニティの一員としての責任を果たす。（主体的で協同的な学習）

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（学習の進め方）  
呼吸器領域の臨床医学に関する学習1
- 第2回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習2
- 第3回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習3
- 第4回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習4，及び復習とまとめ
- 第5回 循環器領域の臨床医学に関する学習1
- 第6回 循環器領域の臨床医学に関する学習2
- 第7回 循環器領域の臨床医学に関する学習3
- 第8回 循環器領域の臨床医学に関する学習4，及び復習とまとめ
- 第9回 神経系領域の臨床医学に関する学習1
- 第10回 神経系領域の臨床医学に関する学習2
- 第11回 神経系領域の臨床医学に関する学習3
- 第12回 神経系領域の臨床医学に関する学習4，及び復習とまとめ
- 第13回 神経系領域の臨床医学に関する学習5
- 第14回 神経系領域の臨床医学に関する学習6
- 第15回 神経系領域の臨床医学に関する学習7，及び復習とまとめ

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                                                                                                                            |    |   |                                                                             |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                                                                                                                            |    |   | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポートなど提出課題 |                                                                                                                                                                                                            |    |   |                                                                             |
| 小テスト       | ◎                                                                                                                                                                                                          | 30 | % |                                                                             |
| その他・備考     | 【共通部分】<br>共通部分の成績は卒業研究 / 分野別特別演習科目全体の 30% に相当する。（複数回実施する小テストで評価を行う）<br>正当な理由のない欠席や遅刻については減点する（欠席：-2 点、遅刻：-1 点）ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。<br>また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の準備不足など）は減点（1 回につき -1 点）とする。 |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

### 【共通部分】

授業内で取り扱う内容は、基本的に2年生までに学習している内容であるが、理解度によっては授業時間外での学習が発生する。

学習のペースは授業内で説明する。

## ■ 教科書

書 名：PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編（改訂第2版）

著者名：ヒントレ研究所（編集）

出版社：南江堂

書 名：病気がみえる vol.4呼吸器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：病気がみえる vol.2 循環器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：病気がみえる vol.7脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

真摯に学習に臨むこと。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

### 【共通部分】

専門用語一つ一つについて、自身の理解度に真摯に向き合い、丁寧に学習することが必要である。  
4年生へとつなげる学習として、丁寧な学習を心掛けて欲しい。

この科目内容を理解・定着するためには、「基礎解剖学」「神経系の解剖学」「内臓系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「生理学実習」「内科学Ⅰ／Ⅱ」「臨床神経学Ⅰ／Ⅱ」などの科目の理解が重要である。

また、「呼吸器障害理学療法治療学」「神経障害理学療法治療学Ⅰ／Ⅱ」「循環器障害理学療法治療学」へとつながる内容である。

|          |            |      |       |       |      |          |         |
|----------|------------|------|-------|-------|------|----------|---------|
| 授業科目     | 理学療法特別演習基礎 |      |       |       |      |          |         |
| 担 当 者    | PT 専任教員    |      |       |       |      |          | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 |            |      |       |       |      |          |         |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻    | 学 年  | 3年～4年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義<br>形式 | 演習      |
|          |            | 開講時期 | 後期    | 選択・必修 | 必修   |          |         |

## ■ 内 容

学内で学んだ基礎医学・臨床医学・各疾患の理学療法について知識を整理し、国家試験出題形式の問題演習等を通じて理解を深める

## ■ 到達目標

基礎医学・臨床医学・各疾患の理学療法の各分野における自らの不足点を認識し、学習計画を立案して実行できる

## ■ 授業計画

- 第1回 基礎医学： 解剖学①
- 第2回 基礎医学： 解剖学②
- 第3回 基礎医学： 生理学①
- 第4回 基礎医学： 生理学②
- 第5回 基礎医学： 運動学①
- 第6回 基礎医学： 運動学②
- 第7回 臨床医学・各疾患の理学療法： 脳血管・神経筋障害①
- 第8回 臨床医学・各疾患の理学療法： 脳血管・神経筋障害②
- 第9回 臨床医学・各疾患の理学療法： 呼吸・循環・代謝障害①
- 第10回 臨床医学・各疾患の理学療法： 呼吸・循環・代謝障害②
- 第11回 臨床医学・各疾患の理学療法： 骨関節障害①
- 第12回 臨床医学・各疾患の理学療法： 骨関節障害②
- 第13回 臨床医学・各疾患の理学療法： 小児領域
- 第14回 臨床医学： 精神医学
- 第15回 臨床医学・各疾患の理学療法： その他の領域

## ■ 評価方法

|            |         |    |   |  |
|------------|---------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎       | 95 | % |  |
| レポート       |         |    |   |  |
| 小テスト       |         |    |   |  |
| その他・備考     | 課題提出 5% |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

これまでに学んだ内容の総復習の内容である。  
学習計画は適宜教員のチェックを受け、助言を得ること。

## ■ 教科書

書 名：理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント  
(専門基礎分野 基礎医学, 専門基礎分野 臨床医学, 基礎 PT 学, 障害別 PT 治療学)

著者名：医歯薬出版 (編)

出版社：医歯薬出版

書 名：国試の達人 (運動解剖生理学編, 臨床医学編, 理学療法編)

著者名：理学療法科学学会 (編)

出版社：理学療法科学学会

書 名：リハドリル (Web 版)

出版社：アイベック

## ■ 参考図書

書 名：理学療法士作業療法士 過去問題集 10年分 (共通問題, 専門問題)

著者名：電気書院編集部 (編)

出版社：電気書院 久美部門

書 名：PT・OT 国家試験共通問題 である・でたもん (基礎医学, 臨床医学)

著者名：「標準理学療法学・作業療法学」編集室 (編)

出版社：医学書院

書 名：基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編

著者名：ヒントレ研究所 (編)

出版社：南江堂

## ■ 留意事項

講義内容や回数は学生の状況により上記記載に限らない。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態 (災害等) が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム (Moodle) を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

計画的に学習を進めること

|          |                                                                                                                              |      |     |       |        |          |    |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|--------|----------|----|
| 授業科目     | 総合臨床実習Ⅱ                                                                                                                      |      |     |       |        |          |    |
| 担 当 者    | 藪中 良彦・PT 専任教員（すべて実務経験者）                                                                                                      |      |     |       |        | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年、小児訪問リハビリテーションで8年の実務経験）<br>PT 専任教員は、病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定である。 |      |     |       |        |          |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                                                      | 学 年  | 4 年 | 総単位数  | 1 8 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          |                                                                                                                              | 開講時期 | 通年  | 選択・必修 | 必修     |          |    |

## ■ 内 容

国内医療施設で9週間の臨床実習を2回行う。

## ■ 到達目標

臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラム実施のまでの一連の理学療法プロセスを経験する。具体的には、ICF（又はICIDH）の枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定、具体的治療プログラム立案、適切なプログラム実施、治療効果判定に基づく治療プログラムの変更が臨床実習指導者の指導の下で行えるようになる。

## ■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院

実習期間 9週間×2回

実習形態

臨床実習指導者の監督の下に、対象者様に合わせた評価項目を選択し、臨床実習指導者と共に評価を実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を設定し、治療プログラム立案し、臨床実習指導者の指導の下で可能な範囲で治療プログラムを実施する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員訪問時には、学生自身の問題解決のためのディスカッション時間を設ける。

実習の

進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、臨床実習指導者と共に評価を行い、ICF（又はICIDH）の枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムを立案し、臨床実習指導者の指導の下で可能な範囲で実施する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                 |  |  |  |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                 |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                 |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                 |  |  |  |
| その他・備考     | 出席（欠席 -1 点、遅刻・早退 -0.5 点）、実習内容及び態度（70%）、デイリーノート及び実習後経験報告会の発表（30%）等を基に、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎日の経験と疑問に対する自己学習についてまとめるデイリーノートが毎日の自宅学習の課題である。

## ■ 教科書

書 名：理学療法臨床実習サポートブック  
著者名：岡田慎一郎 他  
出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書 名：3年次までに使用した教科書

## ■ 留意事項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習Ⅱの目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

3年間学習した内容を総動員すると共に「総合臨床実習Ⅰ」で学んだ評価と治療の知識と技能を基に、「総合臨床実習Ⅱ」において、臨床実習指導者および専任教員の指導の下、対象者の臨床像の変化に合わせてどのように治療プログラムを変更していくかを理解する。

|          |                                                                                                     |      |     |       |      |         |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 総合理学療法学Ⅱ                                                                                            |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 理学療法学専攻専任教員・外部講師                                                                                    |      |     |       |      | (オムニバス) |    |
| 実務経験者の概要 | 専任教授はすべて臨床で理学療法診療に関わりがある。外部講師 稲岡秀陽（急性期病院、老人保健施設などの法人リハ部門管理者）、安倍浩之（介護保険領域など企業代表者）、文野勝利（会后保健領域の部門管理者） |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 理学療法学専攻                                                                                             | 学 年  | 4 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義      | 講義 |
|          |                                                                                                     | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   | 形式      |    |

## ■ 内 容

臨床実習も終了しほぼすべての履修内容を習得した段階で、理学療法士に必要な知識と能力の総括を行います。専任教員についてはセラピストに求められる基礎知識や各々の専門領域について講義します。また、外部の先生方については現在の職場に関する管理的な講義や代表的な疾患に対する理学療法の実践、理学療法士が身につけておくべき技術として吸引の講義を実施します。

## ■ 到達目標

理学療法を行うにあたって必要な能力を系統的に整理し、不足があれば自ら補うように行動することができる

## ■ 授業計画

- 第1回 セラピストに求められる基礎知識 運動学 境（実務経験者）
- 第2回 セラピストに求められる基礎知識 理学療法治療学（物理療法、運動療法の基礎） 榎、田中（すべて実務経験者）
- 第3回 セラピストに求められる基礎知識 日常生活活動学 相原（実務経験者）
- 第4回 セラピストに求められる基礎知識 装具、切断と義肢 井上（実務経験者）
- 第5回 代表的な症例の検討（1）運動器 佐藤（実務経験者）
- 第6回 代表的な症例の検討（2）脳血管障害・神経筋疾患他 岩田（実務経験者）
- 第7回 代表的な症例の検討（3）発達障害 藪中（実務経験者）
- 第8回 代表的な症例の検討（4）脊髄損傷 植田（実務経験者）
- 第9回 理学療法業務と管理（1）（地域医療・福祉・生活支援事業）：安倍 浩之
- 第10回 理学療法業務と管理（2）（訪問事業）文野 勝利
- 第11回 理学療法業務と管理（3）（病院・介護老人保健施設）：稲岡 秀陽
- 第12回 理学療法士に必要な技術演習 喀痰・吸引：外部講師（看護師）
- 第13回 代表的な疾患に対する理学療法の実践（呼吸器疾患）：外部講師
- 第14回 代表的な疾患に対する理学療法の実践（代謝疾患）：外部講師
- 第15回 代表的な疾患に対する理学療法の実践（循環器疾患）：外部講師

## ■ 評価方法

|            |         |    |   |  |
|------------|---------|----|---|--|
| 科目試験（筆記試験） | ◎       | 95 | % |  |
| レポート       |         |    |   |  |
| 小テスト       |         |    |   |  |
| その他・備考     | 課題提出 5% |    |   |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

学習計画を立て予習・復習を実施すること。学習方法がわからない場合は専任教員に相談すること。1回学習した知識を定着させるためには、繰り返し復習する事が必要です。最初は3日以内に復習、2回目は1週間以内、3回目は2週間以内と復習の計画を含めた学習計画を立ててください。

## ■ 教科書

書 名：理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント  
(専門基礎分野 基礎医学, 専門基礎分野 臨床医学, 基礎 PT 学, 障害別 PT 治療学)

著者名：医歯薬出版 (編)

出版社：医歯薬出版

書 名：国試の達人 (運動解剖生理学編, 臨床医学編, 理学療法編)

著者名：理学療法科学学会 (編)

出版社：理学療法科学学会

書 名：リハドリル (Web 版)

出版社：アイベック

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

講義内容や回数は学生の状況により上記記載に限らない。外部講師の先生へは大変お忙しい中をお越しいただきますので、礼儀正しく感謝の気持ちを込めて受講してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

セラピストに必要な基礎知識や代表的な症例の検討については、事前学習を行い、復習も含め計画的に学習を進めること。外部講師の場合は適宜授業時間内に質問を行って下さい。講師の話を聞き、メモを取り、次の授業までに整理し理解を深めてください。

|          |                                        |      |     |       |      |         |    |
|----------|----------------------------------------|------|-----|-------|------|---------|----|
| 授業科目     | 総合作業療法学                                |      |     |       |      |         |    |
| 担 当 者    | 岡山 友哉（実務経験者）・吉田 文（実務経験者）               |      |     |       |      | （オムニバス） |    |
| 実務経験者の概要 | 岡山は身体障害領域、吉田は精神障害領域の病院などで複数年以上の実務経験あり。 |      |     |       |      |         |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                | 学 年  | 4 年 | 総単位数  | 1 単位 | 講義形式    | 講義 |
|          |                                        | 開講時期 | 後期  | 選択・必修 | 必修   |         |    |

## ■ 内 容

今まで得て来た知識を総動員し、国家試験の知識が身につくように、講義・ク？ルーフ？ワークをメインに行う授業である。

## ■ 到達目標

国家試験受験に向けて今まで学んできた知識を統合し、整理することができる。

## ■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション，基礎医学の復習
- 第2回 基礎医学の復習（骨・関節）
- 第3回 基礎医学の復習（筋・神経）
- 第4回 基礎医学の復習（脳の解剖生理）
- 第5回 基礎医学の復習（末梢神経の解剖生理）
- 第6回 臨床医学の復習（骨疾患）
- 第7回 臨床医学の復習（筋疾患）
- 第8回 臨床医学の復習（中枢疾患）
- 第9回 臨床医学の復習（末梢神経損傷）
- 第10回 臨床医学の復習（脊髄損傷）
- 第11回 臨床医学の復習（精神疾患）
- 第12回 臨床医学の復習（発達障害）
- 第13回 臨床医学の復習（老年期疾患）
- 第14回 作業療法専門の復習（質疑応答）
- 第15回 作業療法専門の復習

## ■ 評価方法

|            |   |    |   |                                                                             |
|------------|---|----|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 科目試験（筆記試験） | ◎ | 70 | % | ※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。 |
| レポート       | ◎ | 10 | % |                                                                             |
| 小テスト       | ◎ | 20 | % |                                                                             |
| その他・備考     |   |    |   |                                                                             |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

国家試験に関連する書籍，問題等について見直すこと。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留 意 事 項

遅刻・欠席に気をつけること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

4年間の総まとめの授業になります。今までの知識をフル活用してください。

|          |                                             |      |     |       |      |          |    |
|----------|---------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 総合臨床実習Ⅰ                                     |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | OT 専任教員（実務経験者）                              |      |     |       |      | （オムニバス）  |    |
| 実務経験者の概要 | 担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                     | 学 年  | 4 年 | 総単位数  | 8 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          |                                             | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

1. 実習前学習、臨床実習、終了後のまとめと報告会で構成する。
2. 実習施設：一般病院、リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 現場での実習期間：9 週間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法を行う。

## ■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など基本的資質を習得できる。
2. 指導者の指導のもと、一連の作業療法を実践できる。
3. チームにおける作業療法の役割と機能がわかる。
4. 義務と責任および倫理観を修得できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 全体オリエンテーション  
第2回 実習前課題  
第3回 実習前課題へのフィードバック  
第4回 実習前技能演習1  
第5回 実習前技能演習2  
第6回 総合臨床実習（4 週間）  
第7回 総合臨床実習学内演習（1 週間）  
第8回 総合臨床実習（4 週間）  
第9回 総合臨床実習のまとめ  
第10回 総合臨床実習報告会

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                  |  |  |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                  |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                  |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                  |  |  |  |
| その他・備考     | 実習前後の課題 30%<br>実習地での成績 30%<br>実習終了後の報告・報告書の内容 40%<br>実習前後の課題、実習地での成績、実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。そして、体調管理に努めること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと。
2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること。
3. 全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また、無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する。

|          |                                             |      |     |       |      |          |    |
|----------|---------------------------------------------|------|-----|-------|------|----------|----|
| 授業科目     | 総合臨床実習Ⅱ                                     |      |     |       |      |          |    |
| 担 当 者    | OT 専任教員                                     |      |     |       |      | (オムニバス)  |    |
| 実務経験者の概要 | 担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者 |      |     |       |      |          |    |
| 専攻(科)    | 作業療法学専攻                                     | 学 年  | 4 年 | 総単位数  | 8 単位 | 講義<br>形式 | 実習 |
|          |                                             | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |          |    |

## ■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する。
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 現場での実習期間：9 週間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法を行う。

## ■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など基本的資質を習得できる。
2. 指導者の指導のもと、一連の作業療法を実践できる。
3. チームにおける作業療法の役割と機能がわかる。
4. 義務と責任および倫理観を修得できる。

## ■ 授業計画

- 第1回 全体オリエンテーション  
 第2回 実習前課題  
 第3回 実習前課題へのフィードバック  
 第4回 実習前技能演習 1  
 第5回 実習前技能演習 2  
 第6回 総合臨床実習（4 週間）  
 第7回 総合臨床実習学内演習（1 週間）  
 第8回 総合臨床実習（4 週間）  
 第9回 総合臨床実習のまとめ  
 第10回 総合臨床実習報告会

## ■ 評価方法

|            |                                                                                                  |  |  |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 科目試験（筆記試験） |                                                                                                  |  |  |  |
| レポート       |                                                                                                  |  |  |  |
| 小テスト       |                                                                                                  |  |  |  |
| その他・備考     | 実習前後の課題 30%<br>実習地での成績 30%<br>実習終了後の報告・報告書の内容 40%<br>実習前後の課題，実習地での成績，実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する。 |  |  |  |

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って、予習復習を行うこと。

## ■ 教 科 書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は臨床実習指導者及び担当者に必ず連絡すること。そして、体調管理に努めること。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと。
2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること。
3. 全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また、無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する。